

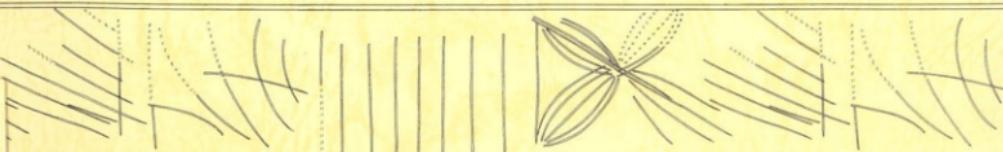
太田第2土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第六冊

てんまん・みやにしあいせき
天満・宮西遺跡
～ 集落・水田編 ～



2002年12月

高松市教育委員会



例　　言

- 1 本報告書は、太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第六番で、高松市松縄町に所在する天溝・宮西遺跡の調査報告（集落・水田編）を収録した。
- 2 発掘調査および整理作業については、高松市教育委員会が実施した。
- 3 調査から報告書作成に至るまで、下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
香川県教育委員会 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター 諸岐文化遺産研究会
石上英一（東京大学史料編纂所教授） 魚島純一（徳島県立博物館学芸員）
金田章裕（京都大学副学長） 工楽普通（元奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）
寒川 旭（関西センター大阪大手前サイト主任研究員） 高橋 学（立命館大学文学部教授）
外山秀一（皇學館大学文学部教授） 丹羽佑一（香川大学経済学部教授）
- 4 天溝・宮西遺跡の調査は、昭和63年度に文化振興課文化財専門員山本英之が立会調査を実施し、本調査を平成元年度に同専門員川畠聰・嘱託中西克也が行った。整理作業は川畠が行った。
- 5 本報告書の編集・執筆は、川畠が行った。
- 6 本報告書掲載の写真撮影には、杉本和樹氏（西大寺フォト）の協力を得た。
- 7 本文の挿図として、国土地理院発行2万5千分の1地形図「高松南部」および高松市都市計画図2千5百分の1「三条」「木太2」を一部改変して使用した。
- 8 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。
- 9 本報告書の高度値は海拔高を表し、方位は座標北を表す。国土座標数値は、平成元年度のものを使用している。
- 10 本書で用いる造構の略号は次のとおりである。
S A…柵列 S B…掘立柱建物 S D…溝 S H…竪穴住居 S K…土坑 S P…柱穴
S R…旧河道 S X…不明造構

目　　次

例言・目次	1
第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	2
第2節 調査の経過	2
第2章 地理的環境・歴史的環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 調査区の設定と造構番号	5
第2節 遺跡の概要と基本層序	5
第3節 弥生時代前期の造構と遺物	14
第4節 弥生時代後期～古墳時代前期初頭の造構と遺物	25
第5節 飛鳥時代～鎌倉時代の造構と遺物	108
第6節 室町時代～江戸時代の造構と遺物	116
第7節 その他の遺物	118
第4章 まとめ	
第1節 造構の変遷	119
第2節 弥生時代前期の土器と集落の位置付け	119
第3節 弥生時代後期～古墳時代前期初頭における集落の変遷	123

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

天満・宮西遺跡は、高松市松縄町に位置し、太田第2土地区画整理事業の中で整備が進められている都市計画道路福岡多肥上町線の予定地にあたる。

太田第2土地区画整理事業は、昭和62年2月2日の香川県都市計画審議会による都市計画決定を受けて、昭和63年度から実施されている。事業区域は、高松市街の南郊約6kmの田園地帯で、林、木太、太田、多肥の4地区に及ぶ360.6haは全国有数の事業規模である。この地域には、一般国道11号高松東道路ならびに四国横断自動車道の建設が予定され、これによる急速な市街化が予想されるため、路線沿線の市街化ならびに都市基盤整備を計画的に進める目的で事業計画がなされたものである。

第2節 調査の経過

高松市松縄町天満において、弥生時代前期の土器が出土することは、昭和40年に細浜・六車両氏によって報告され、天満遺跡と呼称されていた。昭和63年度に至って、天満地区の北に隣接する宮西地区において、都市計画道路側溝工事に伴う立会調査で弥生土器が出土した。天満遺跡が、宮西地区にまで広がっていると考えられたことから、天満・宮西遺跡と命名され、道路予定地のうち約210m分について埋蔵文化財包蔵地として発掘調査を実施することになった。平成元年9月1日から平成2年2月28日にかけて、高松市教育委員会が発掘調査を実施した。掘削工事は鉄建建設㈱に、航空写真測量は国際航業㈱に発注した。なお、実際に発掘調査したのは宮西地区のみで、道路予定地内の天満地区は旧河道にあたり、埋蔵文化財包蔵地とは認められなかった。旧地形分析から見て、天満地区の弥生土器出土地点は、道路予定地より東側と推測される。

参考文献

細浜福太郎・六車恵一 1965「高松市天満弥生式道路」「文化財協会報 特別号7」香川縣文化財保護協会
※同論文掲載の地図では、天満遺跡は上林町に所在するが、文章中に「高松市松縄町天満」と明記されていることから、地図が誤りだと判断される。なお、上林町には天満の字名は存在しない。



第1図 調査区位置図(縮尺1/2,500)

第2章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に、低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地、東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km、南北16kmの範囲に及んでいる。また、この平野は、讃岐山脈から流下し、北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地である。

さて、現在石清尾山塊の西を直線に北流する香東川は、17世紀初頭の河川改修によって一本化されたもので、古代以前においては香川町大野付近から東へ分岐した後、石清尾山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北流する別の主流路があった。この旧流路は、現在では水田及び市街地の地下に埋没してしまったが、空中写真等から複数の旧河道が知られており、発掘調査によつてもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の魔川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第2節 歴史的環境

高松平野中央部で、最古の遺跡は、縄文時代草創期の有舌尖頭器が表採された大池遺跡である。しばらくの空白後、晩期の遺跡が発掘されており、木製農具が出土した林・坊城遺跡やさこ・長池遺跡、東中筋遺跡、木器加工場であった居石遺跡等をあげることができる。

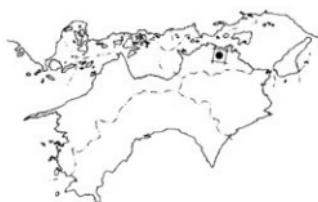
弥生時代前期に移ると、天満・宮西遺跡、汲仏遺跡で集落をめぐる環壕が発掘されるとともに、上西原遺跡、さこ・長池遺跡、さこ・長池Ⅱ遺跡で不定形小区画水田が見つかっている。中期になると、さこ・長池遺跡、さこ・長池Ⅱ遺跡、井手東Ⅰ遺跡、多肥松林遺跡、日暮・松林遺跡で住居跡、周溝墓等を伴う集落の一部が調査されているが、松林周辺以外は規模・密度とも総じて希薄である。

弥生時代後期になると遺跡は数・規模とともに爆発的に増加し、上天神遺跡、天満・宮西遺跡、門原遺跡、空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落が出現する。

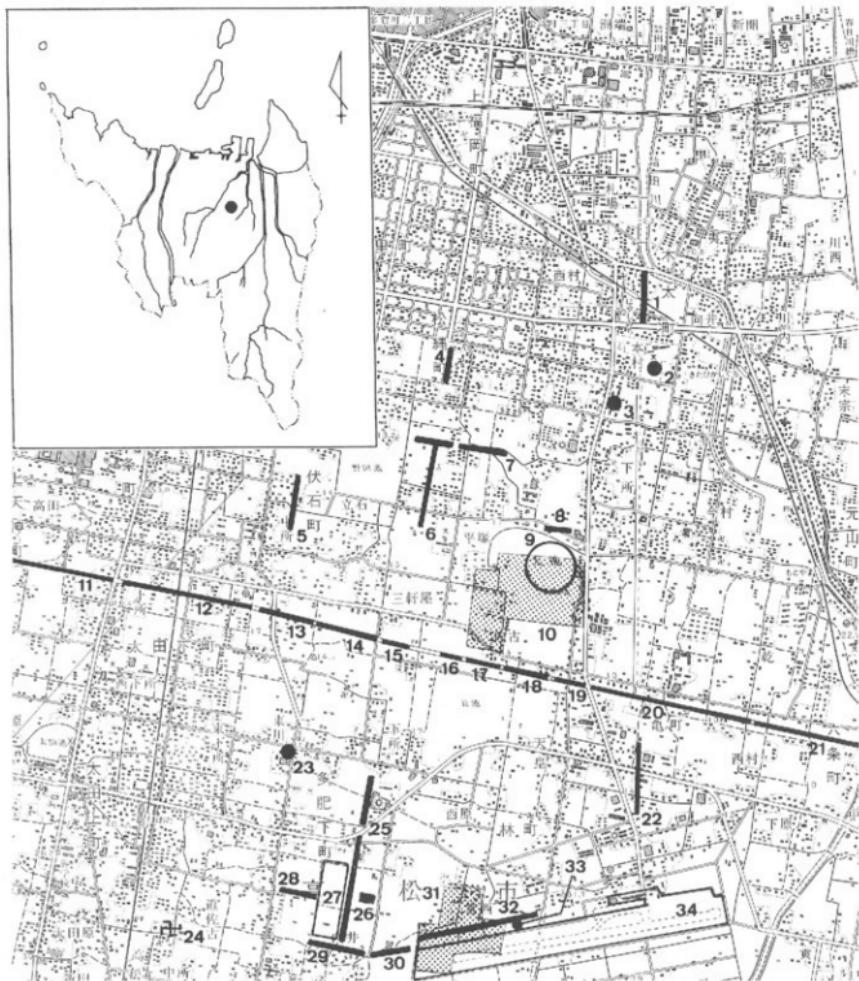
古墳時代では、これら弥生時代後期の遺跡が前期初頭に至るまで集落が存続する。また、太田下・須川遺跡では古墳時代中期の集落を検出している。一方、古墳の分布状況を概観すると、石清尾山古墳群をはじめ、主に丘陵上に古墳が築造されている。

古代では条里造構が注目される。各遺跡で、条里界線にあたる造構を検出しておらず、飛鳥時代から現代に至るまで時代は様々であるが、条里地割施行が段階的に進んだことが明らかになりつつある。中でも、松縄下所遺跡は現地表面の条里とは10数メートルずれた位置にありながら地表条里と同方向の道路側溝を検出し、時期も7世紀代にまで遡り得るなど高松平野の条里施行に関わる可能性がある重要な遺跡である。また、さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界線にあたる部分に幅6mの間隔で並行する道路側溝を検出している。

中世では、さこ・長池遺跡、さこ・松ノ木遺跡で、旧河道が埋没していく過程の凹地に小規模な区画の水田面が検出されている。また、空港跡地遺跡では、溝に囲まれた屋敷跡を確認している。



第2図 遺跡位置図



- | | | | | |
|-----------------|------------|-----------------|--------------|------------|
| 1 木太中村遺跡 | 2 白山神社古墳 | 3 木太本村II遺跡 | 4 天満・宮西遺跡 | 5 キモンド一遺跡 |
| 6 松原下所遺跡 | 7 境目下西原遺跡 | 8 上西原遺跡 | 9 大池遺跡 | |
| 10 弘福寺領田図比定地北地区 | | 11 上天神遺跡 | 12 太田下須川遺跡 | 13 蛙股遺跡 |
| 14 研石遺跡 | 15 井手東II遺跡 | 16 井手東I遺跡 | 17 さこ・長池II遺跡 | 18 さこ・長池遺跡 |
| 19 さこ・松ノ木遺跡 | 20 林坊城遺跡 | 21 六条上所遺跡 | 22 宗高坊城遺跡 | 23 渋仮遺跡 |
| 24 多肥庵寺 | 25 凹原遺跡 | 26 日暮・松林遺跡 | 27 多肥松林遺跡 | 28 松林遺跡 |
| 29 多肥松林遺跡 | 30 多肥宮尻遺跡 | 31 弘福寺領田図比定地南地区 | | 32 宮西・一角遺跡 |
| 33 一角遺跡 | 34 空港跡地遺跡 | | | |

第3図 周辺主要遺跡分布図(縮尺1/25,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定と遺構番号

天満・宮西遺跡の調査は、対象地が約5,040m²と広大で南北に細長いことから、北から順に20m単位に1~11区と呼称した(第5・6図)。この調査区とは別に、都市計画道路に取り付く6m街路(5区の東、210m)も調査対象地と追加されたので、これを6m街路区と呼称する(第7図)。なお、6~11区にかけての西側約120m分は、民有地への車道確保のため調査対象から外れた。

遺構番号については、調査時に検出した順に付けており、本報告でも原則として調査時の遺構番号を踏襲した。柱穴・水田・中近世溝・旧河道を除く検出した遺構一覧については、第1~3表のとおりである。

第2節 遺跡の概要と基本層序

調査前の対象地は、養鶏場や水田として利用されていた。都市計画道路福岡多肥上町線では幅員24m道路予定地のうち松綱町宮内地区の総長210m分が調査対象となり、面積は約5,040m²を測る。そのうち、民有地への車道や側溝部分などを除くと、実際の掘削面積は3,176m²となった。また、追加された6m街路の掘削面積は約150m²である。

さて、天満・宮西遺跡は高松平野の中央部でも北よりに位置する。この平野には香東川の旧河道が幾本も埋没しており、これら流路の沖積作用によって形成された微高地が数多く点在している。天満・宮西遺跡で検出された集落跡も、この微高地上に立地している(第4図)。微地形分析によると、天満・宮西遺跡の微高地は、南東から北西にのびる楕円形を呈し、南北の長さ約250m、東西幅約100mを測る。なお、天満・宮西遺跡の調査では、1~3区において微高地北側の小谷とさらに北東に所在する別の微高地も検出している。

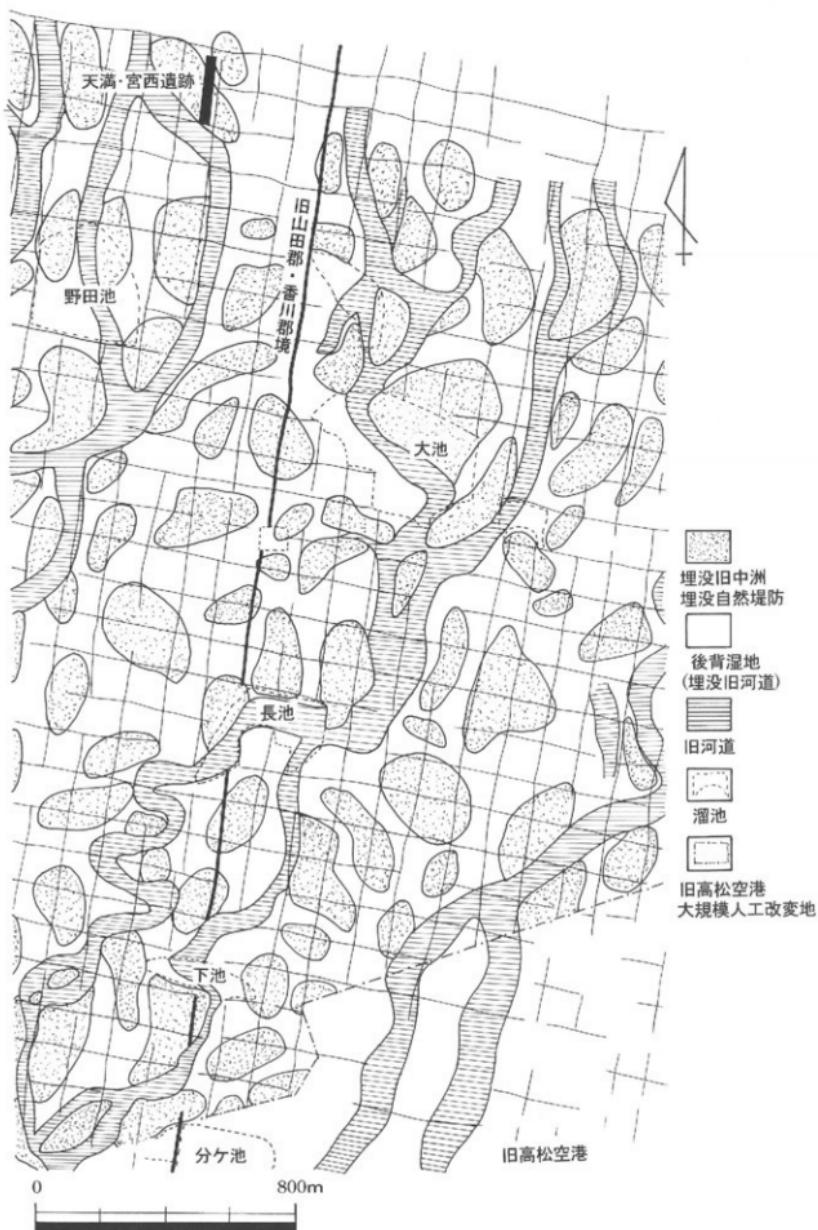
遺跡の基本層序は、第8図のとおりである。調査区全体は、昭和63年度の道路造成工事により削平を受けており、微高地上では工事用花崗土を除去すると、すぐに遺構面が現れた。微高地は浅黄色シルト質極細砂等で形成されており、標高は5.0~5.8mを測り、南から北に向かって傾いている。

一方、小谷では、複雑な堆積を示す。まず上から概観すると、1a~5層といった中世~近世・近代の耕作土層と考えられる水平に堆積している土層が認められる。このうち、3a層において、鐵跡・牛の足跡を検出している。6層上面では、石組畦畔を有する小区画水田(飛鳥時代)が存在した。この小区画水田の下に、小谷の堆積層を切り込む形で、弥生時代後期の旧河道が蛇行している。弥生時代後期~古墳時代前期初頭の旧河道は、7層の堆積層が見られるとともに、微高地上の集落から廃棄された多量の弥生土器が出土した。小谷の堆積層は3層あるが、出土遺物が皆無であったことから、埋没時期の特定には至らなかった。旧河道底は、標高3.8~4.2mを測り、微高地と同じく南から北に傾いている。

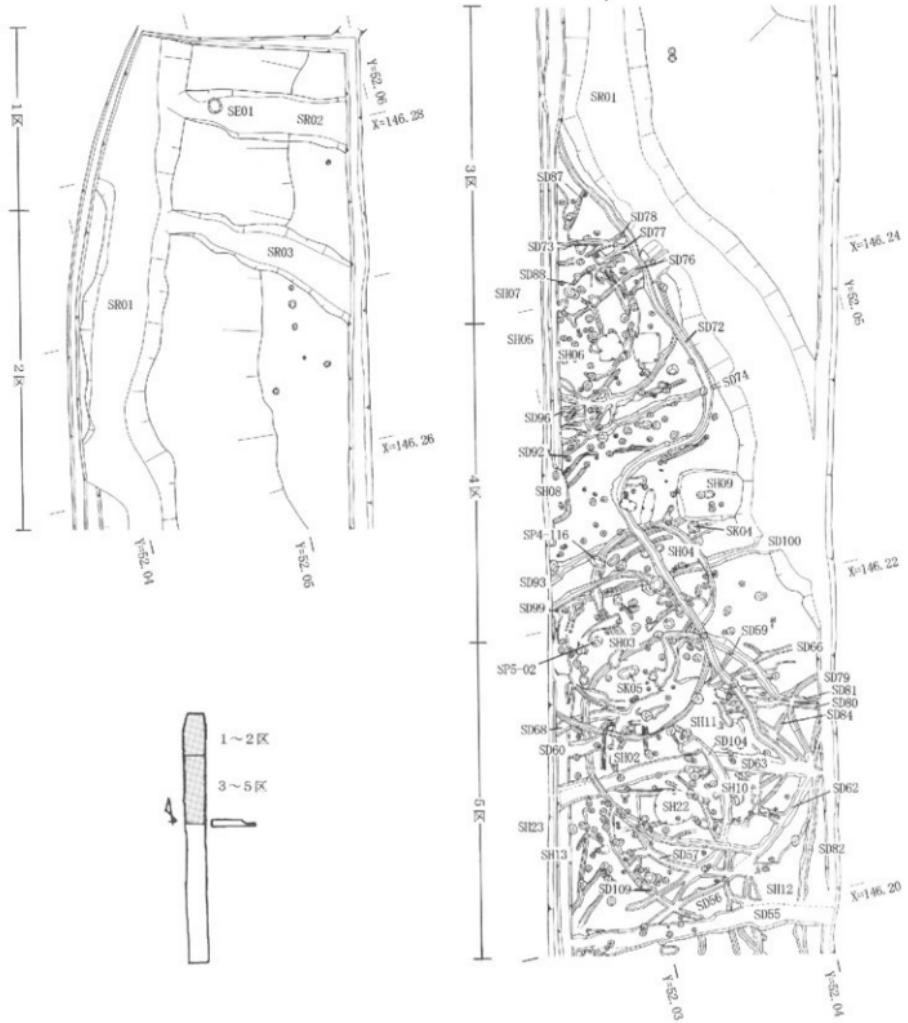
微高地および小谷で検出した遺構は、弥生時代前期、弥生時代後期~古墳時代前期初頭、飛鳥~鎌倉時代、室町~江戸時代のものである。これらの遺構は、竪穴住居25棟、掘立柱建物跡12棟、井戸2基、溝136条、欄列6列、柱穴約900基、土坑15基、不明遺構8基、水田2面を数え、遺構および包含層から30%コシテナ約87箱分の遺物が出土した。ただし、小谷底にあった弥生時代後期~古墳時代前期初頭の旧河道については、別報告となるため、遺物数からは除外している。微高地上の遺構は、後世の削平を受けているものが多く、本文中に記載されている遺構の法量は現存の値を示す。

参考文献

高橋 学1992『高松平野の地形環境』『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会



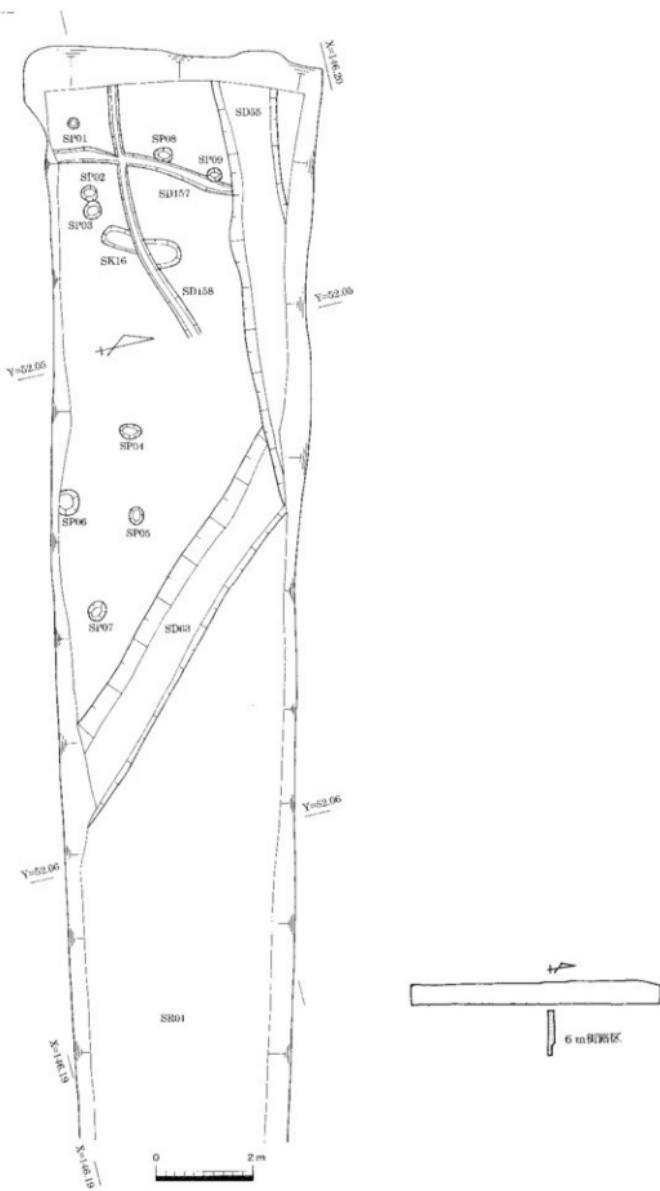
第4図 天満・宮西遺跡周辺の微地形(縮尺 1/15,000, 高橋学1992をもとに北側約500m分を追加)



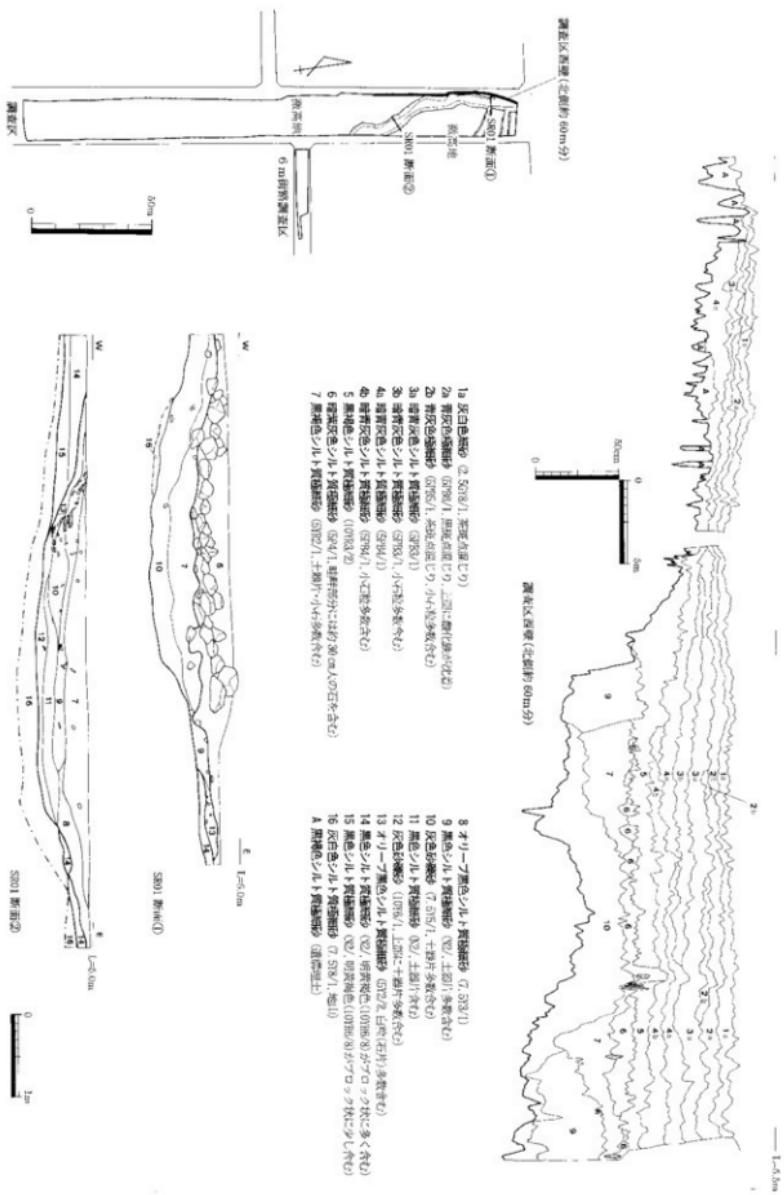
第5図 1～5区造構配置図(縮尺1/300)



第6図 6～11区構造配置図(縮尺1/300)



第7図 6 m 街路造構配置図(縮尺1/100)



第8図 調査区西壁土層図(縮尺縦1/30・横1/300)・旧河道SR01断面図(縮尺1/60)

	区割	掲載頁	備考
S H 1	6区北西	25	
S H 2	5区西	25	
S H 3	4~5区西	31	
S H 4	4区中央	32	
S H 5	3~4区西	32	
S H 6	3~4区西	32	
S II 7	3~4区西	32	
S H 8	4区西	33	
S H 9	4区東	108	
S II 10	5区中央	37	
S H 11	5区中央	37	
S H 12	5区南東	45	
S H 13	5区南西	45	
S II 14	6区南東	46	計4棟分
S H 15	6区南東	46	
S H 16	7区北西	54	
S H 17	7区東	54	
S II 18	10区南西	58	
S H 19	5~6区西	58	
S H 20	7区北東	60	
S H 21	10~11区西	60	
S II 22	5区中央	60	
S H 23	5区西	64	
S B 1	11区中央	64	
S B 2	11区東	65	
S B 3	11区東	66	
S B 4	10区北東	67	
S B 5	10区北東	68	
S B 6	10区北東	68	
S B 7	8区南東	68	
S B 8	8区中央	68	
S B 9	8区北西	68	
S B 10	10~11区東	70	
S B 11	10区北西	72	
S B 12	10~11区	72	
S A 1	10区南西	72	
S A 2	9区中央	72	
S A 3	9区中央	72	
S A 4	9区北東	74	
S A 5	8区南	74	
S A 6	7区東	74	
S E 1	1区中央	74	
S E 2	7区中央	74	

	区割	掲載頁	備考
S K 1	7区北東	77	
S K 2	—	—	
S K 3	8区東	78	
S K 4	4区中央	112	
S K 5	5区北西	78	
S K 6	6区南西	24	
S K 7	7区中央	24	
S K 8	7区中央	80	
S K 9	—	—	
S K 10	6区北東	24	
S K 11	8区北	80	
S K 12	7~8区西	80	
S K 13	8区北西	—	
S K 14	8区北西	80	
S K 15	9区北	80	
S K 16	6m 街路	—	
S K 17	7区中央	—	
S X 1	11区北西	—	
S X 2	3区西	—	
S X 3	4区北	—	
S X 4	10区北東	—	
S X 5	6区北	—	
S X 6	5区南	—	
S X 7	5区南東	—	
S X 8	—	—	
S X 9	7区北東	—	

第1表 天満・宮西遺跡遺構一覧 (1)

	区割	掲載頁	備考		区割	掲載頁	備考
S D 1	11区南西	109		S D 51	6区北西	—	
S D 2	11区東	80	S D09と同	S D 52	5～6区	58	S H19周溝
S D 3	—	—		S D 53	6区東	91	S D82と同
S D 4	11区北	109		S D 54	6区北西	—	
S D 5	10～11区	58	S H18周溝	S D 55	5区南	109	
S D 6	—	—	S D05～	S D 56	5区中央	94	
S D 7	10区西	84		S D 57	5区中央	37	S H10周溝
S D 8	10区西	60	S H21周溝	S D 58	—	—	S D59～
S D 9	10区南東	80	S D02と同	S D 59	5区中央	38	S H11周溝
S D 10	10区南東	—		S D 60	5区西	94	
S D 11	8区南	14		S D 61	5区東	—	
S D 12	7区東	54	S H17周溝	S D 62	5区中央	38	S H10・11周溝
S D 13	—	—	S D12・35～	S D 63	5区中央	14	
S D 14	7区南西	84		S D 64	—	—	S D72～
S D 15	9区北東	84		S D 65	—	—	
S D 16	—	—	S K15～	S D 66	5区北東	94	
S D 17	—	—		S D 67	5区北東	—	
S D 18	9区北西	84		S D 68	5区西	64	S H23周溝
S D 19	9区北西	—		S D 69	5区北	—	
S D 20	9区北西	84		S D 70	—	—	S D72～
S D 21	8区東	84		S D 71	4区中央	—	
S D 22	8区中央	84		S D 72	3～5区	109	
S D 23	8区北東	87		S D 73	3～4区西	33	S H06周溝
S D 24	8区北東	87		S D 74	4区北西	94	
S D 25	8区北東	87		S D 75	3区南西	33	S H06排水溝
S D 26	—	—		S D 76	3区南西	33	S H05排水溝
S D 27	7～8区東	87		S D 77	3区南西	95	
S D 28	—	—		S D 78	3区南西	95	
S D 29	—	—	S K11～	S D 79	5区東	95	
S D 30	—	—	S K13～	S D 80	5区東	37	S H10周溝
S D 31	7区南西	—		S D 81	5区東	38	S H11周溝
S D 32	7区南西	91		S D 82	5区東	91	S D53と同一
S D 33	—	—	S D150～	S D 83	5区中央	60	S H22周溝
S D 34	7区東	60	S H20周溝	S D 84	5区東	95	
S D 35	7区東	91		S D 85	5区東	95	
S D 36	7区東	46	S H14・15周溝	S D 86	4区北	—	
S D 37	7区東	91	S H14・15周溝	S D 87	3区南西	95	
S D 38	11区南西	91		S D 88	3区南西	97	
S D 39	11区北西	60	S II21周溝	S D 89	3区南西	33	S H05排水溝
S D 40	11区南西	—		S D 90	—	—	
S D 41	10区南西	60	S H21周溝	S D 91	4区北	33	S H05周溝
S D 42	6区東	46	S H14・15周溝	S D 92	4区北	97	
S D 43	6区東	46	S H14・15周溝	S D 93	4区南	97	
S D 44	6区東	46	S II14・15周溝	S D 94	4区北	97	
S D 45	6区東	49	S H14・15周溝	S D 95	4区北	—	
S D 46	6区東	46	S H14・15周溝	S D 96	4区北	33	S H05周溝
S D 47	6区北東	—	S D147と同一	S D 97	4区北	97	
S D 48	6区東	49	S H14・15周溝	S D 98	—	—	S D93～
S D 49	6区東	91		S D 99	4～5区西	31	S H03周溝
S D 50	6区東	—		S D 100	4区南	97	

第2表 天溝・宮西遺跡構造一覧（2）

	区割	掲載頁	備考
S D101	—	—	S D100～
S D102	4区南	—	
S D103	5区中央	99	
S D104	5区西	64	S H23周溝
S D105	5区西	—	
S D106	5区西	37	S H10周溝
S D107	5区南	—	
S D108	5区西	64	S H23周溝
S D109	5区中央	60	S II22周溝
S D110	—	—	
S D111	5区中央	—	
S D112	5区中央	—	
S D113	5区中央	99	
S D114	5区中央	99	
S D115	5区東	—	
S D116	5区東	37	S II10周溝
S D117	5区中央	—	
S D118	5区西	—	
S D119	5区西	99	
S D120	5区西	58	S H19周溝
S D121	5区中央	99	
S D122	5区西	58	S H19周溝
S D123	—	—	S D55～
S D124	5区西	99	
S D125	—	58	S H19周溝
S D126	—	—	
S D127	—	—	
S D128	—	—	
S D129	5区東	—	
S D130	5区東	—	
S D131	6区北西	112	
S D132	6区北西	99	
S D133	6区北西	99	
S D134	6区北西	58	S H19周溝
S D135	5区南東	102	
S D136	5区南東	—	
S D137	5区南東	58	S H19周溝
S D138	5～6区東	45	S H12周溝
S D139	5区南東	102	
S D140	6区東	60	S H20周溝
S D141	6区西	102	
S D142	6区中央	49	S H14・15周溝
S D143	6区中央	49	S H14・15周溝
S D144	6区中央	49	S H14・15周溝
S D145	6区東	60	S H20周溝
S D146	6区東	49	S H14・15周溝
S D147	6～7区東	—	S D47と同一
S D148	6区中央	102	
S D149	7区東	54	S H17周溝
S D150	7区東	—	

	区割	掲載頁	備考
S D151	7区東	—	
S D152	7区東	—	
S D153	10区西	—	
S D154	11区北西	102	
S D155	11区北西	—	
S D156	11区北西	—	
S D157	11区北西	—	
S D158	6m 街路	—	
S D 4	11区北	83	下層溝

第3表 天満・宮西遺跡遺構一覧（3）

第3節 弥生時代前期の遺構と遺物

弥生時代前期の溝2条・土坑3基を5~8区で検出した。このうち溝2条は、集落を囲んでいた環濠の北と南部分にあたり、別番号だが同じ溝である。土坑3基は、すべて環濠に囲まれた範囲内に位置し、集落に伴うものと考えられる。

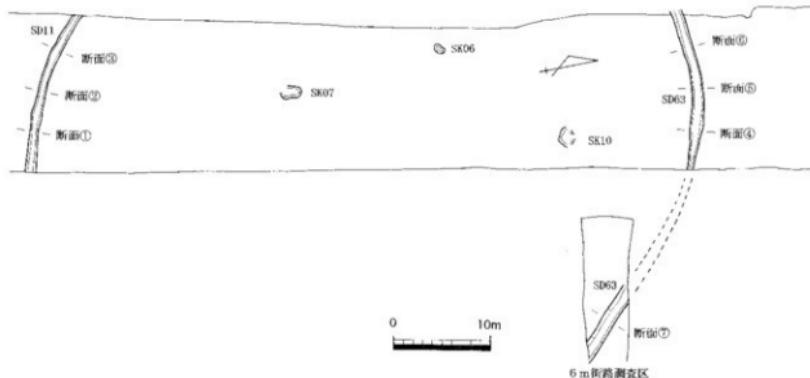
環濠S D11・63 (第10~20図)

5区でSD11, 8区でSD63, 6m街路区でSD11, 6m街路区でSD63の延長を確認した溝で、SD11・63と別番号だが、本来は円を描いて完結する同じ溝と考えられる。溝で囲まれた範囲の直径は約65mを測る。旧地形から見れば、南北約250m、東西約100mの規模をもつ微高地の南東部分を占め、SD11は微高地の高い場所に、SD63は微高地縁辺近くにあたる。

溝の規模は、幅80cm~1m20cm、深さ約20~55cmを測り、断面はU字形もしくは逆台形を呈する。埋土は、SD11・63で2~3層、6m街路区SD63で4層に分かれ、同じ遺構内でも場所によって微妙に堆積状況が違う。SD11では第1層を上層、第2・3層を下層、SD63では第4層を上層、第5~7層を下層として調査した。土器・石器は、SD11・63ではおおむね上層・下層に分けて取り上げたが、6m街路は充分な調査期間が確保できず、上下層一緒に取り上げることになった。

出土した弥生土器の器種構成は、壺(1~8・43~47・51~56・73~84)・甕(9~16・29~32・48~50・57~62・85~89)が圧倒的に多く、蓋(90)・鉢(33・34)・高杯(17・63・69)がわずかに存在する。甕には小型のものが含まれる。甕は、いわゆる如意状口縁であり、体部が膨らむものとそうでないものがあり、大きさも大小さまざまである。

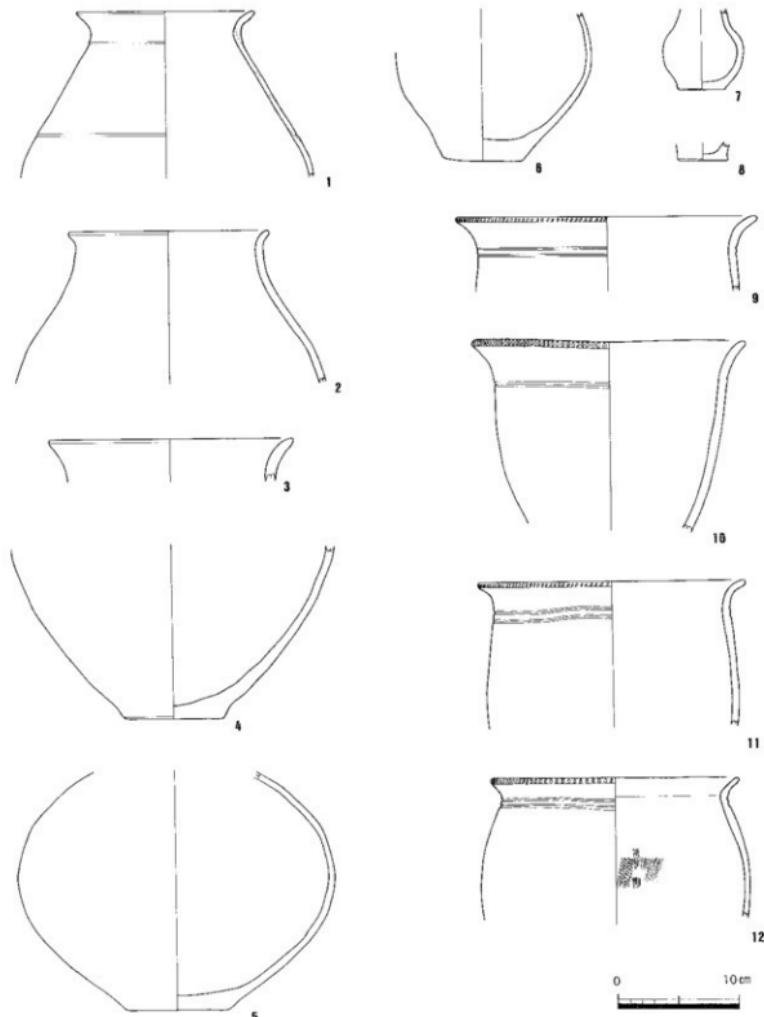
壺は、下層においては頸部と肩に段をもつか1条の沈線を引くか無文であるが、上層においては数条の沈線を引くものや削り出し突帯をもつものが出現する。甕は、下層において頸部に1~2条の沈線を引くが、上層においては沈線が3条以上のものや削り出し突帯のものが出現する。さらに、甕外縁の調整は、範磨きが主体であるが、上層で刷毛を施すもの(57)が見られるようになる。これらの特徴から、環濠SD11・63は弥生時代前期前半後葉~後半前葉と推定され、下層と上層出土遺物に時期差が認められる。このことは、環濠が一度に埋まったのではなく、徐々に埋没したことを推測させる。



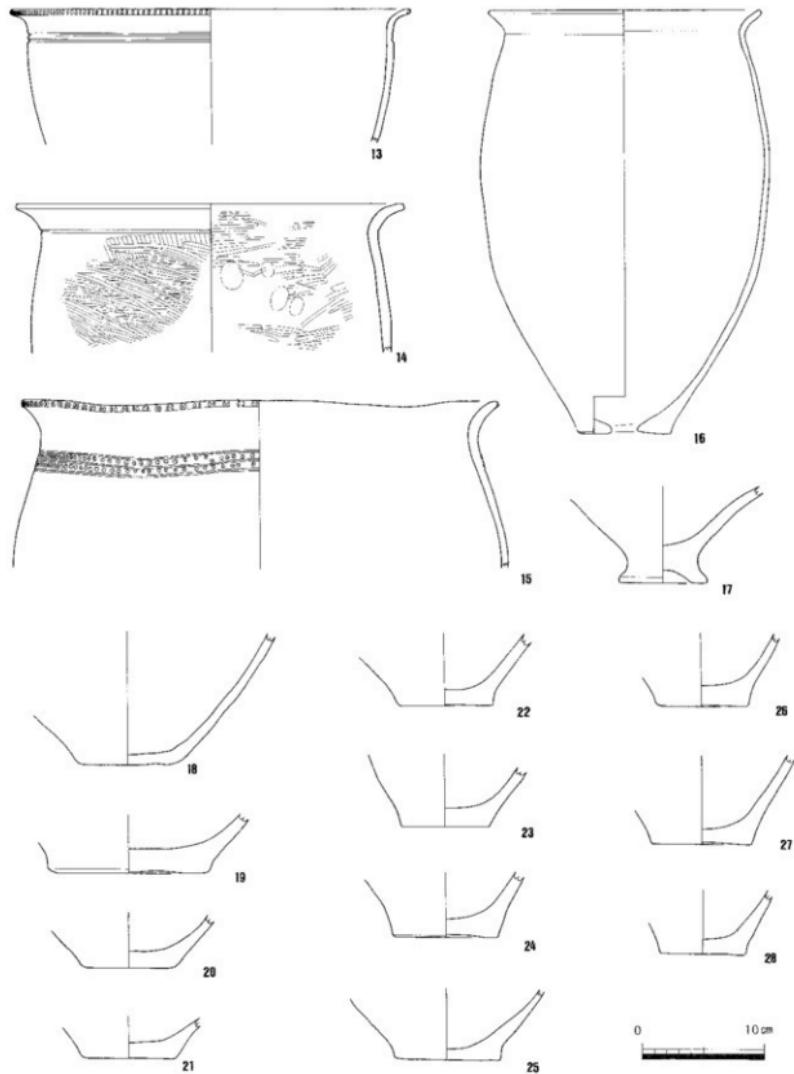
第9図 弥生時代前期遺構配置図(縮尺1/500)



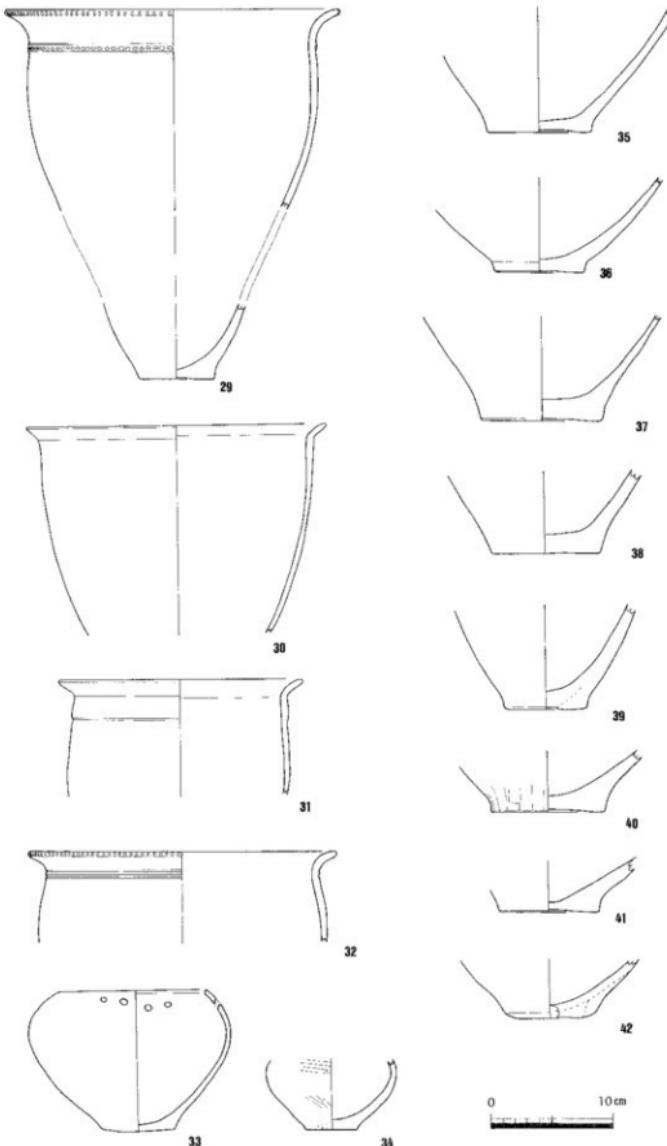
- 1 黒褐色シルト質粘土砂 (10YR3/2)
2 黒褐色シルト質粘土砂
(10YR3/2. 地山をブロック状に含む)
3 黒色シルト質粘土砂 (7.5YR2/1)



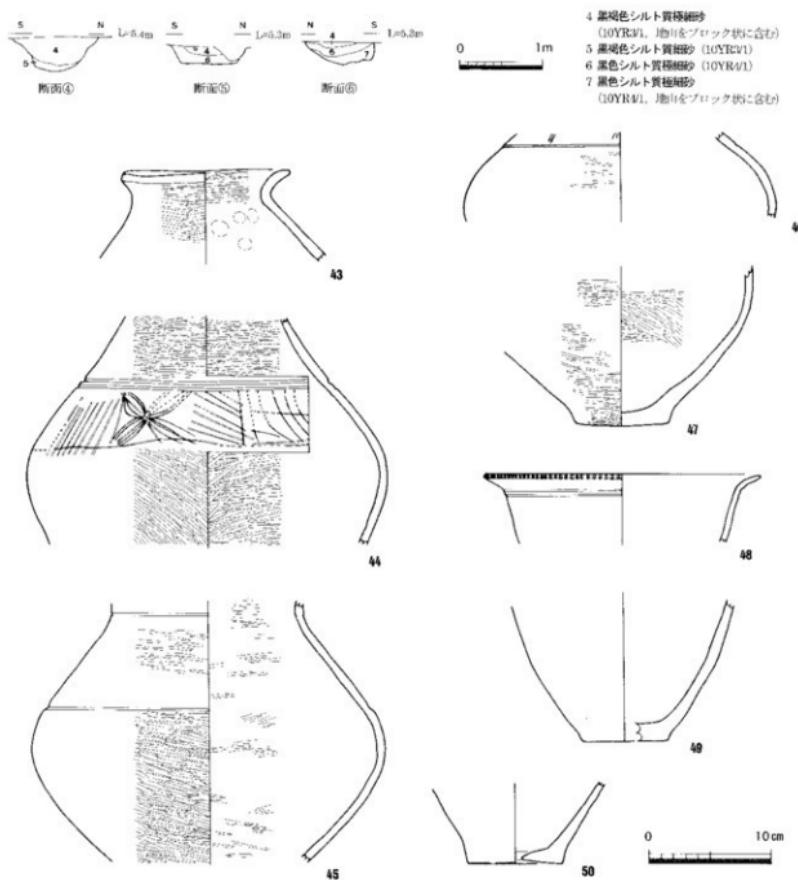
第10図 S D11断面図(縮尺1/60)下層出土遺物実測図①(縮尺1/4)



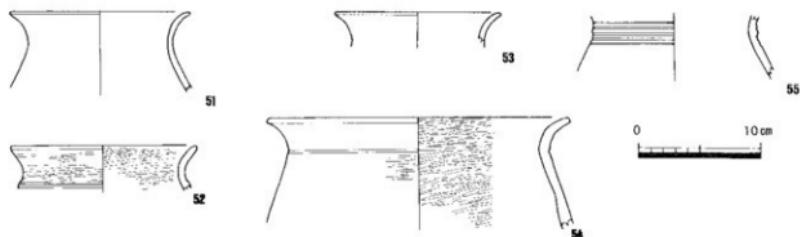
第11図 S D11下層出土遺物実測図②(縮尺1/4)



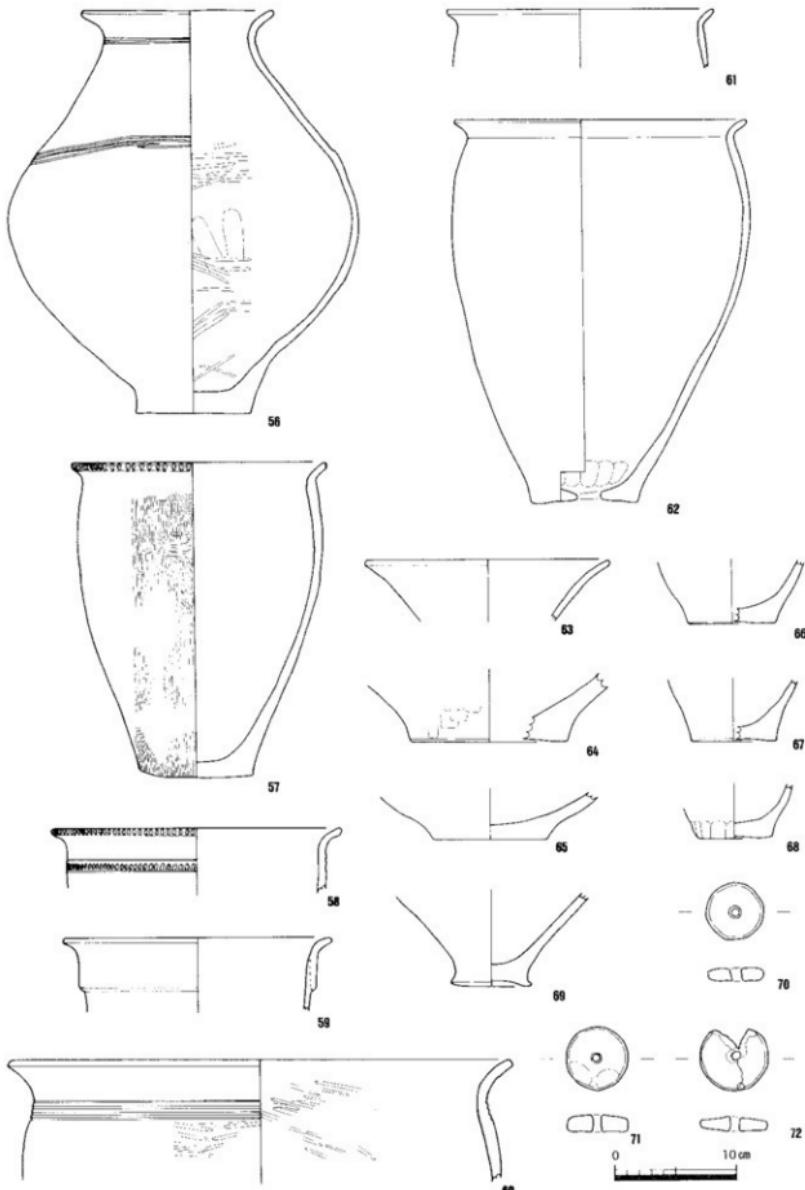
第12図 S D11上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



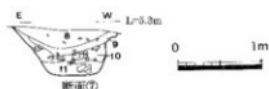
第13図 S D 63断面図(縮尺1/60)下層出土遺物実測図(縮尺1/4)



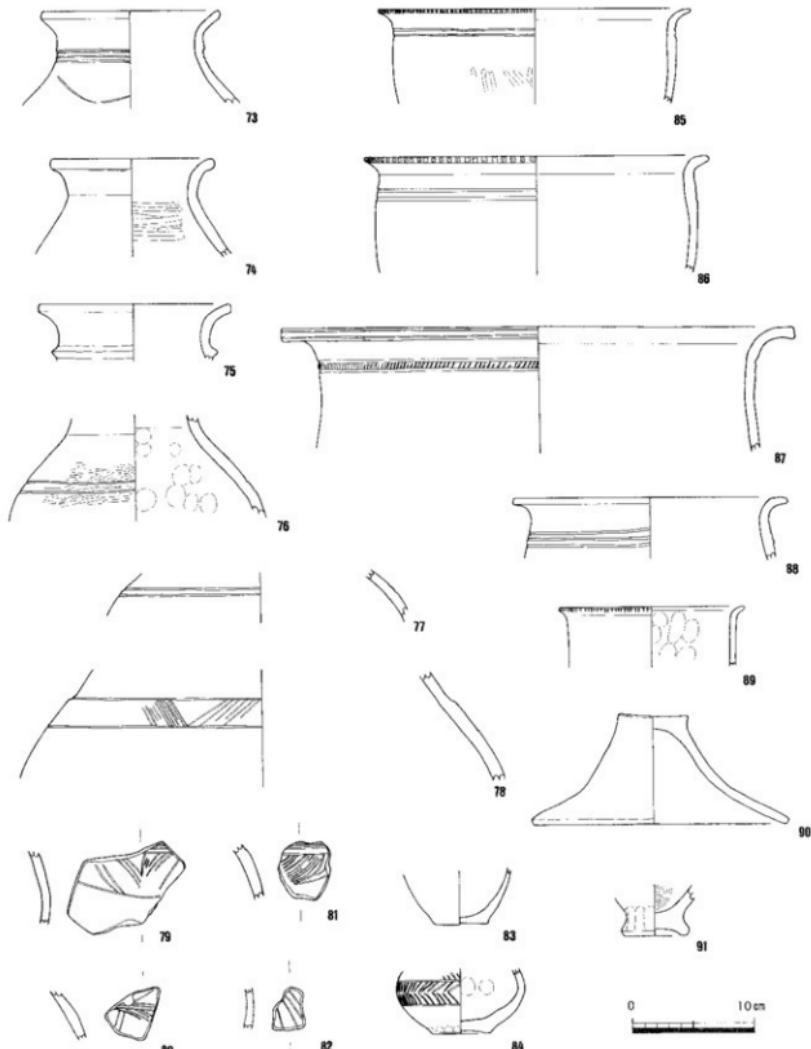
第14図 S D 63上層出土遺物実測図①(縮尺1/4)



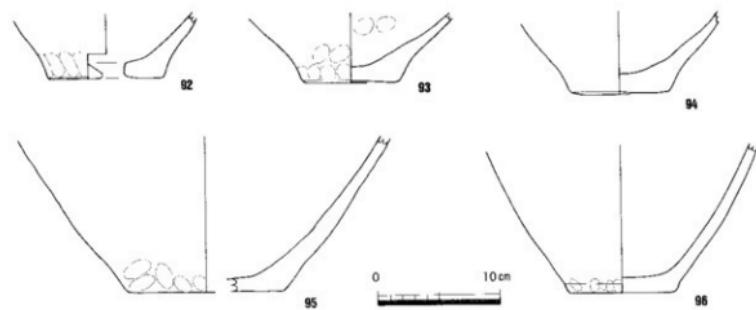
第15図 SD 63上層出土遺物実測図②(縮尺1/4)



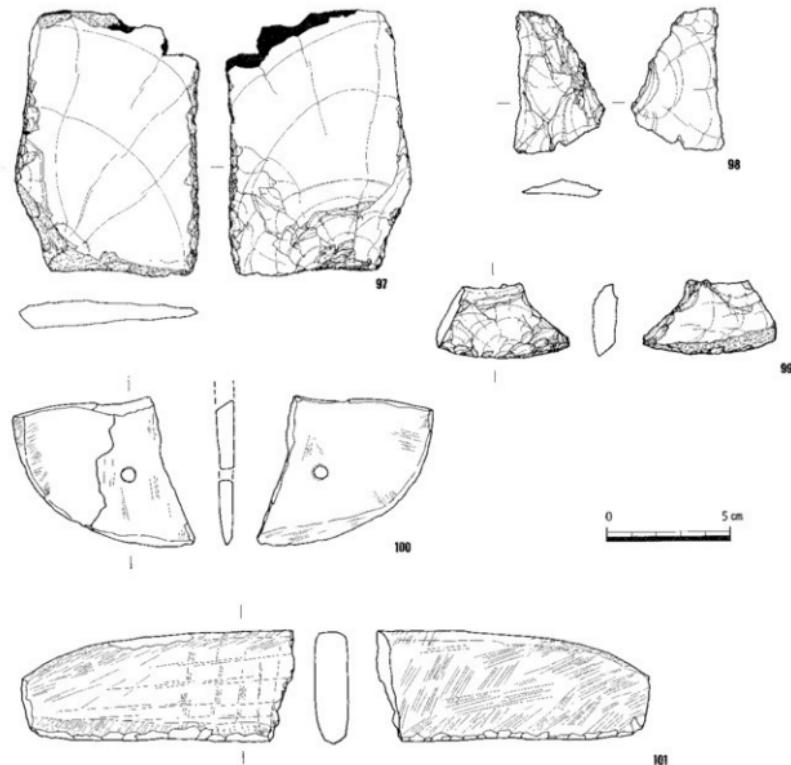
- 8 黒色シルト質極細砂 (7.5YR2/1)
 9 黒色シルト質極細砂 (7.5YR2/1, 白色の小石粒を含む)
 10 黒色シルト質極細砂 (7.5YH2/1, 多大の石を多く含む)
 11 黄灰色シルト質極細砂 (2.5Y6/1, 辛大の石を多く含む)



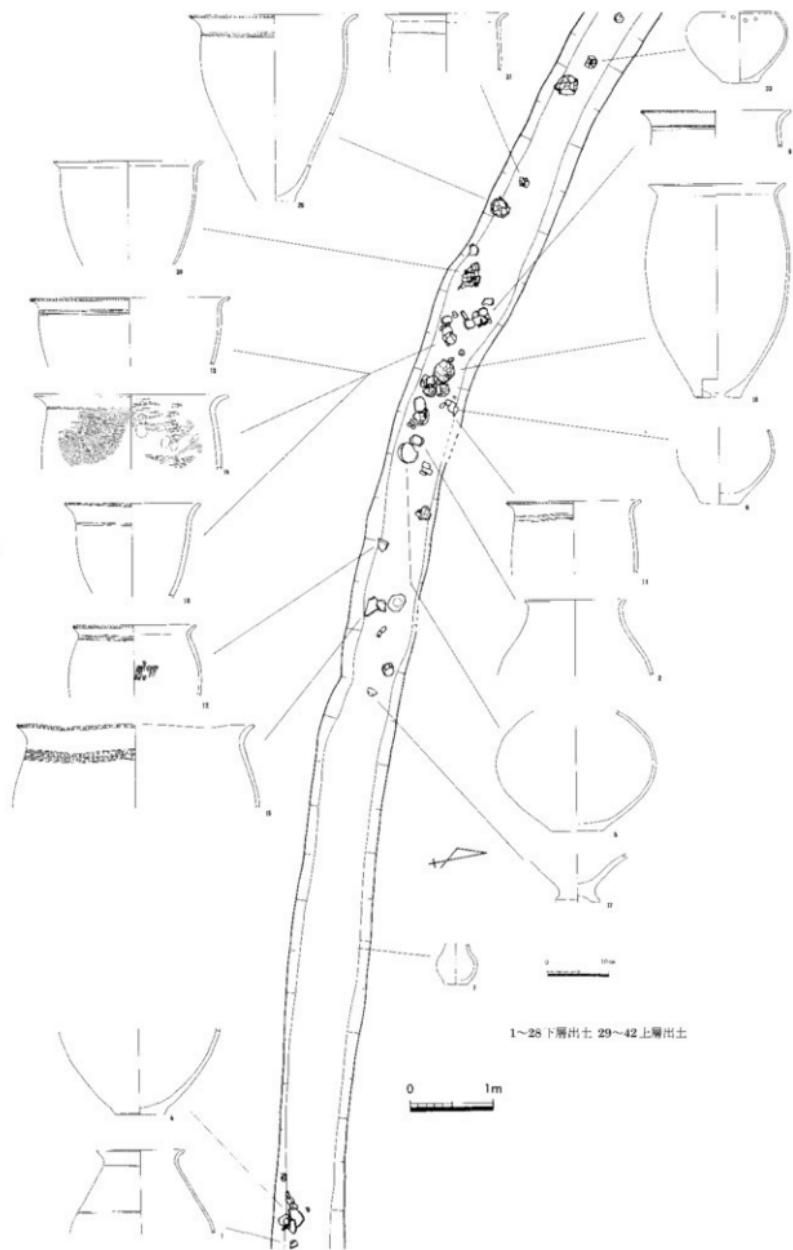
第16図 6m街路S D 63断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図①(縮尺1/4)



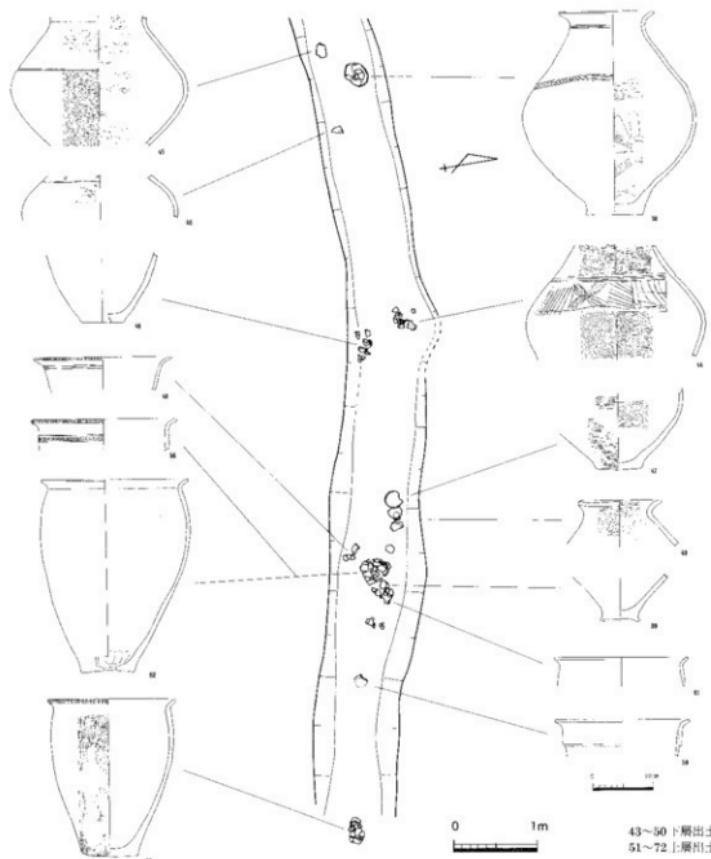
第17図 6m街路S D 63出土遺物実測図②(縮尺1/4)



第18図 S D 63(6m街路含む)出土遺物実測図(縮尺1/2)



第19図 SD 11遺物出土状況図(造構縮尺1/60, 遺物縮尺1/8)



第20図 S D 63遺物出土状況図(遺構縮尺1/60, 遺物縮尺1/8)

土器の紋様のうち、注目されるのは壺(44)で、肩部に幾何学紋と組み合わせた木葉紋を施している。施紋方法は、2条の太い沈線から約5cm下に細い沈線を引いて紋様を描く空間をつくり、そこに木葉紋や縦線・斜線・曲線のみで構成される区画を、それぞれ区画幅約6cmを基準に飽描きで施している。壺(78)は、肩部の段から約2cm下に沈線を引き、約10本を一束とした斜線を交互に連えて飽描きで施している。壺肩部の破片(79~82)は同一個体の可能性があり、羽状紋が施されている。小形壺(84)は、体部最大径に紋様を施しており、2条の沈線の間に羽状紋を2段に施し、さらに上にも羽状紋を施した痕跡が認められる。

石器は、サスカイトを材料とした打製の刃器(97~99)、磨製石庖丁(100)、磨製石鎌(101)が出土している。なお、弥生時代後期の造構および造構検出時に磨製石庖丁(149・792)が出土しており、これらは本来前期の造構に伴うものであろう。

S K 06 (第21図)

6区西で検出した直徑約80cm~1m10cm, 深さ約20cmを測る楕円形の土坑で、断面は浅いU字形を呈する。出土した底部(102)は胎土が粗く径の大きい平底であることから、弥生時代前期と考えられる。

S K 07 (第22図)

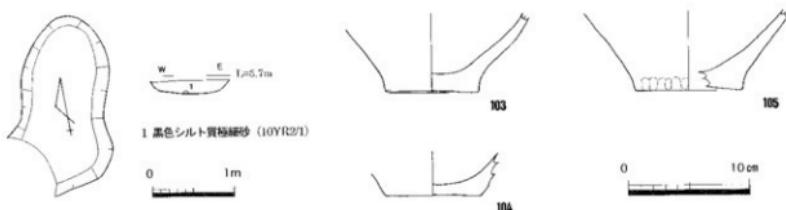
7区中央で検出した幅約1m10cm, 長さ2m10cm, 深さ約20cmを測る弧状形の土坑で、断面は浅いU字形を呈する。S E02と重複し、S E02より先行する。出土した底部(103~105)は、胎土が粗く径の大きい平底であることから、弥生時代前期と考えられる。

S K 10 (第23図)

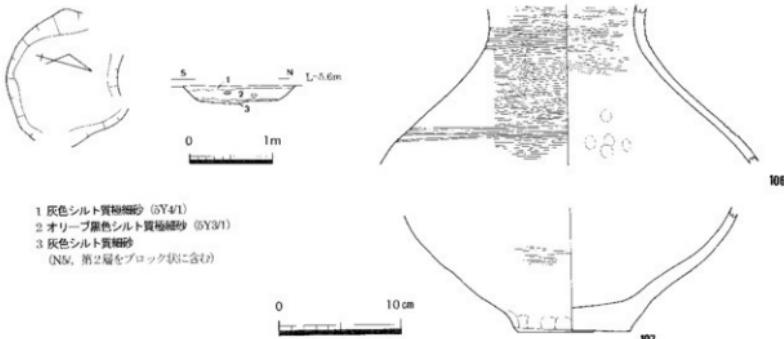
6区東で検出した直徑約1m40cm~1m60cm, 深さ約25cmを測る不整な円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。S D47・138と重複し、これらより先行する。弥生土器壺(106)・底部(107)が出土している。壺の頂部と体部上位には3条の篦描き沈線が見られ、内外面には篦磨きが密に施されている。弥生時代前期後半前葉と考えられる。なお、この壺と底部は同じ色調・胎土であり、同一個体の可能性がある。



第21図 S K 06平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第22図 S K 07平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第23図 S K 10平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

第4節 弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺構と遺物

弥生時代後期～古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居24棟・掘立柱建物跡12棟・井戸2基・欄列6列・溝48条（周溝を除く）・土坑8基などを調査区全域で検出した。このうちS E01のみが調査区北東隅にある別の微高地に位置する。

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する土器については、この時期の土器を時代別に「弥生土器」「土師器」と厳密に分けることは不可能であることから、「弥生土器」で呼称を統一した。また、土器の細かい時期については、大鷗編年案（大島和則2001）・大久保編年（大久保徹也1990・1996・2002）・真鍋編年（真鍋昌宏2000）など最近幾つかの編年案が示されているが、本文中では本遺跡が高松平野にあることを重視し、高松平野の遺跡出土土器を対象にした大鷗編年案の「様相1～6」を主に使用している。なお、この「様相1～6」は、大久保編年の「下川津I～VI」にはほぼ相当する。

参考文献

大久保徹也1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」「下川津遺跡」香川県教育委員会ほか
大久保徹也1996「各地域における弥生時代後期土器の様相－諸岐－」「古代学協会四回支部第10回資料『弥生後期の面』内海」
大久保徹也2002「西園寺北東部における連域の首長理葬儀様式の成立時期をめぐって」「論集集約的考古学」徳島考古学論集刊行会
大鷗和則2001「高松平野における庄内並行型の十字様相」「庄内式土器研究XIV」庄内式土器研究会
丸山昌宏2000「讃岐地域」「弥生土器の様式と編年 四回編」木耳社

(1) 竪穴住居

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する竪穴住居は、計24棟確認している。このうち、調査時に確認していた竪穴住居は16棟で、整理時に周溝の存在から類推したのは8棟である。平面形態は円形を基準としており、円形のもの11棟、方形のもの2棟、不明なもの11棟となっている。また、竪穴住居の周りに溝を巡らす、いわゆる周溝をもつものが本遺跡では多いのが特徴である。これは、本遺跡の立地が、海拔が低く、旧河道に向していることを考慮すると、排水をする上で必要不可欠であったのかもしれない。

S H01（第24図）

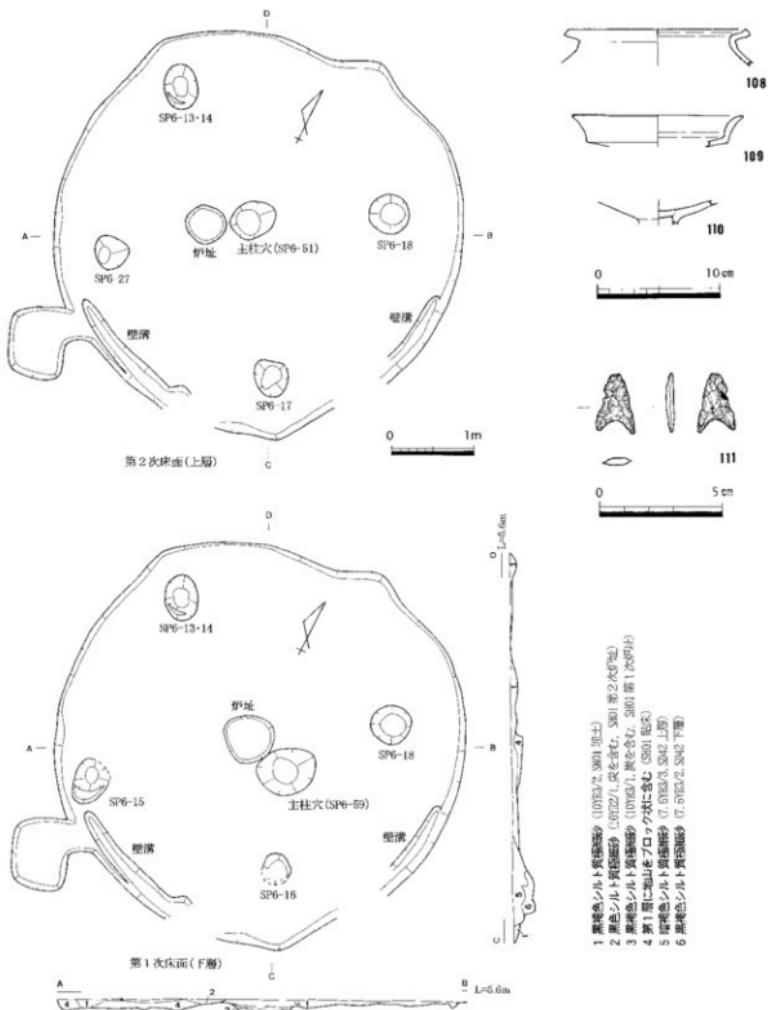
6区北西で検出した直径4.9～5.0mを測る円形の竪穴住居で、深さは約10cmを測る。床面積は、約19m²である。床面は2面確認しており、少なくとも1回の建替えが想定できる。2面とも中央に楕円形の炉と円形の主柱穴を設け、主柱穴を中心に4基の柱穴を配置している。柱穴のうち、北側2基は1次面・2次面とも同じものだが、南側2基は1次面と2次面では違うもので、建替え時に南側のみ柱穴を再掘削している。壁溝は、南と東側に一部が残っている。また、南西部に小さい張り出しを有する。埋土のうち、第2層が第2次面の炉址、第1層が1次面の埋没土、第3層が第1次面の炉址であり、第4層が貼床である。第2次面の埋没土は、削平されて残っていないかった。S D42・52・134と重複し、これらより先行する。

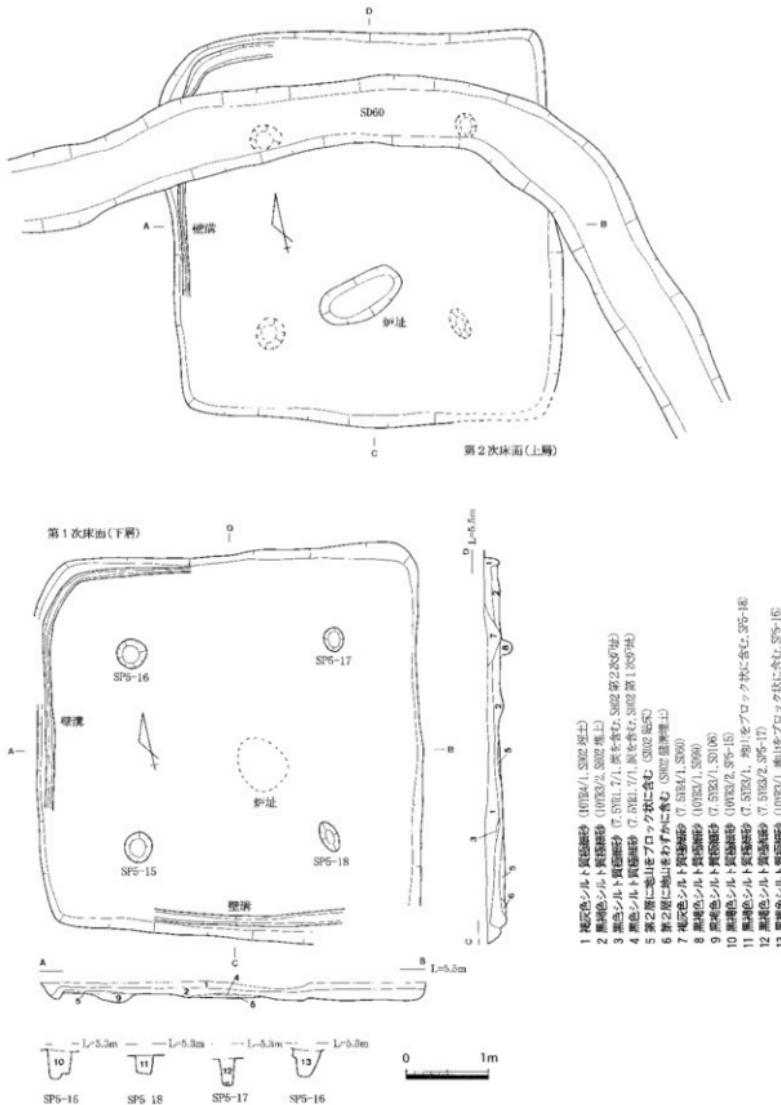
出土遺物は少なく、同化できるのは弥生土器甕（108）・高杯（109・110）・石鑓（111）である。甕は口縁部が短く端部をつまみあげ、高杯も口縁部が短く内面に強いヨコナデが見られないことから様相2前後に相当し、S H02は弥生時代後期後半のものと考えられる。

S H02（第25・26図）

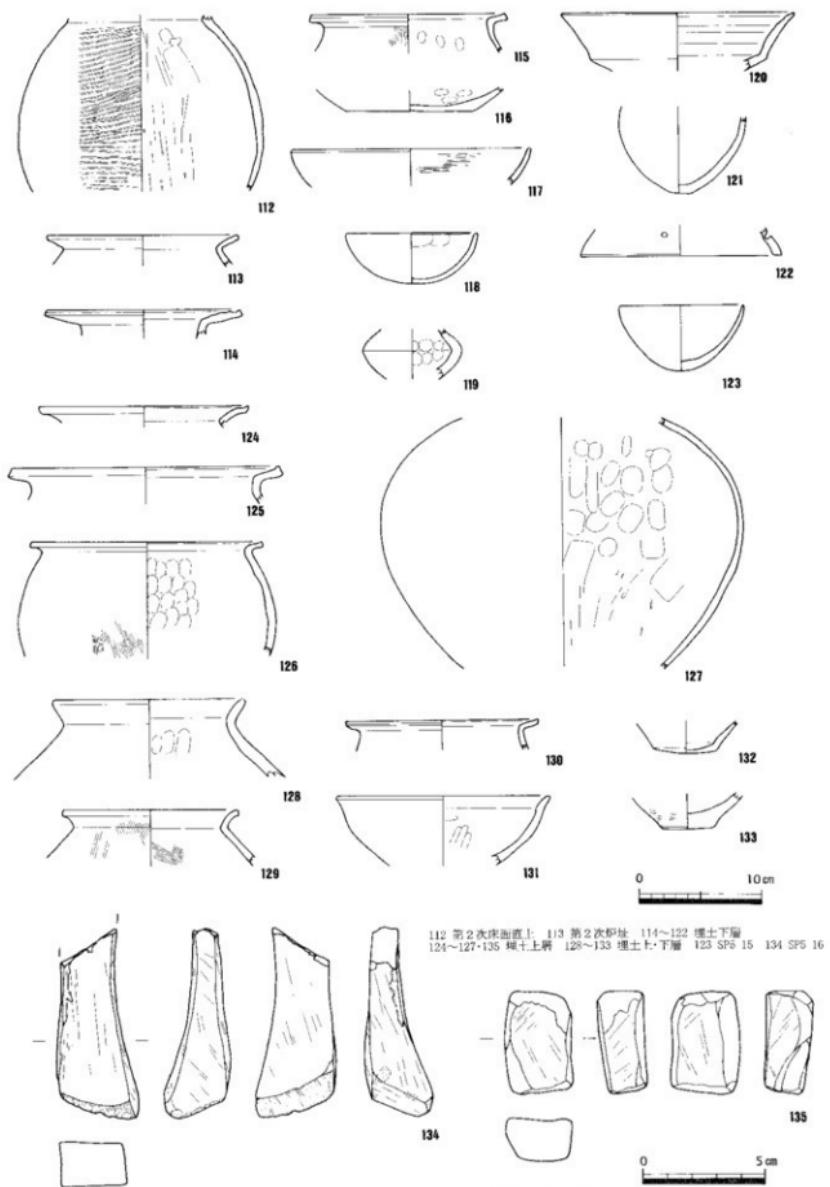
5区西で検出した南北4.6～4.8m、東西4.7mを測る方形の竪穴住居で、深さは約20cmを測る。床面積は約22m²である。床面は2面確認しており、少なくとも1回の建替えが想定できる。第1次面（下層）では、中央に不整円形の炉を設け、炉を中心に4基の柱穴を配置している。第2次面（上層）では、楕円形の炉を南側に設けるが、予想される4基の柱穴は判然としなかった。壁溝は、北から西にかけてと南側に一部が残っている。埋土のうち、第1層が2次面の埋没土、第3層が第2次面の炉址、第2層が1次面の埋没土、第4層が第1次面の炉址であり、第5層が貼床である。S H10・11およびS D60・63・99・105・106・118と重複し、S D60より先行するが、他の遺構より後出する。

出土遺物は多く、第1次床面からは弥生土器壺（112）が、第2次炉址からは壺（113）が出土し、柱穴 S P 5 - 15からは小形鉢（123）が出土している。さらに、第1次床面と第2次床面の間にあたる埋下層（第2層）からは広口壺（114）・壺（115）・小形鉢（118）・小形丸底土器（119）・高杯（120）などが出土している。古い時期の遺物が混じるが、壺の口縁部が水平近く伸び体部が球形化していることや、高杯の口縁部に強いヨコナデが見られ、鉢が丸底であることから様相6に相当し、S H02は古墳時代前期初頭のものと考えられる。また、S H02からは、砥石（134・135）が2点出土している。

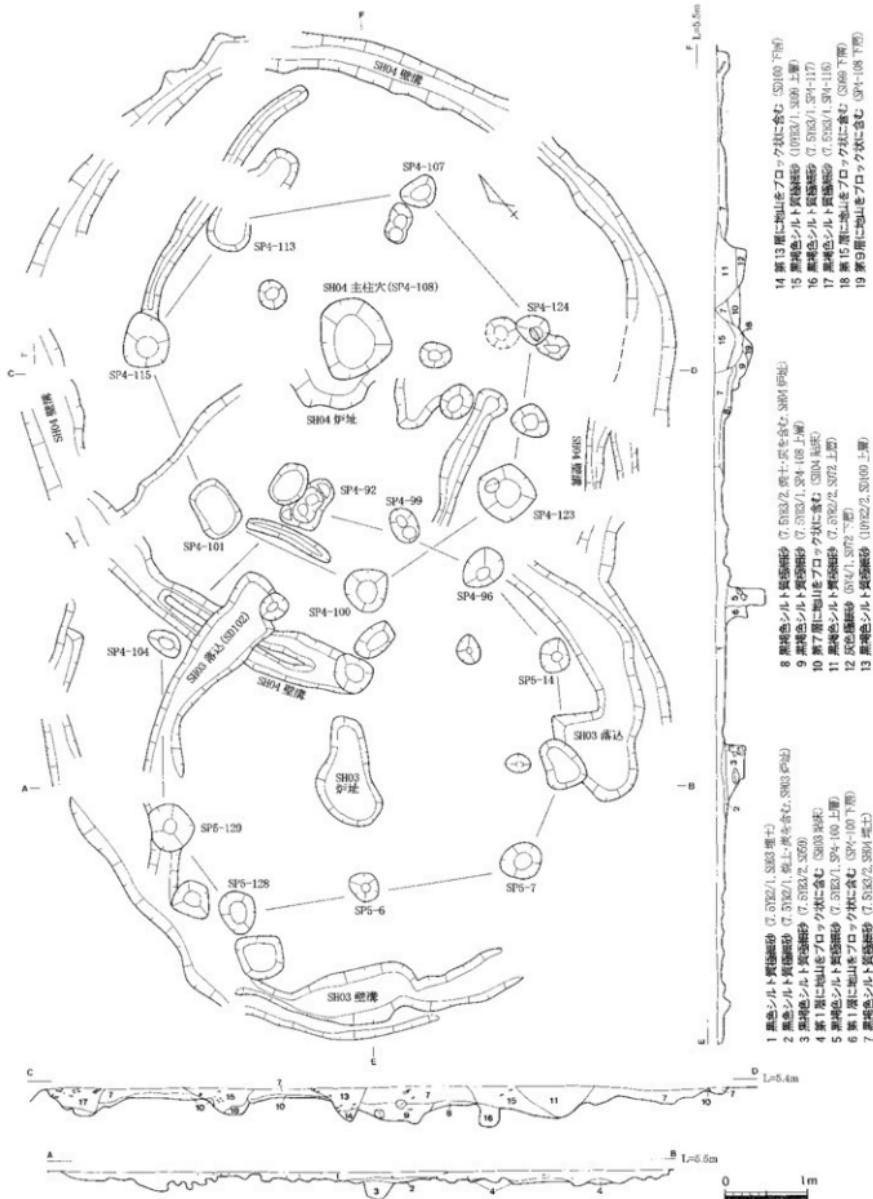




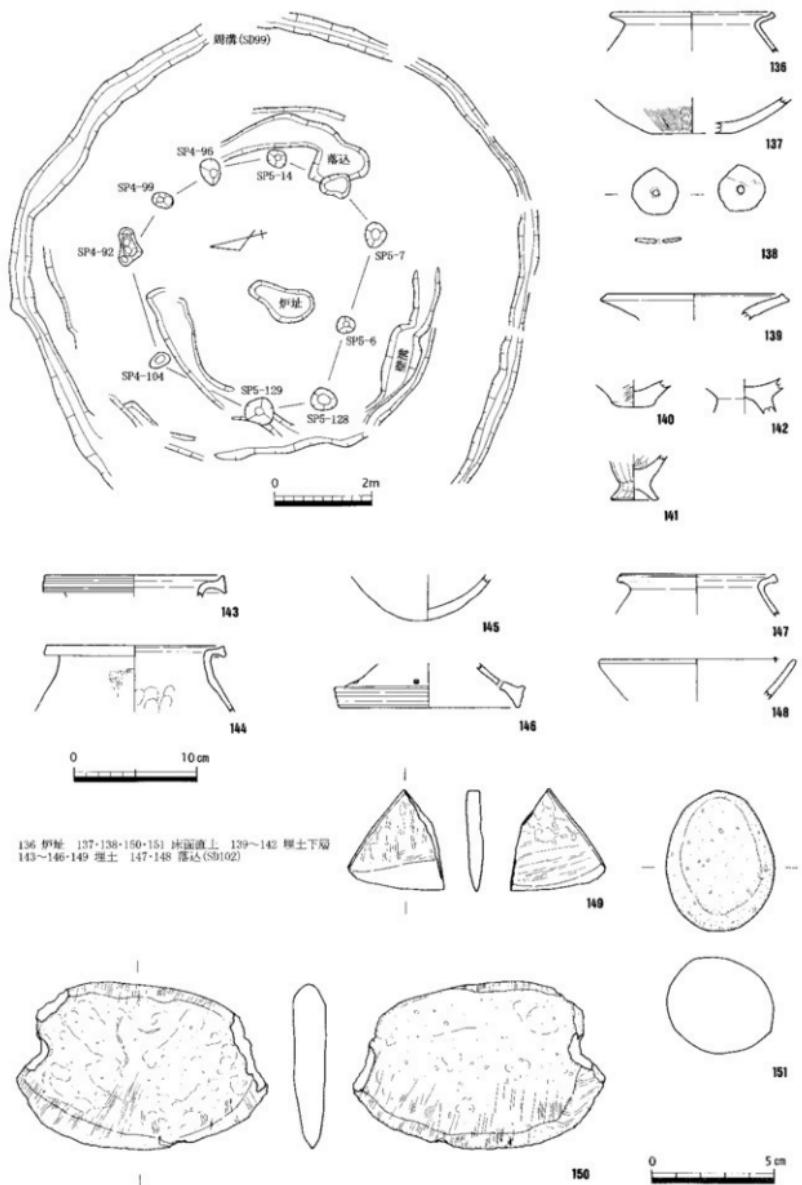
第25図 S H02平面・断面図(縮尺1/60)



第26図 S H02出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)



第27図 S H 03・04平面・断面図(縮尺1/60)



第28図 S H03平面図(縮尺1/100)出土遺物実測図(縮尺1/4,1/2)

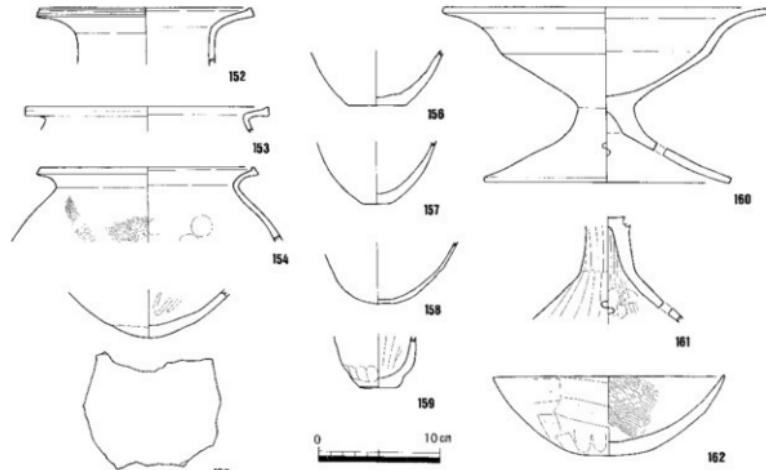
S H03 (第27~29図)

4~5区西で検出した直径7.2~8.0mを測る円形の堅穴住居で、深さは約10cmを測る。床面積は、約45m²である。住居外側には、S D99が周溝としてめぐっている。内部構造は、中央に不整形な炉を設け、炉を中心として10基の柱穴が配置されている。壁溝は、北西および南側に一部が残っている。さらに、住居内の北西部および東部分には約10cmの落ち込みが見られるなど、床面は凹凸が著しい。なお、他の堅穴住居に見られるような建替えは認められない。また、後述する土坑S K05は、S H03の床面を掘り込んで設けられた可能性がある。埋土のうち、第1層が埋没土、第2層が炉址であり、第4層が貼床である。S H04・11およびS D59 (S H11周溝) と重複し、これらの遺構より後出する。

出土遺物のうち、弥生土器(136~148)は後期前半~様相6までの遺物が混在し、所属時期が確定づらいが、次のべる周溝S D99が様相6であることから、S H03も同じ時期と考えられる。よって、S H03は古墳時代前期初頭のものと考えられる。なお、磨製石庖丁片(149)は弥生時代前期のもので混入品である。磨製石庖丁(150)は、両横に抉りがあり、打製石庖丁との折衷形式を呈している。

S H03の周溝であるS D99は、幅約50~80cm・深さ約30cmで断面U字形を呈し、平面は直径約10.8mの円を描いてS H03を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約92m²である。埋土は、2層に分かれる。S H02・04・11およびS D59 (S H11周溝)・68 (S H23溝)・72・100と重複し、S H02とS D72より先行し、他の遺構より後出する。

S D99の出土遺物は主に上層から出土し、完形に近いものがあることから、住居・周溝が廃棄された時に一緒に棄てられたものと考えられる。古い時期の遺物が混じるが、完形に近い遺物を概観すると、高杯(160)は口縁部が大きく外反し、鉢(162)や底部(155)が丸底であることから様相6に相当し、S D99は古墳時代前期初頭のものと考えられる。なお、高杯(160)はこの地域では見られない形態・胎土であり、他の地域からの搬入品である。底部(155)の外面に多く生じているひび割れの中には、朱または赤色顔料と推定される赤色のものが付着しており、特殊な使われ方をしたものと推測される。



第29図 S H03周溝 S D99出土遺物実測図(縮尺1/4)

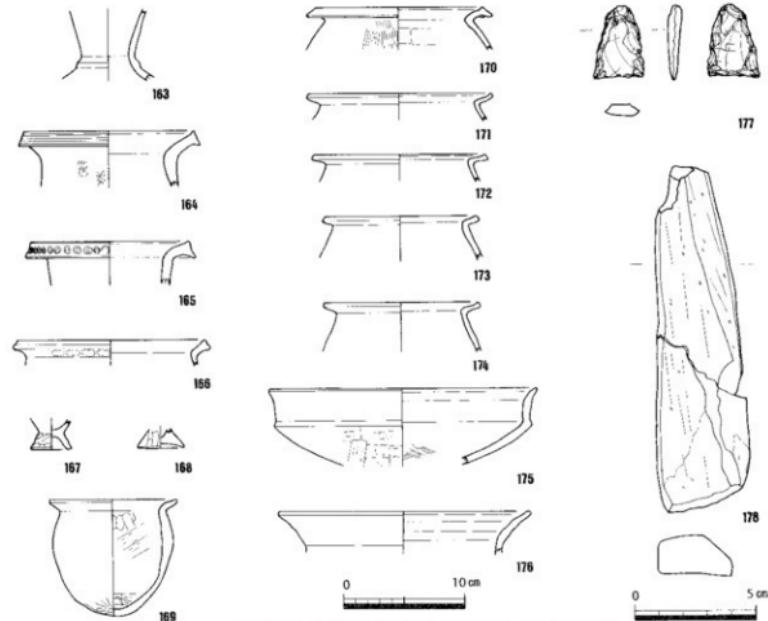
S H04 (第27・30図)

4区中央で検出した直径約8.0mを測る円形の竪穴住居で、深さは約10cmを測る。床面積は、約50m²である。中央に不整形な炉と円形主柱穴を設け、主柱穴を中心として7基の柱穴が配置されている。壁溝が南側を除いてほぼ全周することから、南側に出入りがあった可能性が指摘できる。また、壁溝が一部二重になっていること、柱穴 S P 4 - 107・124に別の柱穴 2基が隣接することから、1～2度の建替えが行われたと考えられる。埋土のうち、第7層が埋没土、第8層が炉址であり、第10層が貼床である。S H03およびS D72・93・99 (S H03周溝)・100と重複し、S D93より後出し、他の遺構より先行する。

出土遺物は、古相を呈するものと、新相を呈するものが見られる。壁溝や柱穴から出土した弥生上器のうち、細頸壺 (163) は頸部と体部の境に凸唇が残り、壺 (164～165) は口縁端部を拡張して凹線や竹管紋を施しており、小山南谷遺跡 S H03と同じ時期である弥生時代後期前半中葉頃と考えられる。一方、埋土から出土した弥生土器 (167～176) は、主に様相3～様相5までの遺物が混在しており、埋土の遺物に従えば、S H04は弥生時代終末期のものとなる。多数の遺構と重複しており出土遺物は混入が著しいが、後期前半まで遡る竪穴住居が他に見当たらず、竪穴住居の構造がS H03と類似することや、様相4に属するS D100より先行することから、S H04の時期は様相3～4と捉え弥生時代後期後半と推定される。

S H05・06・07 (第31～35図)

3～4区西側で検出した竪穴住居群である。これら3棟は、ほぼ同じ場所に重複しており、調査時に埋土を除去してから、3棟存在することが明らかになった。そのため、遺構断面も共有することから、ここ



第30図 S H04出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)

では一括して報告する。ただし、埋土や壁溝の前後関係から判断して、S H06→S H05→S H07の順に堅穴住居が築かれている。これら堅穴住居の西半分は調査区外にあたるため、その規模は復元値である。また、これら堅穴住居は、東側で河川 S R01と隣接している。

S H05（第33図）は、炉・壁溝・周溝および住居からのびる排水溝を検出した。検出した壁溝は一部であり正確な値は出ないが、直径約6.6mを測る円形の堅穴住居で、深さは約10cmを測る。床面積は復元値で約34m²である。炉は、調査区壁面において確認したので、規模は不明である。排水溝 S D76は、幅約30cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、住居内に穿たれた窪み S D89から壁溝・周溝を横切って、S R01に注いでいる。その長さは、6.3mである。周溝である S D91・96は、幅約30~40cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、平面は直径約11.2mの円を描いて S H05を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約98m²である。なお、柱穴については図面上で復元を試みたが、特定できなかった。

S H06（第34図）は、直径6.0~8.0mを測る楕円形の堅穴住居と推定され、深さは約10cmを測る。床面積は復元値で約38m²である。中央に不整形な炉と円形主柱穴が2基ずつあり、前後関係が存在することから併存したのではなく、少なくとも1度の建替えが行われたと考えられる。壁溝が一部二重になっていることからも、肯定できよう。図面上で、主柱穴を中心として6基以上の柱穴がほぼ壁溝に沿って配置されていると復元を試みた。排水溝 S D75は、幅約30cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、壁溝からのがて周溝を横切り S R01に注いでいる。周溝である S D73は、幅約20~80cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、平面は直径約11.0mの円を描いて S H06を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約95m²である。

S H07（第35図）は、直径約6.0mを測る円形の堅穴住居で、上部の削平が著しく炉と壁溝のみを検出できた。床面積は復元値で約28m²である。炉は、調査区壁面において確認したので、規模は不明である。壁溝の検出幅は他のものに比べて幅広いが、これは断面観察によると2時期のものが重なっているためで、実際の幅は他のものと変わらない。図面上で、主柱穴を中心として3基以上の柱穴が配置されていると復元を試みた。S H05・06が有していた排水溝・周溝は、S H07には存在しない。

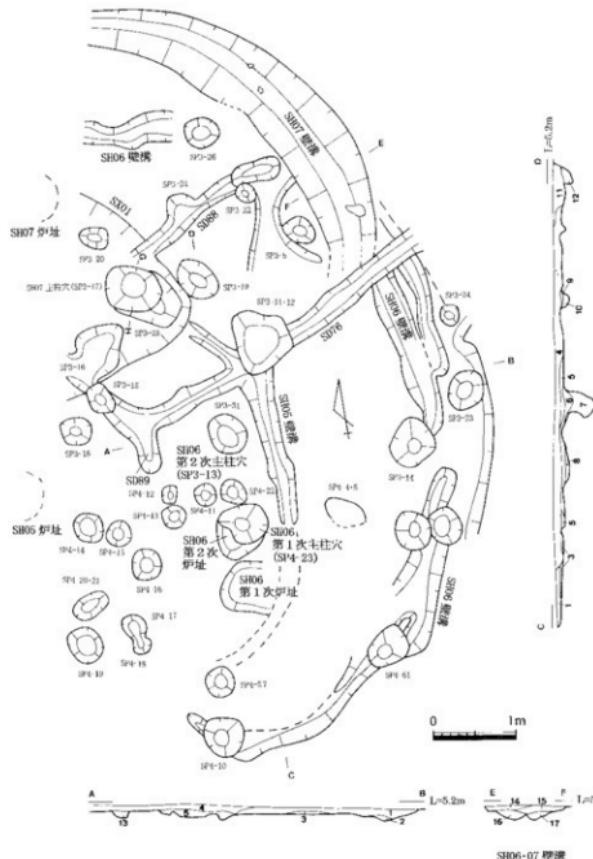
S H05・06・07およびその周溝は、S D72・77・78・88・94・96・97と重複し、S D72より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

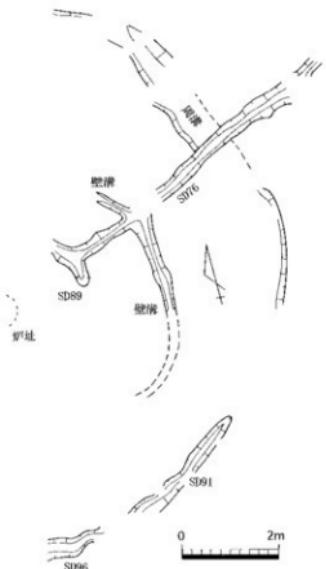
出土遺物のうち図化できるものは少なく、S H05・06の柱穴・壁溝・周溝から出土したものである。S H05壁溝から出土した弥生土器壺（179）は、口縁部が厚く端部を肥厚させており様相2である。S H05周溝 S D76から出土した高杯（181）は、口縁端部にのみ強いヨコナデがあり様相3~4である。S H06柱穴 S P 3-13から出土した鉢底部（182）は、ハの字形に聞く底部で灰白色を呈しており、丸亀平野周辺からの搬入品である。様相3に並行する時期のものであろう。S H06周溝 S D73から出土した小形鉢（185）は、やや上げ底の底部があり様相3~4であり、壺底部（186）はしっかりした平底であり様相3であろう。出土遺物を概観すると、様相2の遺物が混じるが、ほかはおむね様相3~4に納まるものと考えられる。遺構の前後関係では S H06→S H05→S H07の順であることから、S H06→S H05は様相3~4に該当し、S H05・06は弥生時代後期後半のものと考えられる。S H07はS H05・06より後出すものと考えられる。

S H08（第36図）

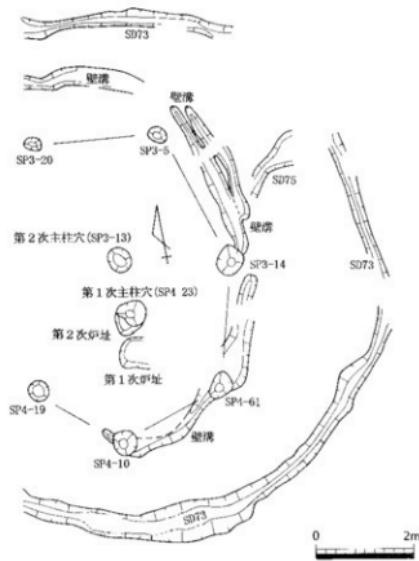
4区西端で検出した南北4.5m以上×東西1.6m以上を測る方形の堅穴住居で、深さは約15cmを測る。堅穴住居の大部分が調査区外となっており、か址や主柱穴も不明である。壁溝が、南東の角において残っている。埋土は、住居埋没土層のみを確認している。

図化できる出土遺物は、弥生土器壺片（187）のみで、弥生時代後期後半~終末期のものと考えられる。

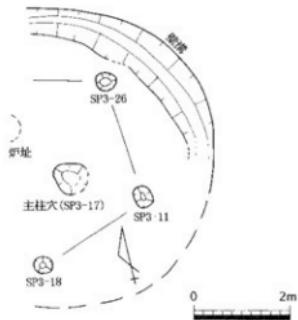




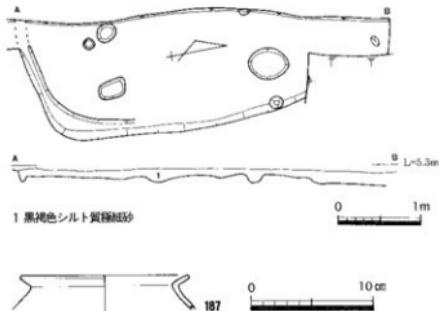
第33図 SH05平面図(縮尺1/100)



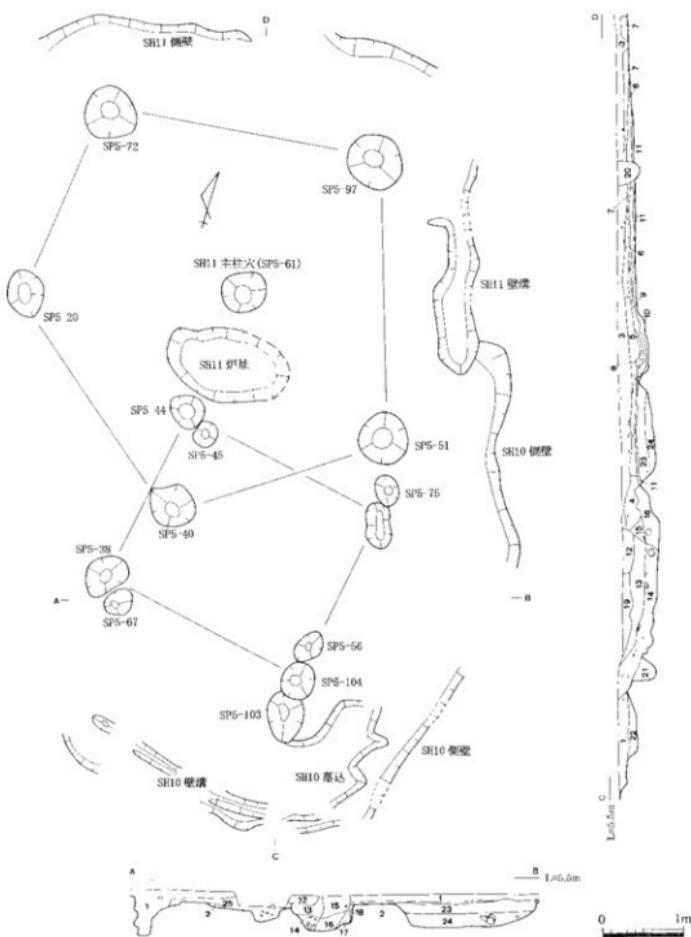
第34図 SH06平面図(縮尺1/100)



第35図 SH07平面図(縮尺1/100)



第36図 SH08平面・断面図(縮尺1/60)
出土遺物実測図(縮尺1/4)



- 1 鮎赤色シルト質粘土層 (5.5H2/2, SH10 埋上.)
 2 第1層: 地山を ブロック状に含む (SH10 埋上)
 3 鮎赤色シルト質粘土層 (5.5H2/2, SH11 埋上.)
 4 第5層: 地山を ブロック状に含む (SH11 埋上.)
 5 鮎赤色シルト質粘土層 (5.5H2/3, 地山を少し含む, SH11 埋下.)
 6 黒褐色シルト質粘土層 (5.5H2/4, SH11 埋上.)
 7 第5層より多く地山を含む (SH11 埋上.)
 8 黑褐色シルト質粘土層 (5.5H2/4, 種を多く含む, SH11 埋下.)
 9 黑褐色シルト質粘土層 (5.5H2/4, 種を多く含む, SH11 埋下.)
 10 黑褐色シルト質粘土層 (5.5H2/4, 種を多く含む, SH11 埋下.)
 11 第5層: 地山を多く含む (SH11 埋下.)
 12 黑褐色シルト質粘土層 (10H2/2, SH13 埋下.)
 13 黑褐色シルト質粘土層 (7.5H2/2, 地山を含む) SH14 中段
 14 鮎赤色シルト質粘土層 (7.5H2/2, SH14 下段)
 15 黑褐色シルト質粘土層 (7.5H2/3, P1: 上層)
 16 黑褐色シルト質粘土層 (7.5H2/4, P1: 下層)
 17 黑褐色シルト質粘土層 (5.5H2/3, 地山をわずかに含む, SH1 上段)
 18 第17層より地山を多く含む (7.5H2/2, P1: 下層)
 19 黑褐色シルト質粘土層 (7.5H2/2, SH14 上段)
 20 玫瑰褐色シルト質粘土層 (5.5H2/2, SH15)
 21 黑褐色シルト質粘土層 (5H2/1, P1)
 22 第1層: 地山を ブロック状に含む (SH10 埋入)
 23 黑褐色シルト質粘土層 (7.5H2/2, SH15 上段)
 24 第23層: 地山を ブロック状に含む (SH15 下段)
 25 第1層: 地山をわずかに含む (SH11 埋上.)

第37図 S H10・11平面・断面図(縮尺1/60)

S H10 (第37~43図)

5区中央で検出した竪穴住居で、他の遺構により激しく壊されているため正確な規模は不明だが、直径約6.8mを測る不整な円形の竪穴住居と考えられる。深さは10~20cmを測る。床面積は約36m²である。住居外側には、S D57・62・80・106・116が周溝としてめぐっている。内部構造は、壁溝が南側に一部が残っており、住居内の南東部分に落込が見られる。炉や主柱穴はすでに壊され失われているため、図面上で4基の柱穴が配置されていると復元を試みた。S H10に伴うと推定した柱穴は、2~3基ずつの組になっていることから、1度以上の建替えが行われた可能性がある。埋土のうち、第37図第1・25層が埋没し、第2層が貼床である。S H02・11およびS D59 (S H11周溝)・104 (S H23周溝)・63・103などと重複し、S D63より後出し、他の遺構より先行する。

埋土からの出土遺物は、古い時期のものが混じるが、口縁が直角近くに屈曲し水平にのびる広口壺(188)は様相4~5に該当し、壺(190)もやや肩が張り同じ様相4~5であり、小形丸底上器(192)は体部の形骸化が進んでおり様相5と考えられる。次にのべる周溝S D57・80も様相4~5であることから、S H10は様相5でも様相4に近い時期のものと推測され、弥生時代終末期のものである。

S H10の周溝としてS D57・62・80・106・116がある。ただし、S D62はS H10より後出するS H11の周溝でもあり、S H11の時に再利用されていることからS H11で説明する。また、調査時にS H10の周溝として認識できたのはS D57のみで、S D62・80・106・116は図面上で復元した周溝である。そのため、遺構番号は複数となっている。もっとも残りの良いS D57は、幅約50cm・深さ約20cmで断面U字形を呈する。S D80も幅約30cm・深さ約50cmで断面U字形を呈する。これら周溝の平面は、直径約11.7mを測り、北東に角をもった円を描いてS H10を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約115m²である。埋土は1層のみである。S H02・11およびS D59 (S H11周溝)・68 (S H23周溝)・99 (S H03周溝)・104 (S H23周溝)・63・72と重複し、S D63より後出し、他の遺構より先行する。

S D57の出土遺物は、完形に近いものではなく時期決定がしづらいが、高杯(201)は口縁部の外反度合いからして様相4~5に相当する。S D80からの出土遺物は、片口鉢(208)は口縁部の外反度合いからして様相4~5に相当し、弥生時代終末期のものと考えられる。

S H11 (第37・44~48・159図)

5区中央で検出した直径7.5~8.7mを測る不整な円形の竪穴住居で、深さは約20~40cmを測る。南側の側壁が不明瞭なため正確ではないが、床面積は50m²前後と推測される。住居外側には、S D59・62・81が周溝としてめぐっている。内部構造は、壁溝が東と西側に一部が残っており、中央に横円形の炉が設けられている。図面上で1基の主柱穴と5基の柱穴が配置されていると復元を試みた。ただし、主柱穴は他の柱穴と比べて小さくなるため、主柱穴は復元から除外した方が良いかもしれない。埋土のうち、第37図第3~7層が埋没し、第8~10層がかず塙、第11層が貼床である。炉址が3層確認でき、時期差を反映していると考えられる。S H02・10およびS D63・99 (S H03周溝)・103・104 (S H23周溝)などと重複し、S H02・103・104 (S H23周溝)より先行するが、他の遺構より後出する。

埋土からの出土遺物は、古い時期のものが混じるが、炉址から出土した遺物に完形に近いものがある。壺(212)は、肩が張り体部の球形化が見られるとともに底部は丸みを帯びており様相5である。小形鉢(214)は底部が丸底であり様相5~6である。高杯(213)は、この地域では見られない形態・胎土を示しており搬入品である。この高杯の時期については、畿内の庄内式に類似例が見られ、觀音寺市・の谷遺跡18号竪穴住居出土遺物にも類似例があり下川津IV~V(様相4~5)の時期が考えられていることから、壺(212)・小形鉢(214)と同じ様相5に含まれるものと考えられる。以上のことから、S H11は様相5

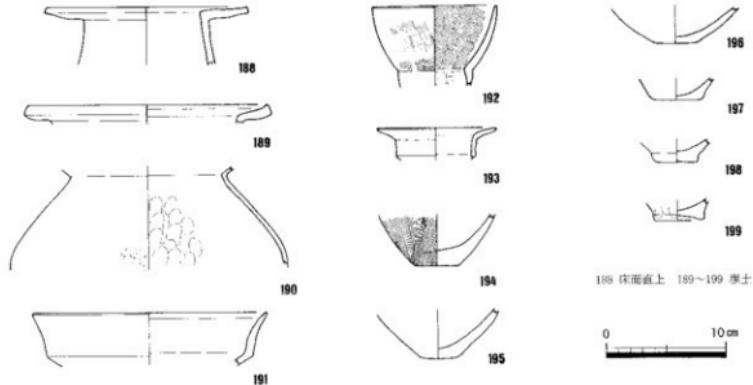
でも新しい時期に属するものと考えられ、周溝 S D59出土遺物ともほぼ合致する。S H11は弥生時代終末期のものと考えられる。

S H11の周溝として S D59・62・81がある。このうち、S D62はS H10の周溝であったものをS H11段階で再利用したものと考えられ、さらにS D59と分歧してS D56とながっている。S D59は、幅約50cm・深さ約30cmで断面逆台形またはU字形を呈する。埋土は2層である。S D62は、幅約60cm・深さ約30~45cmである。S D62の断面は、途中で段をもつていて上下に分けられ、上半分がU字形、下半分が逆台形またはU字形を呈する。埋土は3~5層である。これら周溝があらわす平面は、直径約13.0~13.6mを測り、東側に約1.8mほどの張出をもつ円を描いてS H11を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約160m²である。S H03およびS D63・99（S H03周溝）・68（S H23周溝）・72・104（S H23周溝）と重複し、S H03およびS D99（S H03周溝）・68（S H23周溝）・72・104（S H23周溝）より先行するが、S D63より後出する。

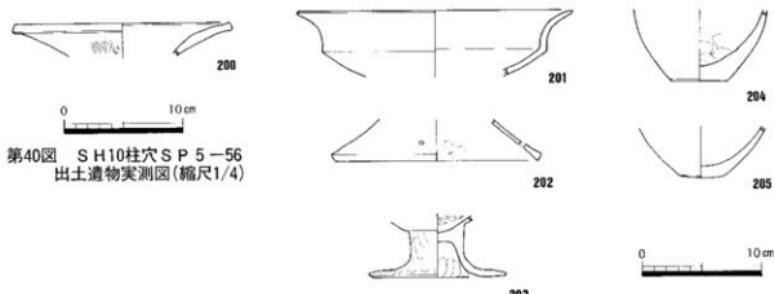
S D59の出土遺物のうち比較的完形に近いものを見ると、甕（234）は肩が張り体部の球胴化が見られるとともに口縁部が水平にのびる様相5である。小形鉢（242・243）は底部が平底を残すものの丸底化が進んでおり様相5である。S D62の出土遺物は、S H11より先行するS H10の時の遺物も混じるためか、甕（250・251）はS D59出土のものより占い要素が認められ様相4~5に相当すると考えられる。S D81の出土遺物は、口縁が直角近くに屈曲し水平にのびる広口壺（229）が様相5に相当する。甕（230~232）は、やや肩が張り球胴化がはじまっているが、口縁部がやや厚くヨコナデが顕著であり、様相4~5に相当することから、これら出土遺物はS H11と同じ弥生時代終末期のものである。また、S D81からは石錐（686）が出土しているが、混入の可能性がある。



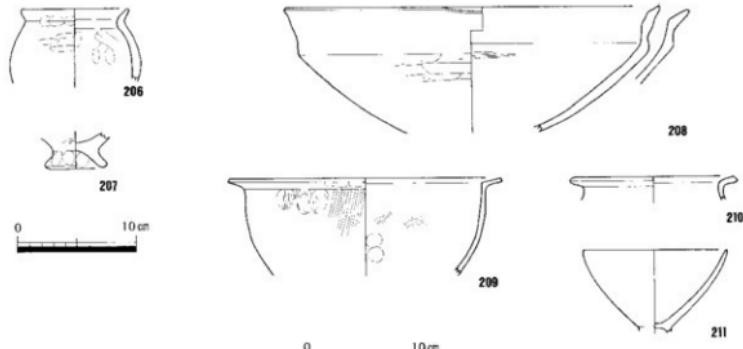
第38図 S H10平面図(縮尺1/100)周溝 S D57断面図(縮尺1/60)



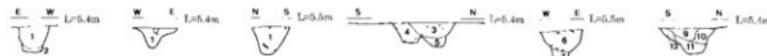
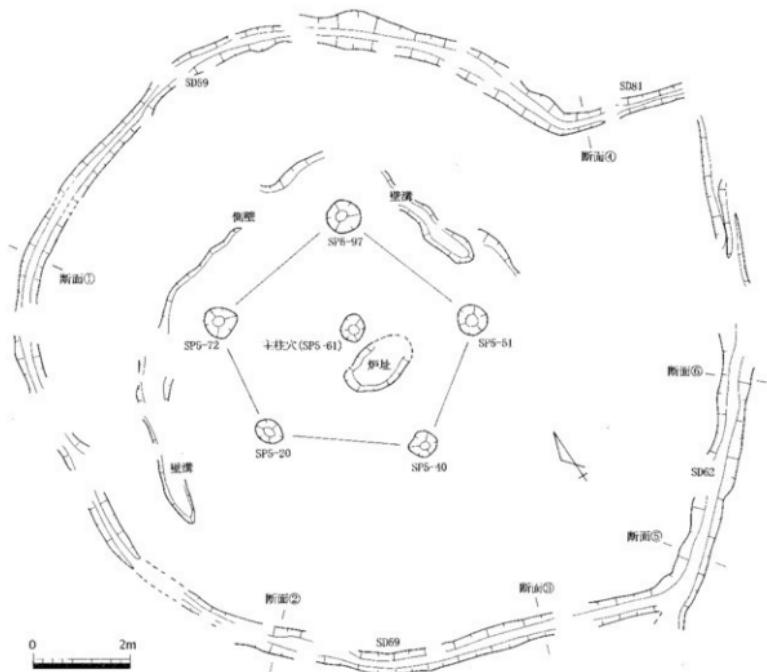
第39図 S H10出土遺物実測図(縮尺1/4)



第41図 S H10周溝S D 57出土遺物実測図(縮尺1/4)



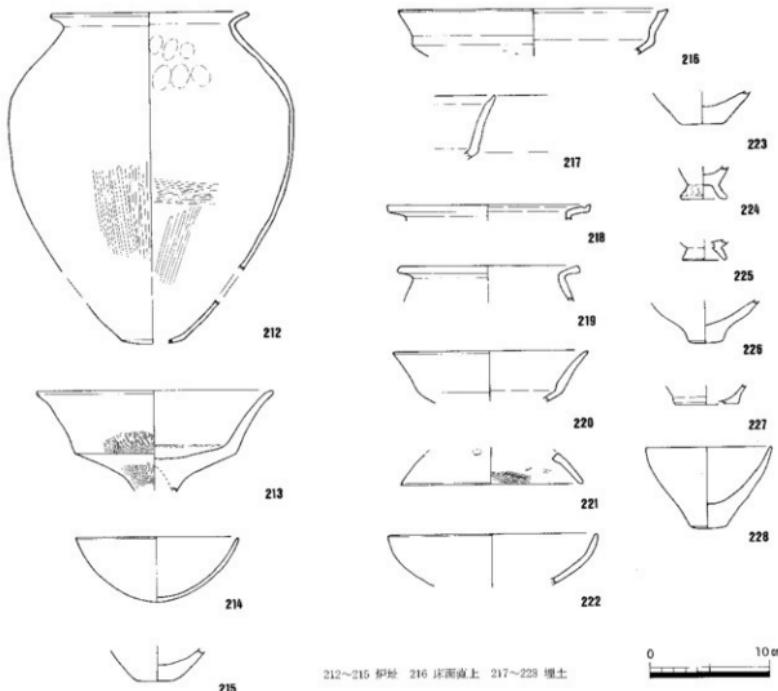
第43図 S H10周溝 S D 118出土遺物実測図(縮尺1/4)



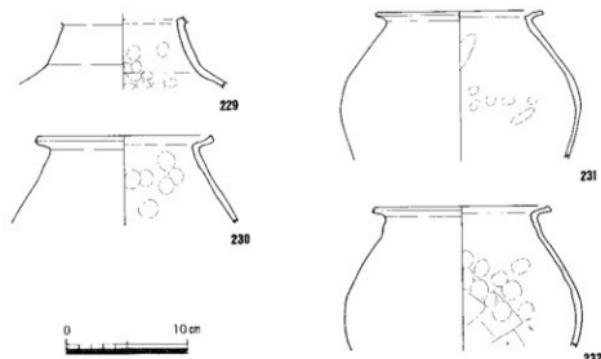
- 1 黒褐色シルト質粘土砂 (7.5H2/2, SD69 上層)
- 2 第1層に地山をブロック状に含む (SD69 下層)
- 3 黒褐色シルト質粘土砂 (7.5H1/2, SD65)
- 4 黒褐色シルト質粘土砂 (7.5H2/2, SD81)
- 5 黒褐色シルト質粘土砂 (10H2/2, SD69)
- 6 褐灰色シルト質粘土砂 (10H4/1, SD62 上層①)
- 7 黒褐色シルト質粘土砂 (10H3/1, SD62 中層①)
- 8 黒褐色粘土 (10H3/1, SD62 下層①)
- 9 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5H2/2, SD62 上層②)
- 10 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5H2/2, SD62 上層②)
- 11 黑褐色粘土 (7.5H3/1, SD62 下層②-1)
- 12 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5H2/1, 地山をブロック状に含む, SD62 下層②-2)

0 1m

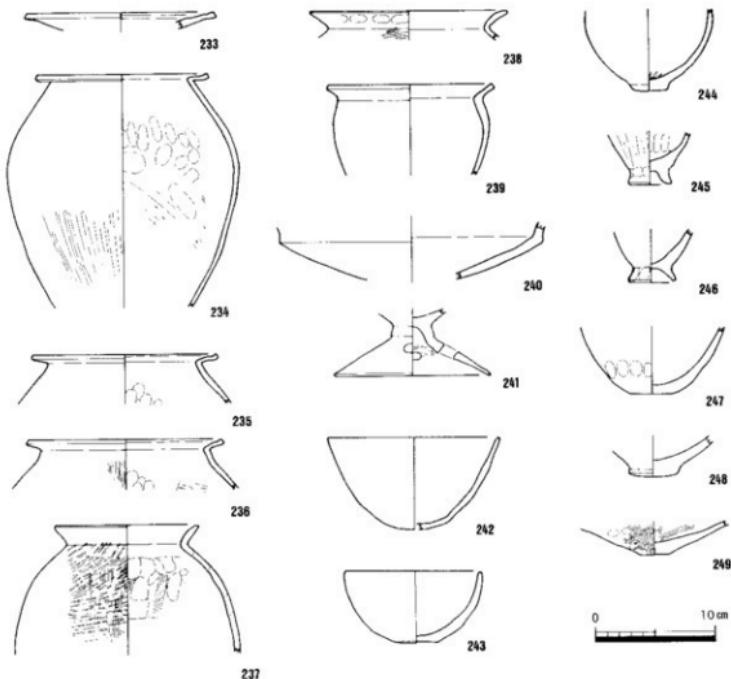
第44図 SH11平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)



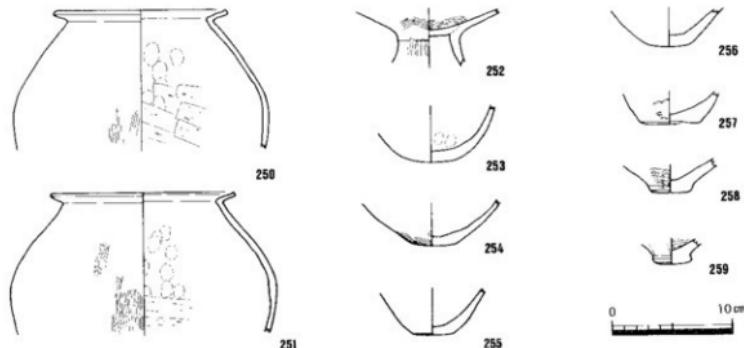
第45図 S H11出土遺物実測図(縮尺1/4)



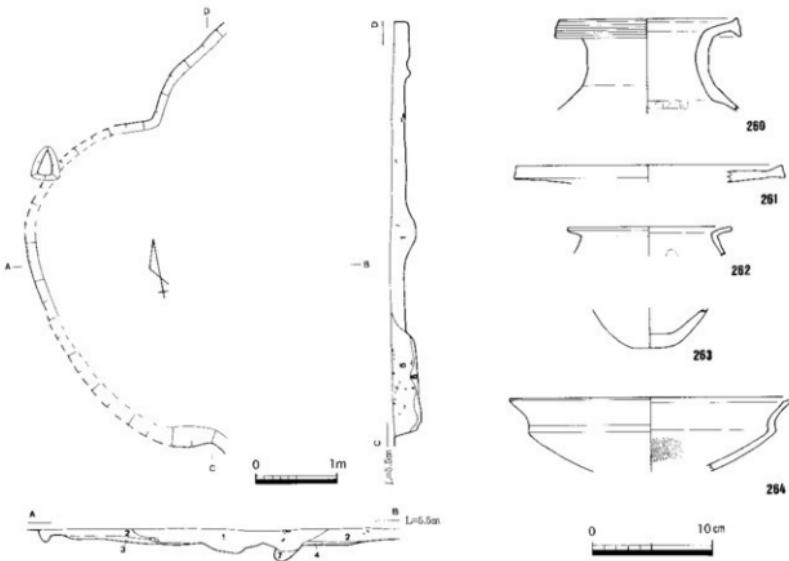
第46図 S H11周溝 S D81出土遺物実測図(縮尺1/4)



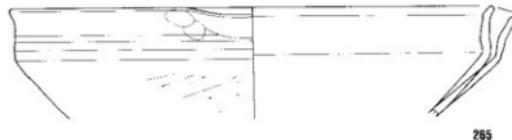
第47図 S H11周溝 S D59出土遺物実測図(縮尺1/4)



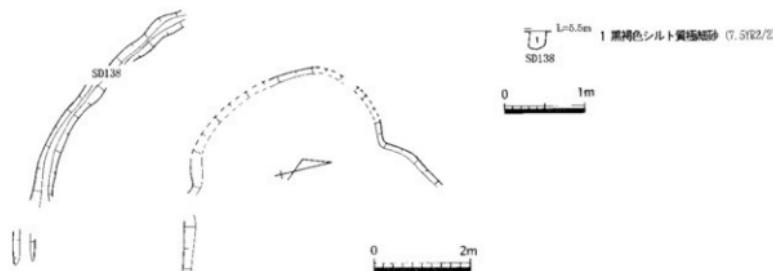
第48図 S H11周溝 S D62出土遺物実測図(縮尺1/4)



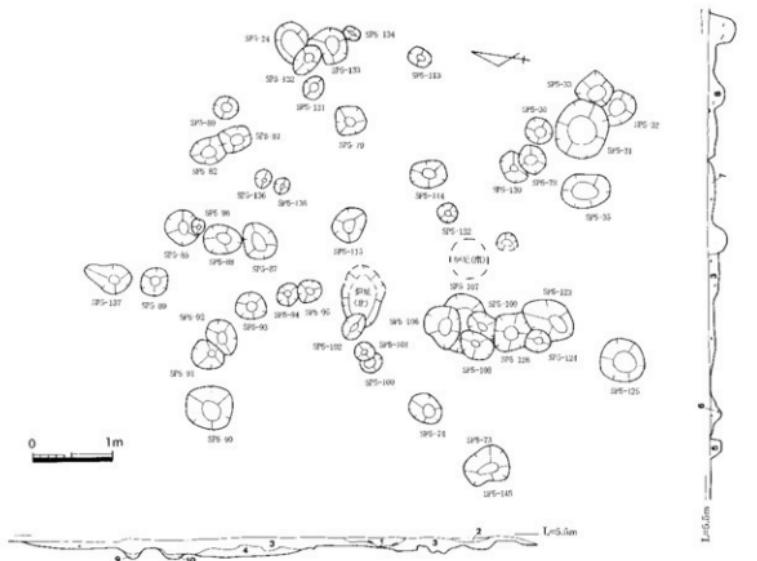
- 1 黒褐色シルト質埴輪形 (10H2/4, SH12堆上:1)
- 2 淡黄色シルト質埴輪形 (2, ST7/4, SH12埋土:2)
- 3 黒褐色シルト質埴輪形 (10H2/2, SH12堆土:3)
- 4 黒褐色シルト質埴輪形
(10H2/2, 個を含む, SH12埋土)
- 5 黒褐色シルト質埴輪形 (10H2/1, SH55上部)
- 6 黒褐色細砂 (10H2/1, SD55下層)
- 7 黒褐色細砂 (7, ST3/1, SD82)



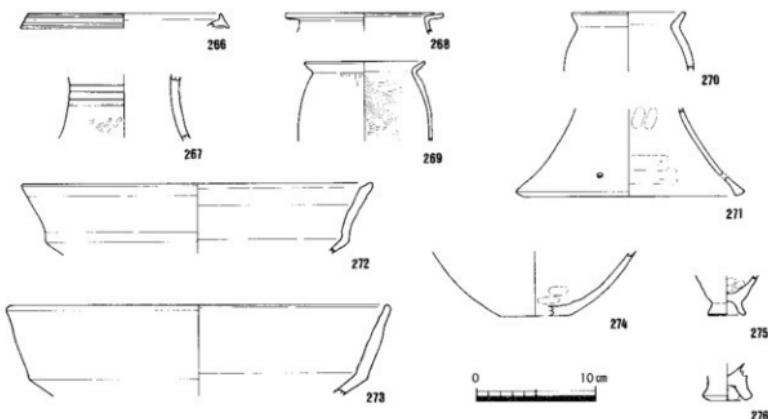
第49図 S H12平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第50図 S H12平面図(縮尺1/100)周溝 S D138断面図(縮尺1/60)



- 1 黒褐色シルト質塗瓦（7.SHS/2, 灰を含む, SH13 伊延(北)）
- 2 黒褐色シルト質塗瓦（7.SHS/2, 灰を含む, SH13 伊延(南)）
- 3 桃色シルト質塗瓦（10HS/4, SH13 下部底付）
- 4 第3層に地山をブロック状に含む（SH13 既込）
- 5 桃色シルト質塗瓦（10HS/1, SH119）
- 6 桃色シルト質塗瓦（10HS/1, SPS-74）
- 7 黑褐色シルト質塗瓦（7.SHS/2, SH109）
- 8 黑褐色シルト質塗瓦（7.SHS/2, SH159）
- 9 黑褐色シルト質塗瓦（7.SHS/1, SH132）
- 10 黑褐色シルト質塗瓦（7.SHS/1, 地山をブロック状に含む, SPS-89）



第51図 S H13平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

S H12 (第49・50図)

5区南東で検出した直径約5.5m前後を測る不整な円形と推定される竪穴住居で、深さは約20cmを測る。東半分以上が調査区外となり、さらに平面形態が不整形であるため、床面積は不明である。住居外側には、S D138が周溝としてめぐっている。内部構造は、側壁の一部と中央に炉址が残っているのみである。柱穴は不明である。他の遺構との重複が著しく、側壁と他の遺構との区別がつきにくく、また炉址は断面観察でのみ確認した。埋土のうち、第1～3層がS H12の埋没土であるが、第1層は別の遺構の可能性もある。第4層が炉址である。S D55・82・109延長想定部分（S H22周溝）などと重複し、S D55より先行し、S D82より後出するが、S D109との前後関係は不明である。

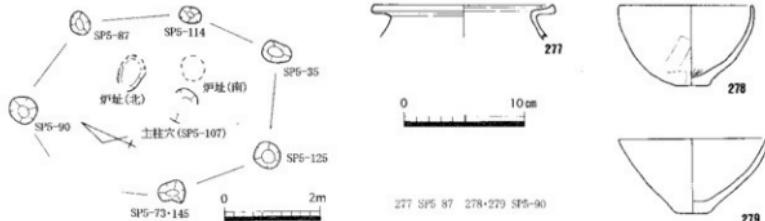
埋土からの出土遺物は、古い時期のものが混じるが、壺（262）は口縁部がうすく、高杯（264）は口縁部のヨコナデが強く、大形鉢（265）も口縁部のヨコナデが顕著なことから、様相5に属するものと考えられる。S H12は、弥生時代終末期のものと推測される。

S H12の周溝であるS D138は、幅約30cm・深さ約35cmで断面U字形を呈し、平面は復元すると直径約10.0mの円を描いてS H12を取り囲んでおり、囲んだ範囲の面積は約79m²と推測される。埋土は、1層のみである。S D55・82・52（S H19周溝）などと重複し、S D55より先行し、S D82より後出するが、S D52（S H19周溝）との前後関係は不明である。

S H13 (第51・52図)

5区南西で検出した。2基の炉址とそれを囲むように柱穴があることから、竪穴住居と考えられる。ただし、削平が著しく、側壁・壁溝は失われ、炉址を遺構面上で検出した。このため、平面形態・床面積は不明である。炉址が近接して2基あることから、少なくとも1度の建替が行われたと考えられる。図面上で、炉址とは別に1基の主柱穴と6基以上の柱穴が配置されていると復元を試みたが、炉址が2基あることから別の復元案も可能である。炉址と地山の間に、第3層褐色シルト質極細砂の埋土が存在するが、この土層がS H13に伴うものか、または別の遺構になるかは判断できない。しかしながら、後述する埋土からの出土遺物が様相4に相当し、S H13に伴うものと想定した柱穴出土遺物も様相4に相当することから、第3層はS H13に伴うものと考えたい。また、S H13周辺から出土する遺物は様相4が主体を占めることから、第3層がS H13に伴わないものとしても、S H13は様相4に近い時期のものと考えられる。S D57（S H10周溝）・59（S H11周溝）・109（S H22周溝）・119・120・122・125などと重複し、S D57（S H10周溝）・59（S H11周溝）・109（S H22周溝）より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。

埋土からの出土遺物は、古い時期のものが混じるが、高杯（272）や大形鉢（273）の口縁部はヨコナデが施されるものの直線的であることから、様相4に属するものと考えられる。一方、S H13に伴うものと想定した柱穴からの出土遺物は、壺（277）の口縁部が内面のヨコナデは顕著だが端部が肥厚しており、小形鉢（278・279）は平底であることから、様相4に属するものと考えられる。以上のことから、S H13は様相4またはこれに近い時期と推定され、弥生時代後期後半～終末期のものと考えられる。



第52図 S H13平面図(縮尺1/100)柱穴出土遺物実測図(縮尺1/4)

S H14・15（第53～65図）

6区南東で検出した。2基の炉址とその周囲に柱穴と側壁の一部があり、さらに周溝と考えられる溝が炉址と柱穴を囲んでめぐっている。ただし、削平が著しく、側壁の大部分と壁溝は失われ、炉址を遺構面上で検出した。このため、平面形態・床面積は不明であるが、第54図-1のとおり、S H14炉址を中心にして6基の柱穴が配置されていると復元を試みた。なお、2基の炉址は、約2m40cm離れていることから、それぞれ別の竪穴住居のものと考えられる。炉址と地山の間に、第1層黒褐色シルト質極細砂の埋土が存在するが、この土層がS H14・15に伴うものか、または別の遺構になるかは判断できない。しかしながら、後述するようにS H14炉址と埋土上出土物が同じ時期であることから、S H14に伴う可能性はある。

S H14炉址から弥生土器壺（280）とミニチュア土器（281）が出土しており、壺は短い口縁部で端部が肥厚する。第1層であるS H14・15下部埋土からは、長頸壺（282）・広口壺（283）・高杯（284）が出土しており、長頸壺が存在しており、広口壺の口縁部に竹管文の加飾があること、高杯の口縁部は短く立ち上がることから、様相2に相当し、S H14は弥生時代後期後半と推定される。

次に、S H14・15の周溝及び関連溝について報告するとともに、その変遷について検討する。

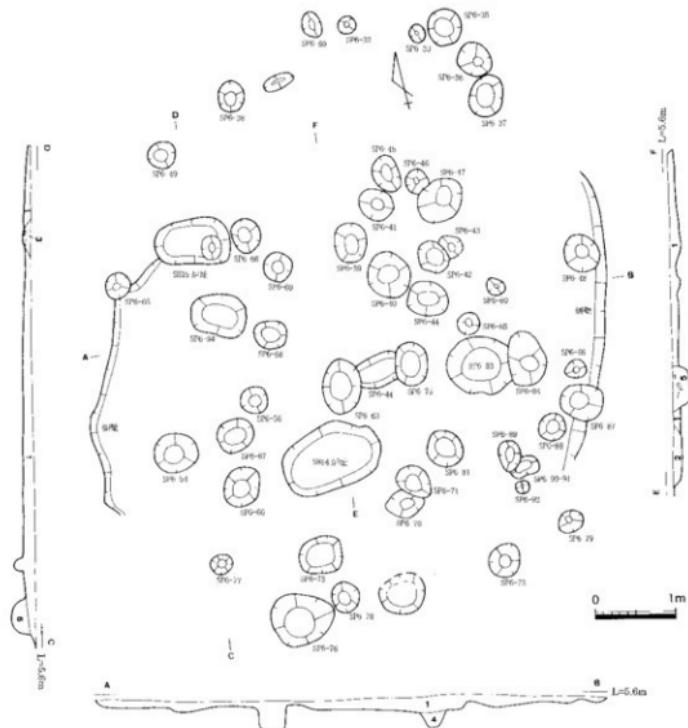
S D42（S D36）は、幅約30～50cm・深さ約20cmで断面台形またはU字形を呈し、平面は長径約17.4m・短径11.2m以上（推定約12.4m）の南北に長い楕円形を描いて一周していると考えられる。東部分は調査区外に及んでおり、調査地内で確認した総長は約38mである。S D42が囲む範囲の推定面積は約186m²である。埋土は1層を基本とし、部分的に2層に分かれる。なお、調査の都合上、S D42の一部をS D36と呼称したが、同一の溝である。S H01及びS D34・37・43・44・46・48・141・147と重複し、調査時の検討ではS H01とS D46・147より後出し、出土遺物の検討から他のすべての遺構より後出する。

S D42の出土遺物は、壺（285～286）・高杯（287～293）・鉢（294）が見られる。壺は口縁部が水平近くに折れ曲がり、様相5に相当する。高杯は、口縁部があまり長くなつておらず、脚部もあまり広がらず、様相2～3に相当する。一方、底部（295～297）は丸底化が始まつており、新しい様相を呈する。このように高杯と壺・底部に時期差が見られるが、S D42の下層に後述するS D46が存在し、S D46が様相2に相当することから、古い様相の遺物を混入と捉えて、S D42の時期は新しい方である様相5に相当し、弥生時代終末期のものと考えられる。

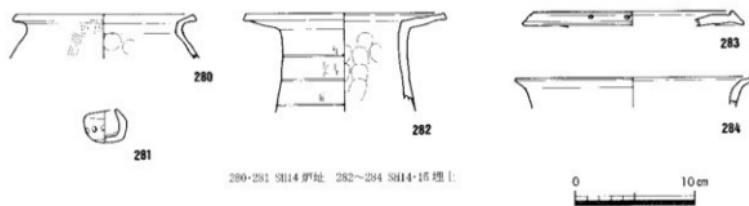
S D43は、幅約30cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、長さ約6.2mを測る。S D44・45・142交差地点からまっすぐ北北東にのび、S D52（S H19周溝）に合流することから、S H14・15の排水をS D52に流す目的で掘削されたものである。埋土は1層のみである。S D42・44・45・142と重複し、S D42より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。出土遺物は、弥生土器類のみだが、S D52と同じ時期であることから、様相4～5に相当し、弥生時代終末期と考えられる。

S D44は、幅約30cm・深さ約20cmで断面U字形を呈し、検出した長さは約6.9mを測る。S D42の途中から北東方向に蛇行しながらのび、再びS D42と一体化している。埋土は1層のみである。S D43・45・46・142・147と重複し、S D147より後出するが、他の遺構との前後関係は不明である。壺（298）が出土しており、底部の丸底化が見られることから、様相4～5に相当し、弥生時代終末期と考えられる。

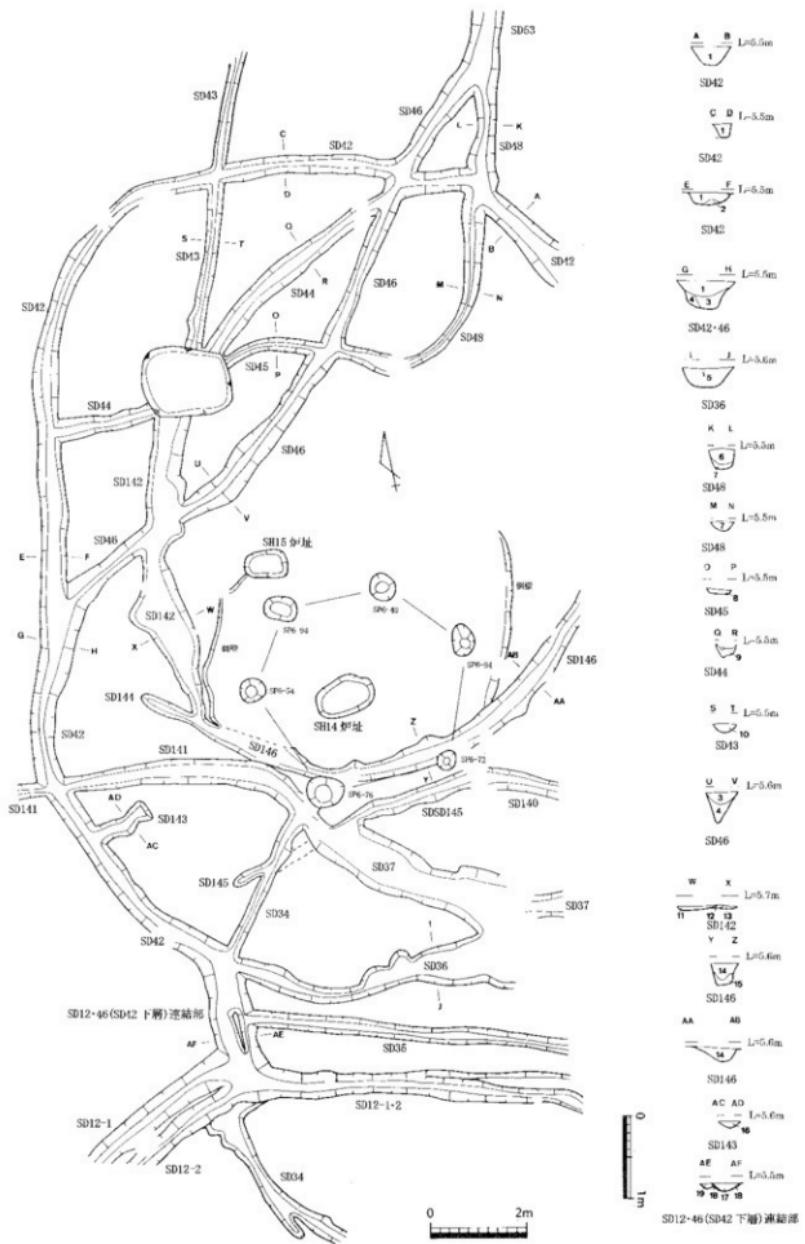
S D46は、幅約40～60cm・深さ約40cmで断面U字形またはV字形を呈し、検出した長さは約13.8mを測る。S D42の途中から分岐して北東方向にわずかに湾曲しながらのび、S D53につながる。S H14・15の周溝を兼ねながら、排水をS D53に流す目的で掘削されたものである。平面はS D42から分岐しているが、断面観察ではS D46はS D42の下層に位置し、当初S D46があったものを再掘削してS D42を設けたと考えられる。埋土は2層である。S D42・44・45・46・48・142・147と重複し、S D42より先行し、S D147



- 1 黒褐色シルト質埴輪砂 (5YR3/1, 地山をブロック状に含む; SH14-15下部堆上)
- 2 黒色シルト質埴輪砂 (7.5YR2/1, 灰を含む; SH14-5地)
- 3 黒色シルト質埴輪砂 (7.5YR2/1, 灰を含む; SH16-9地)
- 4 黑褐色シルト質埴輪砂 (7.5YR3/1, SH6-44)
- 5 黑褐色シルト質埴輪砂 (7.5YR3/1, SH6-63)
- 6 黑褐色シルト質埴輪砂 (7.5YR3/1, SH141)



第53図 S H14・15平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第54図-1 S H14・15周溝平面図(縮尺1/100)断面図(縮尺1/60)

より後出するが、他の遺構との前後関係は不明である。

S D46の出土遺物は、長頸壺（307～310）・壺（311～315）・高杯（316・317）などが出土している。長頸壺は、口縁部がやや直角近くに折れ、体部は球形化が見られることから、様相2前後に相当する。壺（313）や高杯（316）の口縁部も短いことから、長頸壺と同じ時期に相当すると考えられる。底部（320・321）も平底である。以上のことから、S D46は弥生時代後期後半と考えられる。なお、鉢底部（322）は、ハの字形に聞く底部で灰白色を呈しており丸龜平野周辺からの搬入品である。また、壺（312）は、口縁端部に凹線文を施し後期前に遡るものであり、混入品と考えられる。

S D48（S D45）は、幅約30～40cm・深さ約10cmで断面逆台形を呈し、検出した長さは約9.7mを測る。S D43・44・142交差地点から東方向にのびて途中強く湾曲しながら今度は北方向にのび、S D53とつながる。S H14・15の周溝を兼ねながら、排水をS D53に流す目的で掘削されたものである。埋土は1層のみである。なお、調査の都合上、S D48の一部をS D45と呼称したが、同一の溝である。S D43・44・46・142・147と重複し、S D47より後出するが、他の遺構との前後関係は不明である。

S D48の出土遺物は、長頸壺（302）・高杯（303～305）などが出土している。様相2まで続く長頸壺があり、高杯の口縁部も短いことから、S D48は様相1～2に相当し弥生時代後期後半と考えられる。なお、306は、壺の口縁端部に飾られていた円形付文が剥がれたものである。

S D142（S D37）は、幅約70cm～1m・深さ約10cmで断面U字形を呈し、検出した長さは約12.3mを測る。S D43・44・45交差地点から南方向にゆるやかに湾曲しながらのびる。S D146と交差するところで途切れているが、本来はS D37につながるものと考えられる。埋土は3層確認しており、さらに溝幅もS D37同様広いことから、内掘削を行っている可能性がある。S D43・44・45・46・146と重複するが、前後関係は不明である。

S D142の出土遺物は、底部（299）・広口壺（300）・鉢（301）などが出土している。底部は平底である。広口壺は、口縁部がゆるく湾曲し、口縁端部を窄ませる。出土土器は様相1～2に相当し、S D142は弥生時代後期後半と考えられる。

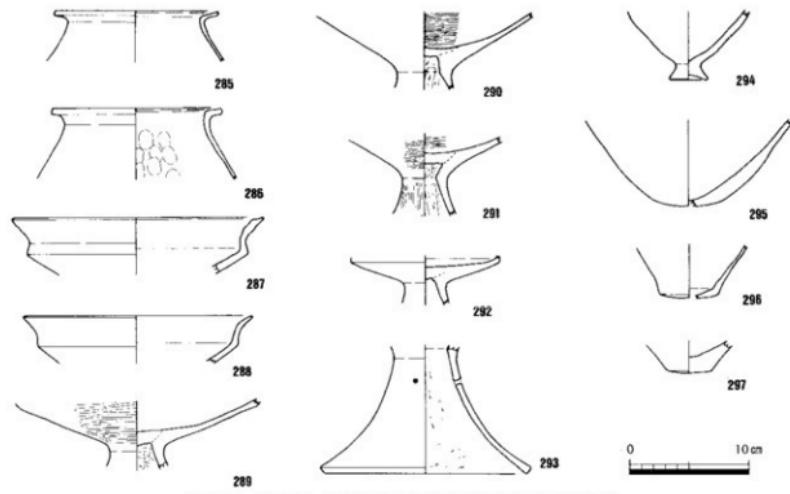
S D143は、幅約30cm・深さ約10cmで断面U字形を呈し、長さは約1.1mと短い。S D42が開む居住域からS D42に注いでいることから、S D143はS D42への排水溝と考えられる。埋土は1層のみである。高杯（323）が出土しており、口縁部が長く強いヨコナデを施していることから様相4～5と考えられ、S D143はS D42と同じ弥生時代終末期のものと考えられる。

S D146（S D144）は、幅約30～50cm・深さ約15cmで断面U字形を呈し、検出した長さは約11.0mを測る。調査区東端から西方向に弧を描きながらのび、後世の削平により途切れている。埋土は1層のみである。S H14およびS D142・147と重複し、S D147より後出するが、他の遺構との前後関係は不明である。

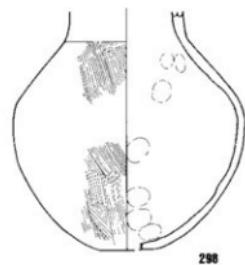
S D146の出土遺物は、長頸壺（324）・細頸壺（325）・高杯（326）が出土している。長頸壺が存在することから様相1～2に相当するが、細頸壺は体部上位に最大径をもち、高杯は口縁部が長くなり強いヨコナデが施され、様相3～4に相当する。混入の可能性があり、細かい時期決

- 1 黒褐色シルト質極繊砂（5YR 2-/2, SD42上層）
- 2 第1層に地山をブロック状に含む（SD42下層）
- 3 黒褐色シルト質極繊砂（7.5YR 2-/2, SD46上層）
- 4 第3層に地山をブロック状に含む（SD46下層）
- 5 黑褐色シルト質極繊砂（10YR 3-/2, SD36）
- 6 瑞褐色シルト質極繊砂（7.5YR 3-/3, SD48上層）
- 7 黑褐色シルト質極繊砂（5YR 2-/1, SD48下層）
- 8 黑褐色シルト質極繊砂（7.5YR 3-/1, SD45）
- 9 黑褐色シルト質極繊砂（7.5YR 3-/2, SD44）
- 10 暗褐色シルト質極繊砂（7.5YR 3-/3, SD43）
- 11 黑褐色シルト質極繊砂（10YR 2-/1, SD42上層）
- 12 暗灰色シルト質極繊砂（10YR 4-/1, SD42中層）
- 13 黑褐色シルト質極繊砂（10YR 3-/1, SD42下層）
- 14 黑褐色シルト質極繊砂（10YR 3-/1, SD46上層）
- 15 暗灰色シルト質極繊砂（10YR 4-/1, SD42下層）
- 16 暗赤褐色シルト質極繊砂（5YR 3-/2, SD43）
- 17 黑褐色シルト質極繊砂（7.5YR 3-/1, SD12-1上層）
- 18 第17層に地山をブロック状に含む（SD12-1下層）
- 19 黑褐色シルト質極繊砂（10YR 3-/1, SD12-2）

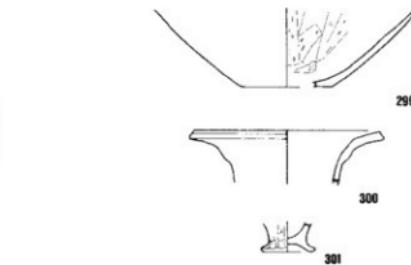
第54図-2 S H14・15周溝断面土層名



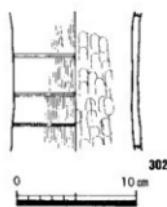
第55図 S H14・15周溝 S D42出土遺物実測図(縮尺1/4)



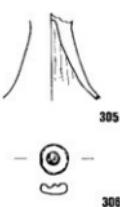
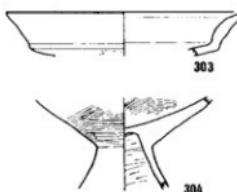
第56図 S H14・15周溝 S D44
出土遺物実測図(縮尺1/4)

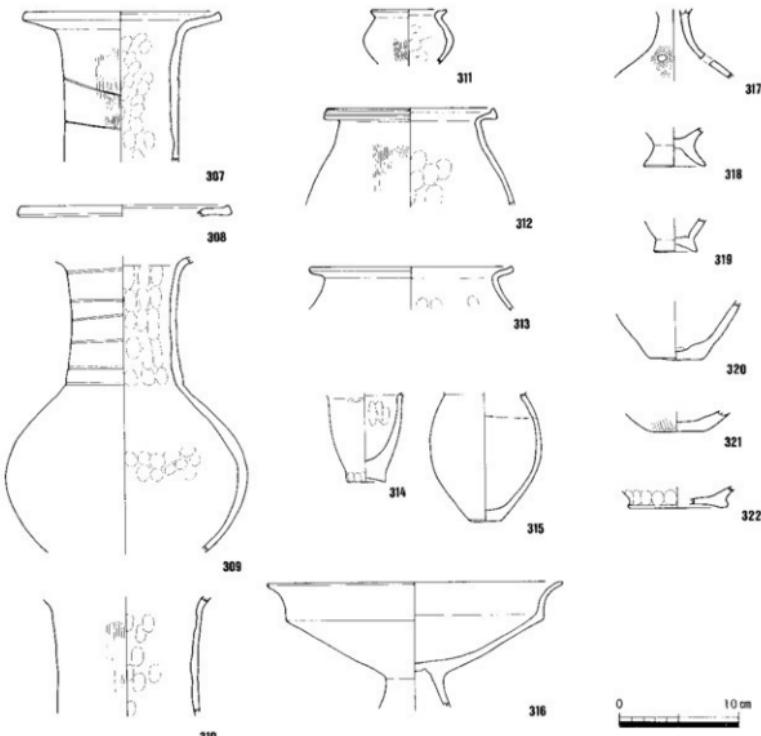


第57図 S H14・15周溝 S D142
出土遺物実測図(縮尺1/4)

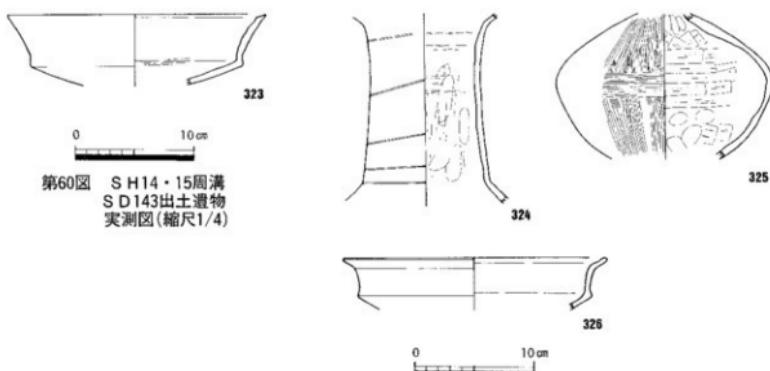


第58図 S H14・15周溝 S D48出土遺物実測図(縮尺1/4)





第59図 S H14 · 15周満 S D 46出土遺物実測図(縮尺1/4)



第60図 S H14 · 15周満
S D 143出土遺物
実測図(縮尺1/4)

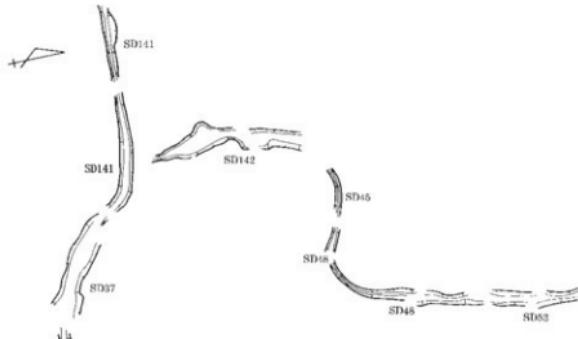
第61図 S H14 · 15周満 S D 146出土遺物実測図(縮尺1/4)

定是不可能だが、SD146は弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

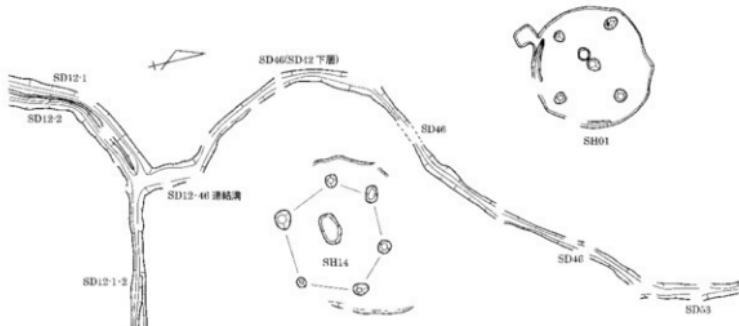
以上、SH14・15の周溝及び関連溝について報告したが、次はこれら遺構の変遷について検討する。各遺構は、おおむね様相2～5の限られた期間に入るが、遺構の重複が激しく出土遺物には混入が認められ、また遺構どうしの前後関係も調査時に充分検討できなかった。このことから、遺構の変遷を復元するのは困難を極めるが、周辺の遺構との関係を絡めて復元を試みたい。

出土遺物から時期別に分けると、様相1～2はSD48・SD142、様相2前後はSD46、様相3～4はSD146、様相4～5はSD43・SD44・SD143、様相5はSD42となる。次に重複している遺構の前後関係を見ると、SD46→SD42となり、またSD143はSD42に注ぐ排水溝であることから、SD143とSD42は同時期のものである。

周辺に所在する他の遺構で注目されるはSH01である。SD44・SD46は、様相2前後に属するSH01を避けて掘削されており、様相5の段階ではSD42がSH01を壊して掘削されている。このことは、当初SH14・15周溝を掘削するにあたり、SH01が所在していたためSH01を避けて掘削していたが、SH01廃絶後はSH14・15の居住範囲を拡張して周溝SD42を掘削したと考えられる。以上のことから、SD42・44・46は、一つの堅穴住居周溝の時期差を表し、出土遺物も考慮して、SD46→SD44→SD42の変遷が考えられる。



第62図 SH14・15周溝変遷図【第1段階】(縮尺1/200)



第63図 SH14・15周溝変遷図【第2段階】(縮尺1/200)

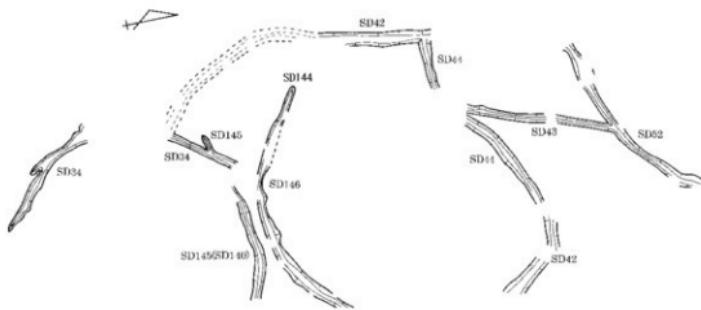
次に注目される周辺の造構は、SD53である。SD46とSD48が合流してSD53となっているが、SD46とSD48は途中で交差しており同時期のものではない。出土遺物から検討するとSD48→SD46となり、同じSD53を排水溝として利用していることから、近い時期が考えられる。

一方、SH17周溝であるSD12はSD46（SD42下層）と接しているだけでなく、途中に互いを繋ぐ連絡溝を掘削しており、SD12つまりSH17の排水をSD46（SD42下層）つまりSH14・15の周溝を経由して下方に流している。SD12の断面が深いV字形を呈する特徴は、SD46と共通している。

以上からSH14・15周溝の変遷を復元すると、

【第1段階】SD37・45・48・142によって構成され、様相1～2に相当する。SD37・45・48・142によって囲まれる範囲に竪穴住居が想定されるが、SH14・15炉址とは位置がずれるため、SH14・15とは別の竪穴住居の存在が想定できる。SD141はSD37に繋がるため同時期のものであり、SD141は別の竪穴住居の排水をSD37に流していたものと推定される。この排水は、SD142・45・48と通ってSD53へとつながり、最終的にはSR01へ注ぐ。

【第2段階】SD46（SD42下層）によって構成され、様相2～3に相当する。SH14炉址がこの周溝と組み合う可能性がある。SH01が存在していたため、これを避けてSD46が掘削されている。SH17周溝であるSD12とは南端で繋がっており、SD12の排水を受けてSD53へと流し、最終的にはSR01へ注ぐものである。



【第3段階】 S D42・43・44によって構成され、様相4前後に相当する。S D42・44によって囲まれる範囲に竪穴住居が存在し、S D43はS D42・44の排水をS D52（S H19周溝）に流す目的で掘削されている。なお、S D42・44が直角に折れて屈曲している理由については、S H01が存在していたためと考えるよりは、S H01を壊しているS D52がすでに存在していることから、S D52と等間隔に距離をおくためと考えられよう。さらに、出土遺物を検討すると、S D144・146もこの段階に属する可能性がある。S D144・146を含めて考えると、S H15炉址またはもう少し東寄りにあった竪穴住居がこの周溝と組み合う可能性がある。また、S D144・146が存在していた場合、S D42の南側は機能しなくなっていたか、またはS D42とS D144・146の二重の周溝になっていたとも考えられる。さらに、S D144・146の南にあるS D34・145（S H20周溝）は、同規模な周溝が隣接するというだけでなく、S D34がS D146と繋がっている可能性があり、同じ第3段階に属する可能性がある。

【第4段階】 S D36・42によって構成され、様相5に相当する。S H15炉址がこの周溝と組み合う可能性がある。S D143が竪穴住居の排水を周溝であるS D42に流すために掘削された可能性がある。

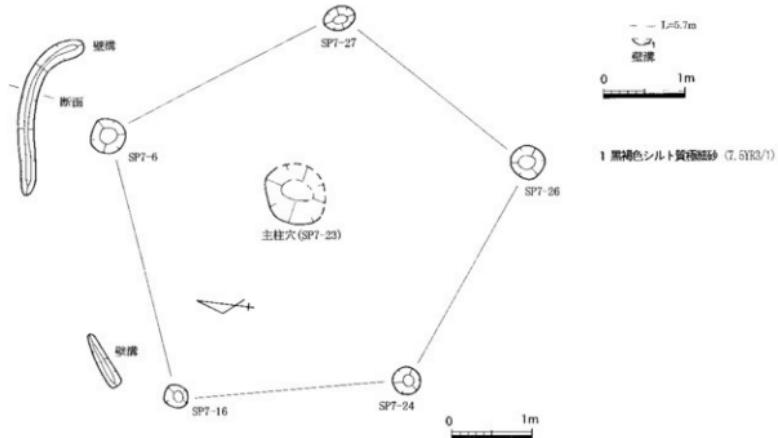
S H16（第66図）

7区北西で検出した直径6.8~7.2mを測る円形と推定される竪穴住居である。削平が著しく、主柱穴と柱穴、壁溝の一部が残っているのみである。周溝が北側の一部しか残っていないため、正確ではないが、床面積は約38m²であろう。内部構造は、主柱穴を中心として5基の柱穴が配置されている。出土遺物がないため詳細な所属時期は不明だが、周辺に弥生時代後期後半~終末期の竪穴住居が密集し、構造も類似することから、同じ時期のものと考えられる。S D12（S H17周溝）と重複し、S D12より先行する。

S H17（第67~72図）

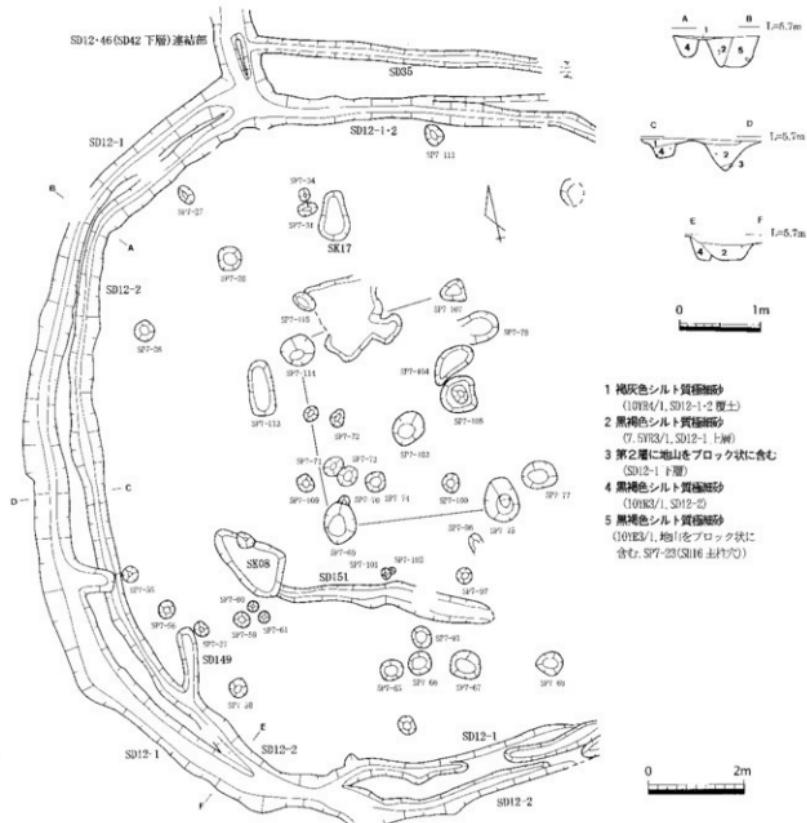
7区東で検出した。後世の削平が著しく、炉址や側壁も失われていたが、周溝であるS D12から竪穴住居の存在が推定される。S D12に開まれた範囲に柱穴が集中しており、圓面上で主柱穴を中心に4基以上の柱穴の復元を試みた。柱穴からの出土遺物は、弥生土器細片のみである。

周溝S D12は、直径約15.0mの円を描いており、東端が調査区外に及ぶが、囲んだ範囲の面積は約177

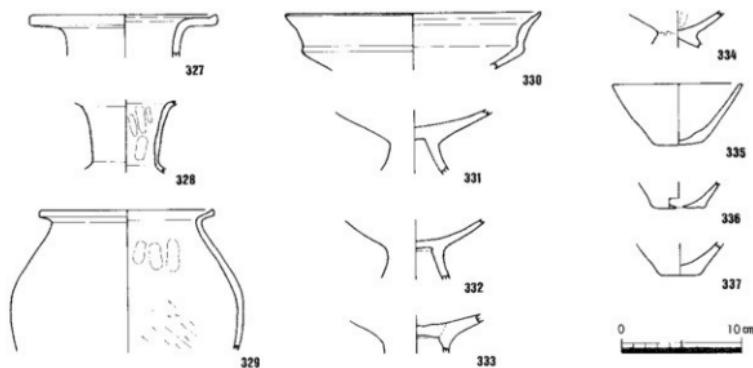


第66図 S H16平面・壁溝断面図(縮尺1/60)

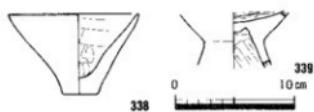
と推定される。周溝は一部二重となっているが同時に並存ではなく、途中で溝が交差することから再掘削されたためと考えられ、それぞれSD12-1・2と呼称した。北側ではSD12-1・2は1本だが、西側ではSD12-1が外側となり、南側では反対にSD12-2が外側となる。さらに、SD12-1・2は北側で分岐して、SD46(SD42下層溝、SH14・15周溝)に連結する溝を掘削しており、SD12-1・2の排水をSD46に流していたと考えられる。SD12-1は、幅約40~70cm・深さ約20~40cmで、断面はV字形もしくは逆台形を呈し、埋土は2層である。SD12-2は、幅約40~50cm・深さ約30cmで、断面はU字形もしくは逆台形を呈し、埋土は1層のみである。なお、断面観察では、SD12-1がSD12-2より後である。また、SD149は居住域からSD12-2につながる短い溝で、おそらく排水用と考えられる。SP7-23(SH16主柱穴)およびSD34・35と重複し、SP7-23より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。



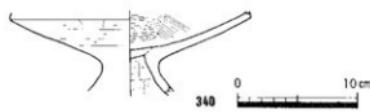
第67図 S H17周溝平面図(縮尺1/100)断面図(縮尺1/60)



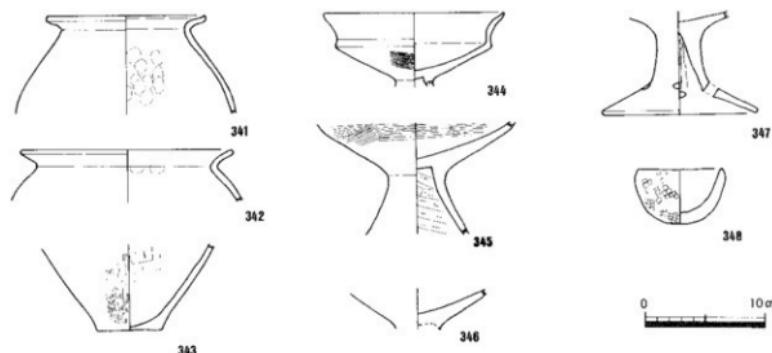
第68図 S H17周溝 S D12-1 出土遺物実測図(縮尺1/4)



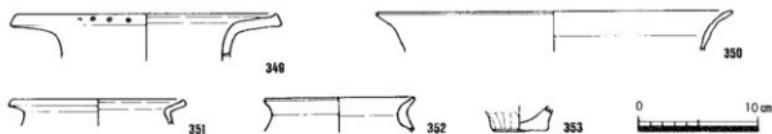
第69図 S H17周溝 S D12-2
出土遺物実測図(縮尺1/4)



第70図 S H17周溝 S D149
出土遺物実測図(縮尺1/4)



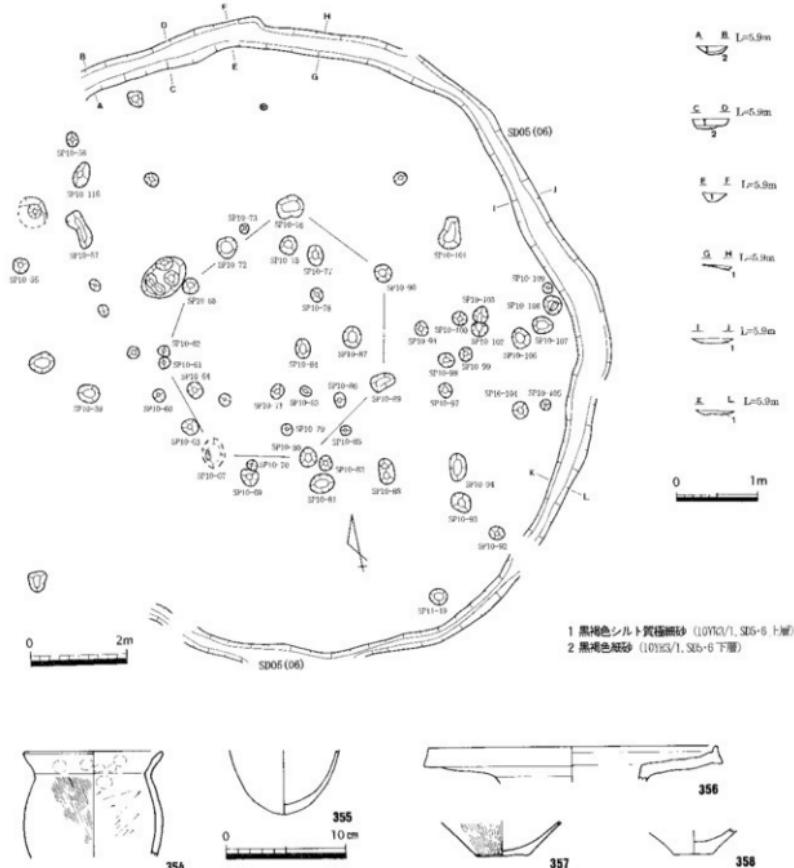
第71図 S H17周溝 S D12南東側出土遺物実測図(縮尺1/4)



第72図 S H17周溝 S D12南側(S D12-1・2交差付近)出土遺物実測図(縮尺1/4)

S D12-1 の出土遺物は、広口壺（327・328）・甕（329）・高杯（330～334）・鉢（335）などが出土している。広口壺は、口縁部が直角近くに折れ端部をつまみあげ、短い頸部がつくもので、様相2～3に相当する。甕は、口縁部が短く端部を肥厚させ、様相2前後であろう。高杯は、口縁部がやや長くなり始め、強いヨコナデを施すことから、様相3前後であろう。鉢や底部（336・337）も平底であり、様相2～3に納まるものである。一方、S D12-2 の出土遺物は、蓋（338）や高杯接合部（339）であり、細かい時期決定はできないが、S D12-1 と同じ頃であろう。出土遺物から、S D12-1 と S D12-2 両者の細かい時期差は判別できないが、S D12は様相2～3に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。

S D12-1・2混在の出土遺物を概観すると、南東部分で出土した遺物は、甕（341～343）・高杯（344



第73図 S H18平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

～347)・鉢(348)が出土している。甕は、口縁部が短く底部は平底であり、様相2～3に相当する。高杯は、口縁部が短く様相2に相当する。鉢は、丸底だが表面にカゴ目が残るもので、特殊な使用方法が想定される。南部で出土した遺物は、広口壺(349)・高杯(350)・甕(351・352)・底部(353)が出土している。広口壺は、口縁部が直角近くに折れ端部をつまみあげ、様相2前後であろう。甕も、口縁部が短く端部を肥厚させ、同じ頃であろう。高杯は、やや長い口縁部の破片で新しい様相が見られ、混入の可能性がある。

S H18 (第73図)

10区南西で検出した。後世の削平が著しく、炉址や側壁も失われていたが、周溝であるS D05(S D06)から竪穴住居の存在が推定される。S D05に囲まれた範囲に柱穴が集中しており、図面上で7～8基の柱穴による復元を試みた。柱穴からの出土遺物は、弥生土器細片のみである。

周溝S D05は、幅約40～70cm・深さ約10～15cmで、断面はU字形を呈する。埋土は2層である。周溝S D05が描く平面は、直径約13.0～13.2mの円であり、西端が調査区外に及ぶが、囲んだ範囲の面積は約135m²となる。S B10・12とS D04・07・41・154と重複し、S D07より後出し、S D04より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。

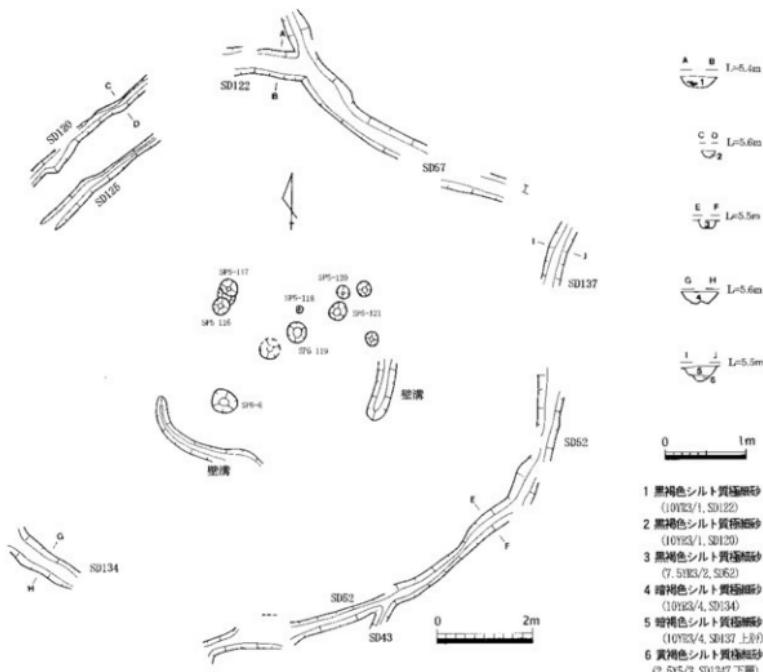
S D05の出土遺物は、甕(354・355)・広口壺(356)・底部(357・358)がある。甕は、口縁部径と体部最大径がほぼ同じもので、底部が完全に丸底となっており、様相6に相当する。広口壺は、口縁部が直角近くに折れ、しかも長いことから、様相5に相当する。底部は、平底で様相3前後と推定され、混入品と考えられる。以上のことから、S D05は様相5～6に相当し、弥生時代終末期の時期が考えられる。

S H19 (第74図)

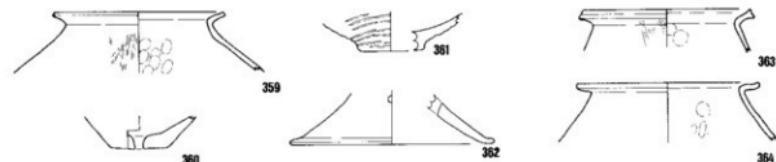
5～6区西で検出した。後世の削平が著しく、炉址や側壁も失われていたが、壁溝の一部と考えられるものが残っていたこと、周溝であるS D52・120・122・125・134・137から竪穴住居の存在が推定される。壁溝に囲まれた範囲にある柱穴から復元を試みたが、他の遺構との重複が激しく、またS D55によって壊されているため、柱穴は並ばなかった。

周溝は、幅約30～50cm・深さ約10～20cmで、断面はU字形または逆台形を呈する。埋土は1～2層である。周溝の遺構番号が違うのは、整理段階において周溝であることを確認したためである。S D120の内側にS D125が存在するが、同じ弧を描いていることから周溝と間違する遺構と想定される。また、S D52の途中で、S H14・15の排水を流すS D43が合流する。S D52はS D137を経てS D62(S H10・11周溝)へつながっている。また、S D122はS D57(S H10周溝)へつながっている。これら周溝が描く平面は、直径約11.6～11.8mのやや不整な円であり、西端が調査区外に及ぶが、囲んだ範囲の面積は約104m²となる。S H01・13やS D54・55・109・138などと重複し、S H01より後出し、S D55より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。

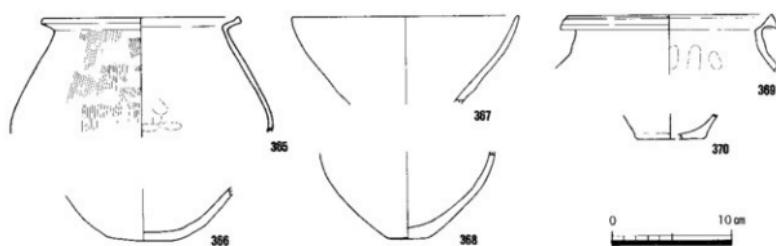
周溝S D52の出土遺物は、甕(359～361)・高杯(362)が出土している。甕(359)は、口縁部が短く薄く、肩が張っており様相4～5に相当する。360は穿孔があり瓶として利用されている。361は、外面に叩きが施され底部にくびれをもち平底のもので、束讀でよく見られ、様相4～5に並行すると考えられている。S D122の出土遺物は、甕(365)・鉢(367)・底部(366・368)が出土している。甕は、口縁部に強いヨコナデが施され、やや肩が張っており様相4に相当する。底部も、平底を残すが丸底化が進んでおり、様相4～5に相当する。S D134からは甕(363・364)が出土しており、363は口縁部を上に拡張し後期前半、364は口縁部が水平近くに折れ、やや肩が張っており様相4～5に相当する。S D137からは甕(369)と底部(370)が出土しており、甕は口縁部を上に拡張し後期前半、底部は厚さのうす



- 1 黒褐色シルト質埴輪砂
(10Y3/1, SD122)
- 2 黒褐色シルト質埴輪砂
(10Y3/1, SD120)
- 3 黒褐色シルト質埴輪砂
(7.5Y3/2, SD62)
- 4 緑褐色シルト質埴輪砂
(10Y3/4, SD134)
- 5 緑褐色シルト質埴輪砂
(10Y3/4, SD137 上方)
- 6 黄褐色シルト質埴輪砂
(2.5Y3/3, SD1347 下層)



359～362 SD52 363～364 SD134 365～368 SD122 369～370 SD137



第74図 SH19平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

い平底で後期後半と推定される。以上、周溝からの出土遺物を検討すると、様相4～5に相当する遺物が多く出土しており、S D57を周溝として共有するS H10が様相4～5に相当することから、S H19も様相4～5に相当し弥生時代終末期の時期が考えられる。

S H20（第75図）

7区北東で検出した。後世の削平が著しく、炉址や側壁も失われていたが、周溝であるS D34・140・145から竪穴住居の存在が推定される。周溝に開まれた範囲に柱穴が集中しており、図面上で4基以上の柱穴による復元を試みた。柱穴からの出土遺物は、弥生土器細片のみである。

周溝は、幅約30～40cm・深さ約10～30cmで、断面はU字形を呈し、埋土は1層のみである。周溝の遺構番号が違うのは、整理中において周溝であることを確認したためである。また、S D34とS D145が交差しており、一度は再掘削が行われた可能性がある。これら周溝が描く平面は、直径約11.0mの円であり、東端が調査区外に及ぶが、開んだ範囲の面積は約95m²となる。S D12（S H17周溝）・36（S H14・15周溝）・37（S H14・15周溝）・147と重複し、S D147より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで時期決定はできないが、竪穴住居S H14・15の第3段階で述べたとおり、同規模の周溝（S D144・146）が隣接または接続する可能性があることから、同じ様相4に属する可能性があり、この場合S II20の所属時期は弥生時代終末期となる。

S H21（第76図）

10～11区西で検出した。竪穴住居相当部分は調査区外に及ぶが、周溝と推定されるS D08・39・41から竪穴住居の存在を推定した。

周溝は、幅約30～90cm・深さ約10～30cmで、断面はU字形を呈する。埋土は1～2層である。周溝の遺構番号が違うのは、整理段階において周溝であることを確認したためである。周溝が描く平面は、直径約14.0mの円であり、東端の一部を検出したにすぎない。開んだ範囲の面積を算出すると約154m²となる。S D04・05（S H18周溝）・135と重複し、S D04より先行し、他の遺構との前後関係は不明である。

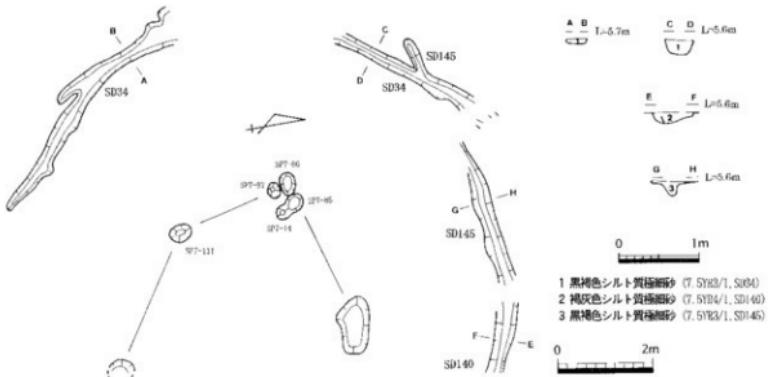
周溝S D08・41の出土遺物は、底部（371～374）・高杯（375）・用途不明石器（376）が出土している。底部は丸底化が認められるもまだ平底であり、高杯は口縁部が短いことから、様相3前後に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。

S H22（第77図）

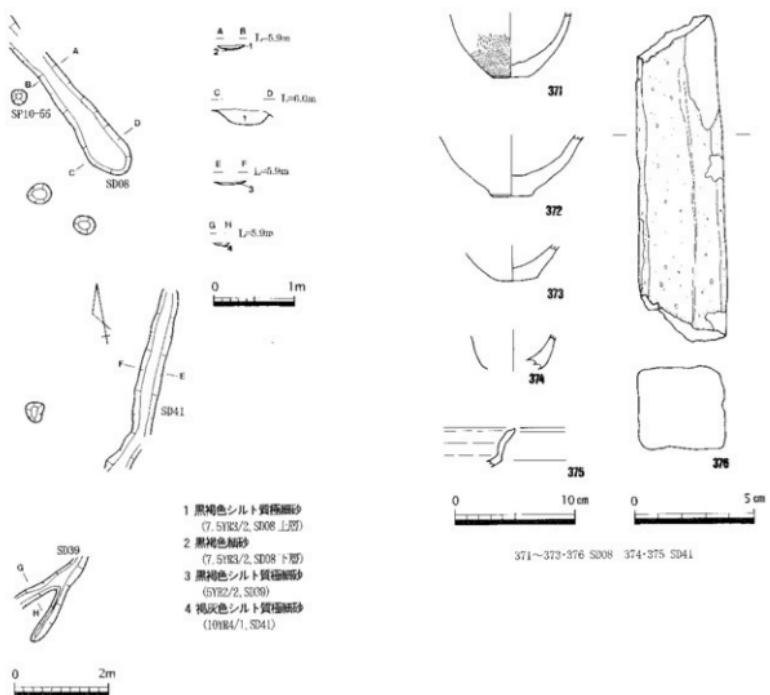
5区中央で検出した。遺構の重複や後世の削平が著しく、竪穴住居に伴う遺構は不明だが、周溝であるS D83・109から竪穴住居の存在が推定される。

周溝は、幅約30～40cm・深さ約40cmで、断面はU字形を呈し、埋土は3層である。周溝の遺構番号が違うのは、整理中において周溝であることを確認したためである。これら周溝が描く平面は直径約13.0～13.2mの円であり、開んだ範囲の面積は約135m²となる。S H10～12とS D55・57（S II10周溝）・59（S H11周溝）・62（S H10・11周溝）・63・104（S II23周溝）などと重複し、S D63より後出し、S D55より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

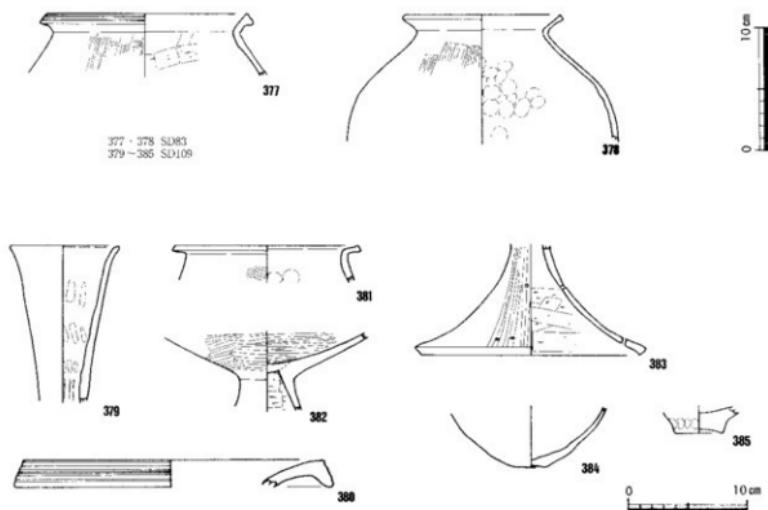
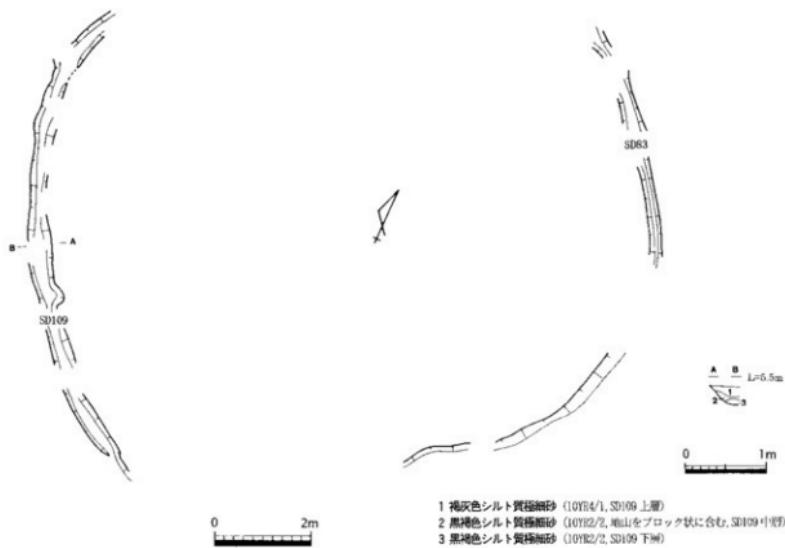
周溝S D83の出土遺物は、壺（377・378）のみが出土している。377は、口縁端部を上下に拡張し後期前半のもの、378は肩が張っているだけでなく体部の球形化が見られることから様相5～6に相当する。S D109からは、細頸壺（379）・広口壺（380）・壺（381）・高杯（382・383）・底部（384・385）が出土している。細頸壺は、口縁部がふくらます様相1～2に相当する。広口壺は、口縁端部を下方に拡張し、退化した凹線を施し、後期前半に相当する。壺は、口縁部が短く端部のつまみあげをわずかに残し様相3前後に相当する。高杯は、脚部を大きく広げており、終末期に相当する。底部のうち、384は丸底化が進



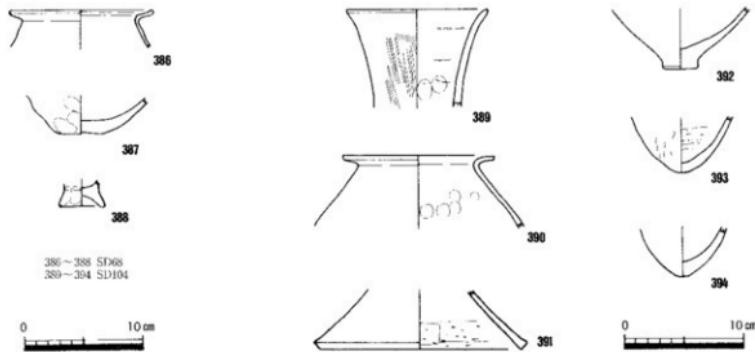
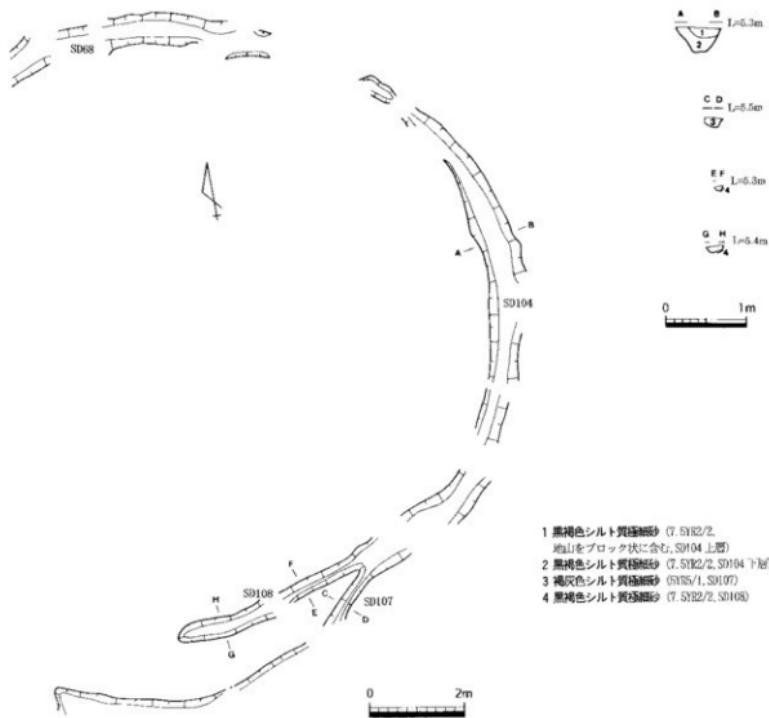
第75図 S H20平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)



第76図 S H21平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)周溝出土遺物実測図(縮尺1/4,1/2)



第77図 S H22平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)周溝出土遺物実測図(縮尺1/4)



第78図 S H23平面図(縮尺1/100)周溝断面図(縮尺1/60)周溝出土遺物実測図(縮尺1/4)

んでおり様相5～6に、385はやや上げ底の平底で、様相3前後であろう。以上のように、出土遺物は後期前半から終末期のものが混じっているが、もっとも新しい時期を採用すれば、様相5～6に相当し弥生時代終末期と考えられる。

S H23 (第78図)

5区西で検出した。造構の重複や後世の削平が著しく、堅穴住居に伴う造構は不明だが、周溝であるSD68・104・108から堅穴住居の存在が推定される。

周溝は、幅約30～60cm・深さ約10～50cmで、断面は逆台形を呈し、埋土は1～2層である。周溝の造構番号が違うのは、整理中において周溝であることを確認したためである。これら周溝が描く平面は直径約12.8mの円であり、西端が調査区に及ぶが、囲んだ範囲の面積は約129m²となる。また、SD104から分岐してSD107が弧を描きながらのびており、周溝を拡張している可能性がある。SH10・11とSD55・57(SH10周溝)・59(SH11周溝)・56・63・99(SH03周溝)・109(SH22周溝)などと重複し、SD63より後出し、SD55より先行するが、他の造構との前後関係は不明である。

周溝SD68からは、壺(386)・底部(387)・製塩土器(388)が出土している。壺は口縁部がうすく長く、底部はほぼ丸底であり、様相5～6に相当する。SD104からは、長頸壺(389)・壺(390)・高杯(391)・底部(392～394)が出土している。長頸壺は口縁部が折れ曲がらないもので様相1前後、壺は口縁部が水平近くに折れ曲がり様相5～6、底部も球形化しており様相6に相当する。以上のように、出土遺物は少し古いものが混じるが、SH23は様相6に相当し弥生時代終末期と考えられる。

(2) 挖立柱建物跡

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属すると推定される掘立柱建物跡は、計12棟確認している。このうち、調査時に確認していた掘立柱建物跡は8棟で、整理時に柱穴の位置から類推したのは4棟である。平面形態は、桁行2間以上、梁間1間の長方形を基調としている。桁行は3間のものが4棟と多いが、SB01のように4間のものも見られる。主軸は、すべて東西方向でN64°～89°WまたはN78°～89°Eを示し、遺跡付近に残る条里地割とはあまり一致しない。また、柱穴は円形のものだけで、方形のものは1基も存在しない。

このため、数少ない出土遺物からも考慮して、掘立柱建物跡の時期を弥生時代後期～古墳時代前期初頭とした。ただし、付近にわずかながら古代の溝が確認され、堅穴住居SH09のように弥生土器しか出土しないが、その構造から古代に属することが判明したものもあり、掘立柱建物跡の詳細な時期判定には、資料の増加が待たれる。

S B01 (第79図)

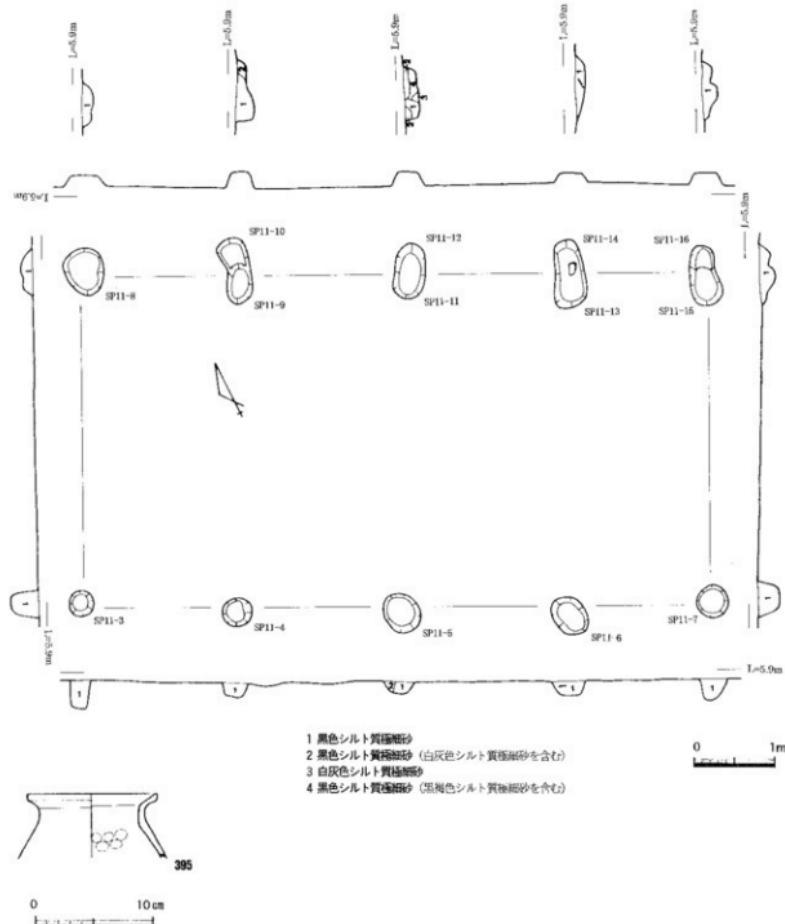
11区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN64°Wであり、桁行4間(7.9m)、梁間1間(4.1m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約32m²を測る。桁行の芯心間の距離は1.7～2.1mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30～40cm、深さ15～30cmを測る。柱穴の埋土は、黒色シルト質粘土が主体を占める。北側桁行のすべての柱穴は、柱穴の平面が2基ずつ瓢箪形に重なっている。これは、延替えが行われたのか、または添え木をした可能性が考えられる。埋土の断面観察では、2基の柱穴の新旧は明らかにできなかった。

出土遺物は、弥生土器破片が見られる。団化できたSP11-9・10出土の壺(395)から、SB01は弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B02 (第80図)

11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN77°Wであり、桁行3間(5.4m)、梁間1間(3.0m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約16m²を測る。桁行の芯心間の距離は1.7~2.0mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径40~60cm、深さ15~25cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質粘細砂が主体を占める。S P11-40の底には、川原石を使った根石が残されていた。S B03・S D04と重複し、S D04より先行するが、S B03との前後関係は不明である。

出土遺物は、弥生土器破片が見られる。図化できたS P11-30出土上の広口壺(396)から、S B02は弥

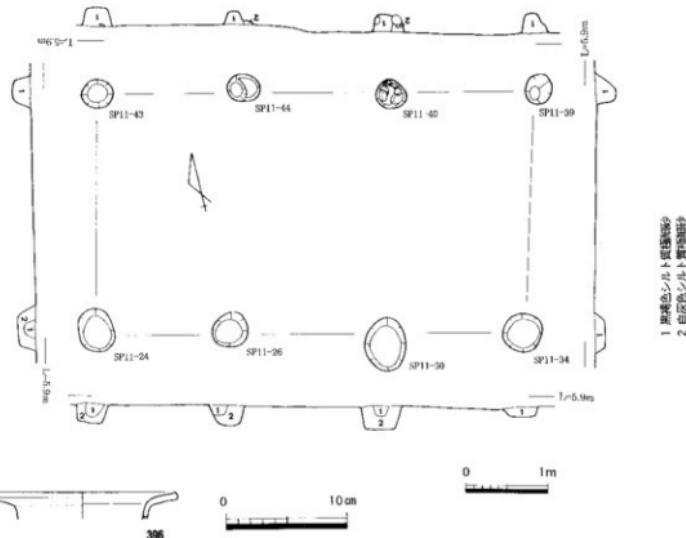


第79図 S B01平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

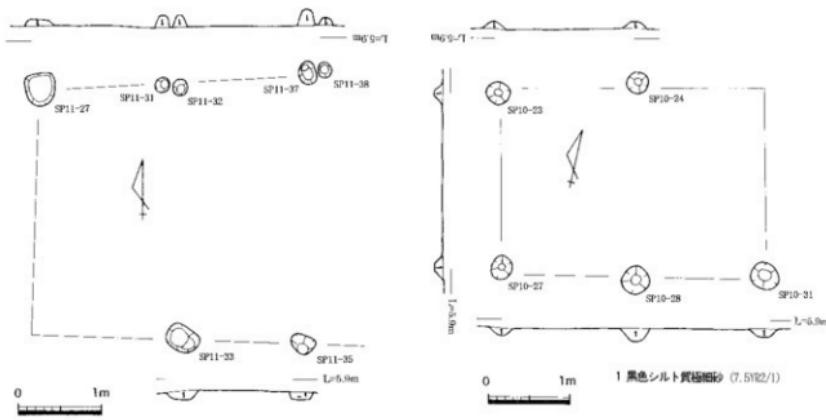
生時代後期後半のものと考えられる。

S B 03 (第81図)

11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN89° Eであり、桁行2間以上(3.7m以上)、梁間1間(3.2m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約12m²以上を測る。東側が調査区外に及ぶため、全

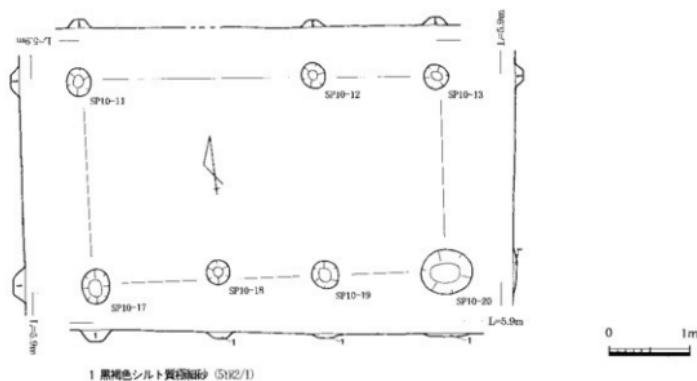


第80図 S B 02平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

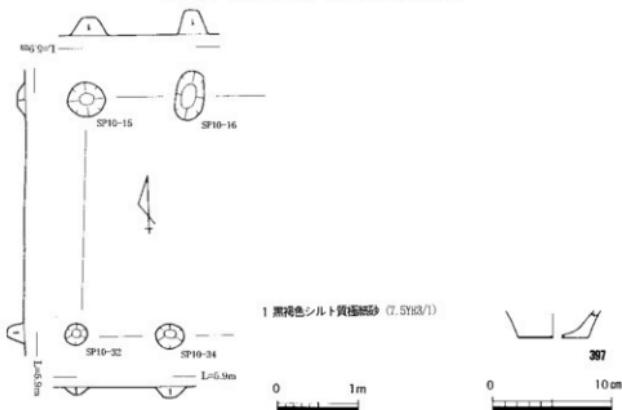


第81図 S B 03平面・断面図(縮尺1/60)

第82図 S B 04平面・断面図(縮尺1/60)



第83図 S B 05平面・断面図(縮尺1/60)



第84図 S B 06平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

体の規模は不明である。また、南西隅の柱穴は、後世の削平により失われている。桁行の芯心間の距離は1.5~1.8mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径20~40cm、深さ10~20cmを測る。北側桁行の柱穴のうち、2基の柱穴に別の柱穴が隣接していることから、建替えが行われたのか、または添え木をした可能性が考えられる。柱穴の埋土は、黒色シルト質極細砂が主体を占める。S B 02・S D 02と重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで、図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B 03も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B 04 (第82図)

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN78° Eであり、桁行2間(3.2m)、梁間1間(2.3m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約7 m²を測る。北東隅の柱穴は、後世の削平により失われてい

る。また、他の掘立柱建物跡が3間以上なのに対し、S B04のみが桁行2間である。桁行の芯心間の距離は1.6~1.7mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30~35cm、深さ10~20cmを測る。柱穴の埋土は、黒色シルト質極細砂が主体を占める。

出土遺物はないが、他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B04も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B05 (第83図)

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN85°Wであり、桁行3間(4.5m)、梁間1間(2.5m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約11m²を測る。北桁行の柱穴1基が、後世の削平により失われている。桁行の芯心間の距離は1.35~1.5mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30~60cm、深さ10~15cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物はないが、他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B05も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B06 (第84図)

10区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN88°Wであり、桁行1間以上(1.3m以上)、梁間1間(2.9m)の規模をもつ長方形の棟と推定され、床面積は4m²以上を測る。東側が調査区外に及ぶため、全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.2~1.3mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30~60cm、深さ10~30cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物は、弥生土器片が見られる。図化できたS P10~34出土の底部(397)から、S B06は弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B07 (第85図)

8区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN89°Wであり、桁行2間以上(5.0m以上)、梁間1間(3.35m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は17m²以上を測る。東側が調査区外に及ぶため、全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は2.5mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径50~80cm、深さ20~30cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。S D11と重複し、S D11より後出する。

出土遺物は弥生土器細片のみで、図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B07も弥生時代後期のものと考えられる。

S B08 (第86図)

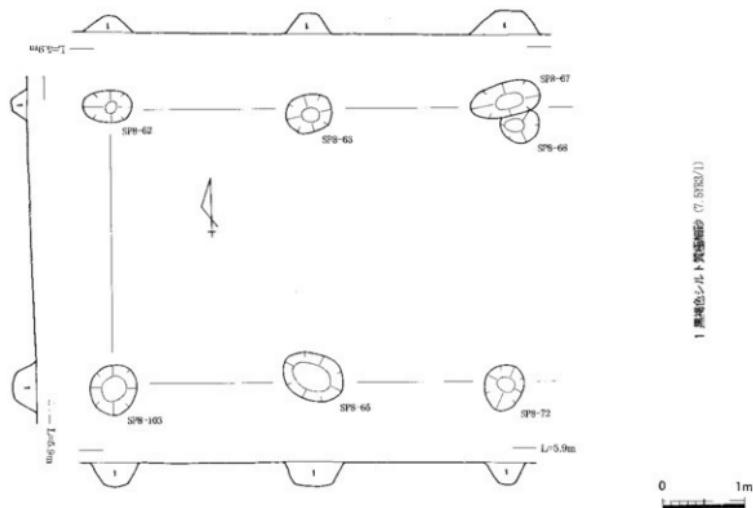
8区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN88°Wであり、桁行3間(5.4m)、梁間1間(3.7m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約20m²を測る。桁行の芯心間の距離は1.8mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径40~60cm、深さ20~40cmを測る。南北桁行の柱穴のうち、対の位置にある柱穴1基ずつに別の柱穴が隣接しており、建替えが行われたのか、または添え木をした可能性を考えられる。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。S K03と重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで、図化できるものはなかった。他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B08も弥生時代後期後半のものと考えられる。

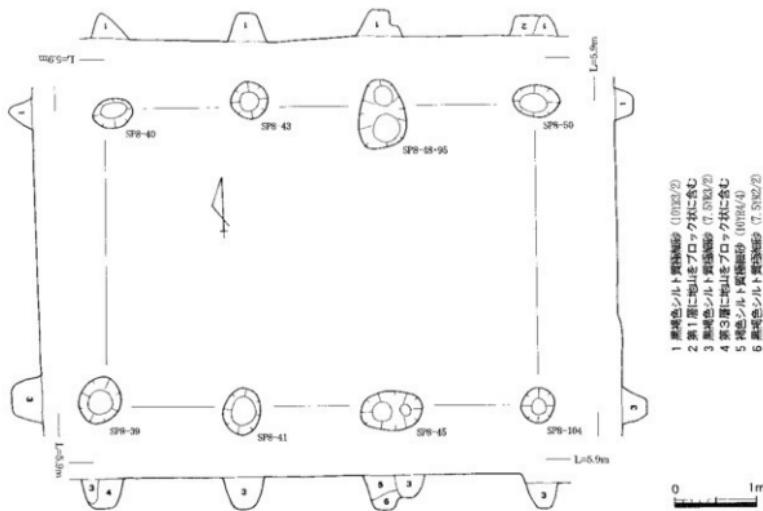
S B09 (第87図)

8区西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN85°Eであり、桁行2間以上(3.8m以上)、梁間1間(3.0m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は11m²以上を測る。西側が調査区外に及ぶため、全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.8~2.1mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直

径30~50cm, 深さ20~30cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質粘土である。SK13と重複するが、前後関係は不明である。



第85図 SB 07平面・断面図(縮尺1/60)

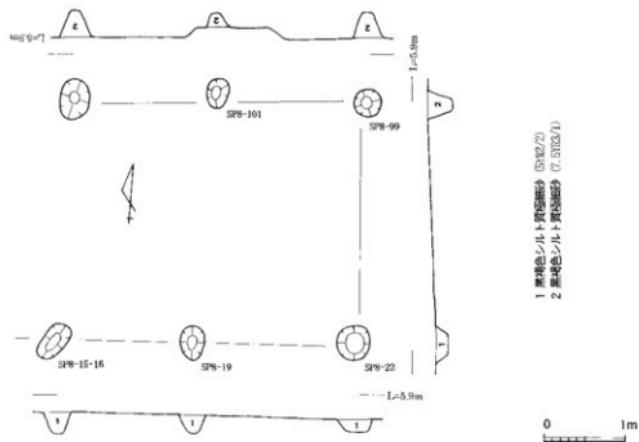


第86図 SB 08平面・断面図(縮尺1/60)

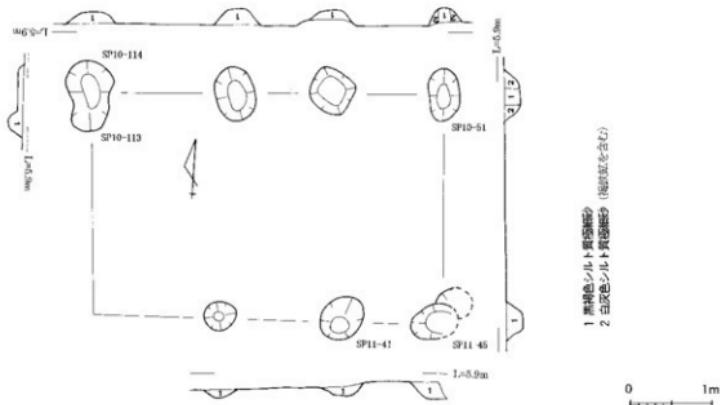
出土遺物はないが、他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B09も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B10 (第88図)

10~11区東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN86° Eであり、桁行3間(4.4m)、梁間1間

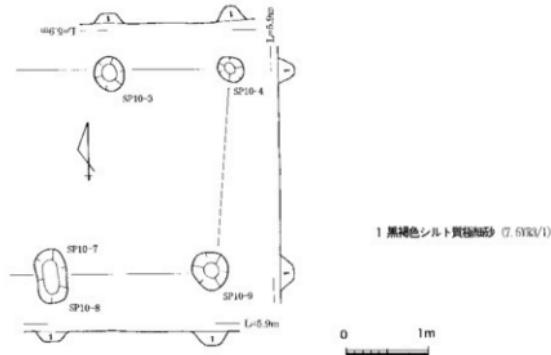


第87図 S B09平面・断面図(縮尺1/60)

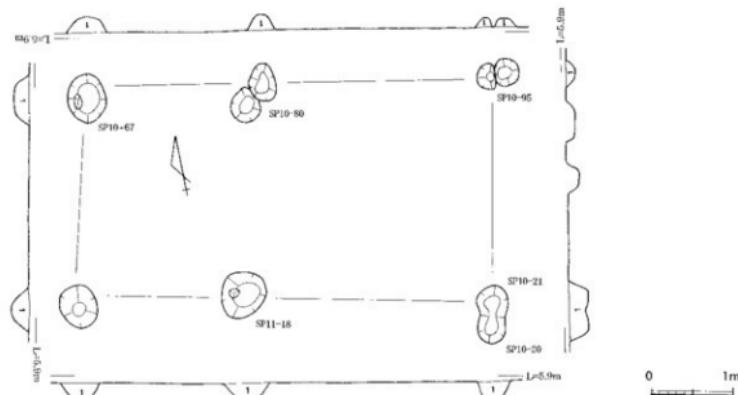


第88図 S B10平面・断面図(縮尺1/60)

(2.8m) の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約12m²を測る。桁行の芯心間の距離は1.2~1.8mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直徑40~70cm、深さ10~20cmを測る。南西隅の柱穴は、後世の削平により失われている。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質粘細砂が主体を占める。S D04・S D05 (S II 18周溝)・S D09と重複し、S D04より先行するが、S D05・09との前後関係は不明である。



第89図 S B 11平面・断面図(縮尺1/60)



第90図 S B 12平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土遺物はないが、他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B10も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B11 (第89図)

10区西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN89° Wであり、桁行1間以上(2.0m以上)、梁間1間(2.5m)の規模をもつ長方形の棟と推定され、床面積は5m²以上を測る。西側が調査区外に及ぶため、全体の規模は不明である。桁行の芯心間の距離は1.5~2.0mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30~50cm、深さ10~20cmを測る。柱穴の埋土は、黒褐色シルト質極細砂が主体を占める。

出土遺物はないが、他の掘立柱建物跡と類似する構造・規模をもつことから、S B11も弥生時代後期後半のものと考えられる。

S B12 (第90図)

10~11区中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はN78° Wであり、桁行2間(5.2m)、梁間1間(2.7m)の規模をもつ長方形の棟で、床面積は約14m²を測る。桁行の芯心間の距離は2.2~3.0mを測る。柱穴の平面は円形であり、その規模は直径30~60cm、深さ10~20cmを測る。桁行の芯心間距離が南北ともに長い個所があり、当初から柱穴がなかったのか、後世の削平により柱穴が失われたのか不明である。柱穴の埋土は、黒色シルト質極細砂が主体を占める。S H18と重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物は、弥生土器破片が見られる。固化できたS P10-67出土の壺口縁部(398)から、S B12は弥生時代後期後半のものと考えられる。

(3) 構列

検出した構列は、計6例である。すべて、整理時に柱穴の位置から復元したものである。柱穴4基から構成されるものが多い。主軸は、すべて東西方向でN73° ~87° EまたはN59° Wを示し、遺跡付近に残る条里地割とは一致しない。また、柱穴は円形のものだけで、方形のものは1基も存在しない。

このため、数少ない出土遺物からも考慮して、構列の時期を弥生時代後期~古墳時代前期初頭とした。ただし、付近にわずかながら古代の溝が存在しており、構列の詳細な時期判定には資料の増加が待たれる。

S A01 (第91図)

10区西南で検出した東西方向の構列で、4基の柱穴で構成される。主軸方位はN73° Eである。柱穴の芯心間の距離は2.0mを測り、構列の総長は6.0mとなる。柱穴はすべて2基の柱穴が隣接して並んでいることから、交替が行われたものと考えられる。柱穴は円形であり、その規模は直径40~50cm、深さ10~20cmを測る。S H18と重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物は、弥生土器破片が見られる。固化できたS P10-66出土の底部(399)から、S A01は弥生時代後期後半のものと考えられる。

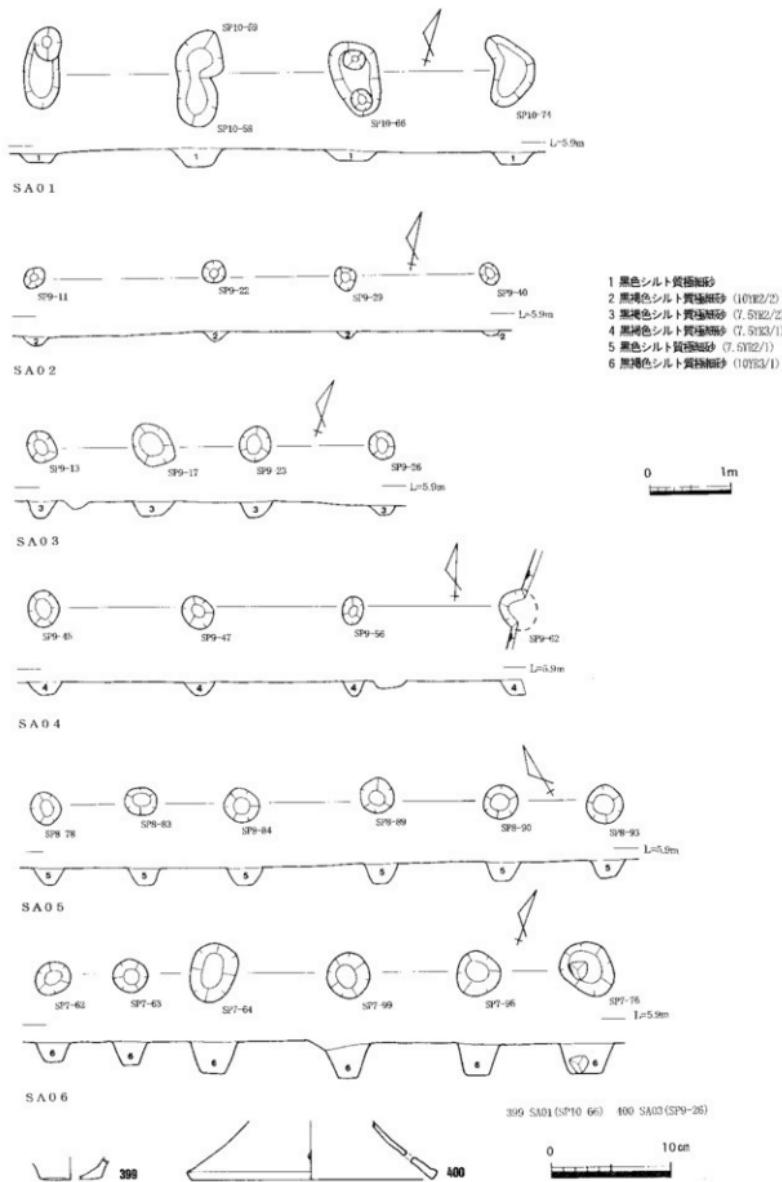
S A02 (第91図)

9区中央で検出した東西方向の構列で、4基の柱穴で構成される。主軸方位はN78° Eである。柱穴の芯心間の距離は1.8~2.2mを測り、構列の総長は5.7mとなる。柱穴は円形であり、その規模は直径25cm、深さ10cmを測る。

出土遺物はないが、周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから、S A02も同時期の可能性がある。

S A03 (第91図)

9区中央で検出した東西方向の構列で、4基の柱穴で構成される。主軸方位はN70° Eである。柱穴の芯心間の距離は1.3~1.6mを測り、構列の総長は4.3mとなる。柱穴は円形であり、その規模は直径30~50cm、深さ10~20cmを測る。



第91図 S A 01～06平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土遺物は、弥生土器破片が見られる。図化できたS P 9-26出土の高杯脚部（400）から、S A03は弥生時代後期後半のものと考えられる。

S A04（第91図）

9区東で検出した東西方向の柵列で、4基の柱穴で構成される。主軸方位はN87°Eである。柱穴の芯心間の距離は1.9~2.1mを測り、柵列の総長は6.0mとなる。東端の柱穴が、調査区の端に位置するため、さらに東へのびる可能性はある。柱穴は円形であり、その規模は直径30~50cm、深さ10~20cmを測る。

出土遺物はないが、周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから、S A04も同時期の可能性がある。

S A05（第91図）

8区南で検出した東西方向の柵列で、6基の柱穴で構成される。主軸方位はN59°Wである。柱穴の芯心間の距離は1.2~1.7mを測り、柵列の総長は7.0mとなる。柱穴は円形であり、その規模は直径40~50cm、深さ20~25cmを測る。弥生時代前期の環濠S D11外側に並列するが、S D11がゆるやかに曲がっているのに対してS A05は直線であること、S D11以外にS D11と並列する柵列がないことから、S D11とは無関係と考えられる。

出土遺物は弥生土器細片のみで、図化できるものはなかった。周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから、S A05も弥生時代後期の可能性がある。

S A06（第91図）

7区東で検出した東西方向の柵列で、6基の柱穴で構成される。主軸方位はN70°Eである。柱穴の芯心間の距離は1.0~1.7mを測り、柵列の総長は6.7mとなる。柱穴は円形であり、その規模は直径40~70cm、深さ30~40cmを測る。S H17と重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物は弥生土器細片のみで、図化できるものはなかった。周辺に弥生時代後期の遺構が存在することから、S A06も弥生時代後期の可能性がある。

（4）井戸

弥生時代後期~古墳時代前期初頭に属する井戸は、計2基確認した。2基とも簡易な素掘りの井戸である。S E02は本遺跡で主体を占める微高地に存在するが、S E01は調査区北東隅で確認した別の微高地（別の集落）のものと考えられる。

S E01（第92~94図）

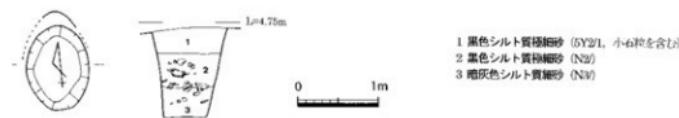
1区中央の旧河道S R01東岸で検出した。この井戸のみが、他の遺構と違って、別の微高地に立地する。南北1.1m、東西0.8m、深さ1.1mを測る素掘りの井戸である。埋土は3層確認している。第1・2層（上層）は黒色シルト質極細砂、第3層（下層）は暗灰色シルト質細砂である。S R01に注ぐ小河川S R02の底に位置し、雨期には水没したと推定される。

上下層から弥生土器が出土しているが、S R01に隣接し、S R02河底にあたるために、出土遺物は下層においても時期幅が見られる。下層出土のうち、長頸壺（403）は様相2に相当するが、広口壺（401）はやや丸底であり、細頸壺体部（402）は算盤形を呈することから、様相4~5に相当し弥生時代終末期と考えられる。また、土器と一緒に袋状鉄斧の柄（406）が出土している。

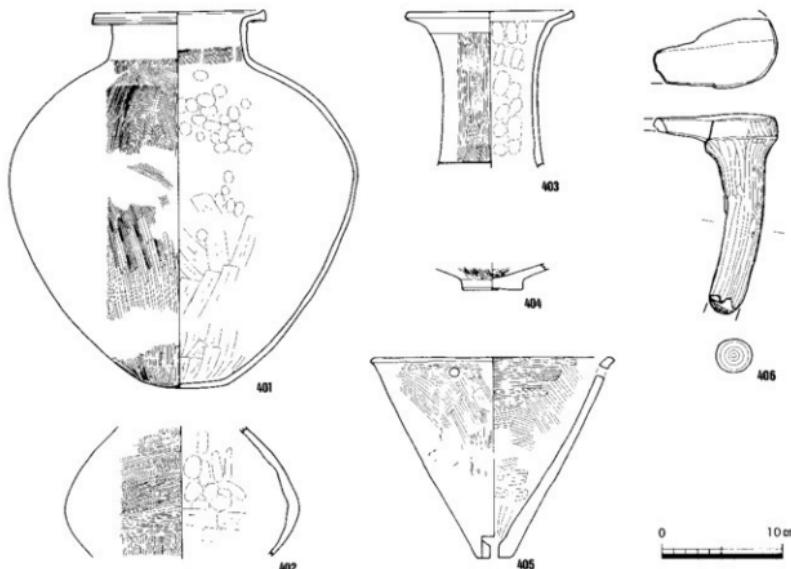
S E02（第95~98図）

7区中央で検出した井戸で、南北1.1m、東西1.1m、深さ0.7mを測る素掘りの井戸である。埋土は3層確認しているが、第1・2層は暗褐色シルト質極細砂、第3層は黒褐色シルト質細砂である。S K07と重複し、S K07より後出する。

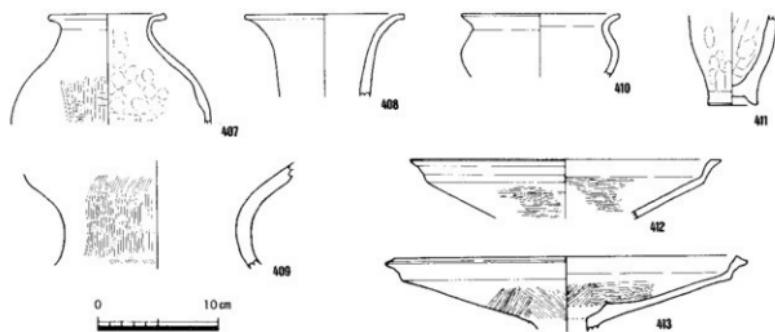
第1・3層から弥生土器が出土している。下層である第3層出土遺物を概観すると、甕（416・417）の



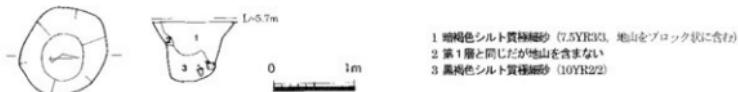
第92図 SE 01平面・断面図(縮尺1/60)



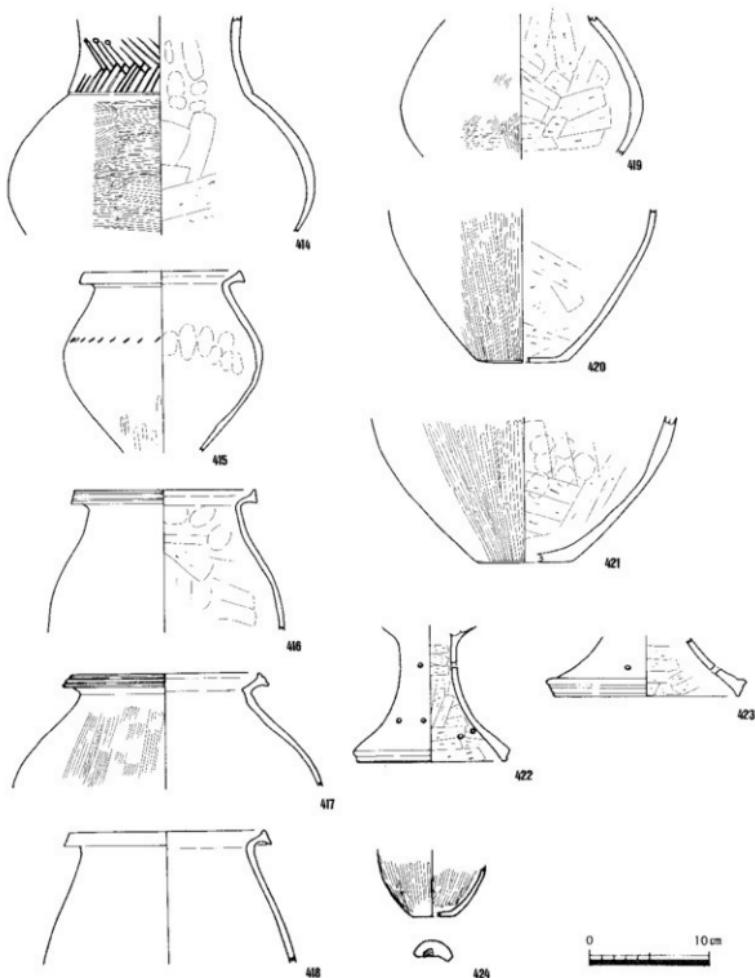
第93図 SE 01第3層出土遺物実測図(縮尺1/4)



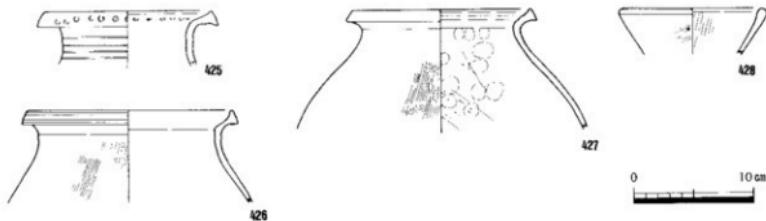
第94図 SE 01第1・2層出土遺物実測図(縮尺1/4)



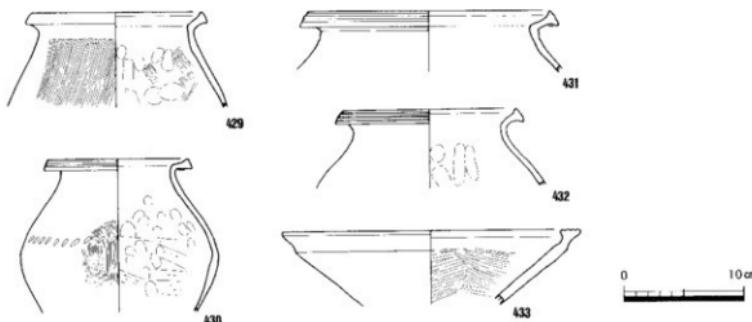
第95図 S E 02平面・断面図(縮尺1/60)



第96図 S E 02第3層出土遺物実測図(縮尺1/4)



第97図 S E 02第1層下部出土遺物実測図(縮尺1/4)



第98図 S E 02第1層上部出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)

口縁端部や高杯（422・423）の脚端部には、凹線文または凹線文が退化した沈線を施している。底部（420・421）は平底である。小山南谷遺跡S H 03出土資料に並行すると考えられ、弥生時代後期前半中葉と考えられる。なお、小形土器（424）の底部外面には、酸化鉄による赤色顔料が付着している。また、上層である第1層から出土した遺物も、下層と同じ特徴を示しており、同時期のものと考えられる。

(5) 土坑

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する土坑は、計8基確認した。平面形態は、不整な円形のもの2基、細長い楕円形のもの5基、不明1基である。特にSK11は、他の土坑と比べて溝状に細長い。このSK11と平面形態が類似するのが溝S D24・25・27で、調査時は溝として分類したが、機能的には土坑に分類すべきものである。

S K01 (第99図)

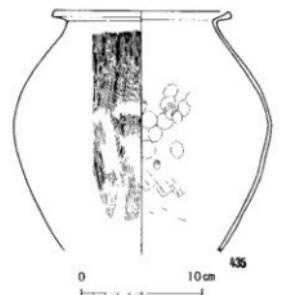
7区北東で検出した土坑で、調査のための排水用側溝を掘削中に検出したため、平面形態・規模は不明である。埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。出土した弥生土器壺(435)は、口縁部が短く端部がやや肥厚することから様相2~3に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。

S K03 (第101図)

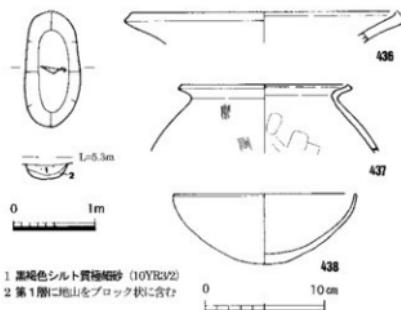
8区東で検出した土坑で、南北2.2m、東西2.2m、深さ0.2mを測る不整円形の土坑である。埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。出土遺物は、弥生土器片が見られる。圓化された大形鉢(439)は、口縁部にヨコナデを施すもの外反しないことから、様相4に相当し弥生時代終末期のものと考えられる。

S K05 (第100図)

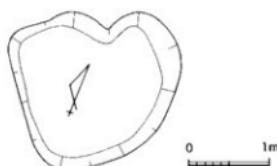
5区北西で検出した土坑で、南北0.7m、東西0.9m、深さ0.2mを測る楕円形の土坑である。埋土は、2



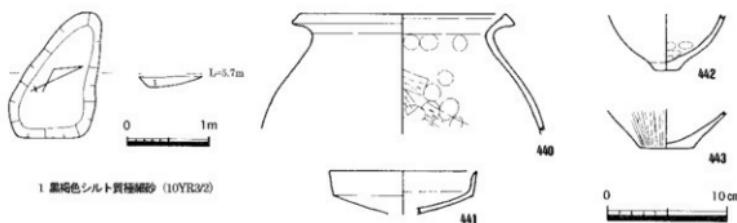
第99図 S K01出土遺物実測図(縮尺1/4)



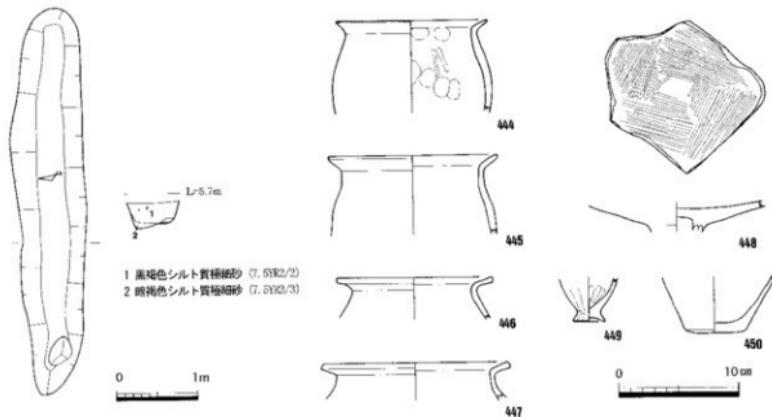
第100図 S K05平面・断面図(縮尺1/60)
出土遺物実測図(縮尺1/4)



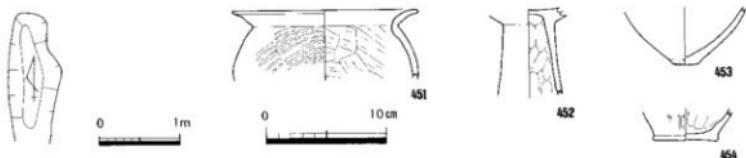
第101図 S K03平面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



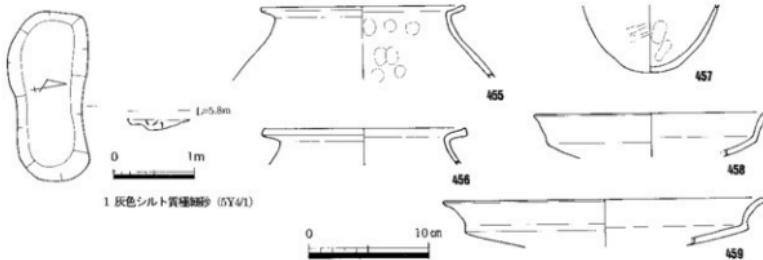
第102図 S K08平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



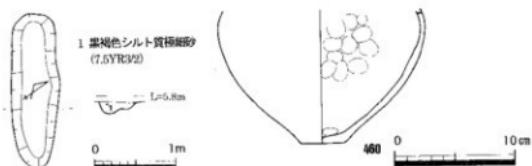
第103図 S K 11平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第104図 S K 12平面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第105図 S K 14平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第106図 S K 15平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

層に分かれる。このSK05は、堅穴住居SH03の内部に所在することから住居内に設けられた土坑の可能性もあり、出土遺物の時期も一致する。出土した弥生土器には、広口壺（436）が見られること、小形鉢（438）の底部が丸底となっていることから様相5～6に相当し、古墳時代前期初頭と考えられる。

SK08（第102図）

7区中央で検出した土坑で、南北1.1m、東西1.6m、深さ0.1mを測る不整円形の土坑である。埋土は1層のみである。出土した弥生土器を概観すると、時期幅が認められる。壺（440）は口縁端部を広く拡張し弥生時代後期前半にまで遡る可能性があり、底部（442～443）は平底から丸底への過渡期として捉えられ弥生時代後期後半と考えられる。新しい時期を採用して、弥生時代後期後半と推定したい。

SK11（第103図）

8区北で検出した土坑で、南北0.9m、東西4.7m、深さ0.3mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は2層に分かれる。出土した弥生土器壺（444～447）は口縁端部を厚くさせず、製塩土器（449）が小型化していることから、様相4～5に相当し、弥生時代終末期と考えられる。

SK12（第104図）

7～8区西で検出した土坑で、南北1.6m以上、東西0.7m、深さ0.3mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。出土した弥生土器壺（451）は、体部外面に叩きを施し、頸部を強く屈曲させ、口縁部は外反しながら上にのびる。底部（453）は平底を残すものの丸底化が進んでいる。これらの特徴から、弥生時代終末期と考えられる。ただし、底部（454）のみが、角を明瞭に残す平底で後期前半まで遡る可能性があるが、これ1点のみであることから混入と考えられる。

SK14（第105図）

8区北西で検出した土坑で、南北1.0m、東西2.1m、深さ0.1mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は1層のみである。出土した弥生土器壺（455）は口縁部がうすくのびるが、壺（456）は口縁端部がやや厚くなり古い様相を示す。底部（457）は、丸底となっている。高杯（458・459）は、口縁部にヨコナデが施され外反する。これらの特徴から、時期幅が存在するが、弥生時代終末期と考えられる。

SK15（第106図）

9区北で検出した土坑で、南北0.6m、東西1.9m、深さ0.15mを測る細長い楕円形の土坑である。埋土は1層のみである。出土した弥生土器壺（460）は、体部が丸みを帯びるが、底部は平底である。弥生時代後期後半と考えられる。

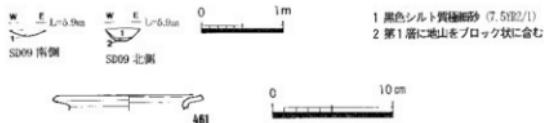
（6）溝

弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属する溝は、計48条確認している。この数字には、堅穴住居の周溝としたものは含まれていない。溝の多くは、堅穴住居や周溝からの排水を目的として掘削されたものが多く、排水先として旧河道SR01に注いでいる。一方、SD24・25・27のように溝とするより機能的には土坑に分類すべきものもあり、特にSD24・27は大量の土器を棄てた廃棄土坑である。

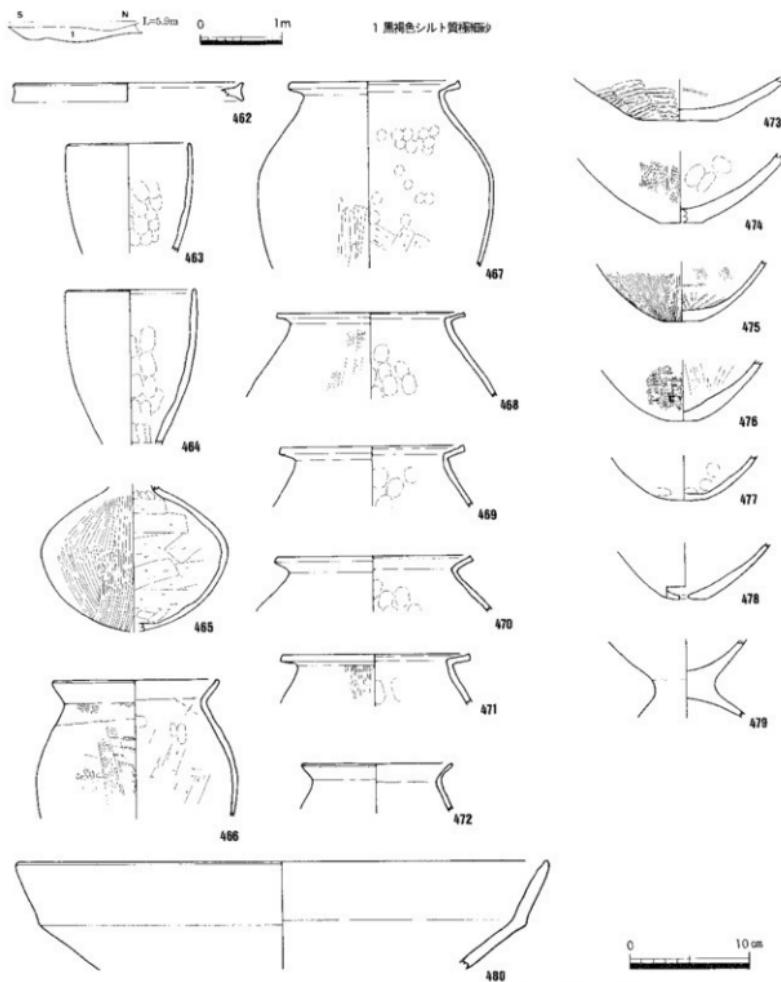
SD02・09（第107・158図）

10・11区東で検出した幅約40～50cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約22mを測る。11区南端より調査区内に入り、わずかに湾曲しながら北東方向に調査区を縱断し、10区東端で調査区外に出る。11区と10区での溝底の比高差はない。埋土は大きく2層に分かれる。後世の削平により途中が削平されて途切れていたため、調査時は別の遺構番号としたが、SD02・09は同じ溝である。

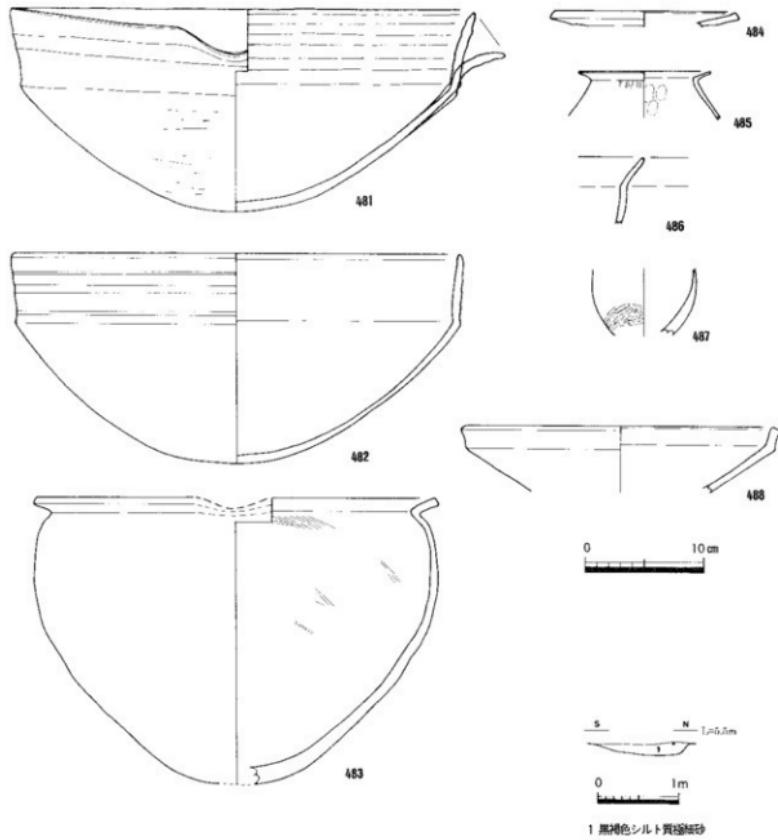
出土した弥生土器壺（461）は、口縁部がうすく伸びるもので、弥生時代終末期と考えられる。他に、打製石庵丁状の石器（682）が出土している。



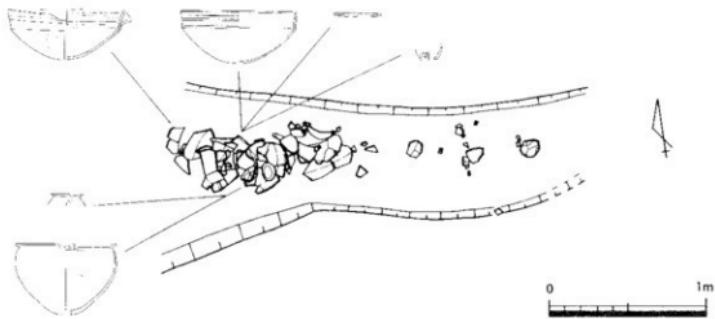
第107図 SD 02・09断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第108図 SD 07断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



1 黒褐色シルト質粘土砂



第109図 SD 04下層溝断面図(縮尺1/60)遺物出土状況図(縮尺1/30)出土遺物実測図(縮尺1/4)

S D 04下層溝（第109・158図）

11区で検出した東西方向の条里溝 S D 04の西端下部において検出した。S D 04と埋土が酷似するため、調査時は S D 04に含めて掘削したが、整理中に S D 04と分離することが判明した。S D 04によって上部が壊されているが、幅約70~110cm、深さ約15cmを測る断面U字形の遺構と推定され、調査区内で検出した長さは約3mを測る。遺構の西側は調査区外に及ぶため、全容は不明である。埋土は1層のみである。溝として分類したが、完形に近い大形片口鉢が一括投棄されていることから、廃棄土坑である可能性もある。

出土した弥生土器の器種構成は、完形に近い大形片口鉢（481~483）が3個体も見られ、他に壺（484）、壺（485）、鉢（486）、高杯（488）の破片が認められる。大形鉢のうち481は口縁部に強いヨコナデが施されやや外反するL字縁部をもつ。これに対して、482は口縁部が直線的にのび481より古相を呈する。483は、丸角平野からの搬入品と考えられるもので、下川津Ⅲ~Ⅳ式に該当すると考えられる。大形片口鉢（481・482）にわずかながら型差があるが様相4でも新しい時期と推定され、S D 04下層溝は弥生時代終末



1 黒褐色シルト質細砂



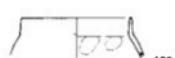
1 黒褐色シルト質細砂 (5.512/1)



1 黒褐色シルト質細砂 (7.513/1)



484



485



第110図 S D 14断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/4)



第111図 S D 15断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/4)



1 黒色シルト質細砂 (7.512/1)



第112図 S D 18断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/4)



487



495



498



1 黒色シルト質細砂 (7.512/1)



496



499



第114図 S D 22断面図
(縮尺1/60)



第115図 S D 21断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/4)



第116図 S D 23出土遺物
実測図(縮尺1/4)

期と考えられる。壺・甕・鉢は大形鉢と同じ時期と考えられるが、高杯は後期前半と推定され混入品であろう。他に、打製刃器（681）が出土している。

S D07 (第108図)

10区西で検出した幅約160cm、深さ約20cmを測る断面U字形の遺構で、調査区内で検出した長さは約2mを測る。遺構の西側は調査区外に及ぶため、全容は不明である。調査時は溝として分類したが、土器を大量に投棄した廐棄土坑と考えた方が適当である。埋土は1層のみである。S D05・06 (S H18周溝)と重複し、S D05・06より先行する。

出土した弥生土器の器種構成は、壺（466～472）が多数を占め、次いで細頸壺（463～465）、高杯（479）、大形鉢（480）を見ることができる。壺は肩が張って口縁部がうすく伸びるもので、底部（473～478）は平底を残すものの丸みを帯びており、様相4～5と考えられる。細頸壺は内弯する口縁部をもって、体部は算盤形を呈し、様相4と考えられる。大形鉢は直線的な口縁部をもち、様相4と考えられる。以上のことから、壺に新しい特徴が見られるものの全体的には様相4でも新しい時期と推定され、弥生時代終末期と考えられる。なお、壺（462）は後期前半と推定される破片で混入品であろう。

S D14 (第110図)

7区西端で検出した幅約60cm、深さ約20cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約1mを測る。遺構の大部分が調査区外に及ぶため、全容は不明である。埋土は1層のみである。

弥生土器壺（489・490）が出土しており、弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

S D15 (第111図)

9区北東で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約4mを測る。8区東端より調査区内に入り、まっすぐ西南西にのびる。調査区内での溝底の比高差はない。埋土は1層のみである。中世素掘溝と重複し、中世素掘溝より先行する。出土した弥生土器高杯（491・492）は、口縁端部を拡張させ脚端部も厚いことから、弥生時代後期前半と考えられる。

S D18 (第112図)

9区西で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約6mを測る。湾曲しながら南北方向に長く、調査区内で完結している。埋土は1層のみである。S D19・中世素掘溝と重複し、中世素掘溝より先行するが、S D19との前後関係は不明である。出土した弥生土器底部（493）は、角が明瞭な平底ながら器壁が薄いことから、弥生時代後期と考えられる。

S D20 (第113図)

9区西で検出した幅約50cm、深さ約10cm、長さ約3mを測る断面U字形の溝である。南北方向に長く、調査区内で完結しているが、後世の削平を受けており、本来はもっと長い可能性がある。埋土は1層のみである。中世素掘溝と重複し、中世素掘溝より先行する。出土した弥生土器壺（494）は、口縁端部を上下に拡張させるが紋様はなく、弥生時代後期と考えられる。

S D21 (第115図)

8区東で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約7mを測る。8区東端より調査区内に入り、まっすぐ西北西にのび、S D22と交差して終了している。溝底の比高差はほとんどない。埋土は1層のみである。

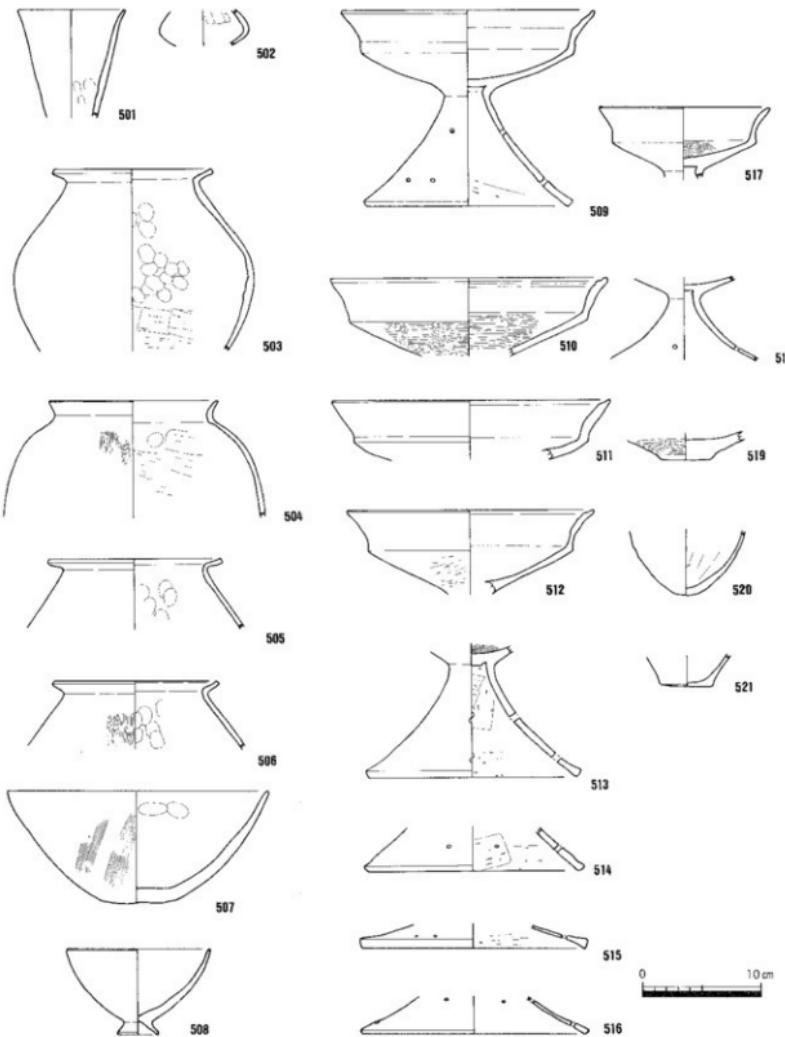
出土した弥生土器高杯（495）・底部（496）から、弥生時代後期と考えられる。

S D22 (第114図)

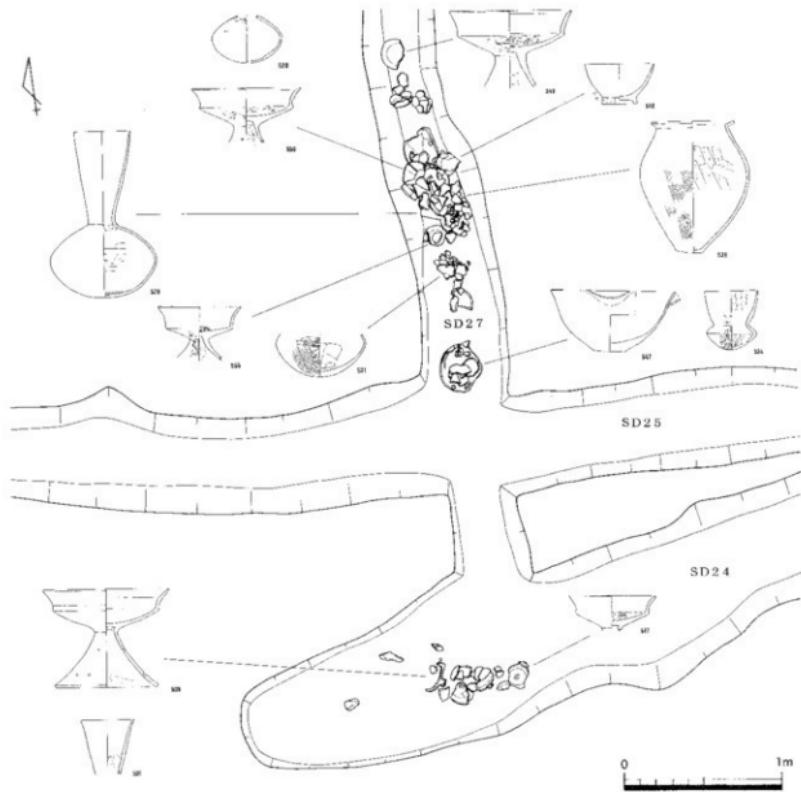
8区中央で検出した幅約50cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約9.5



- 1 黒褐色シルト質砂 (10122/2, SD24上層)
 2 第1層に地山をブロック状に含む (SD24下層)
 3 灰色シルト質砂 (G4/1, SD25上層)
 4 黒褐色シルト質砂 (G12/2, SD25中層)



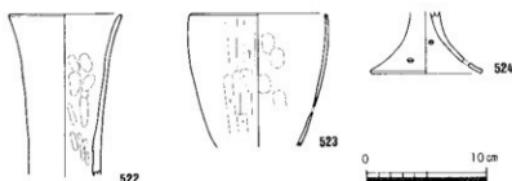
第117図 SD 24断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第118図 SD 24・27遺物出土状況図(縮尺1/30)

1 黒褐色シルト質埴離砂 (SD22/2, SD25 中層)
2 第1層に地山をブロック状に含む (SD25 下層)

0 1m
東側 西側



第119図 SD 25断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

mを測る。北北東～南南西にまっすぐにはびている。溝底の比高差はほとんどない。埋土は1層のみである。S D11と重複し、S D11より後出する。出土遺物は弥生上器細片のみで同化できるものはなかったが、S D21との関係が想定されることから、同じ弥生時代後期の可能性がある。

S D23 (第116図)

8区東で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約3.5mを測る。8区東端より調査区内に入り、わずかに湾曲しながら西南西にのびる。埋土は1層のみである。

出土した弥生土器高杯（498・499）は、口縁部にヨコナデが顕著だが外反しないで立ち上がり、脚端部をやや肥厚させており、様相3～4に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。底部（500）は、平底である。なお、高杯（497）は浅い杯部をもち498～500より古い時期のものであり、混入品と考えられる。

S D24 (第117・118・158図)

8区東で検出した幅70～90cm、深さ15～30cmを測る断面U字形の遺構で、調査区内で検出した長さは約5mを測る。8区東端より調査区内に入り、まっすぐ西南西にのびる。調査時は溝として分類したが、S D27と共に特徴をもち、土器が多く投棄されていることから、廃棄土坑と考えられる。埋土は2層に分かれる。S D25・27と重複し、これらより後出する。

出土した弥生上器の器種構成は、高杯（509～518）が多数を占め、次いで壺（503～506）、中形鉢（507）、小形鉢（508）などを見ることができる。壺は、肩が張って口縁部がうすく伸びるもので、様相5と考えられる。高杯は、杯部が深く口縁部は強いヨコナデで外反し、脚部も広がりを見せることから、様相5に相当する。中形鉢も、平底を残すものの丸底化が進んでおり、様相5の範囲に納まるものである。底部（519～521）は、平底および丸底のものが見られる。以上のことから、S D24は弥生時代終末期のものと考えられる。なお、細口壺（501）の破片は、直線的な口縁部をもち様相1～2に相当することから、混入品であろう。他に、砥石または叩き台と推定される石器（683）が出土している。

S D25 (第119図)

8区東で検出した幅約50cm、深さ約15～25cmを測る断面U字形の遺構で、調査区内で検出した長さは約7mを測る。8区東端より調査区内に入り、まっすぐ西南西にのびる。調査時は溝として分類したが、S D24・27と共に特徴をもつことから、土坑の可能性がある。埋土は2層に分かれる。S D24・27と重複し、S D27より後出し、S D24より先行する。

弥生土器細頸壺（522・523）が出土しており、522は頸部が細長く外反することから様相1～2に、523は頸部が短く内彎することから様相4に相当する。高杯（524）は小形の脚部片で、端部はうすくなっている。S D27→S D25→S D24と遺構が重複し、S D24が様相5、S D27が様相3に相当していることを考慮すると、細頸壺の時期である様相4となり、弥生時代終末期と考えられる。

S D27 (第118・120・121図)

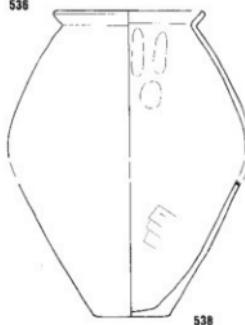
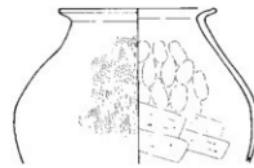
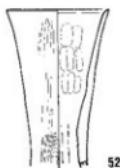
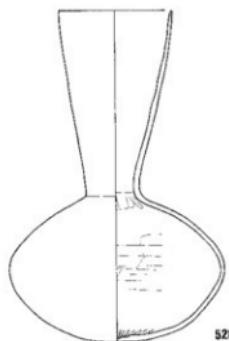
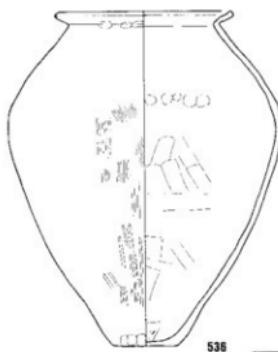
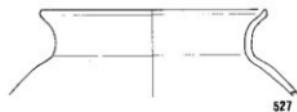
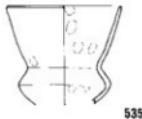
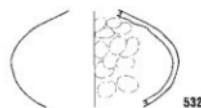
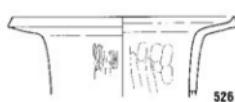
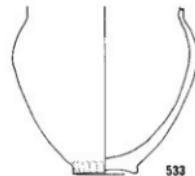
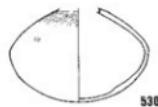
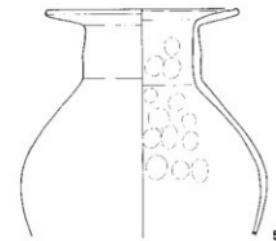
7～8区東で検出した幅約50～60cm、深さ約35cm、長さ約6m以上を測る断面U字形の遺構である。南北方向にまっすぐのびる。調査時は溝として分類したが、長さが短く、上器が多く投棄されていることから、廃棄土坑と考えられる。埋土は1層のみである。S D24・25と重複し、これらより先行する。

出土した弥生上器の器種構成は、広口壺（525～526）、壺（527）、細頸壺（528・530～532）、小形丸底土器（531・535）、壺（536～546）、中形鉢（547）、小形鉢（548）、高杯（549～555・557・558）など各器種を幅広く見ることができる。大鶴編年案で様相3に例示されていたもので、弥生時代後期後半と考えられる。広口壺は、頸部がまっすぐ立ち上がり口縁部が折れ曲がる。526は口縁端部のつまみあげを残す。細頸壺は、口縁部がわずかに内彎ぎみにまっすぐのび、扁平な球体の体部をもつ。528の底部内面には、

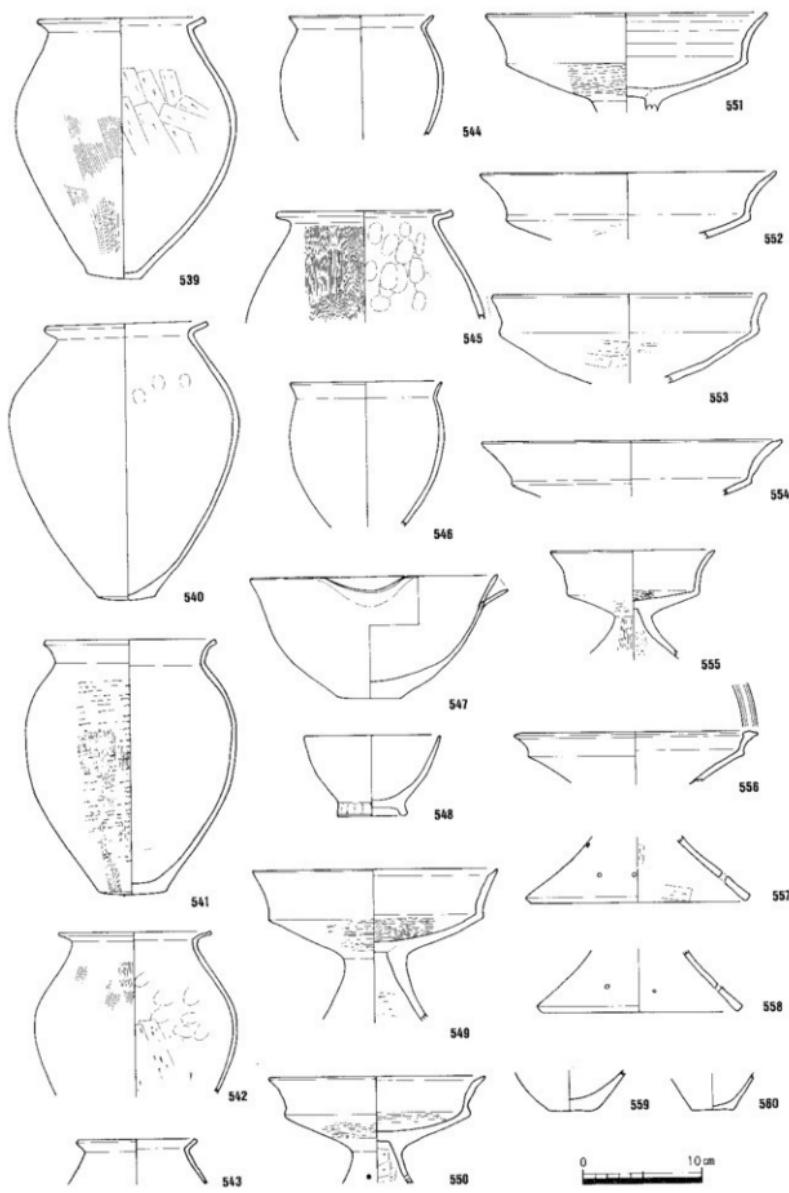
W E
1:0.7m

0 1m

1 黒褐色シルト質埴輪 (10122/2, S27)



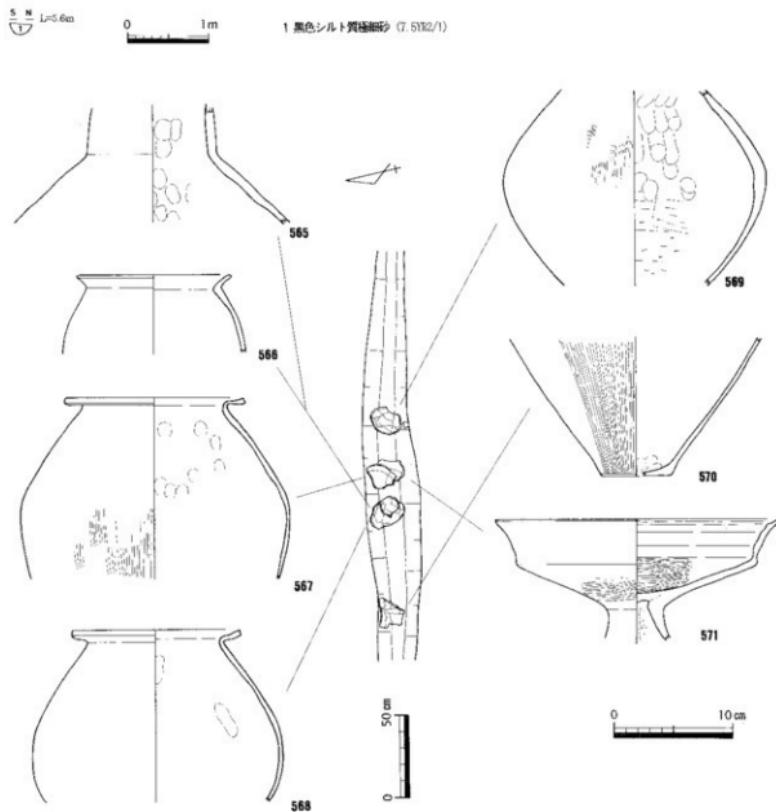
第120図 S D 27断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図①(縮尺1/4)



第121図 S D27出土遺物実測図②(縮尺1/4)



第122図 S D 32断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第123図 S D 35断面図(縮尺1/60)遺物出土状況図(縮尺1/30)出土遺物実測図(縮尺1/4)

棒状工具による刺突痕が残る。甕は、口縁部が太く短くのび、端部のつまみあげをわずかに残すものもある。底部は平底だが、少しふくらみが出ているものもある。高杯は、口縁部内面にヨコナデが施され、口縁部が斜めにまっすぐのびるもの外反するもの両者が見られる。555は、小形の高杯である。中形鉢は、

片口のもので、底部は角を残す平底である。小形鉢は、平底に高台がつくものである。なお、細口壺(529)の破片はわずかに外反する口頭部をもち様相1～2に相当し、高杯(556)は口縁端部に沈線化した凹線紋を施し後期前半に属することから、混入品であろう。

S D 32 (第122図)

7区南西で検出した幅約30～50cm、深さ約30cm、長さ約3mを測り、南北方向の断面U字形の溝である。埋土は2層に分かれ。S P 7-112と重複するが、前後関係は不明である。

出土した弥生土器壺(561・562)は、口縁部がややくらむが平底である。破片であり細かい時期決定は難しいが、様相3～4に相当し弥生時代後期後半のものと考えられる。

S D 35 (第123図)

7区東で検出した幅約35cm、深さ約15cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約6.5mを測る。7区東端より調査区内に入り、まっすぐ西南西にのびる。埋土は2層に分かれ。溝底の比高差は約5cmであり、東に向かって緩やかな傾斜をもつ。この溝は、S D 12・42連結溝にあたって終結し、S D 12とS D 36 (S D 42の延長)と並行しているが、S D 12が様相2～3に相当し、後述するようにS D 35が様相4～5に相当することから、同一時期のものではない。ただし、S D 36・42が様相5の時に再掘削されており、S D 35とS D 36・42は同時期の可能性がある。

出土した弥生土器は、壺(565)、壺(566～570)、高杯(571)が見られる。壺は、口縁部が直角に折れる広口壺の頭部と考えられる破片であり、様相4～5に相当する。壺は、やや肩がはり、口縁部はヨコナデが施されて水平近くになるものもあるが、底部は平底であり、様相4～5に相当する。高杯は、口縁部のヨコナデが頭部で外反し、壺・壺と同時期と考えられる。以上のことから、S D 35は弥生時代終末期のものと考えられる。

S D 37 (第124図)

7区北東で検出した幅約100cm、深さ約30cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約6.5mを測る。7区東端より調査区内に入り、湾曲しながら北西にのびる。埋土は3層に分かれ。この溝は、S D 142と同一の可能性があり、さらに分歧してS D 141が西に向かっている可能性がある。豊穴住居の周溝と推定され、S H 14・15の説明で周辺遺構との相互関係を述べている。S D 145・147と重複し、S D 147より後出し、出土した土器からS D 145より先行する。

出土した弥生土器は、高杯(572)が見られる。S D 141・142は様相2～3であることから、S D 35も同時期であり、弥生時代後期後半のものと考えられる。

S D 38 (第125図)

11区南西で検出した幅約40cm、深さ約15cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約3mを測る。11区南端より調査区内に入り、やや湾曲しながら西端より調査区外に出る。埋土は2層である。

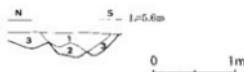
出土遺物は、弥生土器細片と石鐵(573)のみである。S D 38は弥生時代後期のものと考えられる。

S D 49 (第126図)

6区東で検出した幅約50cm、深さ約15cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。S D 50・53と重複するが、前後関係は不明である。出土した弥生土器は、底部(574)と製塩土器(575)が見られ、弥生時代後期のものと考えられる。

S D 53・82 (第54・62・63・137・159図)

5～6区東端で検出した幅約50～60cm、深さ約40cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さ



1 黒褐色シルト質粘土砂 (7.5M2/2)
2 第1層に地山をブロック状に含む
3 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5M2/1)



1 黒色シルト質粘土砂
2 黑褐色シルト質粘土砂



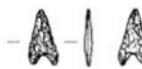
574



572

0 10 cm

第124図 S D 37断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/4)



573

0 5 cm

第125図 S D 38断面図
(縮尺1/60)出土遺物
実測図(縮尺1/2)



1 黒褐色シルト質粘土砂 (5M2/2)

第127図 S D 56断面図(縮尺1/60)



1 褐灰色シルト質粘土砂 (10M5/1)



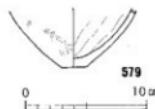
576



577



578



579



1 淡灰色シルト質粘土砂 (7.5M4/1)



580

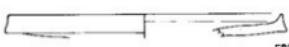


581



582

第128図 S D 60断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



582



584



586



583



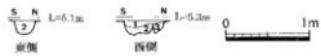
585



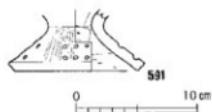
587

第129図 S D 66断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

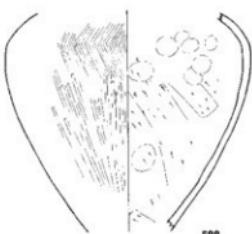
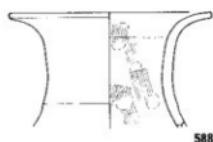
は約15mを測る。調査の都合上、S D55より南側をS D53、北側をS D82としたが、同一の溝である。S D46とS D48が交わる地点から、北東にまっすぐのび、5区東端で調査区外に出るかS D79へと続く。このS D53・82は、豊穴住居S H14・15の周溝S D46・48の排水を、旧河道S R01に導くための溝である。溝底の比高差は約20cmであり、北に向かって緩やかな傾斜をもつ。なお、S D46・48は時期差があり、S H14・15の項で述べたとおり、S D46は様相2~3、S D48は様相1~2に相当する。このことから、S D53・82も様相1~3に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。埋土は、S D82の個所で2層に分かれる。なお、S H12とS D49・50・55・62・63・79・109・138と重複し、S D63より後出し、S H12・S D55・62・79・109・138より先行し、S D49・50との前後関係は不明である。



- 1 褐色シルト質粘土砂 (7.5Y6/4, S.D74 上層)
- 2 暗褐色シルト質粘土砂 (7.5Y6/3, S.D74 下層)
- 3 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5Y6/2, S.D62)



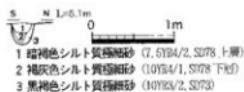
第132図 S D56・107出土
遺物実測図(縮尺1/4)



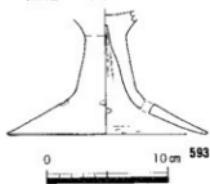
第131図 S D74断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



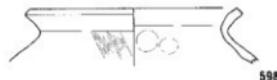
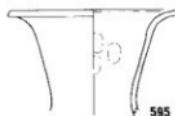
第133図 S D77出土 遺物
実測図(縮尺1/2)



- 1 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5Y6/2/1)



第134図 S D78出土遺物
実測図(縮尺1/4)



598



599



600



第135図 S D84出土遺物
実測図(縮尺1/4)

第136図 S D79断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

S D53より、弥生土器細片とともに、漁労用と考えられる石錐（684）が出土している。また、S D82において弥生土器（602～627）が出土したが、調査時はS D82を明確に認識して掘削できなかったため、S II12・S D109など他の遺構出土の遺物が数多く混入している。

S D56 (第127・132図)

5区中央で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約6mを測る。S H10・11周溝であるS D62の延長でありS D124に続くと考えられ、この場合、5区南西端より調査区内に入り、湾曲しながら北東にのび、5区東端で調査区外に出る。調査区内的総延長は、約23mである。埋土は1層のみである。S D36・55・107そしてS D109（S H22周溝）と重複し、S D55より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。弥生土器細片しか出土していないが、S D62の延長であることから同じ様相5と想定され、弥生時代終末期のものと考えられる。

S D60 (第25・128・159図)

5区西で検出した幅約90～100cm、深さ約15cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約13mを測る。5区西端より調査区内に入り、東に向かってまっすぐのびるが、途中で南に折れる。S D36へと続く可能性はあるが、断定できない。埋土は1層のみである。溝底の比高差はほとんどない。S H02、S D59（S H11周溝）・63・104（S H23周溝）・105・106・114・118と重複し、これらすべての遺構より後出する。

出土した弥生土器には、後期前半に属する細頸壺（576）、様相4～5に属する甕（577）、製塙土器（578）、底部（579）が見られるが、様相6に属するS H02より後出することから、S D60は様相6より後のものである。なお、土器以外に漁労用と考えられる石錐（685）が出土している。

S D66 (第129図)

5区北東で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約5.5mを測る。S H10周溝あたりから北東に向かってまっすぐのび、旧河道S R01に注いでおり、S H10周溝の排水溝の可能性がある。埋土は1層のみである。溝底の比高差はほとんどない。S H11・S D59（S H11周溝）・72と重複し、S D72より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器のうち、甕（580）は外面に叩きを有するもので、口縁部の屈曲が鋭く、口縁部と体部最大径が近いことから様相5前後に相当する。底部（581）は丸底化が見られる平底であり様相4～5に相当する。以上のことから、S D66は弥生時代終末期と考えられる。

S D66・67・80・81付近出土遺物 (第130図)

5区北東に所在するS D66・67・80・81付近から弥生土器が多く出土したが、調査時は出土遺物がどの遺構に属するのか判断できなかったので、ここで一括して代表的なものを報告する。広口壺（582）は口縁部が水平近く長くのびるもので様相5に相当する。甕（583）は外面に叩きを有するもので、口縁部の屈曲が鋭く、口縁部と体部最大径が近いことから様相5に相当する。鉢（585）は丸底だがわずかに平底を残し様相4～5に相当する。これらの土器は、弥生時代終末期に属するものである。

S D74 (第131図)

4区北西で検出した幅約40cm、深さ約15cmを測る断面逆台形の溝で、調査区内で検出した長さは約10.5mを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび、旧河道S R01に注いでおり排水溝である。溝底の比高差は約20cmであり、東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は2層である。S D72・92と重複し、S D72より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器のうち、広口壺（588）は頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので、後

期前半末～様相1の段階で見ることができる。甕(589)は口縁部が短く端部を上下にやや拡張させることから、広口壺と同じ頃と考えられる。一方、甕(590)は肩が張り体部下にやや膨らみがあり様相5に相当する。出土遺物が少ないと、2時期に分かれるため時期決定は難しいが、後期前半末～後半初頭に属するSD92を壞していることから、その時期の遺物が混入した可能性があり、この場合SD74は弥生時代終末期と推定される。

SD77(第133図)

3区南西で検出した幅約40cm、深さ約15cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。SH07周溝付近から東に向かってまっすぐのび、旧河道SR01に注いでいることから、SH07周溝の排水溝である可能性がある。SD72・73(SH06周溝)と重複し、SD73より後出し、SD72より先行する。出土遺物は、碧玉製管玉(592)のみである。

SD78(第134図)

3区南西で検出した幅約30cm、深さ約25cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。調査区西端近くから東北東に向かってまっすぐのび、旧河道SR01に注いでおり排水溝であろう。埋土は2層である。SD72・73(SH06周溝)と重複し、SD73より後出し、SD72より先行する。

出土した弥生土器のうち図化できたのは高杯(594)のみで、脚部が途中折れ曲がってラッパ状に開き、弥生時代終末期と考えられる。

SD79(第136図)

5区北東で検出した幅約40cm、深さ約15cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約6mを測る。後述するようにSD82と時期が近いことから、SD82の延長にあたる可能性がある。SD63・80・81と重複し、SD63より後出すが、SD80・81との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は、広口壺(595)・甕(596～598)・高杯(599・600)・底部(601)が見られる。広口壺は、口縁部がラッパ状に開くもので様相1～2に相当する。甕は口縁部が短く、高杯も口縁部があまり長くなく、底部も平底で角を明瞭に残すことから、広口壺と同じ頃と考えられる。以上のことから、SD79は弥生時代後期後半のものと考えられる。

SD84(第135図)

5区北東で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。SD72・79・83と重複し、SD72より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は甕(594)のみで、弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

SD85(第138図)

5区北東で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。SH11側壁あたりから東に向かってまっすぐのびている。SH11・SD59(SH11周溝)・72・80・81・116と重複し、SD72より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

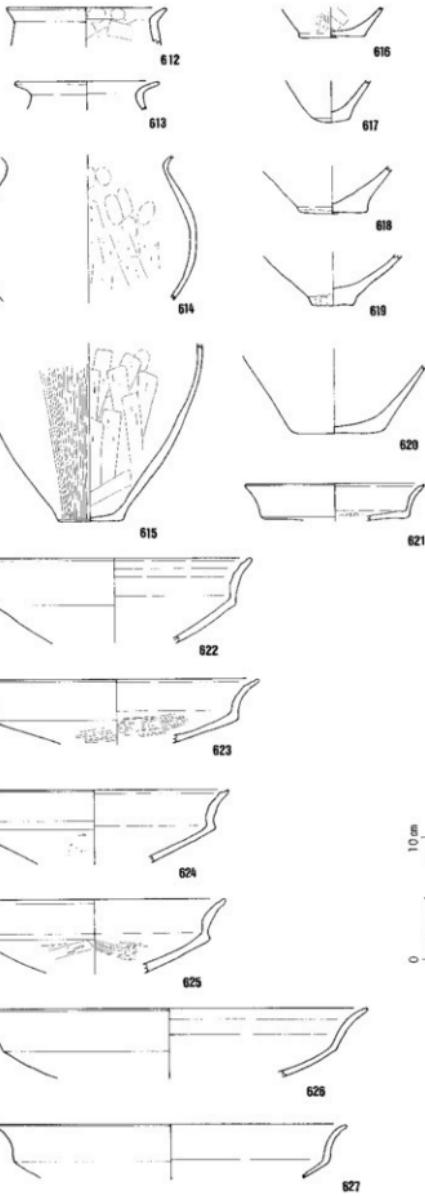
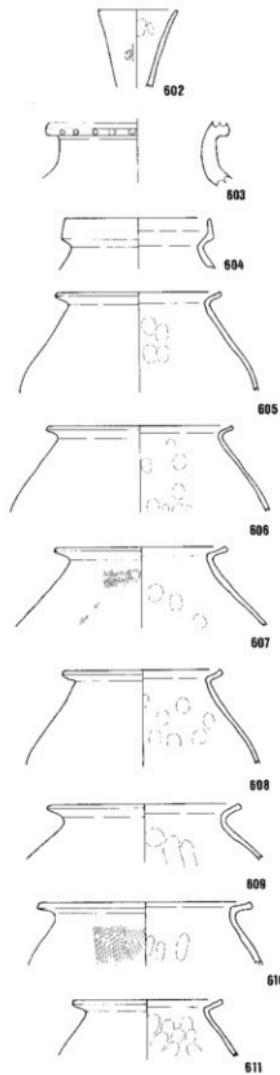
出土した弥生土器は、壺(628・629)・紡錘車(630)である。壺は、口縁部が水平近くに折れ、やや肩が張って体部下に膨らみが出始めるが、底部はまだ平底であり、様相4～5に相当する。紡錘車は上器の再利用品だが、中央の穿孔は貫通していない。以上のことから、SD85は様相4～5に相当し、弥生時代終末期と考えられる。

SD87(第139図)

3区南西で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約3mを測る。南西～北東にまっすぐのびる。SX02・SD72と重複するが、前後関係は不明である。



1 黑褐色シルト質粘土砂 (7.5M3/1)
2 黑褐色細砂 (7.5M3/1)



第137図 S D 82断面図(縮尺1/60) S D 82(S H12・S D109)付近出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土した弥生土器は、製塙土器（631・632）・小形土器（633）で、弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

S D 88 (第140図)

3区南西で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約4mを測る。南北～北東に蛇行しながらのびる。SH 05～07と重複するが、前後関係は不明である。

出土した弥生土器は、高杯（634・635）・底部（636）で、弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

S D 92 (第141図)

4区北西で検出した幅約30cm、深さ約20cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約6mを測る。調査区内端から北東に向かって弧を描きながらのびており、堅穴住居に伴う周溝の可能性もある。SH 08・S D73（SH 06周溝）・74・91・95と重複し、SH 08・SD 73（SH 06周溝）・74より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は、広口壺（636）・甕（637）・底部（638）である。広口壺は、頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので、後期前半～様相1の段階で見ることができる。甕は口縁部が短く端部を上下にやや拡張させ、広口壺と同じ頃と考えられる。底部も平底で、広口壺・甕と同じ頃である。以上のことから、SD 92は弥生時代後期前半～後半初頭と考えられる。

S D 93 (第142図)

4区南で検出した幅約30～60cm、深さ約30～40cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約9.5mを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび、旧河道SR 01に注いでおり排水溝である。溝底の比高差は約20cmであり、東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は2層である。SH 04・09とSD 72と重複し、これらすべての遺構より先行する。

出土した弥生土器のうち、広口壺（639）は頸部が筒状でさらに口縁部が外反しながら開くもので、後期前半～様相1の段階で見ることができる。甕（640）は口縁端部を上下に拡張させ退化した凹線文を施しており、後期前半である。甕（641）は外側に叩きが施されるもので、底部が平底であり、広口壺と同じ頃かや新しいものと考えられる。製塙土器は底部のつくりが丁寧で体部外面にヘラケズリを施しており、他の遺物と同じ頃と考えられる。以上のことから、SD 93は弥生時代後期前半～後半初頭と推定される。

S D 94 (第143図)

4区北西で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1mを測る。調査区西端から北東に向かってまっすぐのびている。SD 73（SH 06周溝）・95・96と重複するが、前後関係は不明である。

出土した弥生土器は、壺（643）・甕（644）である。甕は口縁部が短いことから、弥生時代後期後半に属すると考えられる。

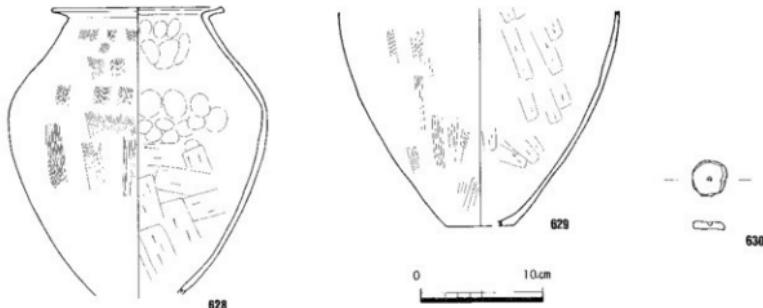
S D 97 (第144図)

4区北西で検出した幅約20～50cm、深さ約15cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約2mを測る。調査区西端から南東に向かってのびている。SD 73（SH 06周溝）と重複するが、前後関係は不明である。

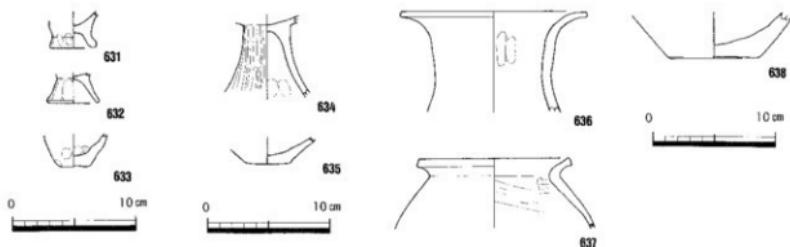
出土した弥生土器は底部（645）のみで、弥生時代後期後半～終末期に属すると考えられる。

S D 100 (第145図)

4区南で検出した幅約30～60cm、深さ約30～40cmを測る断面逆台形の溝で、調査区内で検出した長さは約14mを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび、旧河道SR 01に注いでおり排水溝である。溝



第138図 S D 85出土遺物実測図(縮尺1/4)



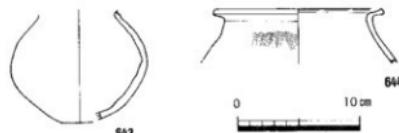
第139図 S D 87出土
遺物実測図(縮尺1/4)

第140図 S D 88出土
遺物実測図(縮尺1/4)

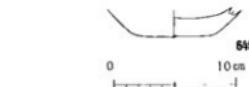
第141図 S D 92出土遺物実測図(縮尺1/4)



第142図 S D 93断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第143図 S D 94出土遺物実測図(縮尺1/4)



第144図 S D 97出土遺物実測図(縮尺1/4)

底の比高差は約20cmであり、東に向かって緩やかな傾斜をもつ。埋土は2層である。S H04とSD72・99(S H03周溝)と重複し、これらすべての遺構より先行する。

出土した弥生土器は、広口壺(646・647)・甕(648~651)・底部(652)がある。広口壺(647)は口縁部が直角近くに折れ曲がるもので、様相4~5に相当する。甕(648~650)は、口縁部が強く折れ、様相4~5に相当する。底部は平底だが丸みを帯びており、様相4~5に相当する。以上のことから、SD100は弥生時代終末期と考えられる。

S D103 (第146図)

5区中央で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1.5mを測る。

出土した弥生土器は、中形鉢(653)・高杯(654)・底部(655・656)がある。中形鉢は、口縁端部の屈曲が弱く、様相5~6に相当する。底部は、平底だが丸底化が進んでおり、様相4~5に相当する。以上のことから、SD103は弥生時代終末期と考えられる。

S D113 (第147図)

5区中央で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約0.7mを測る。

出土した弥生土器は、中形鉢(657)・底部(658・659)がある。この中形鉢は、大形鉢と形態が共通するもので、口縁部がうすく長くなっている、様相5~6に相当する。底部は、丸底だが平底が残っており、様相6に相当する。以上のことから、SD113は古墳時代前期初頭と考えられる。

S D114 (第148・159図)

5区中央で検出した幅約15cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1.4mを測る。

出土した弥生土器は、底部(660)のみで平底であり、弥生時代後期後半~終末期と考えられる。また、叩き石と推定される石器(687)も出土している。

S D119・120 (第149図)

5区南西で検出した溝で、SD119は幅約25cm、深さ約10cm、長さ約4mを測る。SD120はSH19周溝である。SD119とSD120は重複しているが、前後関係は不明。

SD119・120重複地点より、弥生土器高杯(661)が出土しており、弥生時代終末期と考えられる。

S D121 (第150図)

5区中央で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約1mを測る。SD59(S H11周溝)と重複するが、前後関係は不明である。ガラス玉(662)が出土しており、弥生時代後期~終末期に属すると考えられる。

S D124 (第151図)

5区西で検出した幅約80cm以上、深さ約30cmを測る溝だが、後世のSD55により大部分が破壊され、長さは不明である。SD55・131と重複し、これらより先行する。甕(663)が出土しており、弥生時代終末期~古墳時代前期初頭と考えられる。

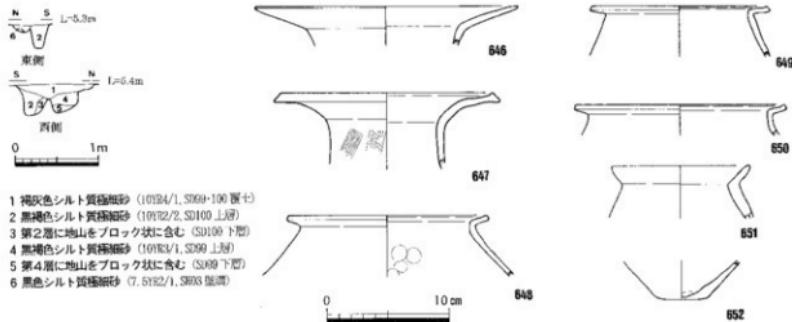
S D132 (第152図)

6区北西で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約2.8mを測る。SD134と重複するが、前後関係は不明である。

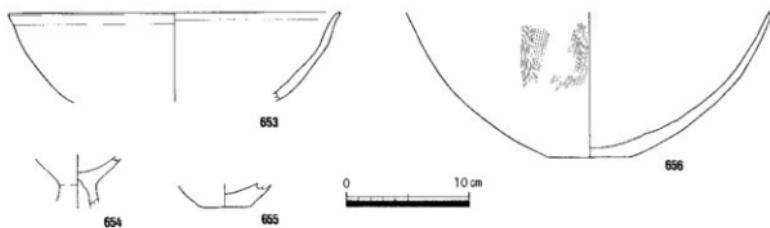
出土した弥生土器は、広口壺(664)・底部(665)がある。広口壺は、口縁端部に施される凹線文が省略化されており、底部は角がとれた平底であり、弥生時代後期後半と考えられる。

S D133 (第153図)

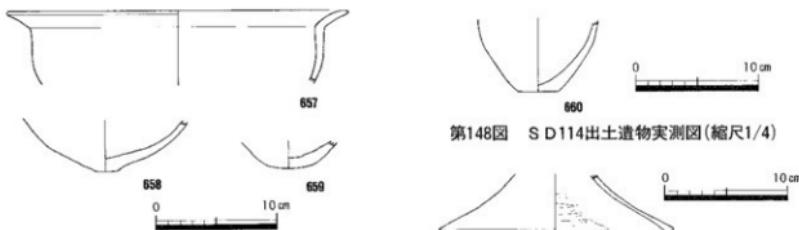
6区北西で検出した幅約20cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約3.3mを測る。



第145図 S D 100断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第146図 S D 103出土遺物実測図(縮尺1/4)

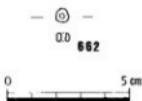


第147図 S D 113出土遺物実測図(縮尺1/4)

第148図 S D 114出土遺物実測図(縮尺1/4)



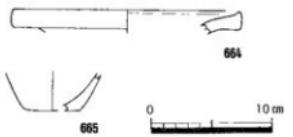
第149図 S D 119・120出土遺物実測図(縮尺1/4)



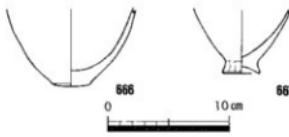
第150図 S D 121
出土遺物実測図
(縮尺1/2)

第151図 S D 124断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

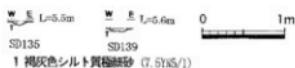




第152図 S D 132出土遺物実測図(縮尺1/4)

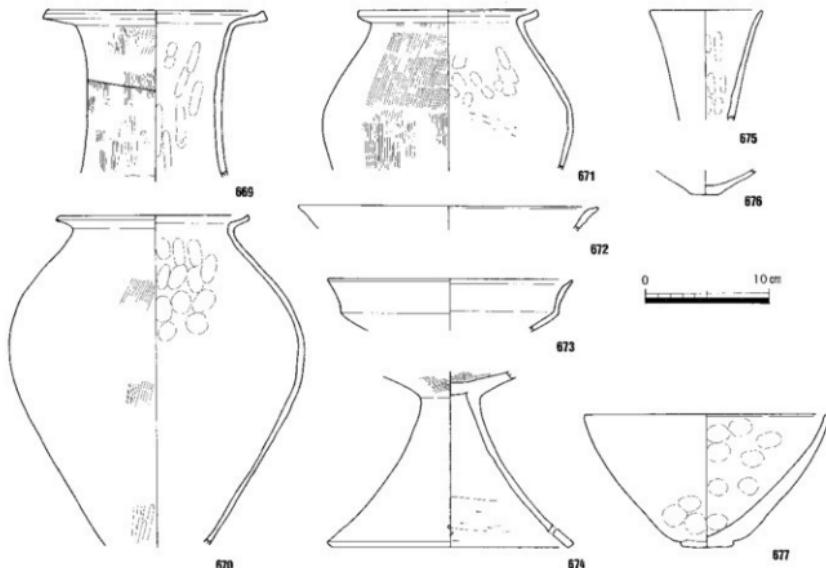


第153図 S D 133出土遺物実測図(縮尺1/4)

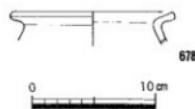


第154図 S D 135+139断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

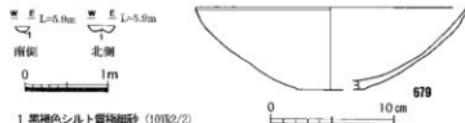
1 黒褐色シルト質粘土砂 (T.S135/1)
2 第1層に地山をブロック状に含む



第155図 S D 141断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第156図 S D 148出土遺物
実測図(縮尺1/4)



第157図 S D 154断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

出土した弥生土器は、底部の破片（666・667）で、666は膨らみが出た平底であり、様相4～5に相当する。667は上げ底で鉢の底部と考えられ、様相3に相当する。出土遺物に時期差があり、弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

S D135・139（第154図）

5～6区中央で検出した幅約25～30cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約3.5mを測る。S D55により南北に分断されており、そのため遺構番号が別々となった。出土した弥生土器は底部（668）のみで、弥生時代後期後半頃と考えられる。

S D141（第155図）

6区南西で検出した幅約50～60cm、深さ約30cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約8.5mを測る。調査区西端から東に向かってまっすぐのび、S D37（SH14・15周溝）につながる。SH14・15変遷の第1段階で説明したとおり、おそらく調査区外の西にある堅穴住居からSH14・15周溝に排水を流す目的をもっている。溝底の比高差はほとんどない。埋土は2層である。S D42と重複し、S D42より先行する。

出土した弥生土器は、長頸壺（669）・甕（670・671）・高杯（672・674）・細頸壺（675）・底部（676）・鉢（677）がある。長頸壺は、口縁部が直角近くに折れ長いことから、様相2に相当する。甕は、口縁部が短く、肩の張りもないことから、様相2前後に相当する。高杯は、口縁部が短く、脚部の聞きも少ないことから、様相2前後に相当する。細頸壺は、口頸部がわずかに外反することから、様相1～2に相当する。鉢は、高台状の出っ張りをもつ平底であり、様相1～2に相当する。以上のことから、S D141は様相2に相当し、弥生時代後期後半と考えられる。

S D148（第156図）

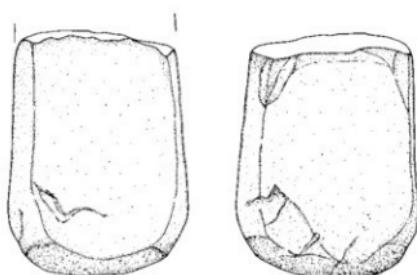
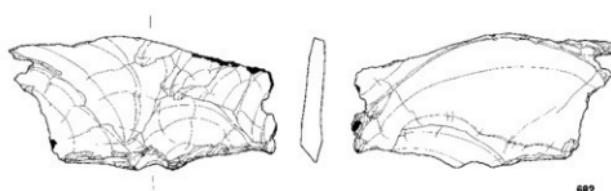
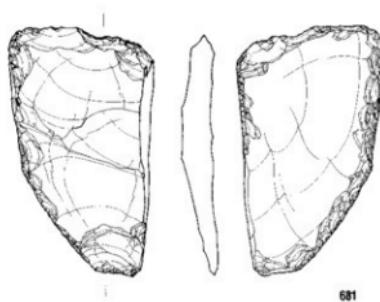
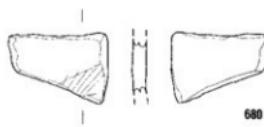
6区中央で検出した幅約30cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約2.5mを測る。S D42・44・142と重複し、前後関係は不明である。

出土した弥生土器は甕（678）のみで、口縁部が短く端部を肥厚させており、弥生時代後期後半と考えられる。

S D154（第157図）

11区北西で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約1.4mを測る。S D05・41・55と重複し、S D55より先行するが、他の遺構との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は鉢（679）のみで、浅い器形に平底を残しており、様相4～5に相当し、弥生時代終末期と考えられる。

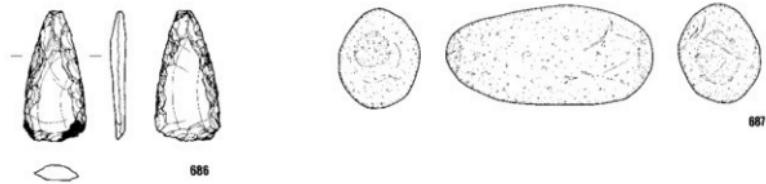
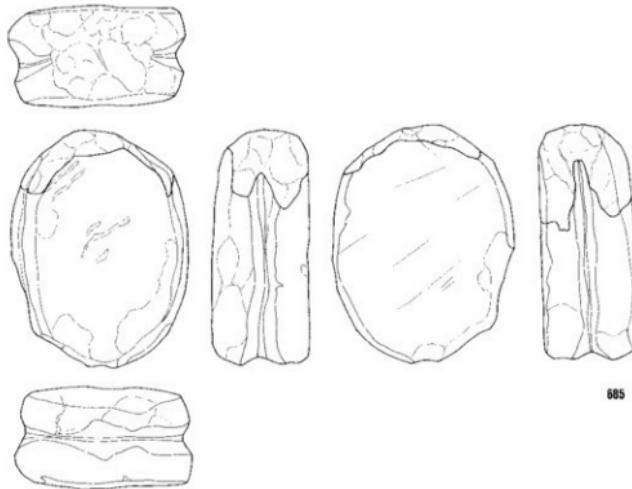
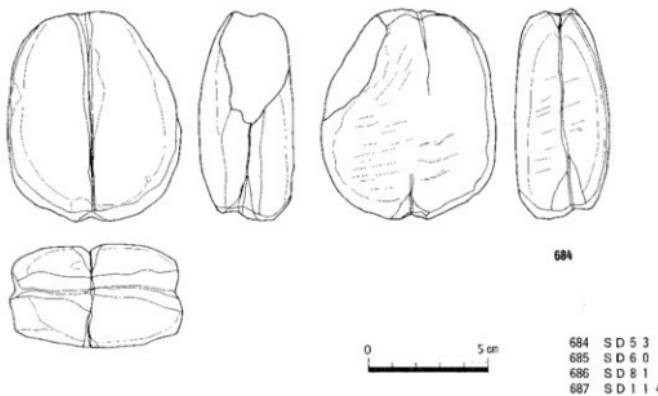


680 SD 0 1
681 SD 0 4
682 SD 0 9
683 SD 2 4



0 5 cm

第158図 SD 01・04下層溝・09・24出土絵画土器・石器実測図(縮尺1/2)



第159図 SD 53・60・81・114出土石器実測図(縮尺1/2)

(7) 柱穴

微高地において、総計約900基の柱穴を確認している。そのうち、堅穴住居・掘立柱建物跡・樹列の柱穴が一部あったが、残りについては用途不明である。ただし、後述する S P 5-02 のように土器埋納を目的としたものもある。柱穴の所属時期については、弥生時代～古代という広い範囲で捉えられるものであるが、ここでは柱穴から出土した弥生時代後期～古墳時代前期初頭の土器を中心に報告する。また、詳細な時期は不明だが、柱穴から出土した鉄器・石器についても合わせて報告する。

S P 5-02 (第160図)

5区中央で検出した土器埋納ピットである。柱穴の平面は、東に向かって尖る不整な円形である。埋土は2層に分かれ、下層において土器が集中して廃棄された状態で見つかった。S H03と重複し、出土土器は S P 5-02の方が新しいことから、S H03より後出す。

出土した弥生土器は、壺(688～691)を主体としており、これに製塙土器脚部(692)が混じる。壺は、口縁部が直立または斜めにまっすぐのび、体部は球形で、底部は完全な丸底である。なお、691の底には焼成前の穿孔が見られる。S H03様相6の次の段階、大久保編年によれば讃岐⑦段階に相当し、古墳時代前期と考えられる。

S P 4-116 (第161図)

4区南西で検出した。柱穴の平面は、東西に長い楕円形である。S H04・S D93と重複し、出土土器が S D93より S P 4-116の方が新しいことから S D93より後出す。S H04との前後関係は不明である。

出土した弥生土器は、壺(699)・鉢(698)・底部(697・700)である。壺は、口縁端部のつまみあげがなく、やや肩が張っている。底部は、平底だが少しふくらみが出ている。これらの特徴から、様相4に相当し、S P 4-116は弥生時代終末期と考えられる。

S P 6-63 (第162図)

6区南東で検出した。柱穴の平面は円形である。S H14・15と重複し、S H14が址と近接するが、前後関係は不明である。

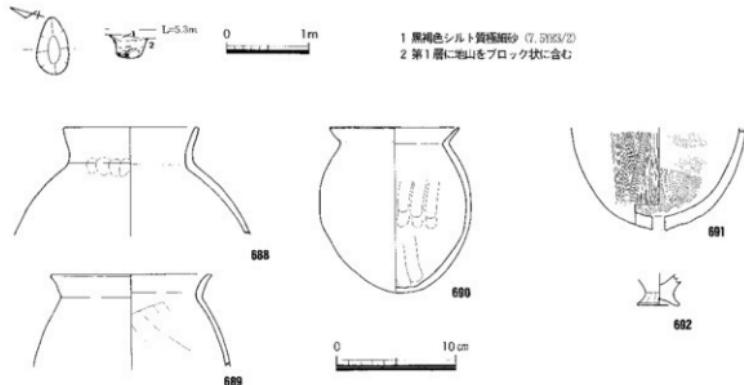
出土した弥生土器は、壺(712)・蓋(713)・大形鉢口縁部(716)である。このうち、壺と蓋は弥生時代前期中頃に属するものである。一方、大形鉢は、口縁部がほほまっすぐ短く立ち上がるるもので、様相4に相当し、弥生時代終末期と考えられる。時代の古い前期のものが混入している可能性もあるが、近くに前期の遺構がないため、前期・後期どちらの土器が混入品かは判断できない。

その他の柱穴 (第161・162図)

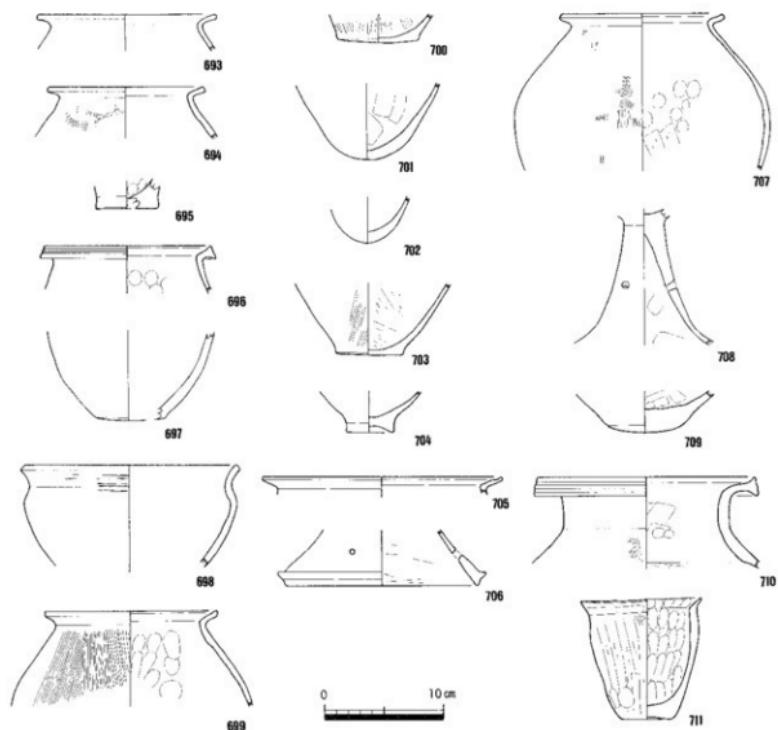
上記で報告した以外の柱穴と出土遺物の対比は次のとおりである。

693 S P2-07	694 S P4-03	695 S P4-49	696 S P4-88	701 S P5-21	702 S P5-23	703 S P5-22
704 S P5-24	705 S P5-31	706 S P5-40	707 S P5-66	708 S P5-93	709 S P5-114	710 S P5-146
711 S P6-30	714 S P7-109	715 S P7-110	717 S P7-50	718 S P7-69	719 S P7-78	720 S P7-100
721 S P8-17	722 S P9-84	723 S P4-06	724 S P7-04			

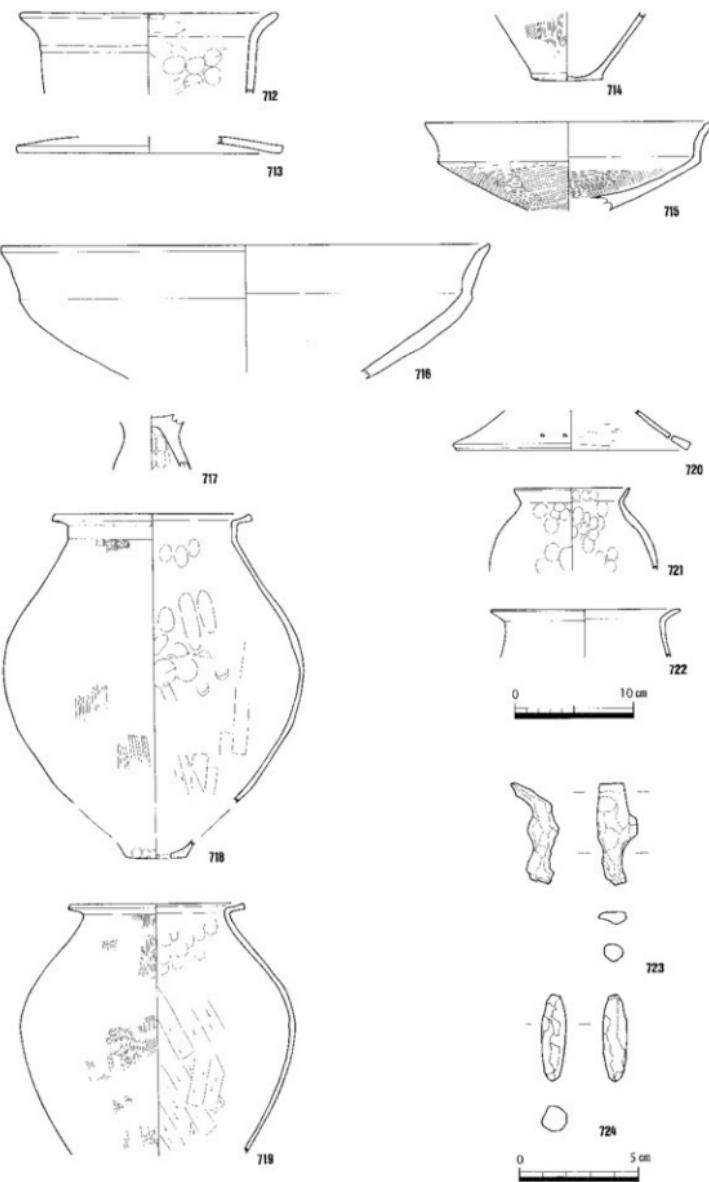
これらのうち、696壺・706高杯・710広口壺は、口縁端部や脚端部を拡張させ、退化した凹線文を施しており、弥生時代後期前半と考えられる。711ミニチュア土器は完形品である。718壺は、全体の約半分が残存していた破片で、図面上で復元している。723鉢器は、S字状の形状を呈し、厚さはやや薄く、用途不明品である。724石器は、全体に研磨を施していると思われるが、用途不明品である。



第160図 SP 5-02平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第161図 柱穴(SP)出土遺物実測図①(縮尺1/4)



第162図 柱穴(S-P)出土遺物実測図②(縮尺1/4, 1/2)

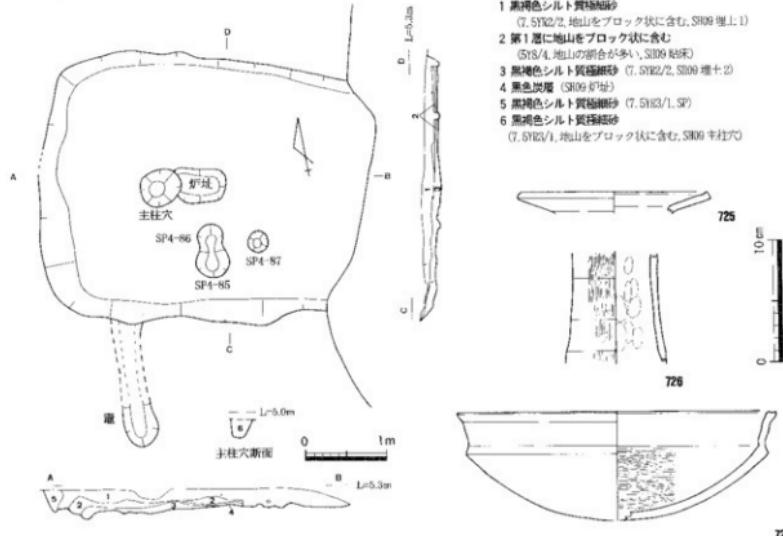
第5節 飛鳥時代～鎌倉時代の遺構と遺物

飛鳥時代（古墳時代後期）～鎌倉時代と考えられる堅穴住居1棟・溝5条・土坑1基を微高地上で、水田1面を小谷で検出した。水田は、弥生時代後期の旧河道を埋めている上層直上に営まれたものである。また、調査区とは離れて、約140m西の地点において、鎌倉時代の土坑1基を不時発見している。

S H09 (第163図)

4区中央で検出した南北3.3m、東西4.2m以上を測る方形の堅穴住居で、深さは約30cmを測る。旧河道S R01と接しており、東の側壁は旧河道埋没土との区別がつかず調査では検出できなかった。床面積は約14m²以上である。床面は2面確認しており、少なくとも1回の建替えが想定できる。第1次面（下層）では、中央に楕円形の炉を設けている。床面では4基の柱穴を確認しているが、整然と並んでいない。第2次面（上層）では、炉・柱穴とも判然としなかった。南西隅で竈を確認している。竈の焚き口は壊されたのか確認できず、堅穴住居南西隅から南にまっすぐのびる煙道を確認した。煙道は、幅30cm、深さ20cm、長さ約1.5mを測る。埋土のうち、第1層が2次面の埋没土、第2層が第2次面貼床、第4層が第1次面の炉址である。S D93と重複し、S D93より後出する。

出土遺物は、弥生土器広口壺（725）、長頸壺（726）、中形鉢（727）が出土している。これら出土遺物の年代に従えば、S H09は弥生時代後期～終末期の堅穴住居となる。ただし、弥生時代にはまだ竈が出現しておらず、香川県内の類例からは古墳時代後期～飛鳥時代に竈を付設した堅穴住居を見ることができる。S H09に隣接する旧河道S R01が埋没した後には、後述する飛鳥時代～奈良時代初頭の水田が営まれております、S H09も同じ時期の遺構と判断される。出土した弥生土器は、付近にあった弥生時代の遺構からの混入品と考えられる。



第163図 S H09平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

S D01 (第164図)

11区南西で検出した幅約50~60cm、深さ約20cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約8mを測る。調査区西端から南東に向かってやや蛇行しながらび、ふたたび南端より調査区外に出る。埋土は黒褐色シルト質極細砂の1層のみである。

出土遺物を概観すると、土師器杯（728）は半球形のものである。土師器壺（729）は口縁部の破片で、球形の体部をもつものと推定される。須恵器壺（730）は底部の破片である。須恵器壺（731・732）は頸部と体部の破片で、同一個体と推定される。7世紀後半頃と推定され、飛鳥時代頃と考えられる。なお、混入品で弥生時代の絵画土器片（第158図680）も出土している。

S D04 (第165・175・176図)

11区北で検出した幅約120cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約16mを測る。調査区西端から東端にかけて、N100°Eの方位をもってまっすぐのびており、付近に残る条里地割と方位がほぼ一致する。香川郡1条18里10坪と15坪の坪界線より、北に15mの位置にある。埋土は黒褐色シルト質極細砂で1~3層に分かれる。

出土遺物には、弥生土器細片がある。出土遺物に従えば、所属時期は弥生時代となるが、このS D04が条里地割と方位を同じくすることから、古代以降のものと考えられる。弥生土器は付近にあった弥生時代の遺構からの混入品と推定される。さらに、S D04の所属時期を細かく検討すると、S D01や後述するS D72は飛鳥時代~奈良時代初頭と推定される遺構だが、条里地割とは一致せず、この頃はまだ条里地割がこの地に及んでいなかったと考えられる。一方、S D04の埋土は土壤化が進んだ黒褐色シルト質極細砂であり、中世後半~近世の遺構に見られる灰色細砂などとは区別できる。以上のことから、S D04は平安~鎌倉時代頃と推定される。

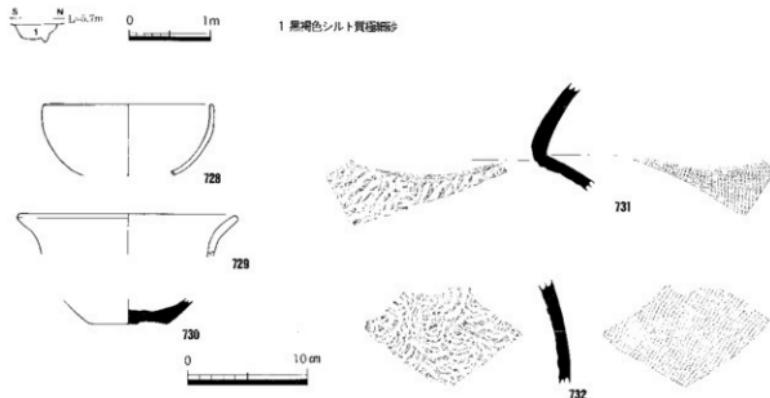
S D55 (第167・175・176図)

5区南と6m街路区で検出した幅約110~150cm、深さ約20~50cmを測る断面逆台形の溝で、調査区内で検出した長さは未発掘部分を合わせて約30mを測る。調査区西端から東端を通って6m街路区に抜けてN104°Eの方位をもってのびており、付近に残る条里地割と方位がややずれるが、溝の場合は多少のぶれが出るのではほほ一致する範囲であろう。香川郡1条18里18坪と22坪の坪界線より、北に13mの位置にある。埋土は黒褐色または灰褐色のシルト質極細砂で1~2層に分かれる。

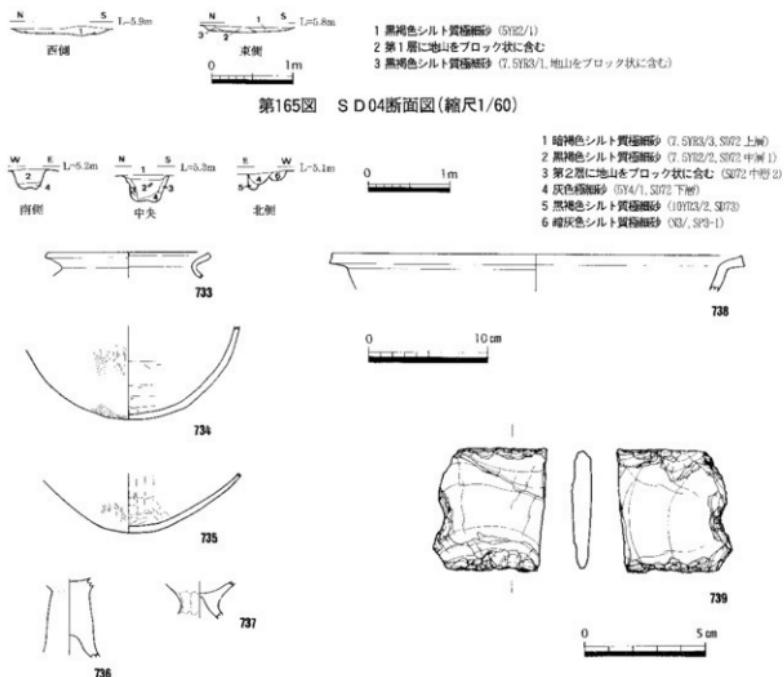
出土遺物には、弥生土器がある。弥生時代後期前半~終末期にかけての遺物が混在してあるが、終末期のものが主体を占める。出土遺物に従えば、所属時期は弥生時代終末期となるが、このS D55が条里地割と方位を同じくすることから、古代以降のものと考えられる。また、付近に密集している弥生時代の溝は、軸が狭く平面が円形を描くことを基調としているのに対して、S D55は幅広でほほ直線であることからも、弥生時代の溝と性格を異にする。弥生土器は付近に密集している弥生時代の遺構からの混入品と推定される。さらに、S D55の所属時期を細かく検討すると、S D04で述べたように飛鳥~奈良時代はまだ条里地割がこの地に及んでいなかったと考えられ、一方S D55の埋土は土壤化が進んだ黒褐色シルト質極細砂であり、中世後半~近世の遺構に見られる灰色細砂などとは区別できる。以上のことから、S D55は平安~鎌倉時代頃と推定される。

S D72 (第166図)

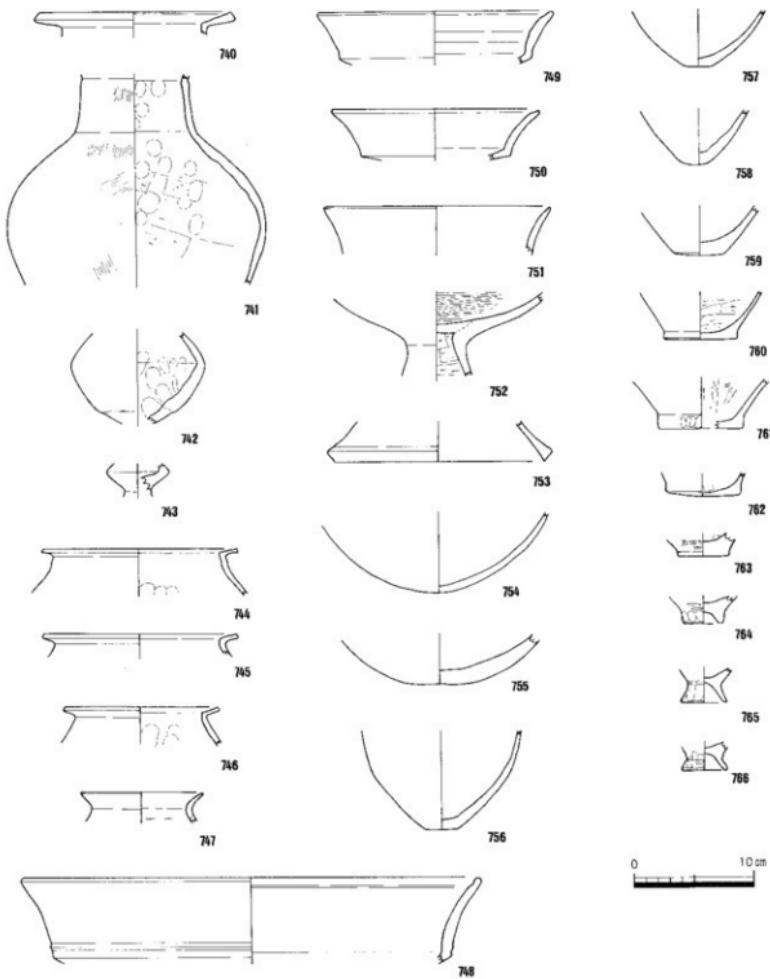
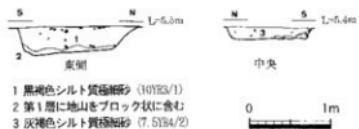
3~5区で検出した幅約50cm、深さ約30cmを測る断面逆台形の溝で、調査区内で検出した長さは約50mを測る。5区東端から微高地の縁辺に沿って蛇行しながら北北西にのび、途中S II09を避けて迂回し、3区西端で調査区外に及ぶ。溝底の比高差は約25cmで、南から北に向かって緩やかに傾斜している。埋土は



第164図 S D 01断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第165図 S D 04断面図(縮尺1/60)



第167図 S D 55断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

4層に分かれる。

出土遺物には、弥生土器と打製石底丁がある。出土遺物に従えば、所属時期は弥生時代終末期となるが、このS D72が飛鳥時代～奈良時代初頭に属するS H09を差して迂回していること、重複する弥生時代の各遺構より後出することを考えると、S H09と同じ飛鳥時代～奈良時代初頭と推定できる。

さらに、微高地に隣接して後述する水田があり、S D72が水田鋪の微高地縁辺に沿っていることを考慮すると、水田への配水を目的として掘削された可能性がある。

S D131 (第168図)

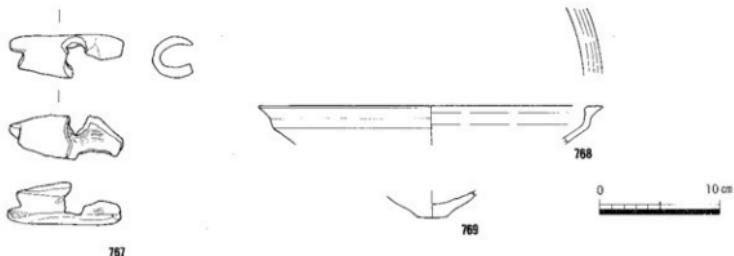
6区北西で検出した幅約40cm、深さ約10cmを測る溝で、調査区内で検出した長さは約2.7mを測る。S D55とほぼ直角に交わるが、同時に併存していたかは不明である。出土遺物には、弥生土器高杯 (768)・底部 (769) と不明土器 (767) がある。高杯は弥生時代後期前半、底部は終末期に属する。不明土器は、中空のもので土馬の可能性があるため、S D131を古代の遺構と推測した。

S K04 (第169図)

4区中央、S H09に隣接して検出した土坑で、南北0.7m、東西0.7m、深さ0.2mを測る円形である。埋土は、2層に分かれる。このS K04から弥生土器堀 (770) が出土しており、調査時は弥生時代後期のものと考えた。しかしながら、飛鳥時代～奈良時代初頭の竪穴住居S H09からのびる竪道が、S K04の下を潜っていることから、S H09より後出するものと考えられる。

不定形小区画水田 (第170～172図)

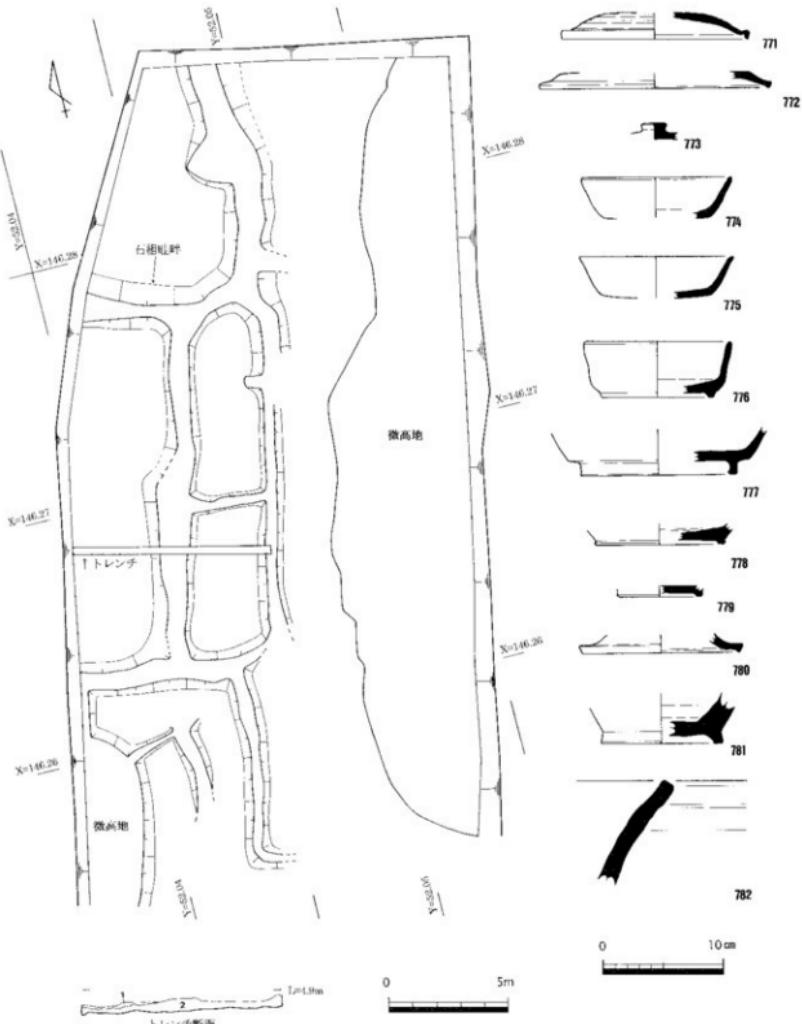
1～3区の小谷において検出した水田遺構である。水田は、東西を微高地に挟まれ、北西方向に向かって調査区外へと広がり、南では後世の削平を受けて途中で消失している。地形的には、南から北に向かって下る。小谷埋土層での位置は、第8図に示すとおり、第6層上面において畦畔を確認した。なお、第6層より下には、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の旧河道S R01が所在し、水田耕作が一部、旧河道埋土まで達している。



第168図 S D131出土遺物実測図(縮尺1/4)



第169図 S K04平面・断面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)

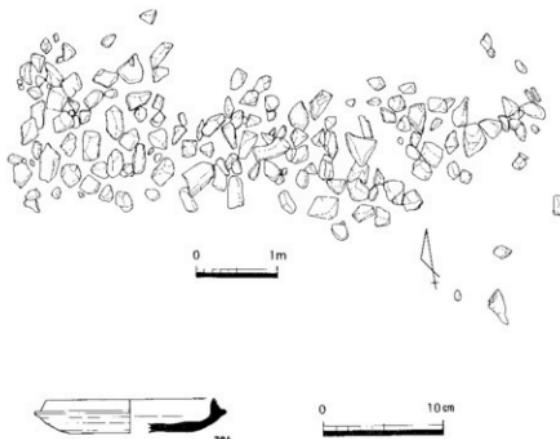


第170図 不定期小区画水田平面図(縮尺1/200)
断面図(縮尺横1/200, 縦1/100)
出土遺物実測図(縮尺1/4, 1/2)

水田を区画する畦畔の南北方向は、小谷の地形に沿って設定されており、直線を維持しながらも地形に沿って蛇行している。南北方向の畦畔に直行して東西方向の畦畔が存在している。区画内の比高差は約3cm程度である。畦畔の規模は幅70~200cm、高さ6~8cmを測る。畦畔を途中で切る水口がないことから、給水方法は「畔越し」によると考えられる。

検出された水田の総区画数は5区画である。面積が最大のもので50m²以上、最小のもので約18m²である。各水田区画における平均標高をみてみると、最も高い標高が最南端のもので4.9m、最も低い標高が最北端のもので4.65mであり、距離にして約32mで比高差は25cmである。

さらに、水田畦畔の一部に、人頭大の石を多量に埋めこみ、地盤の安定を図った石組畦畔がある(第171)



第171図 不定期小区画水田畦畔内の石組平面図(縮尺1/60)出土遺物実測図(縮尺1/4)



第172図 不定期小区画水田石組畦畔平面図(縮尺1/100)

・172図、第8図S R01断面①)。この石組畦畔が東西方向にのびることから、小谷の東西両側にある微高地どうしを結ぶあぜ道として機能していたと考えられる。

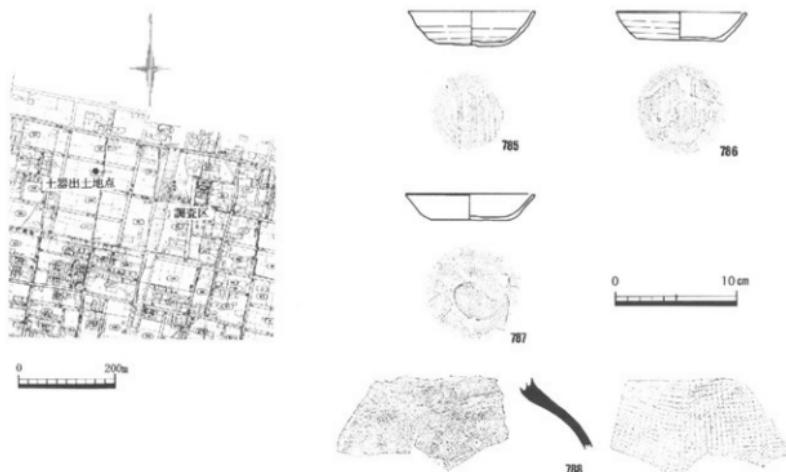
まず出土遺物としては、石組畦畔内から出土した須恵器杯(784)がもっとも古く、佐藤竜馬編年のI-1に相当し7世紀中葉である。次に水田土壤層(第6層)からは、須恵器蓋(771~773)・杯(774~775)・高台付杯(776~779)・高杯(780)・壺(781)・甕(782)が出土している。蓋や高杯に古相を呈するものがある一方、杯の体部が直線的になり始め、高台の貼付位置が底部外縁に近くなるなど新しい様相も呈している。佐藤編年のI-2~II-1に相当し7世紀後葉~8世紀前葉となる。以上のことから、不定形小区画水田は、7世紀中葉(古墳時代後期末または飛鳥時代)につくられ8世紀前葉(奈良時代初頭)まで営まれていたと考えられる。なお、水田土壤層より混入品として弥生時代に属すると考えられる管玉(783)が出土している。

参考文献

佐藤竜馬1993「香川県十箇山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念 考古学論叢』

調査区外検出土坑(第173図)

調査期間中に、調査区より約140m西に離れた地点において土坑1基を不時発見した。当時、この地域は区画整理事業による基盤整備が実施され、表土層の除去作業が行われていた。事業主体者である太田第2土地区画整理事務所と協議の結果、調査区西側には同様な遺構が存在する可能性が高いことから、必要最低限の表土層除去を行うことで合意した。一方、土坑については応急的処置として土坑内の出土遺物を取り上げた。なお、遺構の残存状況が悪く土坑の規模は確認できなかった。出土遺物は、土師器皿(785~787)・須恵器甕(788)で、13世紀中頃(鎌倉時代中葉)のものと考えられる。



第173図 調査区外検出土坑位置図(縮尺1/10,000)出土遺物実測図(縮尺1/4)

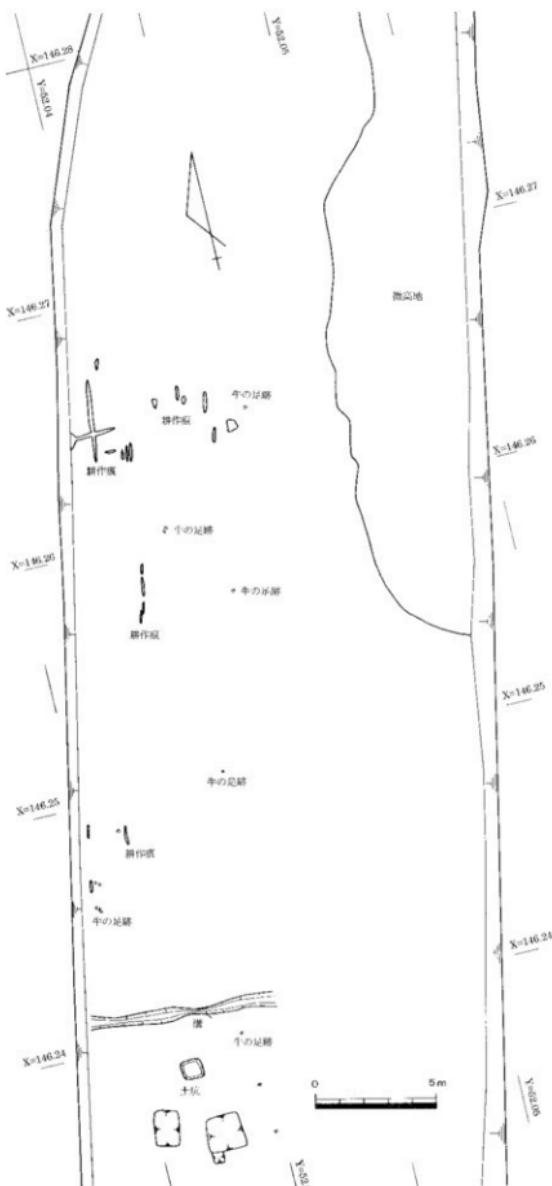
第6節 室町時代～江戸時代の遺構と遺物

室町～江戸時代と考えられる溝3条・土坑2基・水田1面を確認した。検出した構造は、どれも時期が判明する出土遺物を伴っていなかったが、埋土は灰色細砂である。この埋土は高松平野で通例見られるもので、堆積してからの年月が短いため褐色や黒色のシルト質極細砂になるまで土壤化が進んでいない。江戸時代の陶磁器片を出土する場合が多く、江戸時代を中心とする時期のものとして扱った。

中近世水田（第174図）

1～3区の小谷において検出した水田遺構である。この水田面の存在は、機械掘削時に偶然気付いたため、調査区東半分はすでに機械掘削が終了しており西半分しか検出していない。古代の水田と比べて、小谷の埋没が進み、小谷と微高地の標高差はほとんどなくなっている。ただし、地形的には、南から北に向かって下る。検出した水田は標高5.03～5.24mに存在する。小谷埋没土層での位置は、第8図の第3層にある。

畦畔は確認しておらず、鋤跡などの耕作痕や牛の足跡を検出した。他に東西方向の溝、土坑も検出している。溝はN106°E、耕作痕はN9°E前後を示し、ほぼ条里地割と一致する。



第174図 中近世水田平面図(縮尺1/200)



第176図 調査区周辺の条里地割と古代～中近世の溝(縮尺1/2,500)

第175図 古代～中近世の溝及び土坑平面・断面図(縮尺1/500, 1/60)

中近世溝（第175・176図）

6・8・10区で検出した東西方向を主体とする溝である。6区の溝は、幅約90cm、深さ約15cmを測り、調査区内で検出した長さは東西約16mを測る。8区の溝は、幅約30cm、深さ約10cmを測り、調査区内で検出した長さは南北約6m、東西約16.5mを測る。10区の溝は、幅約180cm、深さ約10cmを測り、調査区内で検出した長さは東西約16mを測る。埋土は、どれも灰色細砂である。8区溝からは、固化していないが土師質土器脚部や備前焼体部片が出土しており、6・10区溝の出土遺物はない。

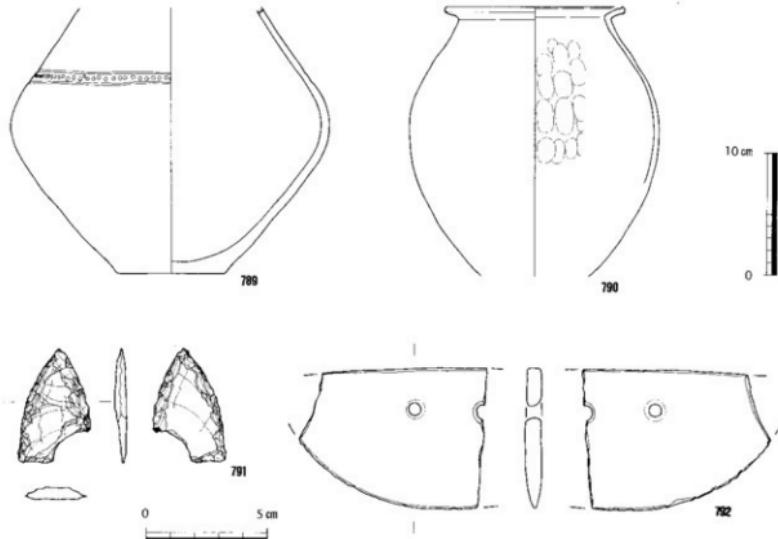
東西方位は、6区の溝はN92°Eを、8・10区の溝はN99°E示し、付近に残る条里地割とほぼ一致する。6区の溝がやや角度を異にするのは、第177図に示すとおり条里地割も細かく見ると若干のゆがみが認められるからである。さらに、条里地割と照合すると、6区の溝は香川郡1条18里15・22坪の里界線を一致し、8区の溝は香川郡1条18里15坪のほぼ中央に位置し、10区の溝は香川郡1条18里10・15坪の里界線より北35mに位置する。なお、溝のほかに、6区と11区において、土坑を検出している。

第7節 その他の遺物

工事立会及び遺構検出時出土遺物（第177図）

昭和63年度の道路側溝工事に伴う立会中において出土した遺物のうち、完形に近いもの2点を図示した。789は、弥生土器壺で、肩部の2条の沈線間に列点文を施しており、弥生時代前期中頃のものである。790は、弥生土器壺で、口縁部はやや長くなりかけているが、体部は肩が張っておらず、弥生時代後期後半のものである。

調査中の道構検出時に出土した遺物のうち、代表的な石器2点を図示した。791は打製の石鏃で、サヌカイト製、平基無茎式で、弥生時代のものである。792は磨製石庖丁で、石材は粘板岩系のものである。調査区内に弥生時代前期の環濠・土坑があることから、本來はこれらに伴うものである。



第177図 工事立会及び遺構検出時出土遺物実測図(縮尺1/4,1/2)

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷

天満・宮西遺跡は、大きく5時期に分かれる。ここでは、簡単に遺構の変遷を報告し、遺跡の最盛期である弥生時代後期～古墳時代前期初頭については第3節で詳細に報告する。

第Ⅰ期【弥生時代前期前半後葉～後半前葉】(第9図)

天満・宮西遺跡に初めて人が住み始める。微高地上に環濠S D11・63と土坑S K06・07・10が見られ、環濠集落が営まれる。微高地北側には小谷が存在する。

第Ⅱ期【弥生時代後期～古墳時代前期初頭】

もっと多くの遺構・遺物を確認した時期である。微高地上に、堅穴住居24棟・掘立柱建物跡12棟・欄列6列・井戸2基・溝48条・土坑8基が掘削され、大規模な集落が存在する。微高地北側の小谷には旧河道S R01が存在するが、この時期に埋没していく。

第Ⅲ期【飛鳥時代～奈良時代初頭】

微高地上に堅穴住居S H09・溝S D01・72が、微高地北側の小谷に不定形小区画水田が存在する。小規模な集落と水田が営まれていた。

第Ⅳ期【平安～鎌倉時代頃】

微高地上に、条里地割に沿った溝S D04・55が掘削される。この時期には、遺跡付近は農地になっていた可能性がある。

第V期【室町～江戸時代頃】

微高地上に、条里地割に沿った溝3条と土坑2基が掘削され、ほぼ完全に埋没した小谷にも跡跡などの耕作痕や牛の足跡が見られる。この時期には、完全に農地として利用されていた。なお、調査区東隣にある松繩城跡（室町～安土桃山時代）に関係する遺構は認められなかった。

第2節 弥生時代前期の土器と集落の位置付け

弥生時代前期の遺構から出土した土器について検討し、時期的位置付けを明らかにするとともに、旧地形と集落について報告する。

弥生時代前期の土器

弥生時代前期の土器は、環濠S D11・63と土坑S K10から良好な形で出土している。S D11・63は上層・下層に分かれ、上層出土土器に下層のものが若干混じるが、2時期に分けることができる。また、SK10はS D11・63上層出土のものに近い様相を示す。各遺構・土層の代表的なものを列挙したのが第178図である。

【壺】全体の器形がわかるものが一部しかないが、下層と上層では次のような違いを指摘できる。

- ①器形は、下層のものは扁平だが、上層のものは器高が高くなっている。
- ②下層では45のように段をもつものがあり古相を呈するが、上層では52・55のように削り出し突帯が出現している。なお、層位不明で6m街路区S D63より貼付凸帯をもつもの（第16図75）が1点出土している。
- ③沈線の数が、下層では1～2条だったが、上層では3～4条と沈線の多条化が見られる。

【壺】壺は、器形によって次のように分類が可能である。

- a. 体部がふくれ、紋様を施すもの（12・14・15・60・57）。大きさは様々である。

b. 体部がふくれないもの。紋様を施すもの（10・13・29）と施さないものがある（第12図30）。

c. 体部がふくれるが、無紋のもの（16・62）。底部に穿孔があり、顛である。

次に口縁部の形態から見た場合、いわゆる如意状口縁をもつものが圧倒的に主体を占め、一部に段堀（第12図31・第15図59）が存在する。一方、縄文時代の凸帯文土器の系譜を引く、凸帯文系・縄文系と呼ばれる一群は全く存在せず、逆L字状口縁のものも存在しない。凸帯文系土器の欠如は、同じ高松平野に所在する鬼無藤井遺跡（川部浩司2001）と共に通する。

次に、下層と上層では次のような違いを指摘できる。

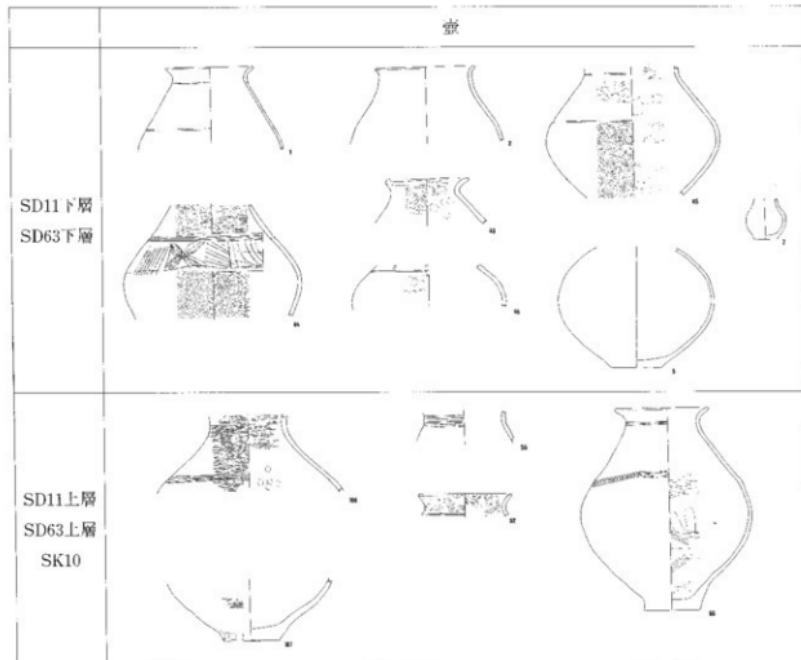
①下層では見られなかったが、上層では29のように削り出し突帯が出現している。

②沈線の数が、下層では1～2条だったが、上層では3条と沈線の多条化が見られる。

壺と同様な変化を指摘できる。なお、堀の体部外面の調整は磨きであるが、上層ではほぼ完形品1点のみだが刷毛を施した堀（57）が出現している。

【その他】壺・堀以外に、高杯（17）・蓋（90）・鉢（33）といった器種が少量見られる。

さて、香川県内の弥生前土器の編年は、宮崎編年（宮崎哲治1995）、森下編年（森下英治1998）、貞鍋編年（真鍋昌宏2000）など最近幾つか示されている。このうち、天満・宮西遺跡出土土器が所属する時期がもっとも細密に区分されている森下編年によれば、環濠S D11・63下層出土土器はIc期に相当し、環

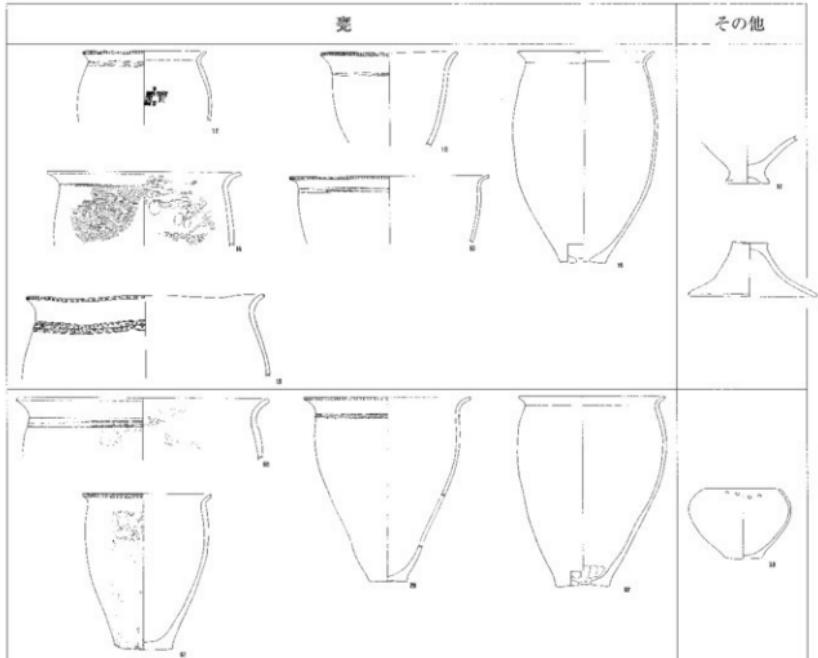


第178図 天満・宮西遺跡における

濠の掘削は弥生時代前期前半後葉と考えられる。環濠 S D11・63上層および土坑 S K10出土土器も、下層とはほぼ同じ時期に含まれるが、一部に新しい様相が看取でき、II a 期にかかると考えられる。遅くとも前期後半後葉には環濠が埋没し、天満・宮西遺跡の前期弥生集落は廃絶したと考えられる。

弥生時代前期の環濠集落

天満・宮西遺跡の弥生時代前期を特徴付けるものは、環濠集落である。環濠は一重で、直径約65mを測る平面円形の規模をもつ。環濠内側からは、後世の削平によるためか土坑以外の遺構は確認できなかったが、内部に集落が存在したことは容易に想定できよう。現在、高松平野で確認されている弥生前期の環濠集落は、鬼無藤井遺跡（二重環濠・鬼無町藤井）、汲仏遺跡（二重環濠・多肥下町）であり、可能性があるものは、松並・中所遺跡（一重環濠・松並町）、円原遺跡（一重環濠・多肥下町）、諏訪神社遺跡（一重環濠・東山崎町）、光寺山遺跡（一重環濠・池田町）がある。これらを時期別に見れば、鬼無藤井遺跡はII a 期、汲仏遺跡はI c ~ II a 期、松並・中所遺跡はI c 期、円原遺跡はII c 期、諏訪神社遺跡はII a 期、光寺山遺跡はII c 期である。現時点における高松平野での環濠の掘削開始はI c 期であり、天満・宮西遺跡も環濠集落出現期のものと考えられる。一方、地形別に見れば、諏訪神社遺跡と光寺山遺跡が丘陵部に位置し、他は平野部に位置する。I c 期に平野に出現した環濠集落は、II a 期には丘陵部にも出現している可能性がある。



弥生時代前期の土器変遷図(縮尺1/8)

弥生時代前期における遺跡の周辺

天満・宮西遺跡の環濠集落を微地形分析で復元した旧地形から見れば、第179・180図のとおり南北約250m・東西約100mの規模をもつ微高地の南東部分を占める。微高地北側に隣接して幅約5mの小さな旧河道SR01が所在する。微高地南側にも隣接して大きな旧河道が存在するが、調査範囲外のため詳細は不明である。

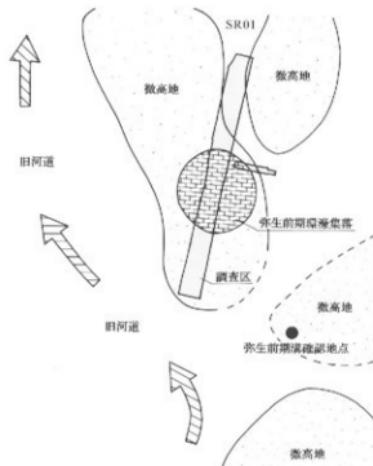
さて、第1章第2節で紹介したとおり、昭和40年に細浜・六車両氏によって報告された天満遺跡（弥生時代前期）は、調査地が属する宮西地区の南側にある天満地区と考えられる。詳細な出土地点は今となっては不明だが、天満・宮西遺跡調査中において、天満遺跡と関連する可能性のある遺構を確認している。調査範囲南端より東へのびる6m街路側溝工事において、調査地より東へ約100mの地点で、弥生時代前期の溝を確認した。遺構上面のみの確認だが、幅約1mで円弧を描いており、環濠の可能性もある。宮西と天満地区の境に位置し、溝は南の天満地区に向けてのびている。出土遺物は、弥生土器底部の破片を中心で詳細な時期決定はできないが、弥生時代前期に属するものである。細浜・六車両氏の報告文に紹介されている出土遺物を概観すると、多条沈線が見られるものの、逆L字口縁は出現しておらず、森下編年のIIa～b期に相当すると考えられる。天満・宮西遺跡の環濠集落がIc～IIa期であることを考えると、天満遺跡は天満・宮西遺跡の直後にあたることから、天満・宮西遺跡から天満遺跡に集落が移動した可能性を指摘できる。

参考文献

- 川部浩司2001「鬼無井遺跡の前期弥生土器と環濠集落」『鬼無井遺跡』高松市教育委員会
 細談福太郎・六車恵一1965「高松市天満弥生式遺跡」『文化財協会報 特別号7』香川県文化財保護協会
 真鍋昌宏2000「讃岐地域」『弥生土器の様式と歴年 四国編』木耳社
 宮崎哲治1995「香川における弥生前期土器の様相」『財团法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ』
 森下英治1998「龍川五条遺跡出土前期赤土器の編年」『龍川五条遺跡Ⅱ飯野東分山南遺跡』香川県教育委員会ほか



第179図 天満・宮西遺跡周辺の等高線
(縮尺1/4,000)



第180図 天満・宮西遺跡周辺の旧地形と
前期弥生集落(縮尺1/4,000)

第3節 弥生時代後期～古墳時代前期初頭における集落の変遷

弥生時代後期～古墳時代前期初頭における遺構の変遷について、出土土器及び遺構の重複関係などから検討すると第181・182図のとおりとなる。なお、出土土器についても、弥生時代前期と同様に変遷を試みたが、混入が著しく変遷図を作成するには至らなかった。

第II-1期【弥生時代後期前半】

弥生時代前期からしばらくの空白期間において、再び天溝・宮西遺跡に人が住み始める。まだ遺構数は少なく、確実なものは井戸S E02のみで、後期前半中葉の様式となっている小山南谷遺跡S II03出土資料に並行する時期と考えられる。溝S D15も後期前半に属する可能性があるが、出土土器が少なく断定できない。S E02に続く時期の遺構は明確でないが、土器は後期後半～終末期の遺構に混入して出土している。徹高地北側の小谷には旧河道S R01があり、古墳時代前期初頭まで続く。

第II-2期【弥生時代後期後半①】

遺構数がだいぶ増加している。大鶴編年の様相1にあたり、一部様相2を含む。周溝S D37・112・45・48に囲まれた範囲に堅穴住居の存在が想定でき、周溝から溝S D53・82・79を通して旧河道S R01に排水を流している。溝S D141は周溝S D37に接続しており、調査区外（西）に所在が予想される堅穴住居からの排水をS D37に流していた可能性がある。溝S D93も調査区外（西）に所在が予想される堅穴住居からの排水をS R01に流していたと考えられる。溝S D92も、この時期に属する。

調査区南側で掘立柱建物跡群が検出されているが、出土遺物が少ないため細かい時期決定はできなく、掘立柱建物跡の変遷も不明である。ただし、弥生時代終末期まで下る土器は見られないこと、終末期には調査区南側に堅穴住居が出現することから、弥生時代後期の範疇におさまるものと考えられる。

第II-3期【弥生時代後期後半②】

様相2にあたり、一部様相3を含む。堅穴住居S H01・14・17が営まれる。S H14は周溝S D46を、S H17は周溝S D12をもっており、さらに両周溝の間に連絡溝を掘削して繋げている。つまり、S H17周溝S D12の排水を、S H14周溝S D46を経由して、溝S D53・82・79を通して旧河道S R01に流している。堅穴住居S H01は周溝をもたないが、S H14周溝S D46はS H01を迂回して掘削されている。なお、S H17の周溝S D12は、S D12-1・2というように2時期が認められる。

第II-4期【弥生時代後期後半③】

様相3にあたり、一部様相4を含む。堅穴住居S H04・06・13・21が営まれる。堅穴住居S H06は周溝S D73を、S H21は周溝S D08・39・41をもつが、S H04・13は周溝をもたない。また、第II-3期で報告した堅穴住居S H01・14・17もこの時期まで続いている可能性がある。廃棄土坑と考えられるS D27は、S H17廃絶直後に掘削されたと考えられる。溝S D23もこの時期にあたる。

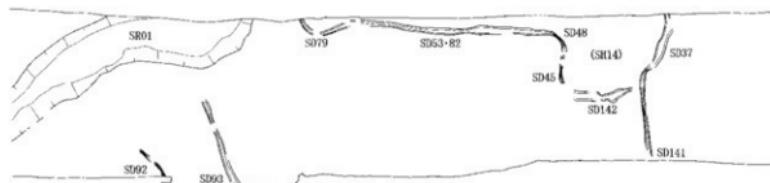
第II-5期【弥生時代終末期①】

遺構がもっとも密集しており、この5期から次の6期にかけて、集落は最盛期を迎える。様相4にあたり、一部様相5を含む。

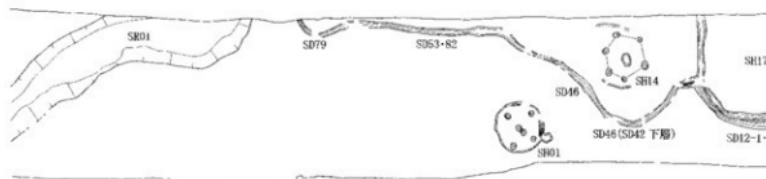
堅穴住居S H05・10・19・(14)・20が営まれ、これら堅穴住居は全て周溝を有している。堅穴住居S H05はS D91・96を周溝として、4期のS H06廃絶後に続いて営まれたものである。堅穴住居S H10はS D62・57・106・116・80を、S H19はS D137・52・57・134・120・122を周溝としており、S H10とS H19はS D57部分を周溝として共有している。堅穴住居S H(14)はS D42・44・146を、S H20はS D34・145・140を周溝としている。堅穴住居S H20は2時期認められ、このうち周溝S D34がS H(14)周溝



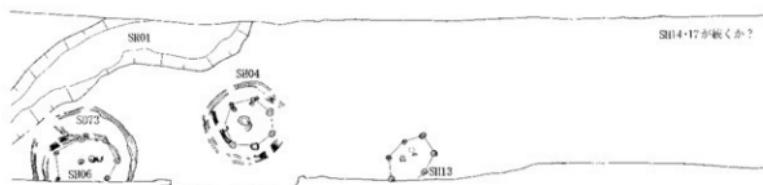
第II-1期



第II-2期

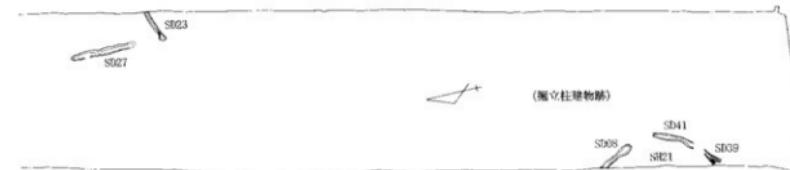
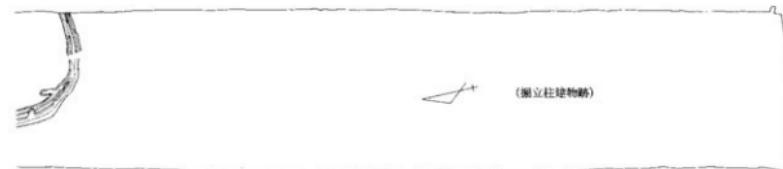
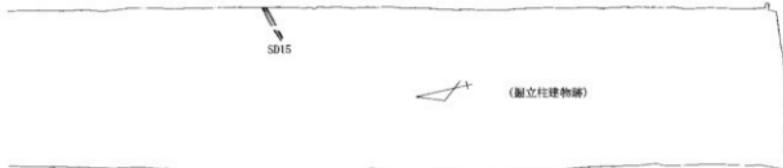


第II-3期

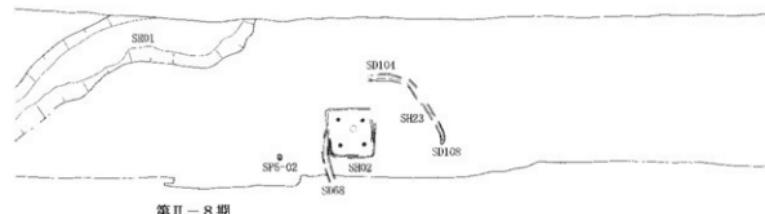
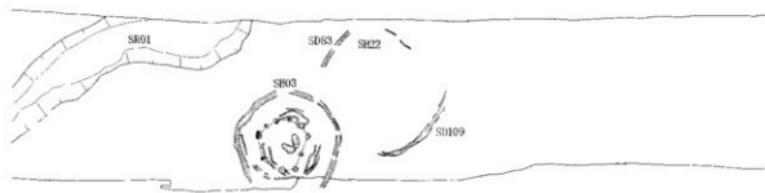
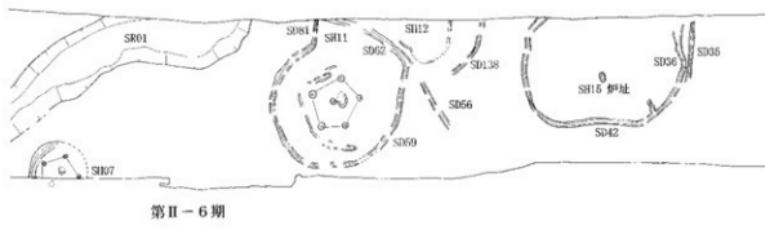
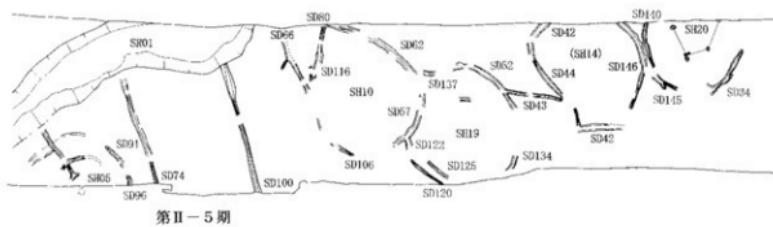


第II-4期

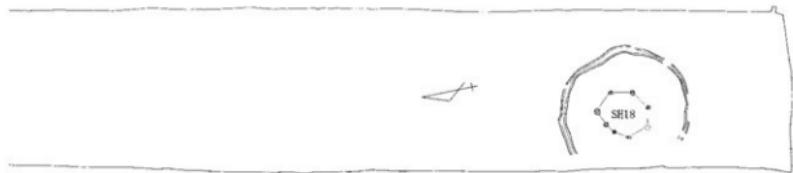
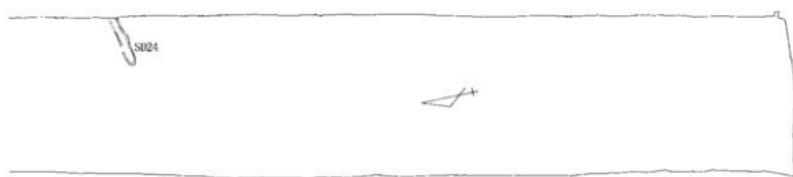
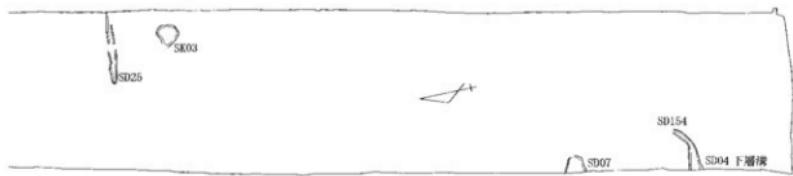
第181図 天満・宮西遺跡における弥生時代後期



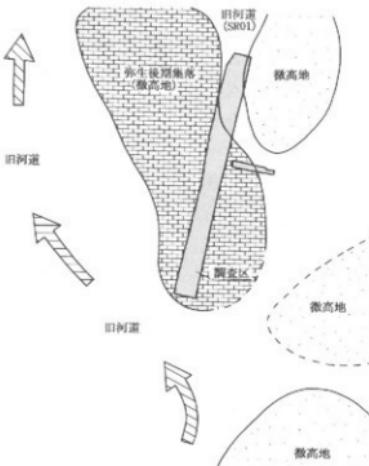
～古墳時代前期初頭の遺構変遷図①(縮尺1/500)



第182図 天満・宮西遺跡における弥生時代後期



～古墳時代前期初頭の遺構変遷図②(縮尺1/500)



第183図 天満・宮西遺跡周辺の旧地形と
弥生後期集落(縮尺1/4,000)

住居はS H07以外すべて周溝を有している。S H07は時期が分かることから、第II-7・8期に下がる可能性もある。竪穴住居S H07は5期のS H05廃絶後に営まれたものである。竪穴住居S H11はS D59・62を周溝としており、5期のS H10廃絶後に続いて営まれたもので、S H10周溝S D62を引き続いて使用している。竪穴住居S H12はS D138を周溝として、さらにS H11周溝S D62をも周溝として共有している可能性がある。また、S D62の延長としてS D56が続いている。別の竪穴住居の存在も想される。5期のS H(14)に続いて、竪穴住居S H15が営まれ、S D42・36を周溝としている。S D36に接して溝S D35がある。溝S D24は、まとまって土器が出土しており、廃棄土坑と考えられる。

第II-7期【弥生時代終末期③～古墳時代前期初頭】

5・6期に比べて遺構の密集度は減っている。様相5～6にあたる。

竪穴住居S H03・22・18が営まれ、これら竪穴住居はすべて周溝を有している。竪穴住居S H03はS D99を周溝としている。竪穴住居S H22はS D109・83を周溝として、さらにS H03周溝S D99をも周溝として共有している可能性がある。竪穴住居S H18はS D05を周溝としている。

第II-8期【古墳時代前期初頭】

遺構は希薄になり、集落は終焉を迎える。様相6以降にあたる。

竪穴住居S H02・23が営まれるが、重複しており、時期差がある。竪穴住居S H02は平面方形プランで、S H23より後出する。竪穴住居S H23はS D68・104・108を周溝としている。

土器がまとまって出土した柱穴S P5-02は、様相6の次の時期に属するものであり、弥生時代後期～古墳時代前期初頭においてもっとも新しい時期の遺構である。

以上、弥生時代後期～古墳時代前期初頭における遺構の変遷について復元を試みた。ただし、遺構の重複が激しく、遺物の混入も著しい本遺跡の場合、今後ある程度の補正が必要になるであろう。

また、集落が立地する微高地と調査区の関係は、第183図のとおりである。微高地全体に集落が広がっ

S D146と繋がっており、S H(14)とS H20も周溝を共有している。さらに、S H(14)周溝S D44から分岐するS D43は、S H19周溝S D52へと繋がっており、S H(14)・20周溝の排水をS H19周溝からS H10周溝を経由して、旧河道S R01に流していると考えられる。

溝S D74・100は、調査区外(西)からまっすぐ旧河道S R01に注いでおり、調査区外に想定される竪穴住居の排水を流す目的で掘削されたものである。溝S D154とS D04下層溝は同一の溝である可能性があり、円弧を描いていることから、さらに竪穴住居の周溝の可能性もある。溝S D07は、土器が大量に出土しており、廃棄土坑と考えられる。

第II-6期【弥生時代終末期②】

5期から続いて遺構が密集しており、集落の最盛期が続いている。様相5にあたる。様相5は、他の様相と比べて期間が長く、幾つかに細分が可能である。

竪穴住居S H07・11・12・15が営まれ、これら竪穴

ていたと想定した場合、集落南側の一部に縱断する形で調査区を設定することになる。この集落(微高地)の南から西にかけては大きな旧河道があり、北東にある別の微高地との間(小谷)には小さな旧河道(SR01)が流れている。

豊穴住居の周溝について

天満・宮西遺跡における弥生時代後期～古墳時代前期初頭の豊穴住居は、平面形態は円形を基調としており、新しい時期において方形のものが出現している。さらに、本遺跡の豊穴住居で特徴的なことは、豊穴住居の周りに周溝をめぐらせるものが圧倒的に多いことである。これは、本遺跡の立地が、標高が約5.0～5.8mと低く、旧河道に面していることを考慮すると、排水をする上で必要不可欠であったのかもしれない。しかしながら、周溝をもたないものも少数ながら各時期に存在し、これが立地条件や社会的制約などを反映するものなのかは判断できない。

掘立柱建物跡について

調査区南半分でのみ検出できた掘立柱建物跡は、少ない出土遺物からではあるが、弥生時代後期のものと推測した。ただし、豊穴住居SH09のように出土遺物からだけでは判断できない例もあるので、すべての掘立柱建物跡が弥生時代に属するものかは現況では即断できない。

集落全体から掘立柱建物跡を見た場合、集落(微高地)南側に掘立柱建物があり、北側に豊穴住居が営まれておらず、弥生時代中期の例だが日暮・松林遺跡(多肥上町)においても類例を見ることができる。この集落構造が、高松平野において普遍的であったのかどうかは、各遺跡の全容解明が必要である。

一方、掘立柱建物を個別に見た場合、平面形態は桁行3間、梁間1間の長方形を基調としており、桁行2間(SB04)または4間(SB01)のものも見られる。主軸は、すべて東西方向でN64°～89°WまたはN78°～89°Eを示し、遺跡付近に残る条里地割とはあまり一致しない。また、柱穴は円形のものだけである。床面積は、11～20m²がもっとも多く、SB04が約7m²と最小で、SB01が約32m²と最大である。SB01の床面積規模は、県内の弥生時代では羽間遺跡(仲多度郡満濃町)・成重遺跡(大川郡白鳥町)で検出された掘立柱建物跡に次ぐ大きさである。

弥生時代後期～古墳時代前期初頭における天満・宮西遺跡の位置付け

最後に、天満・宮西遺跡でもっとも遺構数が多い弥生時代後期～古墳時代前期初頭の集落であるが、高松平野においてもこの時期の遺跡数は多く、平野の各所に集落が営まれたと考えられている。これらの集落は、微高地上に立地し、隣接する旧河道などに土器を大量に廃棄しており、本遺跡も例外ではない。しかしながら、本遺跡の豊穴住居を中心とした遺構密度の高さは、他の遺跡と比べても圧倒的であり、人口密度の高い集落であったと推測される。そうした状況にあって、この時期出現してくるのが古墳である。本遺跡からも望むことができる石清尾山塊にも数多くの積石塚古墳が築造され、出現期の古墳として鶴尾神社4号墳が著名である。古墳築造にあたっては、平野に所在した各集落の協力が不可欠だったことは容易に推測できるが、鶴尾神社4号墳から直線距離にして約3kmと比較的近い距離にある本遺跡の集落も一定の役割を担ったと考えられる。この後、石清尾山古墳群の築造は古墳時代中期まで継続的に営まれるが、本遺跡を含め高松平野の集落は古墳時代前期初頭を過ぎると多くは終焉を迎える。新たに出現する集落もあるが、集落数は確実に少なく、そうした中にあっても古墳の築造は維持されている。このように、天満・宮西遺跡の集落も、歴史の流れの中で、平野に所在した他の集落と同じ消長を辿ったのである。

参考文献

- 大久保徹也2002「西国北東部における地域的首長埋葬儀礼様式の成立時期をめぐって」『論集徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会
大鶴利則2001「高松平野における庄内並行期の土器縁相」「庄内式土器研究XXIV」庄内式土器研究会
前里芳記2000「讃岐地方の掘立柱建物の地域差」『羽間遺跡現地説明会資料』財团法人香川県埋蔵文化財調査センター

天満・宮西遺跡出土遺物観察表

※法線の()は、純容積を表す。

報告書番号	器種	法線(㎤)	形態、手法の特徴	色 調	新 土	備考
1	角毛十脚 壺	14.5	(13.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	体部：沈殿1条
2	陶土上唇 壺	16.4	(17.5) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
3	陶土上唇 壺	20.0	(3.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	
4	弦生土器 壺	8.3	(14.7) 外縁：底底のため調整不規則 内縁：腹底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	
5	陶土上唇 壺	8.2	(19.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	6mm以下の石英、長石を含む	体部中混外縁：墨斑
6	弦生土器 壺	6.4	(2.1) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	体部外縁：灰斑
7	陶土上唇 壺	3.8	(6.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	
8	弦生土器 壺	4.1	(1.5) 外縁：なし 内縁：なし	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	作鉢、既成：灰斑
9	陶土上唇 壺	—	(6.2) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
10	陶土上唇 壺	22.4	(16.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
11	陶土上唇 壺	21.8	(11.9) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
12	陶土上唇 壺	20.2	(32.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
13	陶土上唇 壺	32.8	(11.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：赤2.5 YR 6/8 内縁：赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
14	陶土上唇 壺	32.0	(12.1) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	外縫：灰斑
15	陶土上唇 壺	39.0	(19.1) 外縁：なし 内縁：なし	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
16	陶土上唇 壺	21.8	(34.7) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
17	陶土上唇 壺	7.2	(8.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	6mm以下の石英、長石を含む	
18	發生土器 壺	8.0	(10.7) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
19	發生土器 壺	12.2	(4.9) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	7mm以下の石英、長石を含む	
20	陶土上唇 壺	7.5	(4.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
21	陶土上唇 壺	7.8	(3.5) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
22	陶土上唇 壺	7.6	(5.8) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	外縫：灰斑
23	陶土上唇 壺	7.2	(6.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
24	陶土上唇 壺	8.6	(5.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	
25	發生土器 壺	8.7	(5.8) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
26	发生土器 壺	7.5	(5.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
27	陶土上唇 壺	8.1	(7.3) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
28	陶土上唇 壺	7.0	(5.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
29	陶土上唇 壺	27.6	(6.3) (22.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
30	發生土器 壺	14.4	(17.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3~5mmの石英、長石を含む	
31	發生土器 壺	20.0	(9.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	4mm以下の石英、長石を含む	体部下修：段1段
32	發生土器 壺	25.2	(7.5) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	口被端部：肩口文
33	發生土器 壺	11.9	(11.5) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	体部下修：段2段
34	陶土上唇 壺	4.0	(5.8) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	体部から底部にかけて墨斑
35	發生土器 壺	8.6	(10.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	外縫：灰斑
36	發生土器 壺	8.0	(7.8) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
37	發生土器 壺	10.0	(8.7) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	体部下平外縁：墨斑
38	陶土上唇 壺	8.9	(7.6) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
39	發生土器 壺	6.8	(9.7) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
40	發生土器 壺	9.2	(5.0) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	5mm以下の石英、長石を含む	
41	發生土器 壺	8.2	(4.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
42	發生土器 壺	8.5	(4.3) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	
43	陶土上唇 壺	13.6	(7.4) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	外縫：灰斑
44	陶土上唇 壺	—	(18.5) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	体部：被施灰文、木板文、灰斑文
45	陶土上唇 壺	—	(24.9) 外縁：腹底のため調整不規則 内縁：底底のため調整不規則	外縁：M.赤2.5 YR 6/8 内縁：M.赤2.5 YR 6/8	3mm以下の石英、長石を含む	体部：被施灰文1条 被部：被施灰文1条

種名 番号	品種	法 量(tm)	形態・手法の特徴	色 調	地 上 偏 考		
					口 径 底 灰 度 率 %	内 部 外 部 形 状	
46	赤生土器 砂	-	(7.1)	内部外観: 製造工程 外観: 壁面のため調整不規則	外観: 黄褐色 5Y 6/1 内観: 黄褐色 5Y 6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条、2号の区画	
47	赤瓦十 字	7.7	(13.0)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	3mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
48	赤瓦十 字	22.6	(5.4)	外観: 制成のため調整不明 内部: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
49	赤生土器 砂	7.0	(11.5)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
50	赤生土器 砂	7.7	(7.1)	外観: 制成のため調整不明 内部: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
51	赤生土器 砂	14.8	(6.6)	外観: 表面のため調整不明 内部: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
52	赤瓦十 字	15.3	(3.7)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	3mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
53	赤瓦十 字	13.6	(2.9)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
54	赤生土器 砂	25.0	(9.0)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
55	赤生土器 砂	-	(3.4)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: に赤い砂Y R7/4 内観: 明褐色 3Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
56	赤生土器 砂	15.7	9.5	32.7	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条
57	赤生土器 砂	21.1	9.5	25.6	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: に赤い砂Y R7/2 内観: に赤い砂Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条
58	赤生土器 砂	22.6	(5.4)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R5/2 内観: 黄褐色 5Y R5/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
59	赤生土器 砂	22.0	(6.0)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R5/2 内観: 黄褐色 5Y R5/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
60	赤生土器 砂	41.4	(5.7)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/2 内観: 黄褐色 5Y R6/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
61	赤生土器 砂	21.8	(4.7)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: 黄褐色 5Y R6/2 内観: 黄褐色 5Y R6/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
62	赤生土器 砂	23.6	8.5	31.7	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面に粗面	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2~3mmの石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条
63	赤生土器 砂	20.0	(5.0)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
64	赤生土器 砂	12.6	(5.6)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
65	赤生土器 砂	9.0	(3.8)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
66	赤生土器 砂	7.1	(5.2)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	1mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
67	赤生土器 砂	6.9	(5.0)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
68	赤生土器 砂	6.2	(4.4)	内部外観: 表面に粗面	外観: 黄褐色 5Y R6/1 内観: 黄褐色 5Y R6/1	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
69	赤生土器 砂	6.6	(7.6)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/4 内観: 黄褐色 5Y R7/4	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
70	赤生土器 砂	(4.5)	(4.5)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	1mm以下の石英を含む 地層: 沖縄沈緑 1条	
71	赤生土器 砂	(4.5)	(4.5)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	4mm以下の石英・長石を含む 孔径: 0.6cm	
72	赤生土器 砂	(4.5)	(4.5)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の長石・石英を含む 重量: 31.8g	
73	赤生土器 砂	14.2	(7.5)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 3条、赤緑上に沖縄 灰	
74	赤生土器 砂	12.0	(7.7)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄沈緑 3条	
75	赤瓦十 字	15.2	(4.6)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 実器	
76	赤瓦十 字	-	(8.4)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 上半: 沖縄 2条、灰層	
77	赤生土器 砂	10.2	-	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	1mm以下の石英を含む 地層: 上部: 沖縄 2条	
78	赤生土器 砂	(6.7)	-	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	1~3mmの石英・長石を含む 地層: 灰	
79	赤生土器 砂	(5.9)	-	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	3mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄上に灰層 4条以上と下に 1条に不規則	
80	赤生土器 砂	(4.0)	-	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を含む 地層: 沖縄 3条以上と木葉文	
81	赤生土器 砂	(4.3)	-	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	3mm以下の石英・長石を含む 地層: 木葉文。	
82	赤生土器 砂	(3.5)	-	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/4 内観: 黄褐色 5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を含む 地層: 木葉文。	
83	赤生土器 砂	4.4	(4.6)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	4mm以下の石英を含む 地層: 中位: 狩羽文 2条、沖縄灰	
84	赤生土器 砂	4.6	(2.7)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	1~3mmの石英・長石を含む 地層: 中位: 狩羽文 2条、沖縄灰	
85	赤生土器 砂	23.4	(7.6)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・角石を含む 地層: 初段: 初日文 地層: 沖縄 2条	
86	赤生土器 砂	27.6	(9.4)	内部外観: 表面のため調整不明 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英・角石を含む 地層: 初段: 初日文 地層: 沖縄 2条	
87	赤瓦十 字	42.0	(10.1)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	6mm以下の石英・角石を含む 地層: 沖縄 2条	
88	赤瓦十 字	22.2	(5.2)	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	2mm以下の石英を含む 地層: 沖縄 2条	
89	赤瓦十 字	14.9	4.8	内部外観: 表面に粗面 内部外観: 表面のため調整不明	外観: 黄褐色 5Y R7/2 内観: 黄褐色 5Y R7/2	3mm以下の石英・角石を含む 地層: 初段: 初日文	

番号 書名	基種	寸 法 (cm)		形態・手芸の特徴	色 調	施 上	備 考
		口 徑	底 径				
90 鮎牛子 等	鮎牛子等	21.0 (周囲) 2.8	9.0 (厚)	外側: 深淵のため開閉不明 内側: 墓地のため開閉不明	外側: 黒褐色10 Y R 4/1 内側: 黒褐色10 Y R 4/1	3mm以下の石英、長石を含む	外側: 黒風
91 鮎牛子 等	鮎牛子等	4.9 (4.0)	—	体部外側: 墓地のため開閉不明 体部内側: 墓地のため開閉不明	外側: 深淵絞10 Y R 6/3 内側: 黒褐色10 Y R 6/3	1~5mmの石英、長石を含む	
92 鮎牛子等 死後(?)	鮎牛子等	9.2 (5.2)	—	体部外側: なで、施用直後 体部内側: なで	外側: 黑褐色07.5 Y R 6/2 内側: 黑褐色07.5 Y R 6/2	1~5mm以下の石英、長石を含む	施用: 施用1次
93 外牛子四 葉型	外牛子四 葉型	7.5 (5.5)	—	底部外側: 施用直後、なで 底部内側: 施用直後、なで	外側: 深淵絞10 Y R 7/2 内側: 黑褐色10 Y R 7/2	1~5mm以下の石英、長石を含む	底部から底辺: 黒風
94 鮎牛子 等	鮎牛子等	8.0 (5.6)	—	底部外側: なで 底部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/1 内側: 黑褐色10 Y R 6/1	1~5mm以下の石英、長石を含む	
95 鮎牛子 等	鮎牛子等	12.6 (12.3)	—	体部外側: 施用直後、施用直後 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/3 内側: 黑褐色10 Y R 6/3	1~5mm以下の石英、長石を含む	
96 鮎牛子 等	鮎牛子等	8.4 (8.3)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/2 内側: 黑褐色10 Y R 6/1	1~5mm以下の石英、長石を含む	
97 手鏡器 等	(共)	10.6 (7.0)	1.4 (0.5)	—	外側: 黑褐色	重さ: 12.0g セミガラス	
98 手鏡器 等	(共)	10.6 (7.0)	1.4 (0.5)	—	外側: 黑褐色	重さ: 12.0g セミガラス	
99 打灰石 等	(共)	3.0 (2.5)	1.0 (0.5)	—	外側: 黑褐色	重さ: 13.9g セミガラス	
100 鮎牛子 等	(共)	6.1 (4.0)	7.5 (2.5)	—	外側: 黑褐色	重さ: 34.0g	
101 鮎牛子 等	(共)	6.1 (4.0)	7.5 (2.5)	—	外側: 黑褐色	重さ: 129.0g	
102 鮎牛子 等	鮎牛子等	9.0 (9.0)	0.7 (1.4)	底部外側: 施用直後 施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 5/3 内側: 黑褐色10 Y R 5/3	1~5mmの石英、長石を含む	
103 鮎牛子 等	鮎牛子等	7.7 (6.3)	—	底部外側: 施用直後 施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 7/1 内側: 黑褐色10 Y R 7/1	3mm以下の石英、長石を含む	外側: 黑風
104 鮎牛子 等	鮎牛子等	9.8 (7.7)	—	底部外側: なで 底部内側: なで	外側: 黑褐色 内側: 黑褐色	1~5mmの石英、長石を含む	
105 鮎牛子 等	鮎牛子等	8.8 (6.2)	—	底部外側: なで、施用直後 底部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 7/3 内側: 黑褐色10 Y R 7/3	1~5mmの石英、長石を含む	
106 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (13.2)	—	底部外側: なで 底部内側: なで	外側: 黑褐色07.5 Y R 6/1 内側: 黑褐色07.5 Y R 6/1	3mm以下の石英、長石を含む	底部: 沈没3重 部分: 沈没3重
107 鮎牛子 等	鮎牛子等	9.4 (10.1)	—	体部外側: 施用直後 体部内側: 施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 7/2 内側: 黑褐色10 Y R 7/1	3mm以下の石英、長石を含む	
108 鮎牛子 等	鮎牛子等	14.4 (14.0)	—	体部外側: 施用直後 体部内側: 施用直後	外側: 黑褐色07.5 Y R 6/1 内側: 黑褐色07.5 Y R 6/1	1mm以下の石英、長石を含む	
109 鮎牛子 等	鮎牛子等	14.0 (14.0)	—	外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 6/6	1mm以下の石英、長石を含む	
110 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (2.1)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/8 内側: 黑褐色10 Y R 6/8	2mm以下の石英、長石を含む	
111 打灰石 等	(共)	2.5 (2.5)	1.5 (0.5)	—	外側: 深淵10 Y R 5/1	重さ: 0.67g	
112 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (14.0)	—	体部外側: なで 体部内側: なで、施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 7/2 内側: 黑褐色10 Y R 7/2	2mm以下の石英、長石を含む	
113 鮎牛子 等	鮎牛子等	15.4 (12.5)	—	外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 7/6	1~2mmの石英、長石を含む	
114 鮎牛子 等	鮎牛子等	15.6 (2.2)	—	山崎部外側: なで 山崎部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 6/6	1mm以下の石英、角閃石を含む	
115 鮎牛子 等	鮎牛子等	7.9 (3.2)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/8 内側: 黑褐色10 Y R 6/8	1mm以下の石英、角閃石を含む	
116 鮎牛子 等	鮎牛子等	10.2 (1.8)	—	外側: 施用直後、施用直後 内側: 施用直後、施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 7/1 内側: 黑褐色10 Y R 6/6	1~2mmの石英、長石を含む	外側: 黑風
117 鮎牛子 等	鮎牛子等	19.4 (2.0)	—	外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 6/8 内側: 黑褐色10 Y R 6/8	1mm以下の石英、長石を含む	
118 鮎牛子 等	鮎牛子等	10.6 (4.1)	—	体部外側: なで 体部内側: なで、施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 6/6	1mm以下の石英、角閃石を含む	
119 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (4.0)	—	体部外側: なで 体部内側: なで、施用直後	外側: 黑褐色10 Y R 7/3 内側: 黑褐色10 Y R 6/3	1mm以下の石英、角閃石を含む	
120 鮎牛子 等	鮎牛子等	18.8 (4.7)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/8 内側: 黑褐色10 Y R 6/8	1mm以下の石英、角閃石を含む	
121 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (7.1)	—	外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 7/4 内側: 黑褐色10 Y R 7/4	1mm以下の石英、角閃石を含む	外側: 黑風
122 鮎牛子 等	鮎牛子等	18.4 (1.6)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 5/4 内側: 黑褐色10 Y R 5/4	1mm以下の石英を含む	細胞: 内筋透かし(質透せず)
123 鮎牛子 等	鮎牛子等	30.0 (5.4)	—	外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 6/3	4mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
124 鮎牛子 等	鮎牛子等	17.0 (1.7)	—	口縁部外側: なで 口縁部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 7/4 内側: 黑褐色10 Y R 7/4	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
125 鮎牛子 等	鮎牛子等	21.6 (2.5)	—	口縫部外側: なで 口縫部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/6 内側: 黑褐色10 Y R 6/6	1mm以下の石英を含む	
126 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (9.3)	—	体部外側: なで 体部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 6/4 内側: 黑褐色10 Y R 6/4	1mm以下の石英を含む	
127 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (19.6)	—	体部外側: 施用直後のため開閉不順 内側: 施用直後のため開閉不順	外側: 黑褐色10 Y R 7/4 内側: 黑褐色10 Y R 7/1	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
128 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (6.4)	—	上縫部外側: なで 上縫部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 7/1 内側: 黑褐色10 Y R 8/2	1~2mmの石英、長石を含む	
129 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (4.6)	—	口縫部外側: なで 口縫部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 7/4 内側: 黑褐色10 Y R 6/4	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
130 鮎牛子 等	鮎牛子等	— (2.4)	—	口縫部外側: なで 口縫部内側: なで	外側: 黑褐色10 Y R 7/3 内側: 黑褐色10 Y R 7/3	1mm以下の石英と長石を含む	

番号	器種	法量(㎤)		形態・手法の特徴	色調	最上備考	
		口径	底径				
131	排水土器 井	(5.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R7/5 内面：灰青7.5Y R7/4	1cm以下の石英・角閃石 を含む	外側：墨脱
132	排水土器 井	4.8	(2.6)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R4/1	2mm以下の石英・角閃石 を含む	
133	排水土器 井	5.6	(2.6)	「排水管」外：明示 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R8/2	3mm以下の石英・角閃石 を含む	
134	排水土器 井	(4.6)	2.7	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R8/2	3mm以下の石英・角閃石 を含む	
135	排水土器 井	(4.6)	2.8	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R8/2	3mm以下の石英・角閃石 を含む	
136	排水土器 井	(4.6)	2.8	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R8/2	3mm以下の石英・角閃石 を含む	大きさ：32.3g
137	排水土器 井	6.6	2.9	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/4	1-2mm以下の石英・長石、 石英を含む	
138	排水土器 井	(4.6)	2.8	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/8 内面：灰青10Y R8/8	0.6mm以下の石英・長石 を含む	大きさ：4.6g
139	排水土器 井口唇	(2.1)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R7/3 内面：灰青10Y R7/3	1cm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
140	排水土器 井口唇	1.7	(2.2)	「排水管」外：あり 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R7/1 内面：灰青10Y R7/1	1mm以下の石英を含む	
141	排水土器 井	3.6	(2.7)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青10Y R6/2	1mm以下の長石を含む	
142	排水土器 井	(2.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/4	3mm以下の石英・長石・ 長石・角閃石を含む	
143	排水土器 井	(2.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/6 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の角閃石を含む	白細部：四脚1条
144	排水土器 井	(5.4)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/6 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
145	排水土器 井	(3.8)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/4	2mm以下の石英・角閃 石、1mm以下の長石を 含む	
146	排水土器 井	(3.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R6/5 内面：灰青7.5Y R6/5	1-3mm以下の石英・長 石、長石を含む	範囲：白2条 内：灰
147	排水土器 井	(3.4)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石・ 石英を含む	白細部：沈没状の四脚1条
148	排水土器 井	(3.0)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1-3mmの石英・長石 を含む	体外部：底面
149	排水土器 井	(3.1)	0.5	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R5/1		大きさ：11.0g
150	排水土器 井口唇	(4.6)	(2.5)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R7/3		
151	排水土器 井口唇	(4.6)	4.0	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで	外面：灰青10Y R6/1		
152	排水土器 井口唇	(4.7)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/6 内面：灰青7.5Y R6/6	1-3mm以下の石英・長 石、長石を含む	白細部：沈没化した四脚2条
153	排水土器 井口唇	(2.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R7/4 内面：灰青7.5Y R7/4	1mm以下の石英を含む	
154	排水土器 井	(6.0)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R7/4 内面：灰青7.5Y R6/4	2mm以下の石英・長石・ 長石・肉内石を含む	
155	排水土器 井	(3.5)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/3 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 内：肉内石を含む	外：赤色斑点付
156	排水土器 井	4.6	(4.4)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/5 内面：灰青7.5Y R6/5	1mm以下の石英・長石を 含む	
157	排水土器 井	2.3	(5.0)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/1 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	底部外側：黒斑
158	排水土器 井	2.1	(4.9)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/1 内面：灰青7.5Y R6/2	2mm以下の長石を含む	
159	排水土器 井	3.1	(2.7)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R7/1 内面：灰青7.5Y R7/1	1mm以下の石英・長石を 含む	底部から底面：黒斑
160	排水土器 井	20.3	14.1	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/5	3mm以下の石英・長石を 含む	底部：深窪 脚部半側：円孔1×1箇所
161	排水土器 井	(3.5)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	2mmの石英・長石・ 肉内石を含む	
162	排水土器 井	6.5		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R7/1 内面：灰青7.5Y R7/1	3mm以下の石英・長石・ 長石を含む	内側面：黒斑
163	排水土器 井	(5.9)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R7/6 内面：灰青7.5Y R7/2	2mm以下の石英・長石を 含む	
164	排水土器 井	(4.6)		「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・長石を 含む	白細部外側：凹凸・黒斑
165	排水土器 井	13.9	(3.6)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：なし	外面：灰青10Y R7/3 内面：灰青7.5Y R7/3	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	白細部：竹縞文
166	排水土器 井	15.2	(2.1)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・角閃石 を含む	白細部外側：黒斑
167	排水土器 井	3.0	(2.5)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・角閃石 を含む	
168	排水土器 井	3.6	(1.6)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・角閃石 を含む	
169	排水土器 井	10.5	9.4	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/2 内面：灰青7.5Y R6/2	1mm以下の石英・長石を 含む	黒部外側：黒斑
170	排水土器 井	12.6	(2.4)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/6 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石を 含む	
171	排水土器 井	15.0	(2.2)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/6 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	
172	排水土器 井	14.0	(2.2)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	
173	排水土器 井	12.4	(2.6)	「排水管」外：なし 内：排水孔なしで 底部内：漏れき	外面：灰青10Y R6/4 内面：灰青7.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	

番号	岩種	法華(㎝)		形態、手筋の特徴	外 面	内 面	新 十 代 考		
		口 徑	底 径						
174	海生七層 巖	12.6	(4.0)	山鱗状外観：なで 口縁部外観：なで 体部内観：角切り 底部内観：なで	外面：にふくB2.5Y R6/4 内面：R2.5Y R6/6		1mm以下の石英・角閃石 を含む		
175	海生七層 巖	21.8	(6.2)	口縁部外観：なで 体部内観：角切り 底部内観：なで	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
176	海生七層 巖	20.8	(3.5)	山鱗状外観：なで 口縁部外観：なで 体部内観：角切り	外面：にふくB2.5Y R6/3 内面：にふくB2.5Y R6/3		1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
177	打波七層 巖	(5.5)	(2.0)	(厚さ)	外面：R2.5Y R6/3 内面：R2.5Y R6/3		重さ：3.5g		
178	始祖石層 巖	(4.5)	(3.9)	(厚さ)	外面：R2.5Y R6/3 内面：R2.5Y R6/3		重さ：145.3g		
179	侏羅七層 巖	12.6	(4.1)	1)山鱗状外観：なで 2)口縁部外観：角切り 3)体部内観：角切り・指削り・痕 底部内観：原削り・指削り・痕	外面：にふくB10 Y R5/2 内面：R2.5Y R6/1		2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母を含む		
180	侏羅七層 巖	12.5	(1.4)	口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		1mm以下の石英・長石を 含む		
181	侏羅七層 巖	24.9	(2.2)	口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		1mm以下の云石を含む		
182	侏羅七層 巖	5.8	(2.0)	1)山鱗状外観：なで 2)口縁部外観：角切り・直面 3)口縁部内観：角切り・直面	外面：R2.5Y R6/1 内面：R2.5Y R6/1		2mm以下の石英・長石を 含む		
183	侏羅七層 巖	(5.7)		外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁	外面：にふくB7.5Y R5/4 内面：R2.5Y R5/6		4mm以下の石英・長石・ 云石・角閃石を含む		
184	侏羅七層 巖	4.2	(4.2)	内面：厚壁	外面：R2.5Y R5/3 内面：R2.5Y R6/1		6mm以下の石英・長石以 下の石英・角閃石を含む		
185	侏羅七層 巖	13.6	3.3	6.3	外面：山鱗状外観：なで 内面：山鱗状内観：なで	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		7mm以下の石英・長石を 含む	
186	侏羅七層 巖	5.2	(5.0)	分離	外面：R2.5Y R6/4 内面：R2.5Y R6/4		1mm以下の石英・角閃石 ・雲母を含む		
187	侏羅七層 巖	13.4		口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：にふくB2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R5/6		1mm以下の石英を含む		
188	侏羅七層 巖	16.6	(4.0)	内面：厚壁のため調整不明 外面：厚壁	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		1mm以下の石英・長石・ 云石を含む		
189	侏羅七層 巖	19.8	(1.5)	口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：R2.5Y R6/4 内面：にふくB2.5Y R6/3		2mm以下の長石・角閃石 ・雲母を含む		
190	侏羅七層 巖	(8.2)		1)山鱗状外観：なで 2)口縁部外観：角切り 3)口縁部内観：角切り	外面：にふくB7.5Y R5/4 内面：にふくB7.5Y R5/4		1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
191	侏羅七層 巖	19.2	(4.3)	口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：にふくB2.5Y R6/6 内面：にふくB2.5Y R6/6		1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
192	侏羅七層 巖	10.4	(6.6)	外面：厚壁をもつ 内面：厚壁をもつ	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		4mm以下の石英・長石・ 云石を含む		
193	侏羅七層 巖	9.8	(2.6)	口縁部外観：なで 口縁部内観：なで	外面：にふくB2.5Y R7/4 内面：にふくB7.5Y R7/4		1mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母を含む		
194	侏羅七層 巖	3.5	(4.1)	内面：厚壁のため調整不明	外面：R2.5Y R7/4 内面：R2.5Y R7/4		1mm以下の石英・長石・ 云石を含む	表面外観：稚い刷毛目	
195	侏羅七層 巖	1.8	(4.0)	体部外観：なで 体部内観：なで	外面：R2.5Y R7/4 内面：R2.5Y R7/4		0.5mm以下の石英を含む		
196	侏羅七層 巖	3.6	(2.9)	1)山鱗状外観：なで 2)山鱗状内観：なで	外面：R2.5Y R7/4 内面：R2.5Y R7/4		1~2mm以下の石英・長 石を含む		
197	侏羅七層 巖	3.6	(1.9)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁のため調整不明	外面：にふくB2.5Y R7/4 内面：にふくB2.5Y R7/4		1mm以下の石英・長石を 含む		
198	侏羅七層 巖	5.2	(1.9)	内面：厚壁のため調整不明 外面：厚壁	外面：R2.5Y R7/3 内面：R2.5Y R7/1		2mm以下の石英・長石を 含む		
199	侏羅七層 巖	3.9	(2.1)	外面：指削り直面 内面：厚壁	外面：R2.5Y R7/3 内面：R2.5Y R7/3		2mm以下の長石・角閃石 を含む		
200	侏羅七層 巖	17.8	(2.7)	内面：厚壁外観：斜毛目・擦 き面	外面：R2.5Y R7/3 内面：R2.5Y R7/3		1mm以下の長石を含む		
201	侏羅七層 巖	22.8	(0.3)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁のため調整不明	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/4		3mm以下の石英を含む		
202	侏羅七層 巖	17.4	(0.4)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁のため調整不明	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/2		2mm以下の石英・長石・ 云石を含む	円孔穴	
203	侏羅七層 巖	(4.9)		外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁	外面：R2.5Y R7/4 内面：R2.5Y R7/4		3mm以下の石英・長石・ 云石を含む		
204	侏羅七層 巖	4.5	(3.7)	内面：厚壁のため調整不明 外面：厚壁	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/2		1~2mm以下の石英・長 石・雲母を含む		
205	侏羅七層 巖	3.6	(1.2)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/4		3mm以下の石英を含む		
206	侏羅七層 巖	9.0	(6.0)	1)山鱗状外観：なで 2)山鱗状内観：中厚・直面 3)口縁部外観：なで 4)口縁部内観：なで 5)底部内観：なで	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/2		1~2mm以下の石英・長 石・雲母を含む		
207	侏羅七層 巖	4.4	(2.6)	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/2	外面：にふくB2.5Y R6/2 内面：R2.5Y R6/2		3mm以下の石英・長石を 含む		
208	侏羅七層 巖	23.0	(1.6)	外面：厚壁	外面：R2.5Y R7/1 内面：R2.5Y R7/4		4mm以下の石英・長石・ 雲母を含む	底盤外観：無連	
209	侏羅七層 巖	22.4	(7.9)	山鱗状外観：なで 体部外観：中厚・直面 底部内観：なで	外面：R2.5Y R7/2 内面：R2.5Y R7/2		2mm以下の石英・長石を 含む		
210	侏羅七層 巖	13.2	(2.0)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁のため調整不明	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		2mm以下の石英を 含む		
211	侏羅七層 巖	12.0	(6.8)	外面：厚壁のため調整不明 内面：厚壁のため調整不明	外面：R2.5Y R6/6 内面：R2.5Y R6/6		2mm以下の石英・長石を 含む		
212	侏羅七層 巖	16.2	5.2	27.0	外面：R2.5Y R6/3 内面：R2.5Y R6/3		外面：R2.5Y R6/3 内面：R2.5Y R7/2	体部・底盤から底面・黒斑	
213	侏羅七層 巖	19.6	(8.2)	山鱗状外観：直面 底盤外観：中厚・直面 門形内観：なで	外面：R2.5Y R6/3 内面：R2.5Y R6/2		1~2mm以下の石英・長 石・雲母を含む		

番号 番号	西 南	注 釈 (cm)	形態・手法の特徴	色 調	地 士		備 考
					17.往	底 硬 脆	
214 乳牛上唇 小脛部	13.2	5.3	外面：摩減のため表面不平 内面：摩減のため表面不平	外面：浅黄褐色7.5Y R6/3 内面：浅白7.5Y R6/3	1mm以下の石英、長石を含む	外面：黄褐色	
215 乳牛上唇 直腸	3.2	(2.7)	外面：摩減のため表面不平 内面：摩減のため表面不平	外面：7.5Y R6/6 内面：7.5Y R6/6	2mm以下の石英、1mm以下の長石を含む		
216 乳牛上唇 糞便	22.2	(2.7)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：なで	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
217 乳牛上唇 大型片口唇		(5.2)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：なで	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
218 乳牛上唇 糞便	16.8	(3.3)	1唇辺縁部表面：なで 1唇辺縁部裏面：なで	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、鐵角を含む		
219 乳牛上唇 糞便	14.8	(2.9)	1唇辺縁部表面：なで 1唇辺縁部裏面：なで	外面：にこい7.5Y R7/3 内面：にこい7.5Y R7/3	~1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
220 乳牛上唇 糞便	15.0	(1.1)	外部外側：摩減のため表面不平 内部内側：摩減のため表面不平	外面：浅黃褐色7.5Y R6/3 内面：浅黃褐色7.5Y R6/3	1mm以下の長石を含む		
221 乳牛上唇 糞便	15.2	(2.5)	外部外側：なで 内部内側：なで、崩毛有	外面：浅黃褐色7.5Y R6/3 内面：浅黃褐色7.5Y R6/3	1mm以下の砂岩を含む		鉄部：円孔
222 乳牛上唇 小脛部	17.4	(4.1)	外部外側：なで 内部内側：なで	外面：にこい7.5Y R7/4 内面：浅黃褐色10Y R8/3	1~2mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
223 乳牛上唇 糞便	3.5	(2.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R8/1 内面：底白10Y R8/1	1~2mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
224 乳牛上唇 糞便	3.8	(2.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/3 内面：にこい7.5Y R6/3	~1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
225 乳牛上唇 糞便	2.9	(2.4)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R7/3 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石を含む		
226 乳牛上唇 糞便	5.0	(1.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R7/3 内面：にこい7.5Y R6/4	0.2mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
227 乳牛上唇 糞便	3.6	(1.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R7/3 内面：にこい7.5Y R6/3	1~2mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
228 乳牛上唇 小脛部	10.3	2.8	6.7	外側：底白のため調整不平 内側：底白のため調整不平	外面：底白10Y R7/3 内面：底白10Y R7/3	圓錐形を含む	
229 乳牛上唇 糞便		(5.9)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R7/4 内面：にこい7.5Y R7/4	2mm以下の長石、雲母を含む		
230 乳牛上唇 糞便	14.2	(7.2)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：摩減のため調整不平 口唇部裏面：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R7/4 内面：にこい7.5Y R7/3	3mm以下の石英、長石を含む		
231 乳牛上唇 糞便	13.6	(12.0)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：摩減のため調整不平 口唇部裏面：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R5/3 内面：にこい7.5Y R5/3	1mm以下の石英、長石を含む		
232 乳牛上唇 糞便	14.4	(11.6)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：摩減のため調整不平 口唇部裏面：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R7/2 内面：にこい7.5Y R7/2	3mm以下の石英、長石、雲母を含む		
233 乳牛上唇 糞便	15.4	(1.3)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R7/3 内面：にこい7.5Y R6/3	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		口唇部内側：圓錐2ヶ
234 乳牛上唇 糞便	11.0	(19.0)	口唇部表面：なで 口唇部裏面：摩減のため調整不平 口唇部裏面：摩減のため調整不平	外面：底白10Y R7/3 内面：にこい7.5Y R7/2	1~2mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
235 乳牛上唇 糞便	15.2	(4.0)	口唇部表面：摩減のため表面不平 口唇部裏面：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
236 乳牛上唇 糞便	15.8	(4.1)	口唇部表面：摩減のため表面不平 口唇部裏面：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
237 乳牛上唇 糞便	12.0	(10.5)	口唇部表面：摩減のため表面不平 口唇部裏面：摩減のため表面不平 口唇部裏面：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R5/2 内面：にこい7.5Y R5/2	1mm以下の長石、角閃石を含む		
238 乳牛上唇 糞便	16.1	(2.4)	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R7/4 内面：にこい7.5Y R7/3	2mm以下の石英、長石を含む		
239 乳牛上唇 糞便	13.4	(7.4)	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：底黄褐色7.5Y R8/4 内面：底黄褐色7.5Y R8/3	2mm以下の石英、長石を含む		
240 乳牛上唇 糞便	14.7	(4.2)	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R5/4 内面：にこい7.5Y R5/4	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
241 乳牛上唇 糞便	13.0	(5.4)	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：底白10Y R7/3	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む	圓錐：円孔1×4箇所	
242 乳牛上唇 糞便	14.2	7.5	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：底白10Y R6/1 内面：底白10Y R6/1	1mm以下の長石を多量含む	外側底部：黒斑	
243 乳牛上唇 糞便	11.2	3.8	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：にこい7.5Y R7/4 内面：にこい7.5Y R7/4	2mm以下の石英、長石を含む		
244 乳牛上唇 糞便	2.8	(6.6)	外側：摩減のため調整不平 内側：摩減のため調整不平	外面：底7.5Y R7/6 内面：底7.5Y R7/6	2mm以下の石英、長石を含む		
245 乳牛上唇 糞便		(4.0)	外側：底前部、指壓痕附近 内側：指壓痕附近	外面：にこい7.5Y R6/6 内面：にこい7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
246 乳牛上唇 糞便	3.9	(4.2)	外側：指壓痕附近 内側：指壓痕附近	外面：底白10Y R6/4 内面：底白10Y R6/4	1mm以下の石英、長石、長角閃石を含む		
247 乳牛上唇 糞便	2.8	(5.5)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R6/7 内面：底白10Y R4/3	2mm以下の石英、1mm以下の角閃石を含む		
248 乳牛上唇 糞便	4.0	(3.2)	外側：底減のため調整不平 内側：底減のため調整不平	外側：底白10Y R6/3 内面：底白10Y R6/3	1mm以下の石英、長石を含む		
249 乳牛上唇 糞便	2.2	(2.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：底白10Y R6/3 内面：底白10Y R6/3	1mm以下の石英、雲母を含む		
250 乳牛上唇 糞便	14.0	(11.3)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
251 乳牛上唇 糞便	15.0	(11.4)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
252 乳牛上唇 糞便		(4.6)	外側：摩減のため表面不平 内側：摩減のため表面不平	外面：にこい7.5Y R6/4 内面：にこい7.5Y R6/4	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		

報告番号	回数	法 量(cm)	幅 度 高 度	制限、手術の特徴	色 調	施 主	参考	
							外	内
233	病生上唇 小形体	4.5	(4.3)	底面外側：穿刺のため調整不規 則底面内側：縫合部を含む、で	外側：赤黒2.5Y R 4/1 内側：灰2.5Y R 8/1	0.5mm以下の長石等を含む		
234	病生上唇 浅切	3.7	(3.5)	角膜：左、右 内側：左、右	外側：黒赤2.5Y R 3/1 内側：赤2.5Y R 4/1、5Y R 5/4	1~3mmの石英、長石等 蛋白質を含む	屈筋：黒赤	
235	病生上唇 深切	3.2	(3.0)	外側：穿刺のため調整不規 則内側：縫合部を含む	外側：灰2.5Y R 6/2 内側：灰2.5Y R 7/6	5mm以下の石英、長石等 蛋白質を含む		
236	病生上唇 深切	3.4	(3.1)	内側：座屈のため調整不規 則外側：縫合部を含む	外側：灰2.5Y R 8/2 内側：灰2.5Y R 8/3	1mm以下の長石を含む		
237	病生上唇 深切	5.0	(2.6)	底面外側：穿刺のため調整不規 則内側：縫合部を含む	外側：灰2.5Y R 6/1 内側：灰2.5Y R 6/1	2mm以下の石英、先端石 蛋白質を含む		
238	病生上唇 深切	2.6	(2.2)	内側：左、右	外側：灰2.5Y R 6/2 内側：灰2.5Y R 6/2	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
239	病生上唇 深切	2.9	(2.0)	底面外側：縫合部を含む 底面内側：縫合部を含む	外側：黄赤2.5Y R 5/1 内側：灰2.5Y R 8/4	2mm以下の石英、長石、 蛋白質を含む	屈筋：黒赤	
240	病生上唇 深切	14.8	(7.5)	L型部分外側：なで L型部分内側：見尾り	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：灰2.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む	白椎端部：西田 2 名	
241	病生上唇 浅切	22.0	(1.5)	L型部分外側：なで L型部分内側：見尾り	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 7/3	3mm以下の石英、肉眼石 蛋白質を含む		
242	病生上唇 深切	13.4	(2.5)	口唇部分外側：なで、指觸(直感)	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 7/3	1mm以下の石英、角蛋白 蛋白質を含む		
243	張生上唇 深切		(3.1)	外側：なで 内側：なで	外側：灰2.5Y R 7/1 内側：灰2.5Y R 6/5	1mm以下の石英、長石を 蛋白質を含む		
244	病生上唇 浅切	23.6	(6.0)	L型部分外側：なで 底面外側：穿刺のため内蔵不明 底面内側：見尾り	外側：灰2.5Y R 7/3 内側：灰2.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
245	病生上唇 大形切口	40.4	(9.0)	L型部分外側：横なで L型部分内側：横なで 各部内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 6/4	1mm以下の心赤、長石， 肉眼石を含む	L型部分外側：黒赤	
246	病生上唇 深切	16.0	(1.2)	L型部分外側：なで L型部分内側：見尾り	外側：灰2.5Y R 6/4 内側：灰2.5Y R 6/4	1mm以下の石英、無石， 角蛋白、蛋白質を含む	白椎端部：四辻 3 名	
247	病生上唇 深切		(5.4)	外側：穿刺のため調整不規 内側：見尾り	外側：灰2.5Y R 5/3 内側：灰2.5Y R 6/3	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む	屈筋：北條 4 条、板根 旗	
248	病生上唇 深切	13.0	(1.7)	口唇部分外側：なで 口唇部分内側：なで	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 7/4	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
249	病生上唇 深切	9.8	(6.5)	L型部分外側：なで 底面外側：銅色は 底面内側：銅色は	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
250	病生上唇 深切	9.4	(4.8)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 8/4 内側：灰2.5Y R 8/1	1mm以下の石英、長石を 蛋白質を含む		
271	病生上唇 高杯輪郭	39.0	(7.2)	L型部分外側：なで L型部分内側：なで、頭頂年乳、頭部	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 6/6	1~5mm以下の石英、長 鉄石、角蛋白を含む		
272	病生上唇 大形切口	29.0	(6.7)	L型部分外側：横なで L型部分内側：横なで	外側：灰2.5Y R 6/4 内側：灰2.5Y R 6/4	2mm以下の石英、1mm以 上の骨粉、角蛋白を含む		
273	病生上唇 大形切口	31.2	(7.4)	L型部分外側：なで L型部分内側：なで	外側：灰2.5Y R 6/3 内側：灰2.5Y R 6/3	1~2mm以下の石英、長 石、肉眼石、蛋白質を含む		
274	病生上唇	5.8	(3.3)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 7/3 内側：灰2.5Y R 2/2	2mm以下の石英を含む		
275	病生上唇 深切	3.0	(3.3)	外側：なで 内側：相撲直角	外側：灰2.5Y R 6/3 内側：灰2.5Y R 6/1	1~5mm以下の石英、長 石、蛋白質を含む		
276	病生上唇 深切	2.8	(2.0)	外側：なで 内側：底面正角	外側：灰2.5Y R 6/3 内側：灰2.5Y N 2/2	1mm以下の石英、長石を 蛋白質を含む		
277	病生上唇 深切	15.0	(2.8)	口唇部分外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 6/6	1~2mm以下の石英、長 石、蛋白質を含む		
278	病生上唇 深切	10.8	2.5	外側：なで 内側：相撲直角	外側：灰2.5Y R 6/3 内側：灰2.5Y R 6/1	1mm以下の石英、蛋白質を 含む		
279	病生上唇 深切	12.2	2.8	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 8/3 内側：灰2.5Y R 8/3	1mm以下の石英、長石を 蛋白質を含む		
280	病生上唇 深切	14.6	(3.6)	口唇部分外側：なで 底面外側：銅色は 底面内側：銅色は	外側：灰2.5Y R 7/4 内側：灰2.5Y R 7/4	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
281	病生上唇 ヒニサウチ 笠	2.4	2.5	外側：なで、四 内側：なで、底面正角	外側：底面正角 内側：底面正角	2mm以下の石英、長石等 蛋白質を含む		
282	病生上唇 長切口	16.4	(6.0)	L型部分外側：なで 底面外側：銅色は 底面内側：なで	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：底面7.5Y R 3/1	1~2mm以下の石英、長 石、角蛋白、蛋白質を含む	頭部：沈継 3 名	
283	病生上唇 底面正角	16.4	(1.2)	口唇部分外側：なで 底面外側：なで	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：底面7.5Y R 6/1	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む	口唇端部：竹村久	
284	病生上唇 底面正角	19.6	(2.5)	L型部分外側：なで L型部分内側：なで	外側：底面正角7.5Y R 6/6 内側：底面正角7.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
285	病生上唇 深切	12.8	(4.0)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：灰2.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石等 蛋白質を含む		
286	病生上唇 深切	14.0	(3.7)	口唇部分外側：なで 底面外側：銅色は 底面内側：なで	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：底面7.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
287	病生上唇 深切	20.8	(4.5)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：灰2.5Y R 6/6 内側：底面7.5Y R 6/6	1mm以下の石英、長石， 蛋白質を含む		
288	病生上唇 底面正角	19.0	(3.8)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：底面正角7.5Y R 6/6 内側：底面正角7.5Y R 6/6	2mm以下の石英、長石等 蛋白質を含む		
289	病生上唇 深切		(5.6)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：底面正角7.5Y R 6/6 内側：底面正角7.5Y R 6/6	1~3mm以下の石英、長 石、蛋白質を含む		
290	病生上唇 底面正角		(6.2)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：底面正角7.5Y R 6/6 内側：底面正角7.5Y R 6/6	3mm以下の石英、蛋白質 蛋白質を含む		
291	病生上唇 底面正角		(6.5)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：底面正角7.5Y R 6/6 内側：底面正角7.5Y R 6/6	3mm以下の石英、蛋白質 蛋白質を含む		
292	病生上唇 底面正角		(4.0)	外側：穿刺のため調整不規 内側：穿刺のため調整不規	外側：底面正角7.5Y R 6/4 内側：底面正角7.5Y R 6/4	1mm以下の石英、角蛋白 蛋白質を含む		

登録番号	登録者名	法規(※)	形態・手法の特徴	危険度	助一		備考
					口述	記述	
293	柴生十郎 内藤	17.6 (10.5)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下5.5 Y R 6.6 内崩: 地下5.5 Y R 6.6	1~5m以下の石灰・長石・ 角閃石を含む	御前: 内崩1.6	
294	柴生十郎 内藤	3.2 (5.6)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10Y R 7.1 内崩: 地下8Y R 8.1	1~2m以下の石灰・長 石を含む		
295	柴生十郎 内藤	7.0 (7.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.2 内崩: 地下5 Y R 8.4	1m以下の長石を含む		
296	柴生十郎 内藤	4.8 (4.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.2 内崩: 地下5 Y R 8.4	1m以下の長石を含む		
297	柴生十郎 内藤	3.6 (2.6)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.1 内崩: 地下10 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長石を 含む		
298	柴生十郎 内藤	18.5 (18.5)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.1 内崩: 地下10 Y R 8.6	5mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む	丸山: 菊庭	
299	柴生十郎 内藤	7.6 (6.1)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~3m以下の石灰・長石・ 角閃石を含む	内崩: 露庭	
300	柴生十郎 内藤	15.3 (4.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~3m以下の石灰・長石・ 角閃石を含む	内崩: 露庭	
301	柴生十郎 内藤	4.5 (2.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下10 Y R 8.6	1mm以下の長石を含む		
302	柴生十郎 内藤	11.1 (11.1)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下10 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
303	柴生十郎 内藤	19.6 (3.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長石を 含む		
304	柴生十郎 内藤	7.5 (2.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
305	柴生十郎 内藤	6.4 (6.4)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
306	柴生十郎 内藤	10.4 (10.4)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の長石を含む		
307	柴生十郎 内藤	16.0 (12.2)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
308	柴生十郎 内藤	17.2 (10.9)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
309	柴生十郎 内藤	18.1 (18.1)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~3mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む	内崩: 露庭	
310	柴生十郎 内藤	8.8 (8.8)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
311	柴生十郎 内藤	6.0 (4.3)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
312	柴生十郎 内藤	13.8 (8.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
313	柴生十郎 内藤	16.6 (3.5)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
314	柴生十郎 内藤	3.2 (7.2)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
315	柴生十郎 内藤	2.6 (10.5)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
316	柴生十郎 内藤	24.4 (10.1)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
317	柴生十郎 内藤	6.5 (3.2)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~3mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む	丸山: 1火	
318	柴生十郎 内藤	5.2 (2.7)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	2mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
319	柴生十郎 内藤	2.6 (2.7)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の長石を含む		
320	柴生十郎 内藤	4.4 (4.1)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	3mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
321	柴生十郎 内藤	4.6 (1.7)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	2mm以下の石灰・長石・ 角閃石を含む		
322	柴生十郎 内藤	8.2 (1.7)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~2.5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む	内崩: 丸山: 露庭	
323	柴生十郎 内藤	21.6 (3.7)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~2.5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
324	柴生十郎 内藤	14.0 (14.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む	内崩: 露庭: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	
325	柴生十郎 内藤	11.0 (11.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
326	柴生十郎 内藤	21.9 (4.2)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	4mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
327	柴生十郎 内藤	15.2 (3.4)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
328	柴生十郎 内藤	13.9 (3.9)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~2.5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
329	柴生十郎 内藤	14.2 (11.5)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	2mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
330	柴生十郎 内藤	21.0 (4.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	3mm以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
331	柴生十郎 内藤	3.2 (3.2)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~5m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		
332	柴生十郎 内藤	4.0 (4.0)	外崩: 霧成ための震度不明 内崩: 霧成ための震度不明	外崩: 地下10 Y R 8.6 内崩: 地下5 Y R 8.6	1~3m以下の石灰・長 石・角閃石を含む		

報告番号	種別	法規(規)	規範	形態・手法の特徴	外観	内観	施主	備考
338	新生上部 高齢	(3, 2)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: 横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/3	1~3mm以下の石英・長 石を含む			
334	新生上部 高齢	(3, 0)	外側: なし 内側: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R7/4 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/3	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
335	新生上部 高齢	4.0	外側: 増殖のための調整不順 内側: 增殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 10 Y R2/4 内側: にぶい横幅: 10 Y R2/4	3mm以下の石英・角閃石 の長石・1mm			
336	新生上部 高齢	4.2	(2, 1)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 增殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3	1mm以下の長石・角閃石 を含む	底部外側: 穿孔	
337	新生上部 高齢	3.0	(2, 2)	外側: 增殖のための調整不順 内側: 增殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R7/4 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/3	1mm以下の長石を含む		
338	新生上部 高齢	2.8	6.6	外側外観: なし 内側外観: なし 外側内観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3	1mm以下の長石を含む	外側: 非鉄	
339	新生上部 高齢	(4, 7)	外側: 増殖のための調整不順 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/4 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/4	1~3mm以下の石英・長 石・角閃石・1mmを含む			
340	新生上部 高齢	(6, 0)	外側外観: なし 内側外観: なし 外側内観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3	1~3mm以下の長石・石 英・角閃石を含む			
341	新生上部 高齢	13.2	(7, 9)	外側: 増殖のための調整不順 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: 横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/6	1~2mm以下の石英・长 石を含む		
342	新生上部 高齢	17.4	(4, 2)	口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R7/4 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4	1~3mm以下の石英・長 石・角閃石を含む		
343	新生上部 高齢	3.4	(6, 9)	外側外観: なし 内側外観: なし 外側内観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4 内側: にぶい横幅: 2.5 Y R5/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石・1mmを含む		
344	新生上部 高齢	14.8	(6, 0)	1縫隙外観: なし 口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
345	新生上部 高齢	(9, 2)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: 横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4	1~3mm以下の石英・長 石・角閃石・1mmを含む			
346	新生上部 高齢	(3, 3)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/4	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
347	新生上部 高齢	12.6	(8, 3)	外側外観: なし 内側外観: なし 外側内観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 10 Y R2/3 内側: にぶい横幅: 10 Y R2/3	1mm以下の長石を含む	補記: 円孔1×4箇所	
348	新生上部 高齢	7.0	(4, 5)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 10 Y R2/1 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R7/1	1mm以下の長石を含む	外部外側: かご口付替?	
349	新生上部 高齢	21.6	(3, 8)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: 横幅: 5.5 Y R6/6 内側: 横幅: 7.5 Y R6/6	1mm以下の石英・長石を 含む	縫隙部: 竹笠文	
350	新生上部 高齢	25.6	(3, 2)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	1~3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
351	新生上部 高齢	14.2	(2, 6)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 增殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 10 Y R7/4	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
352	新生上部 高齢	12.2	(2, 9)	口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: 横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	2mm以下の石英・長石を 含む	縫隙部: 竹笠文	
353	新生上部 高齢	4.5	(2, 0)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	1~3mm以下の石英・長石を 含む	底部外側: 黒斑	
354	新生上部 高齢	11.2	(8, 6)	口縫部外観: 制限圧延 内側外観: 制限圧延 内側内観: 制限圧延	外観: 底質: 10 Y R1/2 内側: にぶい横幅: 10 Y R6/2	3mm以下の石英・長石を 含む		
355	新生上部 高齢	(5, 2)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 10 Y R7/4 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/4	1mm以下の長石を含む			
356	新生上部 高齢	24.0	(2, 8)	口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: 横幅: 2.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・1mmを含む		
357	新生上部 高齢	4.4	(2, 8)	花形外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6 内側: にぶい横幅: 10 Y R6/3	1mm以下の長石を含む	底部・底部外側: 黑斑	
358	新生上部 高齢	5.2	(1, 9)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 10 Y R7/4 内側: にぶい横幅: 10 Y R7/4	1~3mm以下の石英・長 石を含む	底部外側: 黑斑	
359	新生上部 高齢	14.0	(4, 9)	口縫部外観: なし 内側外観: 制限圧延 内側内観: 制限圧延	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3	1mm以下の石英・長石を 含む		
360	新生上部 高齢	4.8	(2, 6)	外観: なし 内側: なし	外観: 横幅: 2.5 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/1	1mm以下の長石を含む	底部: 円孔	
361	新生上部 高齢	5.0	(3, 0)	外観: なし 内側: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/2	1mm以下の長石を含む		
362	新生上部 高齢	17.0	(4, 5)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: 横幅: 10 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3	4mm以下の石英・長石を 含む	脚部: 円孔1×6	
363	新生上部 高齢	18.8	(3, 4)	口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし 内側外観: 制限圧延	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む		
364	新生上部 高齢	15.2	(4, 6)	外側外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし 内側外観: 制限圧延	外観: 横幅: 7.5 Y R5/6 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	1~2mm以下の石英・長 石を含む		
365	新生上部 高齢	16.4	(0, 2)	口縫部外観: なし 内側外観: 制限圧延 内側内観: なし	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/4 内側: にぶい横幅: 7.5 Y R6/3	1~2mmの長石・角閃石 を含む		
366	新生上部 高齢	6.2	(4, 4)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 10 Y R8/1 内側: にぶい横幅: 10 Y R8/1	3mm以下の長石を含む		
367	新生上部 高齢	16.9	(7, 1)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/2	1~2mmの長石・石英を 含む	外側: 黑斑	
368	新生上部 高齢	3.4	(7, 0)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: にぶい横幅: 5.5 Y R6/2 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/2	1mm以下の長石・石英を 含む	底部外側: 開底	
369	新生上部 高齢	17.0	(4, 3)	口縫部外観: なし 内側外観: なし 内側内観: なし 内側外観: 制限圧延	外観: 横幅: 7.5 Y R5/8 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/6	1mm以下の長石・石英を 含む	口縫部: 円孔1条	
370	新生上部 高齢	5.6	(0, 1)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 增殖のための調整不順	外観: 勝負: 5.5 Y R6/1 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R7/3	1mm以下の長石・角閃石 を含む		
371	新生上部 高齢	2.8	(5, 1)	外側: 増殖のための調整不順 内側: 増殖のための調整不順	外観: 横幅: 5.5 Y R6/1 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R6/3	1~3mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	底部外側: 黑斑	
372	新生上部 高齢	3.3	(4, 9)	外側: 增殖のための調整不順 内側: なし	外観: にぶい横幅: 8 R/2 内側: にぶい横幅: 5.5 Y R/2	1mm以下の石英・長石を 含む	底部外側: 黑斑	

番号 名	器種	底 高 (m)	形態・手法の特徴	舟		船 主	備 考	
				内 径	底 深 (m)	外 縁	内 縁	
273	陶生土器 灰陶	3.6	(2.9)	男頭	深底のため底面不規則 内縁外縁: 無	外縁: 底10Y R6/3 内縁: 底10Y R6/3	1m以下の石英を含む	
274	陶小土器 灰陶		(2.3)	男頭	深底のため底面不規則 内縁: 略成のため底面不明	外縁: 底10Y R6/2 内縁: 底10Y R5/1	1m以下の石英・玉石を含む	
275	陶生土器 灰陶		(3.2)	外縁	深底のため底面不規則 内縁: 略成のため底面不明	外縁: に深い底7.5Y R5/3 内縁: に深い底7.5Y R3/3	1m以下の石英・角閃石を含む	
276	陶生土器 灰陶(石器)	13.4	1.9	2.5		外縁: 底10Y R7/1		重さ: 318.3g
277	陶生土器 灰	16.6	(5.0)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底10Y R6/4 内縁: に深い底10Y R4/3	1m以下の石英・底盤・ 内肉石を含む	
278	陶生土器 灰	12.8	(10.3)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底7.5Y R7/4 内縁: 底10Y R5/2	4m以下の石英・長石全 部を含む	
279	陶小土器 灰陶(灰陶)	9.6	(12.7)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: に深い底7.5Y R6/4 内縁: 底10Y R6/6	1m以下の石英・石英を 含む	
280	陶小土器 灰陶	25.2	(2.2)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 底7.5Y R6/6 内縁: に深い底7.5Y R6/4	2m以下の長石・角閃石 を含む	内縁底: 頂端4.5度 内縁: 保有件
281	陶生土器 灰	15.9	(3.0)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底7.5Y R6/6 内縁: 底7.5Y R6/6	1m以下の石英・角閃石 を含む	
282	陶生土器 高杯		(6.2)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: に深い底7.5Y R7/3 内縁: 底10Y R6/6	1~2m以下の石英・長石・ 石英を含む	
283	陶生土器 灰杯	19.2	(9.0)	外縁: 略毛目 内縁: 略毛目		外縁: 深5Y R6/6 内縁: 深5Y R6/6	1~5m以下の長石・石 英を含む	横断面下: 円孔1.2×3mm 横断面下: 円孔2.2×3mm
284	陶生土器 灰	2.4	(4.9)	外縁: 略成のため底面不規則 内縁: 略成のため底面不規則		外縁: 陶10Y R4/3 内縁: 深5Y R6/6	2m以下の石英を含む	
285	陶生土器 灰	4.0	2.2	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深5Y R6/6 内縁: 深5Y R6/6	1m以下の石英・石英を 含む	
286	陶生土器 灰	11.8	(2.1)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深7.5Y R6/6 内縁: に深い底7.5Y R6/6	1~5m以下の石英・長石・ 石英を含む	
287	陶生土器 灰陶	3.3	(3.1)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深4.5Y R7/1 内縁: 深5Y R6/6	3m以下の石英・長石・ 黄鐵鉄を含む	
288	陶生土器 灰		(3.2)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: に深い底7.5Y R6/4 内縁: 深6.5Y R7/2	1~5m以下の石英・長石・ 石英を含む	
289	陶生土器 灰陶	11.7	(5.0)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底7.5Y R8/1 内縁: に深い底7.5Y R6/4	2m以下の石英・長石・ 黄鐵鉄を含む	内縁: 斜干済合灰
290	陶生土器 灰陶	6.3	(5.9)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: 略成のため底面不規則 内縁下外縁: 略成のため底面不規則		外縁: 深5Y R6/6 内縁: 深5Y R6/6	2m以下の石英・長石を 含む	
291	陶生土器 灰陶	16.8	(4.8)	口縁部外縁: 略成のため底面不規則 内縁上外縁: 略成のため底面不規則		外縁: 深5Y R6/6 内縁: 深7.5Y R6/8	3m以下の石英・長石・ 角閃石・黄鐵鉄を含む	
292	陶生土器 灰	3.0	(5.1)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: に深い底10Y R7/3 内縁: なで	1~5mの石英・長石・ 黃鐵鉄を含む	
293	陶生土器 灰		(4.3)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深5Y R6/6 内縁: 深5Y R6/6	10m以下の石英・長石を 含む	
294	陶生土器 灰陶	1.0	(4.1)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 底内10Y R6/2 内縁: 底山10Y R6/2	1.5m以下の石英・長石・ 石英を含む	
295	陶生土器 灰	11.0	(5.3)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深7.5Y R6/6 内縁: 深5Y R6/1	5m以下の長石・角閃石 を含む	
296	陶生土器 灰陶	15.4	(2.2)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 改良陶10Y R6/3 内縁: に深い底10Y R7/2	1~2m以下の石英・長石を 含む	
297	陶生土器 灰	6.0	(2.2)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 明顯底7.5Y R6/5 内縁: はく離7.5Y R7/2	1~3m以下の石英・長石・ 石英を含む	
298	陶生土器 灰	19.4	(1.9)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 明顯底7.5Y R6/5 内縁: はく離7.5Y R6/5	1~3m以下の石英・長石・ 石英を含む	
299	陶生土器 灰陶	5.2	(1.8)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 深5Y R6/6 内縁: に深い底10Y R7/2	1~5m以下の石英・長石・ 石英を含む	
300	陶生土器 灰陶(灰陶)	26.0	(4.2)	口縁部外縁: なで 内縁上外縁: なで 内縁下外縁: なで		外縁: 7.5Y R6/6 内縁: に深い底7.5Y R6/4	7m以下の石英・長石・ 石英を含む	円孔
301	陶生土器 灰陶(灰陶)	13.8	6.8	30.8		外縁: 改良陶10Y R6/1 内縁: に深い底10Y R6/4	3~5m以下の砂鉆を含む	口縫合・側部外縫・体部下平 面・底付点
302	陶生土器 灰陶		(10.6)	体部外縁: 略毛目・底 体部内縁: 略毛目・底 底付外縁: 略毛目		外縁: に深い底10Y R6/2 内縁: に深い底10Y R6/2	1m以下の長石・角閃石 を含む	
303	陶生土器 灰陶	13.6		口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: 深黄陶10Y R6/2 内縁: 深黄陶10Y R6/2	1m以下の長石・角閃石 を少量含む	
304	陶生土器 灰陶	4.8	(2.1)	体部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底10Y R6/3 内縁: 底10Y R5/1	1.5m以下の石英・角閃石 を含む	
305	陶生土器 灰	19.8		体部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: 7.5Y R6/4 内縁: に深い底7.5Y R6/3	1~2m以下の砂鉆を含む	
306	木製小舟 礁条舟	(4.5)	(1.5,5)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底10Y R6/3 内縁: に深い底10Y R6/3	1本作り、枝刺れの落分用舟	
307	陶生土器 灰	9.4	(9.0)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: 陶2.5Y R6/2 内縁: 陶2.5Y R6/2	2m以下の砂鉆を含む	
308	陶生土器 灰	13.2	(6.7)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底7.5Y R6/4 内縁: に深い底7.5Y R6/4	1m以下の石英・長石・ 角閃石・黄鐵鉄を含む	
309	陶生土器 灰		(8.6)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: 陶黄陶10Y R6/3 内縁: 陶黄陶10Y R6/3	1~3m以下の石英・長石・ 角閃石・黄鐵鉄を含む	
310	陶生土器 灰	13.0	(5.1)	口縁部外縁: 略毛目 内縁上外縁: 略毛目 内縁下外縁: 略毛目		外縁: に深い底10Y R6/3 内縁: に深い底10Y R6/3	2m以下の石英・角閃石 を含む	

報告 番号	基 礪	法 葉(m)		形態・小葉の特徴	色	調 査	土	備 考
		口 徑	底 径					
411 弘生十 基 礪 ミニチュア 等	3.9	(7.4)		体部外側：縦溝疣状、なで 体部内側：無毛で、 根出葉裏	外側：灰白2.5Y 1/1 内側：黒2.5V 2/1		2mm以下の長石を含む	
412 弘生十 基 礪 高杯	25.6		(4.8)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：薄毛で 杯状の凹、鋸歯	外側：に赤い黄緑10Y R 6/4 内側：に赤い黄緑10Y R 6/4		4mm以下の石英、1mm以下の角閃石を含む	
413 弘生十 基 礪 西野	28.2		(6.1)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：薄毛で 杯状の凹、鋸歯	外側：に赤い黄緑10Y R 6/3 内側：灰黄緑10Y R 6/2		2mm以下の石英、長石を含む	
414 弘生上 基 礪			(17.6)	微細な瘤：全葉 体部外側：無毛で 体部内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 7/3 内側：灰2.5Y R 6/2		1mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	山鍾乳外側：斜め文、竹青文
415 弘生上 基 礪 葉	12.6		(14.7)	体部外側：無毛で 体部内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5V R 6/6 内側：灰2.5V R 6/6		3mm以下の石英、3mm以下の角閃石を含む	体部中辺：斜め文
416 弘生十 基 礪 葉	16.0		(11.4)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/4 内側：灰黄緑10Y R 6/2		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	山鍾乳裏：凹部2条
417 弘生十 基 礪 葉	15.6		(9.2)	口鍾乳外側：無毛で 口鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/6 内側：に赤い黄緑10Y R 6/6		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	山鍾乳裏：凹部2条
418 弘生十 基 礪 葉	16.2		(10.8)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰黄緑10Y R 6/6 内側：灰黄緑10Y R 7/3		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	斜壁：黒風
419 弘生十 基 礪 葉			(11.4)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 7/3 内側：に赤い黄緑10Y R 4/4		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
420 弘生上 基 礪	7.4		(12.5)	底部外側：鋸歯 底部内側：鋸歯 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/4 内側：に赤い黄緑10Y R 6/3		2mm以下の長い、角閃石 を含む	
421 弘生上 基 礪	7.4		(11.8)	底部外側：鋸歯 底部内側：鋸歯 根出葉裏	外側：灰2.5Y R 6/2 内側：灰2.5V R 6/2		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
422 弘生上 基 礪	12.4	(11.0)		外部：厚底のため調整不規 体部内側：無毛	外側：に赤い黄緑10Y R 7/3 内側：に赤い黄緑10Y R 6/4		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	脚部：上部内側：1×3箇所 下段内側：2~3箇所
423 弘生上 基 礪	15.4		(4.8)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/6 内側：に赤い黄緑10Y R 7/3		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	脚部：上部内側：1×3箇所、 下段内側：1箇所
424 弘生上 基 礪 小枝付	3.3		(5.5)	体部外側：無毛 体部内側：無毛 根出葉裏	外側：灰2.5Y R 6/1 内側：灰2.5V R 6/1		2mm以下の石英を含む	底部外側：赤色斑紋付
425 弘生上 基 礪 葉	13.6		(4.5)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 7/3 内側：橙7.5Y R 7/6		3mm以下の灰白色を含む	山鍾乳裏：竹青文 山鍾乳外側：斜め文 根出葉裏：凹部2条
426 弘生上 基 礪 葉	16.8		(7.5)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5V R 6/4 内側：灰2.5Y R 6/2		3mm以下の石英、長石等 を含む	口鍾乳部：凹部2条
427 弘生上 基 礪 葉	14.8		(9.8)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/4 内側：に赤い黄緑10Y R 5/3		1mm以下の長い、角閃石 を含む	
428 弘生上 基 礪 葉	11.3		(5.8)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5Y R 7/1 内側：灰2.5V R 6/1		2mm以下の石英を含む	
429 弘生上 基 礪 葉	14.0		(7.6)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 6/3 内側：灰2.5V R 6/3		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	口鍾乳部から体部：黒風
430 弘生十 基 礪 葉	11.6		(12.5)	口鍾乳外側：無毛で 口鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 7/4 内側：灰2.5V R 6/6		Jmm以下の長い等を含む	口鍾乳部：凹部2条 体部中辺：斜め文 背面下：黒風
431 弘生十 基 礪 葉	20.0		(5.0)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：橙7.5Y M 6/6 内側：灰2.5V R 6/6		2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	山鍾乳裏：凹部2条
432 弘生十 基 礪 葉	14.6		(6.3)	口鍾乳外側：無毛で 口鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄緑10Y R 7/2 内側：に赤い黄7.5Y R 6/3		1~2mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	LH鍾乳部：凹部3条
433 弘生上 基 礪 葉	24.8		(6.0)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄7.5Y R 6/4 内側：に赤い黄7.5Y R 6/4		1~3mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	山鍾乳部：凹部3条
434 前原七 基 礪 山野	(8.3) (8.3) (8.3)	(7.8) (7.8) (7.8)	1.2	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰NS			重S：54.2g セスカイ：1.2g
435 弘生上 基 礪 葉	14.5		(19.6)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5V R 6/4 内側：灰2.5V R 5/4		3mm以下の長い等を含む	口鍾乳部：凹部2条 体部中辺：斜め文 背面下：黒風
436 弘生十 基 礪 山野	22.0		(2.5)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄7.5Y R 6/4 内側：に赤い黄7.5Y R 7/4		4mm以下の石英、長石、 角閃石、毫毛を含む	
437 弘生十 基 礪 葉	14.0		(5.6)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：明褐色7.5V R 5/6 内側：明褐色7.5V R 5/6		1mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	体部外側：黒風
438 弘生十 基 礪 山野	15.4	3.6	5.7	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5V R 6/2 内側：灰2.5V R 6/2		~3mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
439 弘生十 基 礪 葉	34.0		(6.3)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰2.5V R 6/6 内側：灰2.5V R 6/6		~3mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
440 弘生十 基 礪 葉	17.0		(9.6)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：に赤い黄7.5Y R 6/4 内側：後赤7.5V R 7/3		5mm以下の石英、長石を 含む	
441 弘生十 基 礪 葉	12.2		(3.5)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：浅褐色7.5V R 6/4 内側：灰2.5V R 6/4		3mm以下の石英、長石を 含む	
442 弘生十 基 礪 葉	2.0		(4.6)	灰岩外側：厚底のため調整不規 灰岩内側：粗粒状	外側：灰2.5V R 6/5 内側：灰2.5V R 8/2		3mm以下の長い、長石を 含む	灰岩外側：栗底
443 弘生十 基 礪 葉	4.0		(2.0)	山鍾乳外側：無毛で 山鍾乳内側：無毛で 根出葉裏	外側：灰褐色10Y R 6/2 内側：灰褐色10Y R 6/2		粗粒状を含む	
444 弘生十 基 礪 葉	12.4		(7.3)	山鍾乳外側：厚底のため調整不規 灰岩内側：粗粒状	外側：浅褐色7.5V R 6/3 内側：灰褐色10Y R 6/1		1mm以下の石英を含む	
445 弘生十 基 礪 葉	14.0		(6.5)	山鍾乳外側：厚底のため調整不規 灰岩内側：粗粒状	外側：浅褐色7.5V R 7/1 内側：灰褐色7.5V R 7/1		2mm以下の石英を含む	

番号	種類	位置(①)		製造・手法の特徴	色調	胎土	備考
		□	仕上				
416	弥生土器 筒形	13.0	(3.0)	山根部外側：全で 山根部内側：無施釉、施釉のため調整不順	外側：にない焼7.5Y R7/3 内側：にない焼10Y R6/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
417	弥生土器 筒形	15.0	(3.0)	山根部外側：全で 山根部内側：無	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：にない焼10Y R6/3	1mm以下の石英を含む	
418	弥生土器 筒形	2.6	(2.6)	外側：縦條のため調整不順 内側：なし、施釉	外側：焼7.5Y R5/2 内側：焼10Y R6/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
419	弥生土器 筒形	2.6	(3.5)	外側：縦條のため調整不順 内側：なし、施釉	外側：焼7.5Y R6/3 内側：焼10Y R6/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
420	弥生土器 筒形	4.8	(4.7)	外側：縦條のため調整不順 内側：なし、施釉	外側：焼10Y R6/1 内側：焼10Y R6/3	2.5mm以下の石英、長石を含む	
421	弥生土器 筒形	13.4	(5.7)	山根部外側：全で 山根部内側：無施釉、施釉	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：焼10Y R7/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
422	弥生土器 筒形	—	(7.1)	外側：縦條のため調整不順 内側：なし、施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼10Y R6/6	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
423	弥生土器 筒形	2.0	(4.7)	外側：縦條のため調整不順 内側：縦條のため調整不順	外側：焼7.5Y R6/3 内側：焼10Y R6/2	1mm以下の石英、長石を含む	外側：黒斑
424	弥生土器 筒形	5.4	(2.6)	外側：縦條：目 内側：目	外側：焼7.5Y R6/4 内側：焼10Y R3/1	2mm以下の石英、長石を含む	
425	弥生土器 筒形	16.6	(5.9)	口は焼施釉：全で 内側：無施釉、施釉のため調整不順 胎土内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：にない焼7.5Y R7/3	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
426	弥生土器 筒形	16.7	(5.0)	山根部外側：全で 山根部内側：無施釉、施釉のため調整不順	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：にない焼7.5Y R7/2	3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
427	弥生土器 筒形	—	(5.5)	外側：縦條：目 内側：目	外側：焼7.5Y R6/3 内側：焼10Y R2/2	3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
428	弥生土器 筒形	19.6	(3.6)	外側外側：縦條のため調整不順 内側：縦條のため調整不順	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：焼7.5Y R6/6	2mm以下の石英、角閃石を含む	
429	弥生土器 筒形	27.2	(3.8)	外側外側：縦條のため調整不順 内側：縦條のため調整不順	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：にない焼7.5Y R6/4	1mm以下の石英、角閃石を含む	
430	弥生土器 筒形	3.5	(10.9)	外側外側：縦條のため調整不順 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：にない焼7.5Y R6/3	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
431	弥生土器 筒形	12.0	(1.1)	山根部外側：全で 山根部内側：全で	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石を含む	
432	弥生土器 筒形	19.0	(1.5)	口は焼施釉：全で 内側：目	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼10Y R6/6	3mm以下の石英、長石を含む	
433	弥生土器 筒形	10.0	(8.9)	内側：目 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：にない焼7.5Y R3/2	3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
434	弥生土器 筒形	10.6	(12.7)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：にない焼10Y R6/3 内側：にない焼10Y R6/3	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
435	弥生土器 筒形	—	(11.9)	外側外側：全で 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R5/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
436	弥生土器 筒形	13.4	(18.2)	外側外側：無施釉、縦條目、縦條痕 内側内側：無施釉、縦條痕	外側：焼2.5Y R6/6 内側：焼3.5Y R6/6	1~4mm以下の石英、長石を含む	
437	弥生土器 筒形	15.0	(15.2)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：にない焼7.5Y R3/3	4mm以下の石英、1mm以下の基盤を含む	
438	弥生土器 筒形	15.4	(6.9)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：にない焼7.5Y R5/4	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
439	弥生土器 筒形	15.2	(5.1)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：にない焼7.5Y R6/4	1mm以上の石英、長石、角閃石を含む	
440	弥生土器 筒形	16.0	(4.5)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：にない焼7.5Y R6/3	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
471	弥生土器 筒形	15.6	(4.1)	山根部外側：全で 山根部内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：にない焼7.5Y R5/4	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
472	弥生土器 筒形	12.4	(4.0)	外側：縦條のため調整不順 内側：縦條のため調整不順	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石を含む	
473	弥生土器 筒形	6.5	(3.6)	外側：印字 内側：目	外側：にない焼10Y R7/3 内側：焼10Y R7/3	1~5mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
474	弥生土器 筒形	3.6	(3.7)	外側外側：無施釉 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	外側：黒斑
475	弥生土器 筒形	3.1	(4.8)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：にない焼10Y R7/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石を含む	外側から底部外側：黒斑
476	弥生土器 筒形	2.4	(4.8)	外側外側：無施釉、縦條目 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/4 内側：焼7.5Y R6/2	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
477	弥生土器 筒形	3.6	(2.6)	外側外側：無施釉 内側内側：白質、無施釉	外側：焼2.5Y R6/6 内側：焼2.5Y R6/6	3mm以下の石英、長石を含む	
478	弥生土器 筒形	3.6	(4.5)	外側外側：無施釉 内側内側：無施釉	外側：青黄褐色、6.5Y R6/3 内側：青黄褐色、6.5Y R6/2	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
479	弥生土器 筒形	—	(6.3)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
480	弥生土器 筒形	43.7	(6.8)	口は焼外側：全で 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R7/4 内側：にない焼7.5Y R7/4	3mm以下の石英を含む	
481	弥生土器 人頭形埴輪	59.8	13.5	山根部外側：無施釉、縦條目 内側：無施釉、無施釉	外側：にない焼10Y R7/3 内側：にない焼10Y R7/2	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	白線部外側：白線2条 内側外側：白線3条
482	弥生土器 人頭形埴輪	37.6	17.0	外側：目 内側内側：無施釉	外側：にない焼7.5Y R6/3 内側：にない焼7.5Y R6/2	1mm以下の石英、長石を含む	
483	弥生土器 人頭形埴輪	34.0	23.3	外側：目 内側内側：無施釉	外側：焼7.5Y R6/3 内側：焼7.5Y R6/3	5mm以下の石英、長石を含む	外側：黒斑
484	弥生土器 筒形	15.2	(1.2)	山根部外側：全で 山根部内側：全で	外側：焼7.5Y R6/6 内側：焼7.5Y R6/6	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	

剖面 番号	岩種	法 量(m)		形態・手法の特徴	色 調	層 上	備 考
		口 深	底 深				
485	鶴牛十 勝高 杯	11.0	(3.9)	体部外層：褐色 外層：褐色 内層：褐色	外層：に赤い青緑10Y R 7/3 内層：に赤い青緑10Y R 7/3	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
486	鶴牛十 勝高 杯	-	(5.4)	外層：單葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/2 内層：灰白5Y G 6/2	1mm以下の石英・長石を 含む	
487	鶴牛十 勝高 杯	-	(3.4)	外層：单葉	外層：灰白5Y G 6/2 内層：灰白5Y G 6/2	1mm以下の石英・長石を含む	
488	鶴牛十 勝高 杯	23.1	(5.4)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
489	鶴牛十 勝高 杯	-	(3.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/2 内層：灰白5Y G 6/2	1~2mm以下の石英・長 石を含む	
490	鶴牛十 勝高 杯	9.2	(3.2)	外層：单葉	外層：灰白5Y G 6/2 内層：灰白5Y G 6/2	1mm以下の長石を含む	
491	鶴牛十 勝高 杯	15.0	(3.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	1層堆積：竹葉文
492	鶴牛十 勝高 杯	16.4	(6.1)	外層：单葉	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1~3mm以下の石英・長石・ 長石を含む	
493	鶴牛十 勝高 杯	5.5	(2.6)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
494	鶴牛十 勝高 杯	15.4	(1.7)	L4段階外層：單葉で L5段階内層：單葉	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
495	鶴牛十 勝高 杯	-	(5.8)	細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：L3-5V G 6/2 内層：L3-5V G 6/2	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
496	鶴牛十 勝高 杯	4.3	(2.0)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
497	鶴牛十 勝高 杯	17.2	(3.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1mm以下の石英・長石・ 長石を含む	
498	鶴牛十 勝高 杯	24.0	(4.7)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1mm以下の石英・長石を 含む	
499	鶴牛十 勝高 杯	20.0	(5.2)	細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：に赤い青緑10Y R 6/6 内層：に赤い青緑10Y R 6/6	1~2mm以下の石英・長 石を含む	円孔
500	鶴牛十 勝高 杯	-	(3.0)	細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	2mm以下の石英等を含 む	
501	鶴牛十 勝高 杯	9.0	(6.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：L3-5V G 6/6 内層：L3-5V G 6/6	1mm以下の石英・長石を 含む	
502	鶴牛十 勝高 杯 小原光延	-	(2.9)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：L3-5V G 6/2 内層：L3-5V G 6/2	1mm以下の石英・長石を 含む	
503	鶴牛十 勝高 杯	13.0	(14.0)	口部細粒部：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：に赤い青緑10Y R 7/2 内層：に赤い青緑10Y R 7/2	1~2mmの石英・長石・ 角閃石を含む	
504	鶴牛十 勝高 杯 小型化	11.0	(9.6)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順 外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 7/2 内層：に赤い青緑10Y R 7/2	1mm以下の石英・長石を 含む	外層：黑斑
505	鶴牛十 勝高 杯	14.2	(5.7)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順 外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1~2mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	
506	鶴牛十 勝高 杯	13.4	(5.5)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順 外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
507	鶴牛十 勝高 杯	21.6	(4.9)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順 外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1~2mmの石英・長石を 含む	黑斑：黑斑
508	鶴牛十 勝高 杯 小原鉢	12.0	(3.4)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1~2mm以下の石英・長 石を含む	
509	鶴牛十 勝高 杯 小原鉢	20.8	(16.7)	口部細粒部：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：に赤い青緑10Y R 7/2 内層：に赤い青緑10Y R 7/2	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	脚部上位：円孔1×3箇所 脚部下位：円孔1×3箇所
510	鶴牛十 勝高 杯	23.0	(6.3)	口部細粒部：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	1~3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	口部細粒部内層：円孔2条
511	鶴牛十 勝高 杯	23.0	(4.6)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	5mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
512	鶴牛十 勝高 杯	20.4	(6.0)	口部細粒部：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉 細粒部外層：單葉 細粒部内層：單葉	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
513	鶴牛十 勝高 杯	19.1	(10.7)	細粒部外層：单葉のため調整不順 細粒部内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	脚部：上段円孔2×4箇所 脚部：下段円孔2×4箇所
514	鶴牛十 勝高 杯	17.4	(3.5)	細粒部外層：单葉のため調整不順 細粒部内層：单葉のため調整不順	外層：に赤い青緑10Y R 6/4 内層：に赤い青緑10Y R 6/4	3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	円孔3穴
515	鶴牛十 勝高 杯	18.4	(2.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉	外層：に赤い青緑10Y R 7/2 内層：に赤い青緑10Y R 7/2	1mm以下の石英を含む	円孔2穴
516	鶴牛十 勝高 杯	18.4	(3.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	脚部：円孔1×4箇所
517	鶴牛十 勝高 杯	14.2	(6.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	2mm以下の石英・角閃石 を含む	脚部：脚部
518	鶴牛十 勝高 杯	-	(6.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/6 内層：灰白5Y G 6/6	1~5mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
519	鶴牛十 勝高 杯	4.0	(2.2)	外層：单葉 内層：单葉のため調整不順	外層：浅黄緑5Y R 6/3 内層：单葉のため調整不順	1mm以下の石英・長石を 含む	瓶内部外層：黒斑
520	鶴牛十 勝高 杯	2.2	(5.2)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉	外層：浅黄緑5Y R 6/3 内層：灰白5Y G 6/2	5mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
521	鶴牛十 勝高 杯	4.4	(2.6)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/4 内層：单葉のため調整不順	3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	外層：黒斑
522	鶴牛十 勝高 杯	9.6	(13.3)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/4 内層：单葉のため調整不順	1mm以下の石英・長石を 含む	
523	鶴牛十 勝高 杯	11.0	(10.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/3 内層：单葉のため調整不順	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	脚部：四孔
524	鶴牛十 勝高 杯	9.0	(3.0)	外層：单葉のため調整不順 内層：单葉のため調整不順	外層：灰白5Y G 6/3 内層：单葉のため調整不順	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	脚部：上段内孔1×4 下段内孔1×6

物名 番号	基種	注記(m)		形態・子孫の特徴	色・調	動・十	備考	
		口径	底径					
525	赤生土苔 弘前	15.8	(18.4)	上縁部内面：なで 体部外側：厚い 門縫部内面：なで 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い	外側：にふい緑5Y R7/4 内側：にふい緑5Y R2/1	2mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
526	赤生土苔 弘前	18.2	(6.6)	門縫部内面：なで 体部外側：薄い 門縫部内面：なで 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い	外側：にふい緑5Y R7/4 内側：にふい緑5Y R2/1	1mm以下の石糸・長石を 含む		
527	赤生土苔 弘前	18.4	(7.1)	外側：瓣誠のため調整不規 整部外側：厚い 門縫部内面：なで 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い 腹縫部内面：なで 腹縫部外側：厚い	外側：黒10Y R8/2 内側：黒10Y R8/2	1mm以下の石糸・長石を 含む		
528	赤生土苔 弘前	9.2	27.3	瓣誠外側：なで 瓣誠部内側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い	外側：黒9Y R7/6 内側：黒9Y R7/6	1mm以下の石糸を含む	底部内面：つつま通り	
529	赤牛+苔 御前	8.4	(13.0)	口縫部内面：なで 瓣誠部内側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い 瓣誠部内面：なで 瓣誠部外側：細い	外側：にふい黒10Y R7/3 内側：灰黒10Y R6/2	1mm以下の石糸を含む		
530	赤牛+苔 御前		(7.6)	瓣誠外側：粗い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い 瓣誠部内側：粗い	外側：にふい緑5Y R6/3 内側：にふい緑5Y R6/3	1~3mm以下の石糸・長 石・角閃石を含む		
531	赤牛+苔 御前		(7.0)	瓣誠上半部：粗い 瓣誠下半部：細い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い 瓣誠部内側：粗い 瓣誠部外側：粗い	外側：にふい緑5Y R6/4 内側：にふい緑5Y R7/2	2mm以下の石糸・長石を 含む		
532	赤牛+苔 御前		(7.8)	瓣誠外側：瓣誠のため調整不規 整部外側：瓣誠のため調整不規 整部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規	外側：二重構造5Y R7/4 内側：明緑8.5Y R7/2 外側：黒10Y R8/1 内側：黒10.5Y R8/1	1~5mm以下の石糸・長 石から底面：黑色 石を含む		
533	赤牛+苔 御前	5.4	(13.6)	瓣誠外側：瓣誠のため調整不規 整部外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠のため調整不規	外側：にふい黒10Y R6/4 内側：にふい黒10Y R6/4	2mm以下の妙板を含む	底部：穿孔	
534	赤生土苔 小型丸葉	8.8	(9.3)	体部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R6/4 内側：にふい黒10Y R6/4	2mm以下の妙板を含む	底部：穿孔	
535	赤生土苔 小型丸葉+苔	9.6	7.9	瓣誠外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/4 内側：明緑8.5Y R7/3	1.5mm以下の石糸・長 石・角閃石を含む		
536	赤生土苔 葉	14.2	5.2	(27.1)	口縫部内面：なで 瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/3 内側：にふい黒10Y R7/3	1~3mm以下の石糸・長 石・角閃石を含む	
537	赤牛+苔 葉	13.0	(12.6)	口縫部内面：なで 瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R5/4 内側：にふい黒10Y R5/4	1~3mm以下の石糸・長 石・茎付・角閃石を含む		
538	赤牛+苔 葉	12.8	6.6	24.9	瓣誠：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/6 内側：黒7.5Y R7/6	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む	底面：黑色
539	赤生土苔 葉	13.6	4.5	21.3	瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/2 内側：にふい黒10Y R7/3	1~2mm以下の石糸・長 石・素面を含む	
540	赤牛+苔 葉	15.0	22.7	LL瓣誠外側：なで 体部外側：瓣誠 瓣誠部内側：なで 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠	外側：黒8Y R2/6 内側：黒8Y R6/6	2.5mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
541	赤生土苔 葉	14.0	3.4	20.8	瓣誠外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R5/1 内側：黒10Y R5/1	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む	外側：黑色
542	赤生土苔 葉	12.6	(13.2)	瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R6/4 内側：黒10Y R6/4	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
543	赤牛+苔 小葉	9.6	(2.7)	外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：黒5Y R6/6 内側：2.5Y R6/6	1mm以下の石糸を含む		
544	赤牛+苔 中形	12.2	(10.0)	外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：黒5Y R6/2 内側：黒5Y R6/2	2~3mm以下の石糸・長 石を含む		
545	赤牛+苔 葉	14.4	(9.0)	瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/4 内側：黒10Y R7/3	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
546	赤牛+苔 葉	12.4	(11.0)	瓣誠外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：黒10Y R7/1 内側：黒10Y R7/1	1mm以下の石糸・長石を 含む		
547	赤牛+苔 中形	20.6	5.2	10.0	外側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部内側：瓣誠のため調整不規 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：黒10Y R8/1 内側：黒10Y R8/1	2~3mm以下の石糸を含む	外側：黑色
548	赤牛+苔 小葉	11.3	5.8	6.5	瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：黒5Y R6/6 内側：黒5Y R6/6	1~2mm以下の石糸・長 石を含む	
549	赤生土苔 葉	20.3	(12.4)	瓣誠外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠 瓣誠部外側：瓣誠 瓣誠部内側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/6 内側：にふい黒10Y R7/3	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
550	赤生土苔 葉	18.0	(8.7)	糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠	外側：にふい黒5Y R7/3 内側：にふい黒5Y R7/3	1~3mm以下の石糸・長 石・角閃石を含む	糸状部：内側3穴	
551	赤牛+苔 中形	23.3	(7.9)	糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠	外側：にふい黒5Y R6/4 内側：にふい黒5Y R6/4	1~3mm以下の石糸・長 石・角閃石を含む	糸状部内側：内側4穴	
552	赤牛+苔 葉	24.4	(5.4)	糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠	外側：にふい黒10Y R7/4 内側：にふい黒10Y R7/3	1mm以下の石糸・長石・ 角閃石を含む		
553	赤生土苔 葉	20.0	(8.5)	糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠 糸状部内側：瓣誠 糸状部外側：瓣誠	外側：黒5Y R6/6 内側：黒5Y R6/6	3mm以下の石糸・長石等 を含む		

番号	器種	法 庫(cm)			割合	特徴・手法の併用	色	範 囲	動 土	備 考	
		11 径	底 径	22 深							
554	弥生土器 高杯	24.6		(4.5)		外側：壁端のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R6/4 内側：にふい487.5Y R6/4	2mm以下の石英・長石を含む			
555	弥生土器 高杯	33.6		(8.0)		上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R6/3 内側：輪郭47.5Y R3/1	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・云母を含む			
556	弥生土器 高杯	18.6		(4.5)		口縁部内側：なで 外側：厚底のため調整不規 内側：なで	外側：にふい487.5Y R6/4 内側：にふい487.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
557	弥生土器 高杯	18.0		(5.4)		外側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R6/4	3mm以下の石英・長石を含む	器上部：円孔 1×3 所(部分) 器底：円孔 1×3 所(部分)		
558	弥生土器 高杯	26.0		(5.0)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/2 内側：厚底5.5Y R6/2	1mm以下の石英・長石を含む	輪郭：円孔 1×4 所		
559	弥生土器 高杯	2.3		(2.0)		外側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R6/3	1mm以下の石英を含む			
560	弥生土器 高杯	3.4		(3.0)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R7/3 内側：輪郭7.5Y R7/3	1mm以下の石英・長石を含む			
561	弥生土器 高杯	15.0		(3.0)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R6/4 内側：輪郭5.5Y R6/6	1~3mm以下の石英・長石・ 角閃石・云母を含む			
562	弥生土器 高杯	15.6		(2.0)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石を含む			
563	弥生土器 高杯	4.8		(3.7)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/2 内側：輪郭5.5Y R6/2	2mm以下の石英等を含む			
564	弥生土器 高杯	5.4		(1.7)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭10Y R4/1 内側：輪郭10Y R4/1	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
565	弥生土器 高杯		(10.0)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭10Y R7/3 内側：輪郭10Y R7/3	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・云母を含む			
566	弥生土器 高杯	12.8		(6.4)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭10Y R8/3 内側：輪郭10Y R8/3	3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
567	弥生土器 高杯	14.8		(14.7)		上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/6	4mm以上の石英・長石を含む			
568	弥生土器 高杯	13.8		(13.9)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R7/4 内側：輪郭5.5Y R7/4	2~3mm以下の長石・ シルバーフィラードの石英・ 角閃石・云母を含む			
569	弥生土器 高杯		(15.7)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R6/6 内側：輪郭7.5Y R6/6	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
570	弥生土器 高杯	6.0		(11.2)		上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R5/3 内側：にふい487.5Y R7/4	1~5mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	底面：黒度		
571	弥生土器 高杯	23.2		(10.0)		上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R6/4 内側：にふい487.5Y R6/4	1mm以下の石英を含む			
572	弥生土器 高杯		(5.3)			外縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：にふい487.5Y R7/4 内側：にふい487.5Y R7/4	1mm以下の長石を含む			
573	打削石器 石斧	2.3	(1.2)	0(0.5)		外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭4.5Y R5/1		重さ：0.5g 寸法：1.2×1.2		
574	弥生土器 高杯	5.8	(2.0)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/4 内側：輪郭5.5Y R6/4	1~2mm以下の長石・石英を含む	底面：黒度		
575	弥生土器 高杯	3.6	(1.4)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/4 内側：輪郭5.5Y R6/4	1mm以下の石英を含む			
576	弥生土器 高杯		(2.4)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/2 内側：輪郭5.5Y R6/2	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
577	弥生土器 高杯	14.8	(3.2)			上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R6/4 内側：輪郭7.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
578	弥生土器 高杯	3.8	(3.0)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/2 内側：輪郭5.5Y R6/2	1mm以下の石英を含む	体部から底面：白斑		
579	弥生土器 高杯	2.0	(4.7)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R6/8 内側：輪郭7.5Y R7/6	3mm以下の石英を含む			
580	弥生土器 高杯	12.8	(3.7)			上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：5.5Y R6/6 内側：5.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
581	弥生土器 高杯	5.2	(2.7)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
582	弥生土器 高杯	22.4	(1.8)			上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
583	弥生土器 高杯	16.2	(6.6)			上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/1	2mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
584	弥生土器 高杯	12.6	(5.2)			上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/6	1mm以下の石英を含む			
585	弥生土器 高杯	22.0	4.0			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R7/4 内側：輪郭5.5Y R3/1	1~4mmの石英・長石を含む	内側全体：黒度		
586	弥生土器 高杯		(4.4)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R5/6 内側：輪郭5.5Y R5/6	3mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む			
587	弥生土器 高杯	2.3	(3.4)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/6 内側：輪郭5.5Y R6/6	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	底面：黒度		
588	弥生土器 高杯	16.4	(9.2)			外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/4 内側：輪郭5.5Y R6/4	1mm以下の石英・長石を含む			
589	弥生土器 高杯	11.9	(2.2)			上縁外側：なで 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭7.5Y R7/6 内側：輪郭7.5Y R7/6	2mm以下の石英等を含む			
590	弥生土器 高杯		(17.6)			底面と上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/4 内側：輪郭5.5Y R6/4	4mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	底面と上縁：3×4箇所(貫通しない) 底面下段：3×4箇所(貫通しない)		
591	弥生土器 高杯	10.0	(4.9)			底面と上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：輪郭5.5Y R6/3 内側：輪郭5.5Y R6/3	5mm以下の石英を含む	底面と上縁：3×4箇所(貫通しない) 底面下段：3×4箇所(貫通しない)		
592	上縁高 底	1.5	0.5	0.6		底面と上縁外側：厚底のため調整不規 内側：厚底のため調整不規	外側：オリーブ8.0Y 4/2 内側：	オリーブ8.0Y 4/2	重さ：0.6g		

規格番号	基準	目 準	基準	形態・手法の特徴	色	調	土	備考
					表面	底面	内面	
503	株生土器 直井	16.5	(10.0)	外縁：裏底のため調整不順 内部：内面削り、絞り口 脚部外削り、脚部削り	外縁：にい・青10Y R5/4 内面：にい・青10Y R5/4	6mm以下の石英、長石を含む	算部・円柱1×4箇所	
504	株生土器 直井	13.8	(3.2)	外縁：裏底のため調整不順 内部：内面削り、絞り口 脚部外削り、脚部削り	外縁：にい・青10Y R5/3 内面：にい・青10Y R5/3	1mm以下の石英、長石を含む		
505	株生土器 直井	13.6	(6.6)	外縁：裏底のため調整不順 内部：内面削り、厚底のため調整不順 L字脚部外削り、厚底のため調整不順 脚部内削り、厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R5/3 内面：にい・青10Y R5/3	1mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
506	株生土器 直井	13.6	(3.1)	外縁：厚底のため調整不順 内部：内面削り、厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R5/6 内面：青10Y R5/6	5mm以下の石英、角閃石を含む		
507	株生土器 直井	14.0	(6.5)	外縁：厚底のため調整不順 内部：内面削り、厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R6/4 内面：赤橙10R 6/6	2mm以下の石英、長石を含む		
508	株生土器 直井	16.8	(4.5)	口縁厚底のため調整不順 脚部外削り、脚部削り 底部外削り、底部削り	外縁：赤水2.0Y R7/1 内面：灰白10Y R8/2	3mm以下の石英、長石を含む		
509	株生土器 直井	22.7	(3.8)	外縁：なで 内面：なで	外縁：にい・青10Y R6/4 内面：青10Y R6/2	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
600	株生土器 直井	19.8	(3.1)	外縁：なで 内面：なで	外縁：にい・青10Y R6/4 内面：青10Y R6/2	1mm以下の石英、長石を含む		
601	株生土器 直井	5.3	(4.5)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：赤10Y R7/6 内面：赤10Y R6/6	3mm以下の石英、長石を含む	背面：傾斜有	
602	株生土器 直井	6.6	(0.3)	外縁：絞り口 内面：絞り口	外縁：淡10Y R5/3 内面：赤10Y R2/6	1mm以下の石英、長石を含む		
403	株生土器 直井	6.6	(4.0)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：赤10Y R5/2 内面：赤10Y R5/2	3mm以下の石英、長石を含む		
604	株生土器 直井	11.9	(4.1)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：上・中・下黄10Y R7/3 内面：橘10Y R6/6	2mm以下の石英、長石を含む		
605	株生土器 直井	13.1	(8.0)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：赤10Y R2/6 内面：赤10Y R3/6	1mm以下の石英、長石を含む		
606	株生土器 直井	7.5	(6.9)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：橘10Y R6/6 内面：橘10Y R6/6	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
607	株生土器 直井	13.6	(6.4)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R7/3 内面：にい・青10Y R7/3	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
608	株生土器 直井	12.9	(7.7)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：青白10Y R8/3 内面：灰白10Y R8/2	3mm以下の石英、長石を含む		
609	株生土器 直井	15.3	(4.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R6/4 内面：にい・青10Y R7/2	3mm以下の石英、長石、長石を含む		
610	株生土器 直井	17.2	(3.0)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：橘10Y R6/6 内面：橘10Y R6/6	1mm以下の石英、長石を含む		
611	株生土器 直井	12.1	(4.7)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R6/4 内面：にい・青10Y R7/3	1~2mmの石英、長石、角閃石を含む		
612	株生土器 直井	13.0	(3.1)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/4	1mm以下の長石を含む		
613	株生土器 直井	11.7	(2.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	0.5mm以下の石英を含む		
614	株生土器 直井	11.7	(11.7)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R7/3 内面：灰白10Y R7/3	1mm以下の石英、長石を含む		
615	株生土器 直井	5.4	(14.4)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：青10Y R6/6 内面：灰白10Y R6/2	1~3mmの石英、長石、角閃石を含む	体部から腹部：黒斑	
616	株生土器 直井	5.3	(3.1)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R2/1 内面：灰白10Y R2/2	2.5mm以下の長石を含む	外：煤化層	
617	株生土器 直井	3.0	(3.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R1/1 内面：灰白10Y R1/1	0.2mm以下の石英を含む		
618	株生土器 直井	5.6	(3.8)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：にい・青10Y R2/4 内面：灰白10Y R6/3	2mm以下の石英、角閃石を含む		
619	株生土器 直井	3.2	(4.0)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R1/1 内面：灰白10Y R7/1	1~3mmの石英、長石を含む		
620	株生土器 直井	7.8	(6.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R2/2 内面：灰白10Y R2/2	1mm以下の石英、長石を含む		
621	株生土器 直井	14.6	(3.0)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰白10Y R7/2 内面：灰白10Y R6/4	2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
622	株生土器 直井	22.4	(6.9)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R6/6 内面：灰10Y R6/8	1~3mmの石英、長石、角閃石を含む	上縁内側：斑駁さま	
623	株生土器 直井	23.0	(5.2)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R6/6 内面：灰10Y R6/4	2mm以下の長石、鈍錐石を含む		
624	株生土器 直井	21.8	(5.9)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R7/4 内面：灰10Y R6/4	2mmの長石、鈍錐石を含む		
625	株生土器 直井	21.2	(5.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R7/4 内面：灰10Y R6/4	2mmの長石、鈍錐石を含む		
626	株生土器 直井	32.2	(3.6)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R6/6 内面：灰10Y R6/4	3mm以下の長石を含む		
627	株生土器 直井	26.6	(4.3)	外縁：厚底のため調整不順 内部：厚底のため調整不順	外縁：灰10Y R6/4 内面：灰10Y R6/4	4.5mm以下の長石を含む		

集会 番号	種 別	注 記	注 記	注 記	細 部	手 法	特 徴	色 調	施 工	備 考
					上部外表面：なで 仕上半面：粗目 仕上内面：なで 仕上内面：粗目	中部外表面：なで 仕上半面：粗目 仕上内面：なで 仕上内面：粗目	下部外表面：なで 仕上半面：粗目 仕上内面：なで 仕上内面：粗目	外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・長 石・角閃石・葉綠石を含む	体添下ト外頭：既存要 求
628	強生土質 墨	14.1	(23.4)							
629	強生七 等	5.4	(17.5)							
630	強生土質 砂利質	2.6	2.8	0.6				外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	3mm以下の長石・石英を 含む	1mm以下の長石・石英を 含む
631	強生土質 砂利質	3.6	(1.6)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・長石を 含む	
632	強生土質 砂利質	4.0	(2.4)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
633	強生土質 砂利質	2.0	(2.7)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	0.5mm以下の長石を含む	
634	強生土質 砂利質	(6.6)						外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	
635	強生土質 砂利質	3.6	(2.0)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 角閃石を含む	
636	強生土質 砂利質	15.0	(6.1)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の長石・石 英を含む	
637	強生土質 墨	12.2	(5.6)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・長 石を含む	
638	強生土質 砂利質	7.6	(3.6)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
639	強生土質 砂利質	11.8	(4.9)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
640	強生土質 墨	14.2	(5.7)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	口接縫部：凹縫2条
641	強生土質 墨	4.6	(8.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
642	強生土質 砂利質	3.8	(9.5)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
643	強生土質 墨	2.8	(9.1)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
644	強生土質 墨	13.6	(4.5)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の長石・長 石・角閃石を含む	
645	強生土質 砂利質	5.6	(3.1)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・長 石を含む	
646	強生土質 砂利質	21.2	(3.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
647	強生土質 砂利質	17.1	(6.6)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	3mm以上の石英・長石・ 雲母を含む	
648	強生土質 墨	26.1	(4.9)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
649	強生土質 墨	14.2	(4.7)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
650	強生土器	17.0	(2.5)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	3mm以下の石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
651	強生土器 墨	13.2	(4.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石を 含む	
652	強生土質 砂利質	4.0	(3.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・雲母・ 角閃石を含む	
653	強生土質 砂利質	27.0	(7.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
654	強生土質 砂利質	4.2	(2.7)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・ 雲母を含む	
655	強生土質 砂利質	4.4	(1.9)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	0.5mm以下の長石・雲 母・角閃石を含む	
656	強生土質 砂利質	6.6	(11.8)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~5mmの石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	
657	強生土質 砂利質	27.8	(5.9)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	5mm以下の長石・石英を 含む	
658	強生土質 砂利質	1.6	(4.1)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	3mm以下の石英を含む	
659	強生土質 砂利質	4.0	(2.3)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	3mm以下の石英・1mm以 上の雲母を含む	
660	強生土質 砂利質	2.2	(5.8)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	4mm以下の長石・石英を 含む	
661	強生土質 砂利質	18.4	(4.9)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2.5mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	重合：0.2g
662	ガラス質 ガラス質	(東3) 0.6	(西3) 0.6					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2.5mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	
663	強生土質 砂利質	14.8	(5.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の石英を含む	
664	強生土質 砂利質	18.4	(1.6)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1mm以下の石英を含む	
665	強生土質 砂利質	4.4	(3.1)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	2mm以下の石英を含む	
666	強生土質 砂利質	3.0	(6.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・石 英を含む	
667	強生土質 小型体	3.0	(5.2)					外表面：にじ・く7.5Y R5/3 内表面：にじ・く10Y R7/2	1~2mm以下の石英・石 英を含む	

種類 番号	基 材	法 規(g)	寸 付 R.C. 寸 付 Z.P. 寸 付 K.T.	形態・手法の特徴	外 面	内 面	上	備 考
					外 部 構 成	内 部 構 成		
668 乳牛上器 底板	N.O	(2.5)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R7/6 内面：R7.5 Y R7/4	1mm以下の長石・角閃石 を含む	外側：黒瓦	
669 乳牛上器 底板	17.6	(13.3)		上端部外側：なで 休止上部外側：磨毛目 休止下部外側：磨毛目 休止部内側：なで 休止下部内側：磨毛目 休止下部内側：磨毛目	外面：R7.5 Y R7/4 内面：R7.5 Y R7/6	1~3mm以下の長石・石 英を含む	山根薄層：沈殿1全 層部外側：沈殿1全	
670 乳牛上器 底板	15.4	(26.9)		上端部外側：なで 休止上部外側：磨毛目 休止下部外側：磨毛目 休止部内側：なで 休止下部内側：磨毛目 休止下部内側：磨毛目	外面：R7.5 Y R7/6 内面：R7.5 Y R7/2	1~3mm以下の長石・石 英を含む	底部：黒瓦	
671 乳牛上器 底板	14.1	(12.0)		口端部前面：なで 休止部外側：磨毛目 口端部背面：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R7.5 Y R7/6 内面：R7.5 Y R7/2	1~2mm以下の長石・石 英・角閃石を含む	体部内面：黒瓦	
672 張合上器 底板	24.1	(1.9)		上端部前面：なで 休止部前面：なで 口端部前面：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R7.5 Y R7/4 内面：R7.5 Y R7/1	1~2mm以下の長石・石 英・角閃石を含む	上端部外側：黒瓦	
673 乳牛上器 底板	20.0	(4.2)		口端部前面：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R7.5 Y R7/2 内面：R7.5 Y R6/4	1~3mm以下の長石・石 英・角閃石・雲母を含む	山根薄層：黒瓦	
674 乳牛上器 底板	18.8	(14.3)		口端部前面：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R7.5 Y R6/3 内面：R7.5 Y R6/8	4mm以上の長石・石英 ・角閃石を含む	脚部下位：円孔1穴	
675 張合上器 底板	9.2	(8.9)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R6/4 内面：R7.5 Y R7/3	1~2mm以下の長石・石 英を含む		
676 張合上器 底板	2.4	(1.9)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R7/6 内面：R7.5 Y R7/6	1mm以下の石英少少含む		
677 乳牛上器 底板	19.6	4.0	10.8	休止部外側：磨毛目・直 線状の凹部・なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R6.0 Y R7/2 内面：R6.0 Y R8/2	2mm以下の反白・石英を 含む	体部外側：筋上斜 体部下位外側：黒瓦	
678 乳牛上器 底板	13.0	(2.3)		口端部前面：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面：R7.5 Y R7/4 内面：R7.5 Y R7/4	2mm以下の長石を含む		
679 乳牛上器 底板	22.0	5.6	6.7	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R7/1 内面：R7.5 Y R7/1	1~2mm以下の長石・石 英を含む		
680 乳牛上器 底板	(4.5) (6.0) 3.9	4.2	0.7	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R6/4 内面：R7.5 Y R6/4	2mm以下の長石・石英・ 角閃石・雲母等を含む	重さ：2.7g 厚さ： 1.5mm	
681 打開石器 底板	(4.5) (5) 3.9	4.2	0.7	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：NS		重さ：45.5g 厚さ：1.5mm	
682 打開石器 底板	(長5.7) (幅6.0) 5.8	11.2	1.1	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：NS		重さ：58.8g 厚さ：1.5mm	
683 剪剝石器 底板	(長5.5) (幅5.5) 10.1	7.8	6.4	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R6.0 Y R7/1		重さ：103.6g 厚さ：1.5mm	
684 剪剝石器 底板	(長5.7) (幅5.7) 5.6	4.1	3.5	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R6.0 Y R7/1		重さ：37.7g 厚さ：1.5mm	
685 剪剝石器 底板	(長5.7) (幅5.7) 9.7	7.5	4.2	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R7.5 Y R7/1		重さ：49.9g 厚さ：1.5mm	
686 打開石器 底板	(長5.7) (幅5.7) 5.4	2.7	0.7	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：NS		重さ：5.9g 厚さ：1.5mm	
687 剪剝石器 底板	(長5.7) (幅5.7) 6.6	4.1	3.5	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：堅城		重さ：5.9g 厚さ：1.5mm	
688 乳牛上器 底板	12.2	(6.7)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/1	1mm以下の長石・長石を 含む	口端部から腰部外側：黒瓦	
689 乳牛上器 底板	13.2	(7.6)		上端部外側：なで 休止部前面：なで 休止部背面：なで 休止部内側：なで	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/1	2mm以下の長石を多量に 含む		
690 乳牛上器 底板	10.8	13.5		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の砂粒を含む	口端部から腰部外側：黒瓦	
691 乳牛上器 底板	—	(8.4)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の砂粒を含む	外側：黒瓦	
692 乳牛上器 底板	—	3.5	(2.0)	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/6 内面：R7.5 Y R6/6	1mm以下の長石・長石・ 角閃石を多量に含む		
693 乳牛上器 底板	14.8	(3.0)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R7/4 内面：R7.5 Y R7/3	2mm以下の石英を含む		
694 乳牛上器 底板	12.8	(4.2)		上端部外側：なで 休止部前面：磨毛目 休止部背面：磨毛目 休止部内側：なで	外面部：R7.5 Y R6/4 内面：R7.5 Y R6/4	2mm以下の石英・長石を 含む		
695 乳牛上器 底板	—	(1.8)		外面部：なで 内面部：堅城	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の長石・長石・ 角閃石を含む	外側：黒瓦	
696 乳牛上器 底板	—	(3.9)		上端部外側：なで 休止部前面：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	2mm以下の長石を含む	山根薄層：四隅2条	
697 乳牛上器 底板	—	(2.0)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1.5mm以下の長石・石英 等を含む		
698 乳牛上器 底板	—	(8.2)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の砂粒を含む		
699 乳牛上器 底板	—	(7.7)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/4 内面：R7.5 Y R6/4	1~3mm以下の石英・長 石・角閃石を含む	体部外側：黒瓦	
700 乳牛上器 底板	—	(2.7)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/3 内面：R7.5 Y R6/6	4mm以下の花崗岩・石英 等を含む		
701 乳牛上器 底板	—	(6.2)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の石英・長石を 含む		
702 乳牛上器 底板	—	5.5	(6.0)	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/2 内面：R7.5 Y R6/2	1mm以下の石英・長石を 含む	外側：黒瓦	
703 乳牛上器 底板	—	(3.8)		外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R7/2 内面：R7.5 Y R7/2	1.5mm以下の石英・長石を 含む		
704 乳牛上器 底板	—	3.9	(3.3)	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/3 内面：R7.5 Y R6/3	2mm以下の石英を含む		
705 乳牛上器 底板	—	19.8	(0.5)	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城のため調整不 可	外面部：R6.0 Y R6/6 内面：R7.5 Y R7/4	1mm以下の石英・長石を 含む		
706 乳牛上器 底板	—	15.8	(4.6)	外面部：堅城のため調整不 可 内面部：堅城	外面部：R6.0 Y R7/2 内面：R7.5 Y R7/2	1mm以下の石英を含む	外側：黒瓦	

番号 番号	地 種	法 葉 (ca)		系群・手付の特徴	色 調	寸 十	備 考	
		山	澤					
707	恵生十葉 桑	13.4	(12.7)	口部外部: なで 体部外部: 頭部 体部内部: なで 外葉: 内葉: 黄緑色 休葉: 内葉: 黄緑色 休葉: 外葉: 黄緑色	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4 内葉: に赤V黄緑10Y R6/4	3mm以下の長葉等を含む		
708	恵生十葉 桑		(10.2)	脚葉外葉: なで 脚葉内葉: なで 休葉外葉: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/3 内葉: に赤V黄緑10Y R6/3	1mm以下の石英、長石を含む	脚葉: 円孔3穴	
709	恵生十葉 桑		(2.3)	休葉外葉: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/3 内葉: に赤V黄緑10Y R6/3	1mm以下の石英、長石を含む		
710	恵生十葉 弘口澤	18.0	(5.5)	休葉外葉: なで 休葉内葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	1mm以下の石英、長石を含む		
711	恵生十葉 小桜葉	10.1	4.2	山葉部外葉: なで 体部外部: なで 休葉外葉: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/3 内葉: に赤V黄緑10Y R7/3	1~3mm以下の石英、長石、角閃石、云母を含む	体群外葉: 黑葉	
712	恵生十葉 桑	21.0	(6.4)	休葉部外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/2 内葉: に赤V黄緑10Y R6/2	4mm以下の石英、長石、云母を含む	体群外葉: 安息香	
713	恵生十葉 桑	22.0	(1.4)	休葉部外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	3mm以下の石英、長石を含む		
714	恵生十葉 桑	3.8	(5.6)	休葉外葉: なで 休葉内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/1 内葉: に赤V黄緑10Y R6/1	2mm以下の石英、長石を含む		
715	恵生十葉 高木	24.0	(7.2)	山葉部外葉: なで 休葉部外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/3 内葉: に赤V黄緑10Y R7/3	2mm以下の石英、長石を含む		
716	恵生十葉 大根片口澤	40.6	(10.9)	外葉: 常葉の山の葉緑色不規 休葉: 常葉の山の葉緑色不規 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/1 内葉: に赤V黄緑10Y R7/1	4mm以下の石英、長石を含む		
717	恵生十葉 高木		(4.5)	外葉: 常葉の山の葉緑色不規 休葉: 常葉の山の葉緑色不規 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/3 内葉: に赤V黄緑10Y R7/3	1mm以下の石英、長石を含む	高部: 円孔 休葉外葉: 黑葉	
718	恵生十葉 桑	16.2	3.2	33.5	休葉部外葉: なで 休葉外部: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/6 内葉: に赤V黄緑10Y R7/6	4mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	
719	恵生十葉 桑	14.4		(20.3)	休葉部外葉: なで 休葉外部: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R7/4 内葉: に赤V黄緑10Y R7/4	4mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	
720	恵生十葉 桑	19.2		(3.3)	休葉: なで 内葉: 離散り	外葉: に赤V黄緑10Y R3/4 内葉: に赤V黄緑10Y R3/4	1mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	第2: 円孔2×1箇所
721	恵生十葉 桑	9.7		(6.7)	休葉外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで 休葉内部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/3 内葉: に赤V黄緑10Y R6/3	2mm以下の石英、長石を含む	
722	恵生十葉 桑	13.8		(5.9)	外葉: 休葉の山の葉緑色不明 内葉: 休葉の山の葉緑色不明	外葉: に赤V黄緑10Y R7/3 内葉: に赤V黄緑10Y R7/3	4mm以下の石英、長石、 离散田字石を含む	
723	恵生十葉 桑	(14.5)			外葉: 休葉の山の葉緑色不明 内葉: 休葉の山の葉緑色不明	外葉: に赤V黄緑10Y R5/6	4mm以下の石英、長石、 离散田字石を含む	重さ: 6.8g
724	恵生十葉 石	(2.5)	(0.8)	(0.5)	外葉: 休葉の山の葉緑色不明 内葉: 休葉の山の葉緑色不明	外葉: に赤V黄緑10Y R6/1	4mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	重さ: 4.6g
725	恵生十葉 桑	15.4		(1.7)	山葉部外葉: なで 山葉部内部: なで 休葉外葉: なで 休葉内部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/5 内葉: に赤V黄緑10Y R6/5	4mm以下の石英、長石を含む	
726	恵生十葉 桑			(8.9)	休葉外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで 休葉内部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4 内葉: に赤V黄緑10Y R6/4	4mm以下の石英、長石、 离散田字石を含む	
727	恵生十葉 中井	26.5		(0.6)	口部外部: なで 休葉外葉: なで 休葉内部: なで 休葉外部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4 内葉: に赤V黄緑10Y R6/3	1mm以下の石英、長石、 内葉石、云母を含む	
728	上葉 朴	13.8	(5.8)		外葉: 常葉の山の葉緑色不規 内葉: 常葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R7/6 内葉: に赤V黄緑10Y R7/6	1mm以下の石英、長石を含む	
729	上葉 桑	18.0	(2.3)		外葉: 常葉の山の葉緑色不規 内葉: 常葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R8/2 内葉: に赤V黄緑10Y R8/2	1~5mm以下の石英、長 石を多量に含む	
730	恵生十葉 桑	6.3	(2.1)		外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4 内葉: に赤V黄緑10Y R6/4	4mm以下の石英、 長石を含む	
731	恵生十葉 桑			(8.7)	口部外部: 休葉の山の葉緑色不規 休葉内部: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/2 内葉: に赤V黄緑10Y R6/2	4mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	
732	恵生十葉 桑		(8.5)		外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R7/2 内葉: に赤V黄緑10Y R7/2	4mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	
733	恵生十葉 桑	13.4	(2.1)		口部外部: なで 口部内部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	6.5mm以下の石英を多く 含む	
734	恵生十葉 桑			(7.5)	外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	4mm以下の石英、長石を含む	
735	恵生十葉 桑	4.4	(1.6)	(1.5)	外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/8 内葉: に赤V黄緑10Y R6/8	1mm以下の石英、長 石、5mm以下の長石を少 量含む	外葉: 黑葉
736	恵生十葉 桑			(6.3)	外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/8 内葉: に赤V黄緑10Y R6/8	2mm以下の石英、長 石を含む	
737	恵生十葉 桑			(3.0)	外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R5/6 内葉: に赤V黄緑10Y R5/6	1~3mm以下の石英、長 石を含む	内葉: 黑葉
738	恵生十葉 桑	34.0	(2.6)		口部外部: なで 口部内部: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/2 内葉: に赤V黄緑10Y R6/4	2mm以下の角閃石を含む	
739	恵生十葉 桑	(13.5)	(0.9)	(0.9)	外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4	1mm以下の石英、長 石、5mm以下の長石を少 量含む	重さ: 27.9g サブカタゴト
740	恵生十葉 弘口澤	15.8	(1.9)		外葉: なで 内葉: なで	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	1mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
741	恵生十葉 桑		(17.1)		休葉外部: 休葉の山の葉緑色不規 休葉内部: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/6 内葉: に赤V黄緑10Y R6/6	1mm以下の石英、長石、 角閃石を含む	
742	恵生十葉 桑		(7.4)		外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/1 内葉: に赤V黄緑10Y R7/1	1~2mm以下の石英、長 石を含む	外葉: 黑葉
743	恵生十葉 白付十葉 桑		(1.8)		外葉: 休葉の山の葉緑色不規 内葉: 休葉の山の葉緑色不規	外葉: に赤V黄緑10Y R6/4 内葉: に赤V黄緑10Y R6/4	1mm以下の石英、長石、 内葉石を含む	

番号 番号	品種	法 藤(cm)		形態、手触の特徴	色 調	茎 七	備 留
		口 池	底 茎 高				
744	強生上器 葉	16.0	(3.7)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/6 内葉：濃7.5 Y R 6/6	3mm以下の石英、飛石、 内葉：角閃石を含む	
745	強生上器 葉	15.8	(3.9)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/6 内葉：濃7.5 Y R 6/6	3mm以下の石英、飛石、 内葉：角閃石を含む	
746	強生上器 葉	12.6	(3.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/6 内葉：濃7.5 Y R 6/6	1mm以下の石英、長石、 内葉：角閃石を含む	
747	強生上器 葉	10.0	(2.4)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1mm以下の石英、飛石を 含む	
748	強生上器 葉片片切	38.4	(7.0)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/4	1~3mm以下の石英、飛 石、角閃石を含む	
749	強生上器 葉片	19.4	(4.2)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/3 内葉：濃7.5 Y R 6/4	0.5mm以下の石英、飛石、 内葉：角閃石を含む	
750	強生上器 葉片	17.2	(4.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 6/3	1~3mm以下の石英、長 石、角閃石を含む	
751	強生上器 葉片	18.6	(2.9)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 6/3	1~3mm以下の石英、長 石、角閃石を含む	
752	強生上器 葉片	6.8	(6.8)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/4 内葉：濃7.5 Y R 6/6	1~3mm以下の石英、長 石、角閃石を含む	
753	強生上器 葉片	17.4	(3.2)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 6/4	2mm以下の長石を含む	
754	強生上器 葉片		(6.5)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/3	5mm以下の石英、飛石を 含む	
755	強生上器 葉片	5.4	(1.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/3	2mm以下の石英、長石、 内葉：角閃石を含む	底部外葉：無膜
756	強生上器 葉片	2.6	(5.0)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/3 内葉：濃7.5 Y R 6/2	外葉：濃7.5 Y R 6/3 内葉：濃7.5 Y R 6/2	
757	強生上器 葉片	2.4	(4.6)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/6 内葉：濃7.5 Y R 6/6	1~3mm以下の石英、長 石、角閃石を含む	
758	強生上器 葉片		(4.3)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/1	2mm以下の石英を含む	
759	強生上器 葉底	3.6	(4.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	2mm以下の石英、角閃石 を含む	
760	強生上器 葉底	6.0	(3.8)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	2mm以下の石英、角閃石 を含む	外葉：無膜
761	強生上器 葉底	6.8	(3.8)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/3	2mm以下の石英、角閃石 を含む	
762	強生上器 葉底	6.2	(2.0)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/2	4mm以下の石英1mm以下 の長石、角閃石を含む	
763	強生上器 葉底	4.3	(1.9)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 6/4	2mm以下の石英、長石を 含む	
764	強生上器 葉底	3.2	(1.2)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1~2mm以下の石英、長 石を含む	
765	強生上器 葉底	3.9	(2.8)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1mm以下の長石を含む	
766	強生上器 葉底	2.6	(2.0)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	1~3mm以下の長石、角閃石 を含む	
767	強生上器 葉底		(2.5)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1mm以下の長石を含む	強膜
768	小明上器 (9.5)	3.5	(9.5)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	2mm以下の長石、石英を 含む	
769	強生上器 葉片	26.7		外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	2mm以下の長石、石英を 含む	
770	強生上器 葉片	1.3	(2.2)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	2mm以下の長石を含む	
771	強生上器 葉片	19.4	(11.3)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/4 内葉：濃7.5 Y R 7/2	2mm以下の長石を含む	
772	強生上器 葉片	15.3	(2.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	
773	強生上器 葉片	19.0	(1.3)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/1 内葉：濃7.5 Y R 7/1	0.5mm以下の石英を含む	
774	強生上器 葉片	12.2	(1.4)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	
775	強生上器 葉片	12.6	(3.4)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1mm以下の石英、長石を 含む	
776	強生上器 葉片	12.0	9.2	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	1mm以下の石英、長石を 含む	
777	強生上器 葉片	12.8	(3.6)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	やや粗、1~2mm以下の 石英、長石、角閃石を含む	
778	強生上器 葉片	10.6	(1.7)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/1 内葉：濃7.5 Y R 7/1	外葉：無膜	
779	強生上器 葉片	0.7	(0.9)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/1 内葉：濃7.5 Y R 7/1	外葉：無膜	
780	強生上器 葉片	13.0	(1.5)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	
781	強生上器 葉片	9.9	(4.1)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	底部、底端内葉：自然無
782	強生上器 葉片		(3.6)	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	
783	強生上器 葉片	(14.5)	0.6	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 7/1 内葉：濃7.5 Y R 6/1	外葉：無膜	粗さ：0.7g
784	強生上器 葉片	14.0	10.0	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	外葉：無膜	
785	上端器 葉片	10.4	6.0	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	外葉：無膜	
786	下端器 葉片	10.6	7.0	外葉：葉のため調整不順 内葉：葉のため調整不順	外葉：濃7.5 Y R 6/2 内葉：濃7.5 Y R 6/2	外葉：無膜	

番号 登録番号	基盤	重量(g)		初期・手伝の特徴	色	測定	備考
		口径	底径				
787	上細器皿	10.6	6.2	2.2 口は卵形外側：なで 体部：なで 底部内側：△彫刻切り 内面：なで	外側：灰D2.5Y2/2 内側：灰D2.5Y2/2	審	
788	深細器皿		(5.6)	体部内側：絞子目調子	外側：灰D2/2 内側：灰D2/2	審	
789	彌生土器皿		9.0	21.9 外側：削減のため面整不明 内面：磨滅のため面整不明	外側：灰D10Y2/2 内側：灰D12.5Y2/2	1~3mm以下の石英・長 石を含む	
790	弥生土器皿	14.8	(21.9)	外側：削減のため面整不明 内面：磨滅のため面整不明	外側：灰D2.5Y2/2 内側：灰D7.5Y2/2	1~3mm以下の石英・長 石を含む	
791	打量器皿	(2.5) 4.7	(3.0)	(2.5) 0.5 内面：(厚さ)	外側：灰N5/	直5~5.3g 厚さ2.4mm 重さ：31.0g	
792	磨型(西 石磨丁)	(2.5) 7.6	(4.0)	(厚さ) 0.7	外側：灰D2.5Y2/2	記秋谷	



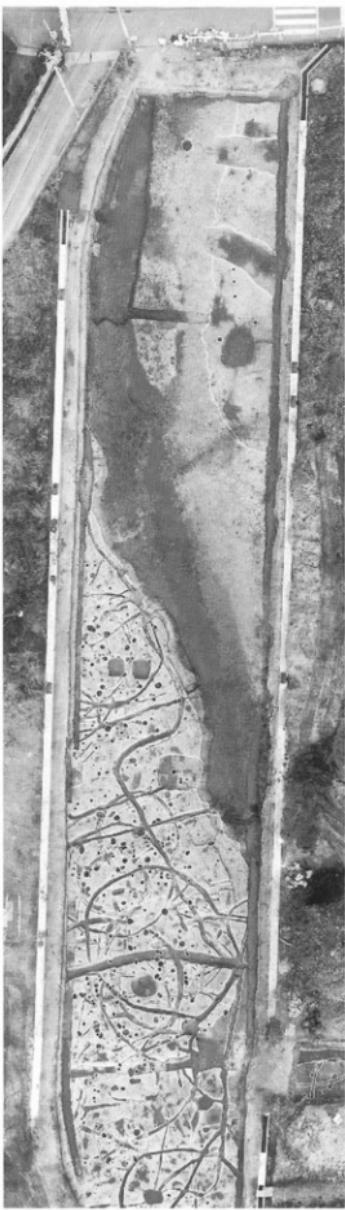
調査区周辺全景（航空写真、南から北を望む、向かって右が春日川）



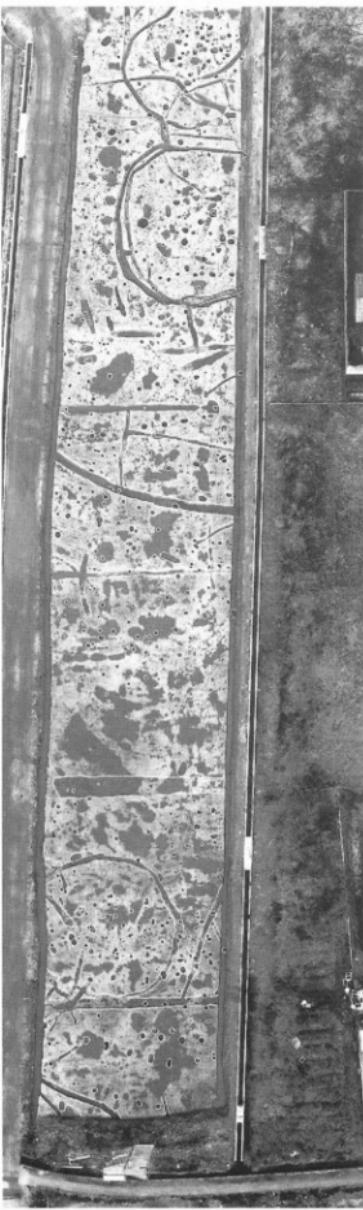
調査区全景（航空写真、南から）



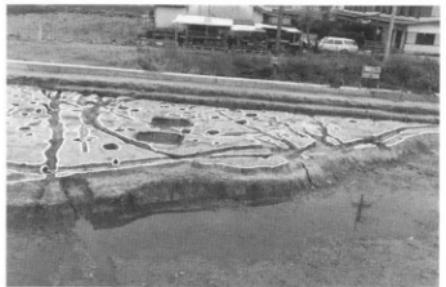
調査区付近全景（航空写真、東から、向かって右側が熊野神社社叢）



調査区全景（北半分、上が略北）



調査区全景（南半分、上が略北）



1 3~4区完掘状況（東から）



5 5区（SH10・11）完掘状況（西から）



2 4~5区完掘状況（北東から）



6 5~6区完掘状況（北西から）



3 4区（SH04）完掘状況（西から）



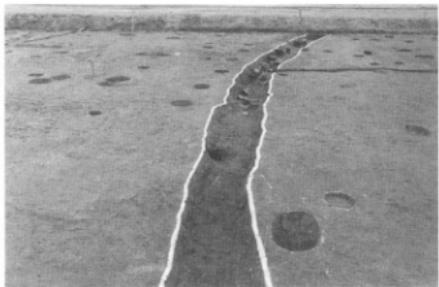
7 6~11区完掘状況（北西から）



4 5区（SH03）完掘状況（西から）



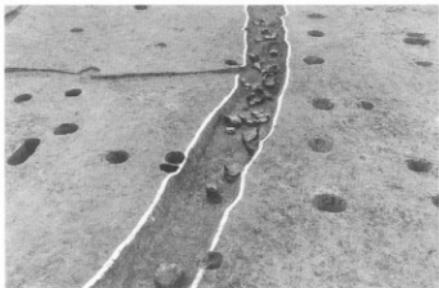
8 6m街路完掘状況（南東から）



1 SD11完掘状況（東から）



5 SD63完掘状況（西から）



2 SD11遺物出土状況（西から）



6 SD63遺物出土状況（東から）



3 SD11遺物出土状況（北東から）



7 SD63遺物出土状況（南西から）



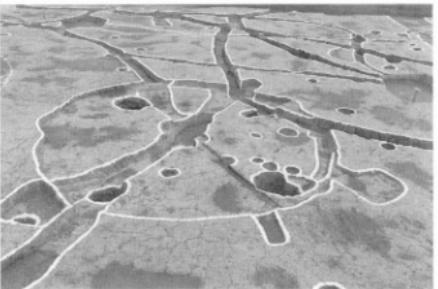
4 SD11断面②（東から）



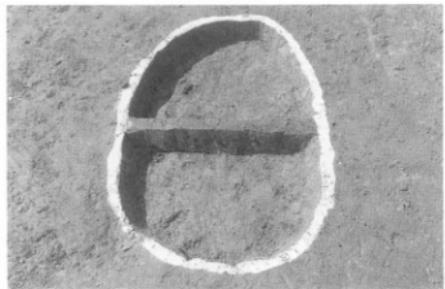
8 SD63断面⑥（西から）



1 SD63断面⑦（北から）



5 SH01完掘状況（西から）



2 SK06完掘状況（東から）



6 SH02第2次床面&SD60（西から）



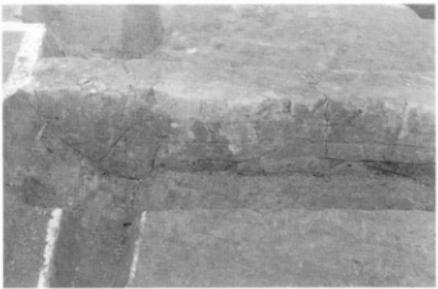
3 SK07掘削状況（北東から）



7 SH02第1次床面（西から）



4 SK10遺物出土状況（南から）



8 SH02東西断面（西端、南から）



1 SH03・04完掘状況(東から)



5 SH05～07完掘状況(南西から)



2 SH03完掘状況(西から)



6 SH05・06南北断面(SH06炉址,西から)



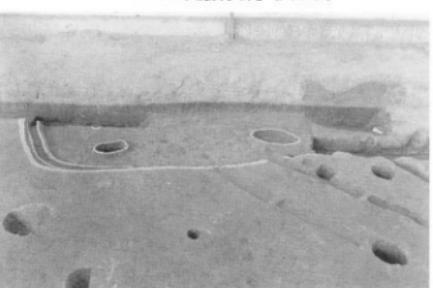
3 SH04完掘状況(西から)



7 SH07完掘状況(西から)



4 SH04柱穴(SP4-123)完掘状況(南西から)



8 SH08完掘状況(東から)



1 SH10・11完掘状況(西から)



5 SD62(SH11周溝)遺物出土状況(北から)



2 SH11炉址遺物出土状況(北から)



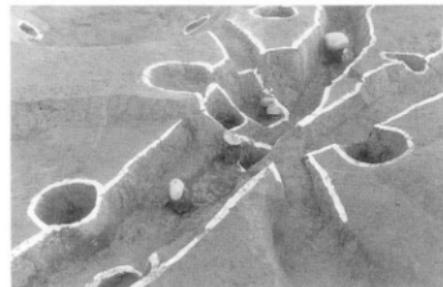
6 SD62断面(東から)



3 SH11炉址完掘状況(北西から)



7 SH14・15完掘状況(東から)



4 SD59(SH11周溝)遺物出土状況(西から)



8 SH14炉址完掘状況(北西から)



1 SH15炉址断面（西から）



5 SH16・17完掘状況（北西から）



2 SD46(SH14・15周溝)遺物出土状況(北から)



6 SH17完掘状況（北東から）



3 SD46 (SH14・15周溝)断面（西から）



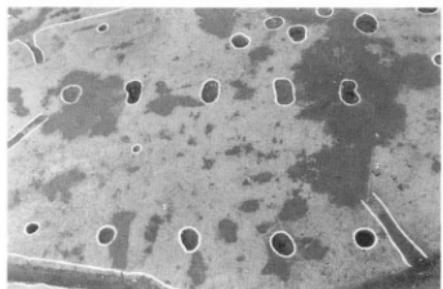
7 SH18完掘状況（南から）



4 SD141(SH14・15周溝)断面(東から)



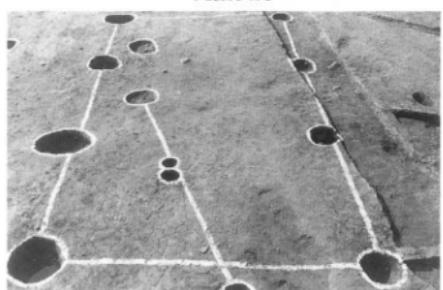
8 SD122(SH19周溝)遺物出土状況(西から)



1 SB01完掘状況（南から）



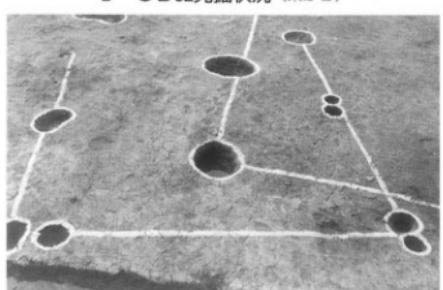
5 SE01完掘状況（北から）



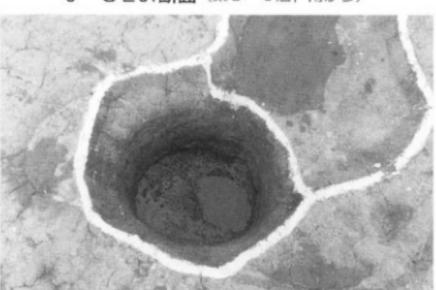
2 SB02完掘状況（東から）



6 SE01断面（第2・3層、南から）



3 SB03完掘状況（東から）



7 SE02完掘状況（南から）



4 SB08完掘状況（東から）



8 SE02断面（東から）



1 SD04遺物出土状況（北から）



5 SD27遺物出土状況（西から）



2 SD24・27遺物出土状況（南東から）



6 SD35遺物出土状況（西から）



3 SD24遺物出土状況（東から）



7 SP5-2遺物出土状況（南から）



4 SD27遺物出土状況（北西から）



8 SP5-2断面（東から）



1 SP 6-30遺物出土状況（北から）



5 SD 55完掘状況（西から）



2 SP 7-78遺物出土状況（北から）



6 小区画水田完掘状況（北から）



3 SH 09完掘状況（西から）



7 小区画水田完掘状況（北西から）



4 SH 09かまど完掘状況（北から）



8 磁片石組検出状況（南西から）